

2007～2008年度のための **地区協議会**

記 録 書



ロータリーは
分かちあいの心

ガバナー 岩田 宙造

ガバナー・エレクト 新谷 秀一

2007年4月14日(土)

於／大阪国際会議場

ホストクラブ／池田くれはロータリークラブ
池田ロータリークラブ

目 次

2006～2007年度 RIテーマ	1
写真集	3
プログラム	7
本会議	9
開会挨拶 地区協議会委員長 長嶋 貞孝	11
歓迎の挨拶 ホストクラブ会長 檀 信義	12
次年度の方針 ガバナー・エレクト 新谷 秀一	13
講演「CLPの現状と課題」	
RI第2650地区 2007～08年度ガバナー補佐 刀根 莊兵衛	20
部門別協議会	37
会長部門 リーダー 新谷 秀一	38
幹事・S.A.A部門 リーダー 山本 博史	54
クラブ奉仕部門 リーダー 岩田 宙造	66
職業奉仕部門 リーダー 戸田 孝	75
社会奉仕部門 リーダー 神崎 茂	91
青少年奉仕部門 リーダー 井上 暎夫	104
国際奉仕部門 リーダー 若林 紀男	118
ロータリー財団部門 リーダー 宮田 宏章	133
米山奨学部門 リーダー 近藤 雅臣	145
資料	152
講演者プロフィール	153
出席者名簿	154
地区協議会実行委員会／部門別協議会担当委員	158

2007～2008年度 RIのテーマ



ロータリーは
分かちあいの心



本会議風景

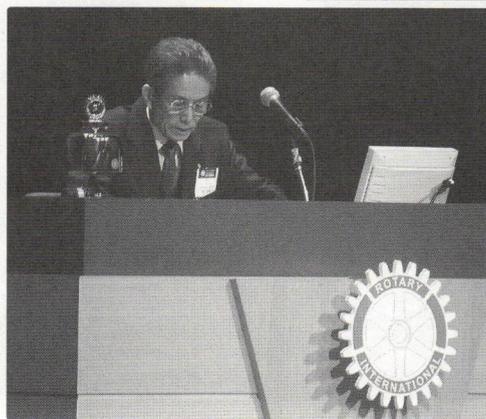
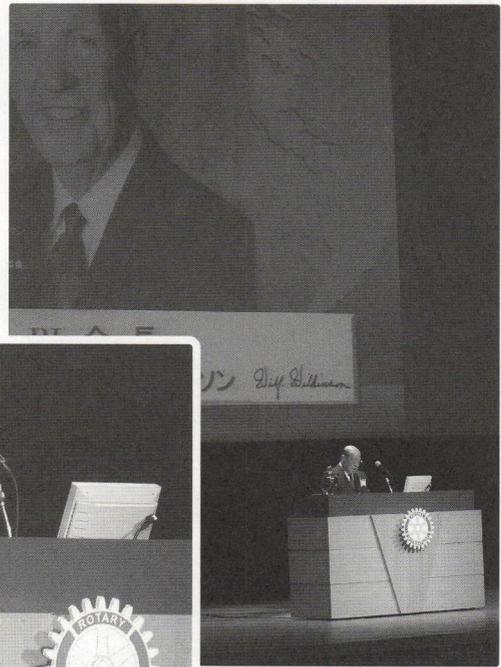
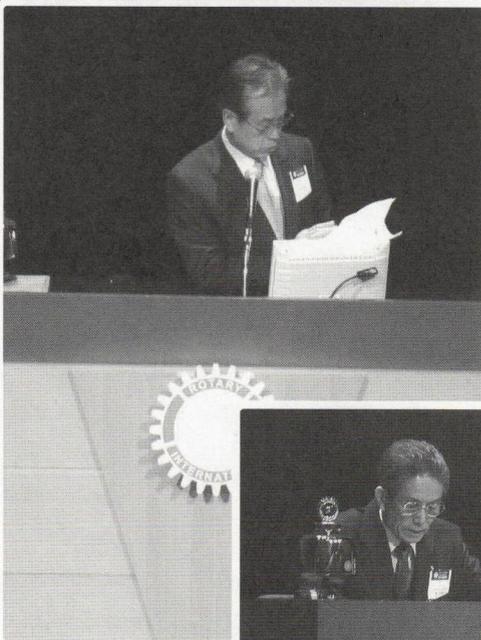
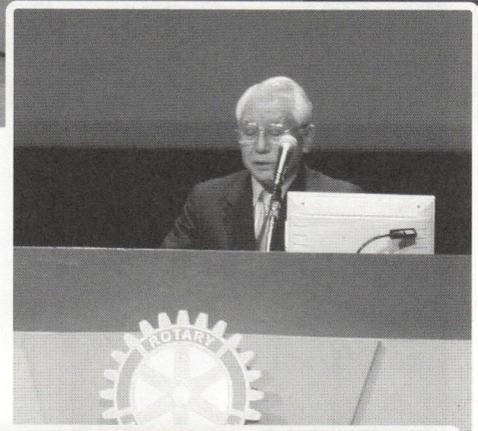
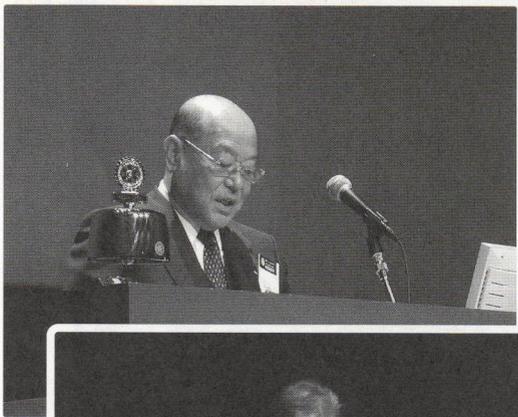


本会議
風景

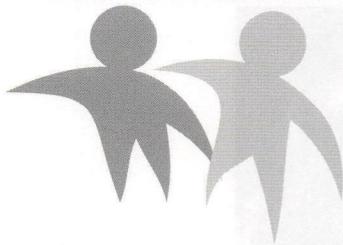
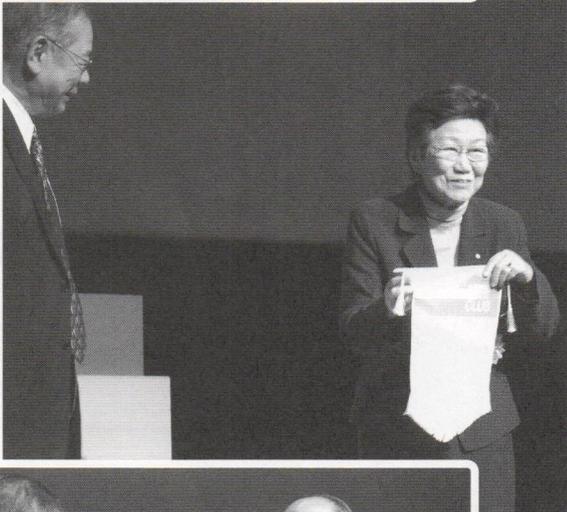
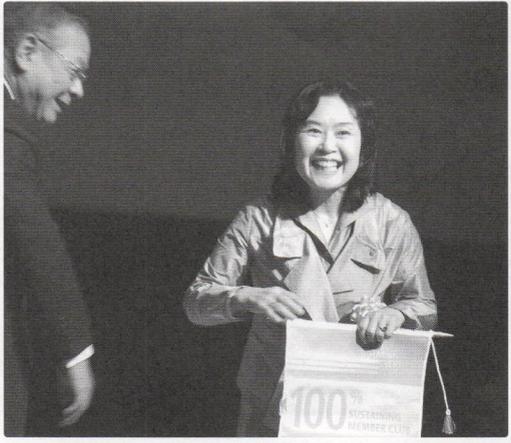




本会議
風景



本会議 風景





本会議
風景



国際ロータリー第2660地区

2007～2008年度のための 地区協議会プログラム

2007年4月14日(土) 於:大阪国際会議場

2007～08年度 当地区ロータリークラブ

出席義務者: 会長・幹事・S.A.A.・クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕
 青少年奉仕・国際奉仕WCS・ロータリー財団・米山奨学

上記各クラブ各委員長 合計10名

9:30～10:00	登録受付	5階 メインホール	
10:00～12:30	本会議	5階 メインホール	司会 岡本 厚
	開会・点鐘		ガバナー 岩田 宙造
	国歌斉唱ならびに ロータリーソング		ソングリーダー 谷 勅行
	挨拶		ガバナー 岩田 宙造
	開会の挨拶	地区協議会実行委員長	長嶋 貞孝
	歓迎の挨拶	ホストクラブ会長	檀 信義
	来賓・パストガバナーの紹介	ガバナー・エレクト	新谷 秀一
	出席報告	登録委員長	長岡 啓基
	次年度の方針	ガバナー・エレクト	新谷 秀一
	ガバナー・ノミニーの紹介	ガバナー・エレクト	新谷 秀一
	ガバナー・ノミニーの挨拶	ガバナー・ノミニー	横山 守雄
	表彰	ガバナー・ノミニー パスト・ガバナー	大谷 透 神崎 茂
	講演 「CLPの現状と課題」	講師 敦賀ロータリークラブ	刀根 莊兵衛氏
点鐘		ガバナー 岩田 宙造	
12:30～13:20	昼食	各部門別協議会 会場にて	
13:30～15:00	部門別協議会		
15:00	まとめ 及び 閉会挨拶	各部門別協議会 会場にて	

13:30~15:00

部門別協議会

部門別協議会 各会場

	会場・部門	リーダー	サブリーダー
12階	特別会議場 会長 部門	ガバナーエレクト 新谷 秀一 (池田くれは)	次年度 地区代表幹事 森 茂寛 (池田くれは) 次年度 地区財務委員長 北野 紀之 (池田) ガバナー・ノミニー 横山 守雄 (大阪中央) 地区研修委員 瀧川 紀征 (吹田西) 地区研修委員 井上 家昌 (東大阪東)
10階	1003号室 幹事・S.A.A. 部門	地区代表幹事 山本 博史 (大阪南)	ガバナー補佐 金森 市造 (くずは) ガバナー補佐 橋本 憲之 (大阪南) 次年度 地区会計 森 純也 (池田)
10階	1001号室 クラブ奉仕 部門	ガバナー 岩田 宙造 (大阪南)	次年度 クラブ奉仕・拡大増強委員長 川上 善司 (大阪平野) 次年度 情報・広報委員長 瀬戸 孝太郎 (大阪東)
12階	1202号室 職業奉仕 部門	パスト・ガバナー 戸田 孝 (八尾)	次年度 職業奉仕委員長 村木 茂 (新大阪) 次年度 職業奉仕副委員長 畑田 耕一 (豊中) 地区研修委員 岩本 洋子 (大阪そねぎ)
10階	1002号室 社会奉仕 部門	パスト・ガバナー 神崎 茂 (大阪西)	次年度 社会奉仕委員長 江上 清夫 (豊中千里) 地区研修委員 畑田 豊 (大阪城南)
10階	1004号室 1005号室 青少年奉仕 部門	パスト・ガバナー 井上 暎夫 (千里)	次年度 青少年活動委員長 西上 博幸 (吹田江坂) 次年度 ロータリー・アクト委員長 湯木 尚治 (大阪) 次年度 インター・アクト委員長 田中 啓之 (大東) 次年度 青少年交換委員長 徳岡 昭七郎 (大阪天満橋) 地区研修委員 松井 隆雄 (大阪天王寺)
10階	1009号室 国際奉仕 部門	パスト・ガバナー 若林 紀男 (大阪東)	次年度 国際奉仕・WCS委員長 宮里 唯子 (茨木西) 地区研修委員 居相 英機 (八尾)
10階	1006号室 1007号室 ロータリー財団 部門	パスト・ガバナー 宮田 宏章 (大阪北)	次年度 ロータリー財団委員長 佐藤 俊一 (大阪鶴見) 次年度 財団情報・増進委員長 北村 譲 (大阪中之島) 次年度 財団奨学金・学友委員長 簡 仁一 (茨木) 次年度 研究グループ交換委員長 田中 潤治 (大阪西北) 次年度 財団人道的補助金委員長 横井 憲二 (八尾)
10階	1008号室 米山奨学 部門	パスト・ガバナー 近藤 雅臣 (千里)	次年度 米山奨学委員長 岡田 義昭 (大阪淀川) 次年度 米山奨学副委員長 池田 文治 (大東中央)

地区研修リーダー: 戸田 孝 地区研修サブリーダー: 井上 暎夫、若林 紀男、神崎 茂



2007～2008年度のための地区協議会

本会議

午前



開会の挨拶

地区協議会実行委員会
実行委員長

長嶋 貞孝

(池田くれは)



第2660地区のロータリアンの皆様おはようございます。

2007～08年度のための地区協議会に早朝より御出席下さいまして、ありがとうございます。

また岩田ガバナー、パストガバナー、ガバナー補佐、地区役員の方々の出席を賜わり心より感謝申し上げます。

また本日講演いただきます刀根荘兵衛氏には大変お世話になります。よろしくお願いします。

私達池田くれはロータリークラブが地区協議会を開催するに当たり、池田の小さなロータリークラブですので、人数不足のため親クラブの池田ロータリークラブの方々に多大な援助をいただいた事をこの場をお借りいたしまして感謝申し上げます。

この様なロータリークラブでの親子関係は理想的だと思っておりますし、これでこそロータリアンと感激をしております。

この一年間、ロータリークラブ、池田くれは池田ロータリークラブメンバーが一丸となって頑張ってきましたので、素晴らしい地区協議会になる事と信じております。

その上この様な多数の素晴らしいロータリアンの出席を頂き、これでうまくいかないはずがないと思っております。

皆様の御協力のほどよろしくお願い申し上げます。一般社会ではロータリークラブはどの様に評価さ

れているのでしょうか。「金持ちが集まって歌を歌ってご馳走を食べる集団」なかなかうまい事を言いますが、この様な評価でなくもっと高い評価を受けるためにも、今日は皆様とともにロータリーに挑戦していただいて今日という一日を有意義に過ごそうではありませんか。

本日のスケジュールはお手持ちのプログラムとおりでございます。

ただ今回は各部門別協議会は会場ごとに終わったところから流れ解散になっておりますので、よろしくお願いします。

最後にこういう機会ですので、他クラブの方々ともコミュニケーションをとっていただき、ロータリアンの友好と親睦となりますようお祈りを申しまして開会の挨拶とします。



歓迎の挨拶

ホストクラブ
池田くれはロータリークラブ
会 長

檀 信義



皆様、おはようございます。ホストクラブを代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

岩田ガバナー並びにパスト・ガバナーの皆様方、地区役員の皆様方、また、地区内、各クラブの次年度役員、委員長の皆様方、本日はご多用の中、2007～08年度のための「地区協議会」に、多数のご参加をいただき、誠に有難うございます。

このような大勢の皆様方をお迎えすることができ、ホストクラブを代表いたしまして、心から歓迎を申し上げ感謝の意を表します。

あと2ヶ月余りで、新年度がスタート致します。

各クラブにおかれましては、さまざまな準備に、大変お忙しい事と思います。

その最後の仕上げと言うべき、次年度の地区運営が、一年間円滑に行われるための、最も重要な勉強会と致しまして、池田ロータリークラブの御支援を受け、池田くれはロータリークラブは、長嶋貞孝実行委員長のもと、総力をあげて諸準備にあたり、本日の地区協議会を開催する運びとなりました。

ただいまより、新谷ガバナーエレクトを中心といたしまして、リーダー、サブリーダーそして各クラブの会長、各委員長の皆様と共に、RI、地区テーマ方針等、相互理解と友愛を深め、各課題及び新方針等について、ロータリークラブ活動が、より一層活性化するべく、有意義な協議会になりますよ

う願ってやみません。

岩田ガバナーは、ロータリーが安定、成長、成功を遂げるためのクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)に情熱を持って取り組んでられました。

新谷ガバナーエレクトも、これを継承しつつ、さらに皆様の創意を生かし、最善の実践方法に邁進されるものと大いに期待を致しております。

新谷ガバナーエレクトが発表いたします次年度のテーマ方針にご理解を賜わり、力強いお力添え、ご支援をお願いする次第でございます。

本日の講演は、敦賀ロータリークラブの刀根 莊兵衛様をお願い致しました。

本年度、次年度の継続事業である、クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)について、私どもロータリアンにとって有意義な講演をしていただけることと確信しております。

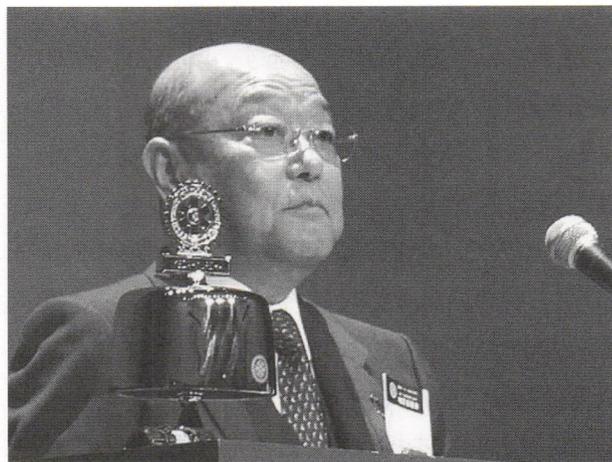
皆様のご協力をいただき、本日の全プログラムが円滑に、進行しますことを願ひまして歓迎の挨拶と致します。

本日は誠に有り難うございます。



次年度の方針

第2660地区ガバナー **新谷 秀一**
(池田くれは)



皆さん、改めましておはようございます。ただいま紹介をいただきましたガバナー・エレクトの新谷秀一でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

本日、国際ロータリー2660地区、2007年～2008年度のための地区協議会が開催されましたところ、皆様には何かとお忙しい中、本会議にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

この協議会はRIが規定する地区としての公式行事でありまして、次年度全クラブの会長、幹事、SAA、各奉仕部門の委員長が次年度の準備をしていただくための重要な行事でございます。また、本日、ご出席の会長エレクトさんは、この地区協議会終了後、直ちにクラブ協議会を開催していただくことが規定されていますので、クラブにお帰りになりましたら、すぐに準備にとりかかっていたいただきたいと思っております。どうか皆様、きょう一日実のある協議会になりますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

RIのお話をさせていただく前に、きょうの協議会で荷物にならない大きな荷物をお持ち帰りいただきたいと思っております。それは人と人との縁でございます。ことわざに「小才は、縁に気づかず」せっかく縁があるのにその縁に気づかずチャンスを逃してしまう人。「中才は、縁に気づいて縁を生かさず」ご縁をいただきながらその縁を生かさぬ人。また、「大

才は、袖すり合うだけの縁をも生かす」ああ、あのとき、あの方とごあいさつしたな、それをご縁に一度訪ねてみよう、お会いしてみようという積極的な発想のできる方であります。きょう一日、皆様同士で大いに名刺を交換していただいて、縁を持って帰っていただきたいと思っております。ロータリーで得た縁を職業奉仕を通じて、大いにロータリーに生かしていただくことが最も大切ではないかと思っております。会員同士の親睦こそ、退会の防止、会員増強につながる原動力であると思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

では、ただいまより国際ロータリー2007年～2008年度の会長を紹介させていただきます。お名前は表示されていますとおりウィルフリッドJ.ウィルキンソンさんです。カナダ、オンタリオ州トレントのご出身で、職業は公認会計士です。

国際ロータリーでの役歴は、2006年～2007年度、国際ロータリー会長エレクト、2005年度国際大会委員長、1997年、2001年度、2002年度、2004年度のロータリー財団管理委員、1993年、1994年度の国際ロータリー副会長、1971年、1972年の地区ガバナーを歴任されました。ロータリーの入会は1962年で、会長を初め地区委員、ガバナーと国際協議会での討論リーダー等々、極めて豊富な経験の持ち主でいらっしゃいます。私生活におきましては、1953年にジョアン夫人と結婚をし、4人



の息子さんがおいでになります。以上RI会長のご紹介とさせていただきます。

それでは、RI会長の2007年～2008年度のテーマと強調事項について、ご説明申し上げます。『ROTARY SHARES:ロータリーは分かちあいの心』ロータリーのおかげで見知らぬ人に対して心を開き、だれかれの区別なしにすべての人類に向けられる人類愛なのです。ロータリーは人類愛を表現し、分かちあう方法を授けてくれるのです。

私たちはクラブ奉仕を通じて分かちあうのは、クラブはロータリーの手となる存在です。ロータリークラブがなければロータリーは存在しません。会員を表彰し、不況にある会員に手を貸し、また物故会員の家族にも連絡を保つことにより、クラブの充実化に努めます。

また、クラブが常に開放的で親しみにあふれ、資格を有する人であればどんな人でも会員として迎え入れることのできる環境をぜひつくっていただきたいと思います。

私たちが職業奉仕を通じて愛を分かちあうのは、みずからの職業を通じてロータリーの声となれるからです。私たちは専門的な知識や能力、技能をも分かちあいます。そして、取引や仕事上の決定を行うときは必ずロータリーの倫理観に照らすようにいたします。

私たちが社会奉仕を通じて愛を分かちあうのは、社会奉仕がロータリーの心臓部であるからです。私たちが地域のニーズに取り組んでいるのは、第一の責務が地元地域にあるからです。「ロータリーはよいことをしてくれる」と言ってもらえるように、地域社会でその存在感を高める努力をすることにより、これらの人々の中から「会員になりたい」という人が出てくることもあるでしょう。

私たちが国際奉仕を通じて愛を分かちあうのは、それぞれの国において一人一人がロータリーの目の役割を果たしてくれるからです。地元地域のニーズと、その援助の方法を見定めるために地元社会

について詳しく知るのが私たちの仕事です。その上で地元だけでは補いきれないときは、世界中のロータリアンから援助を求めることができます。

私たちが青少年活動を通じて愛を分かちあうのは、青少年はロータリーだけでなくすべての人々にとっての未来であるからです。青少年プログラムの強化に努めることにより、今日ここの私たちが、やがて席を譲る日がやってきたときに、強い責任感と倫理観を持つボランティア思考の新世代が、この会場の席を埋め尽くしてくれるはずです。これらの若い人たちは、私たちのほるか先に広がるロータリーの未来へのかけ橋なのです。

私たちは会員増強を通じて愛を分かちあいます。どんな多くの業績を上げてみたところで、新しい会員を増やし、既存会員を維持し続けることができなかったら、ロータリーは生き残れません。

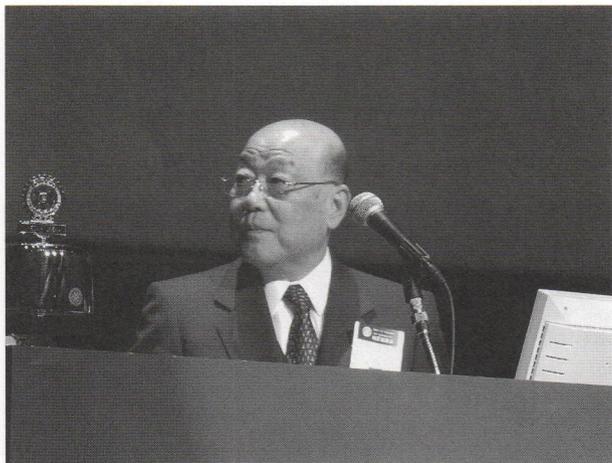
来年も、ボイドRI会長の強調事項である水保全、保健及び飢餓の救済、識字率向上を引き継ぎます。数年間にわたり、ロータリーの取り組みの最前線に置かれてきたこれらの基本的なニーズを続け、きれいな水と健康、さらに、読み書き能力が授かれば、多くの人々に自助自立の道が開かれるからです。

もう一つの強調事項であるロータリー家族も引継ぎます。これは、お互いを思いやり助け合うことでロータリーが末永く、意義ある活動を続けることができるからです。これらのニーズに取り組むには、どうかロータリーの真髓が愛であり、その発露が親切心であることを思い起こしてください。そして、特に援助を受ける側の人々に接する際は、どうか親切心を示してください。おなかをすかせた人に食事を持っていけばおなかを満たすことができますが、さらに食事をもとにするなら、その人の心も満たすことができます。こういった理由から、2007年～2008年度のテーマを、『ロータリーは分かちあいの心』といたしました。以上が2007年～2008年度のRI会長の方針であります。

この会長の方針であるロータリーは分かちあいの



心、特に分かちあいの心というのは、私も先週の日曜日、京都で仏教会主催の「お釈迦様の誕生日をお祝いする夕べ」という会がありまして出席しました。多くの人々が一堂に会した講演の中で、阪神大震災のときの貝原元兵庫県知事がいろいろなお話をされました。そのお話の中で、「奇しくもあの震災の中で略奪とか、いろんな問題が起こらず、こんなに早く復興できたのは、日本人みんな、市民の皆さん一人一人が『分かちあいの心』を持っていたんですよね」こう言われました。私ははっとしまして、私は今日この場で発表するのにぴったりの言葉だなあと思いました。というのは、日本人の中には本当に分かちあいの心というのが存在して、そういうDNAが生き続けているのだなと思います。RIの会長エレクトが提唱されているロータリーは分かちあいの心と言われているのも、タイ国ご出身の元RI会長ビチャイ・ラタクルさんの『慈愛の種をまきましょう』という東洋的な慈愛の心という思想の流れが永遠と、このロータリーの中に受け継がれていくのではないかなというふうに思います。少し蛇足になりました。



では、RI会長賞についてお話させていただきます。会長賞は、年間の活動成果として表彰されるものです。どの奉仕部門にもクラブの各委員会が、それぞれの部門を分担され、クラブ全体として均衡の取れた成果を上げていただくことを目的としております。

会員目標、必須、2008年3月31日までに1名の会員純増を達成する。これは、ずっと続けていることとございます。また、その実行なされる6つのカテゴリーといたしまして、会員増強、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年、6つのそれぞれのカテゴリーの項目ごとに、各一つ以上達成することです。詳しくは、会長エレクト研修セミナーで配付いたしました資料に詳しく記載されておりますので、ぜひ会長さんを通じて皆様方お目通しいただきたいと思っております。

また、2007年~2008年度ローターアクト及びインターアクト会長賞でございます。ローターアクトクラブ、インターアクトクラブは「ロータリーは分かちあいの心」を実践する価値のある奉仕活動をなし遂げたことにより、表彰を受けることができます。本賞の受賞資格を得るには、ローターアクト、インターアクトクラブは会長賞の要綱にあげられた活動の中から少なくとも4つの活動を実行しなければなりません。以上が会長賞についてであります。

それでは、ロータリー財団についてお話させていただきます。ロータリー財団は、ご承知のとおり1917年、アーチャー・フランク氏が、全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野でよりよきことをするために基金をつくらうという提案をされ、創設された非営利財団法人でございます。当然のことながら、ロータリー財団を構成する法人会員は国際ロータリーのみで、正式の名称は国際ロータリーのロータリー財団となっております。国際ロータリーとは法的に組織は違っても、その目的、使命、活動は、両者ともに一体のものでございます。よくロータリー財団と皆さんの所属するクラブ、RIが一体であって一体でないような形で間違えることが非常に多くあります。特にお金のことに関しまして、そういう間違いが起こると思っておりますが、これは別の団体が共同で運営を行っているということとございます。そういう点を十分ご理解願いたいと思っております。

2007年、2008年のロータリー財団の目標は、ロー



タリー財団管理委員会委員長エレクトであるピチャイ・ラタクル氏の4つの夢でもあります。ポリオ撲滅を現実のものとする。2つ目に毎年あなたも100ドルを、会員一人一人が実施していただく金額でございまして、最低限の金額でございまして、全世界平均を言っているわけございまして、私もよく皆様方の前でお話をいたしますが、ネパールなどその付近の地域にあるロータリーの年収は100万円か、200万円も満たないと思います。皆さん方の、日本人の年収と比べてみてください。そういう方々に100ドルを出してください、こういうことございまして、少しこの点の間違ひが多々あるのではないかなというふうに思っております。せんだって、透析をしておられる方とお話をしている中で、あの方々は、中には本当に収入がなくて補助を受けてやっとな生活しておられる方たくさんいらっしゃいます。

その方ですら透析患者会に100ドル出していらっしゃるわけ。そういう点から考えますと、我々ロータリーのメンバーとして100ドルも出すのはおかしいと、こう言われる方は、私はロータリーは何のためにあるのか、どういうことなんだと、先ほど大会委員長が言いましたけれども、金持ちの団体でもない何でもない、ただのお遊びクラブですかと、いうことになってしまうのではないのでしょうか。

3つ目が、平和及び紛争の解決の分野における国際問題研究のためのロータリーセンターとロータリー平和および紛争解決研究プログラムです。

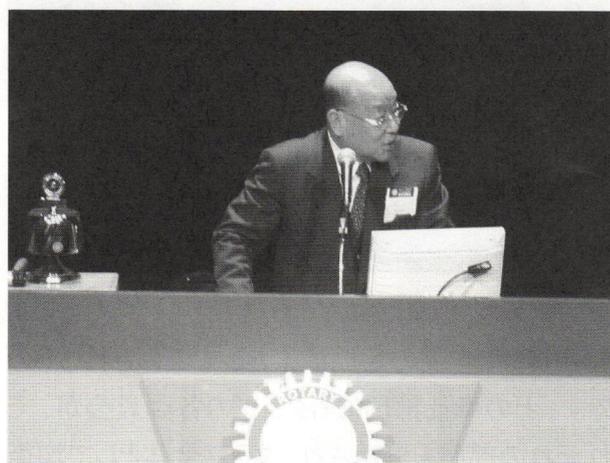
4つ目は、ロータリー財団学友とのつながりを取り戻すこと。

この目標を達成すべく各クラブでのご検討をぜひよろしくお願い申し上げます。

ロータリー財団のプログラムは、国際親善奨学金、平和及び紛争解決分野における国際問題研究のためのロータリーセンター等の教育プログラム、マッチング・ブランド、地域補助資金等の人道的補助資金プログラム、さらにポリオプラスへの財政的支援の継続等でございます。以上がロータリー財団

の設立趣旨と、本年度の目標でございます。

これより、2660地区の地区活動方針テーマを申し述べたいと思います。2007年度、2008年度のテーマは、ロータリーは、分かちあいの心です。このテーマを実践するに当たり、「ロータリアンは愛と親切心を実践し分かちあい、お互いに助けあう心」を今年度の2660地区の活動方針といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。ロータリークラブの原点を見詰め直し、本年度のテーマである、ロータリーは分かちあいの心を理解していただくために、研修に重点を置きたいと思っております。ロータリーのいろいろな奉仕活動を通じ、ロータリーは分かちあいの心を実践して、多くの友人をつくってください。また、私は特に強調したいのは、ロータリー家族の参画を通じて、会員の友情をぜひ深めていただきたいということでございます。私は、ロータリークラブに入りたない、私の家族がロータリークラブにぜひ入りたないと若いころそう言っておりました。すばらしい先輩たちの行動を近くに見て、あこがれのクラブだねとこういうことだったんです。今現在、中に入ってしまうと本当にそうだったんだろうかということが考えられます。また、家族がもっとロータリーの中に入ってきていただいて、みんなともども行動をとる、また助けあい喜びを分かちあうということ、ぜひやっていただきたいと思っております。



次に、会長賞の推進でございます。会長賞はRIの方針で説明いたしましたとおりで、会員増強を



必須条件に、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年の各部門において、それぞれの一つ以上の事業をやっていただくことが会長賞の受賞条件になっております。各クラブの受賞に向けての努力を、ぜひよろしくお願ひ申し上げます。詳しくは、先ほど申しましたとおり、会長エレクト研修セミナーでお渡しいたしております資料を熟読いただきたいと思います。

強調事項への対応。水保全、識字率の向上、保健及び飢餓、ここ数年来継続されていることであり、継続は力なりとも言われます。やはり継続することによってやっと達成される、年度年度で終わってしまうのではなく、継続するというを引き続きお願ひ申し上げたいと思います。

ロータリー家族、ロータリーは分かちあいの心とは、ロータリー家族そのものではないかと考えます。ロータリアンは無論のこと、その家族とロータリアンとインターアクト、青少年交換学生、そしてロータリーの理念の推進に向けて私たちと協働で活動して下さる方々が、皆このファミリーの一員ではないかと思っております。会員同士の家族としての信頼関係、親しさこそが現会員維持にかかせない条件で、その意味からもロータリー家族は重要な事柄だと考えております。

DLPについて、少しお話し申し上げたいと思います。DLP地区リーダーシップ・プランの推進ということでございます。この地区リーダーシップ・プランは当地区では2002年に採択されまして、実行に移されることになりましたが、きちっとした運用のための文書化し確約されたものがございませんでした。そのため、当地区では昨年9月より地区運営の一層の効率化と適正化を図るために、地区リーダーシップ検討委員会が新たに発足し、検討を重ねた結果4つの点が規定されました。この点につきましては、既にガバナー月新の1月号、2月号、3月号で詳しく報告されておりますので、再度ご確認をお願ひ申し上げたいと思います。

06年～07年度の岩田年度は計画を立案し、07年～08年度は私の年度ですが、実施に関する導入をしていくということでございます。8年、9年度横山年度におきまして完成させるという3年計画でございます。少し長期的な計画ではございますが、一日も早い達成をなし、改革できるように努力いたしたいと思っております。これに伴って、地区組織の変更につきましては、地区研修リーダーが研修委員との合体による地区研修委員会となり、国際奉仕委員会と世界社会奉仕委員会も国際奉仕WC委員会に一本化されました。青少年交換委員会は、従来国際奉仕部門に属しておりましたが、青少年奉仕部門への所属替えになりました。また、地区研修委員会としましては、先に組織変更で申しあげましたとおり、新しい地区研修委員会が発足いたしております。地区研修リーダー兼委員長としまして戸田パスト・ガバナーさんになっていただいております。それは1名でございます。地区研修サブ・リーダー兼副委員長として、3名のパスト・ガバナーさんになっていただいております。また、皆様方の研修をより一層サポートするために先ほどご紹介いたしました方々以外に8名の方々が担当していただきます。以上のことが地区研修委員会でございます。今までにないシステムとして、皆さん方がお困りのときには、いつでも地区研修委員会へお話を持って来ていただければ、クラブでのお困りのことを解決するためにご相談や研修の実施などの体制がきちっとでき上がってまいりました。3つ目に、ガバナー補佐及びガバナー補佐エレクトの選考方法と改正の規定整備でございます。当地区ではガバナー補佐の導入に当たりまして、ガバナー補佐の選考はI.Mホストさんの判断に100%任されておりました。従って、I.Mホストの中から順番にガバナー補佐を選出するというシステムでは小規模なクラブや、歴史の浅いクラブにおいてはガバナー補佐の資格条件に合致した人材が不足するなど、いろいろと難しい点が生じてまいりました。



そういう点を改善するために、I.Mグループ単位のクラブ会長幹事会によって、グループ単位全体の中から適任者を選んでいただき地区ガバナーに推薦し、協議の上地区ガバナーが任命するというシステムに決定いたしましたので、よろしくご理解願いたいと思います。

また、ガバナー補佐エレクトの選考につきましては、ガバナー補佐就任年度の1年半前までに就任前の研修準備期間として就任していただきます。なお、7年、8年度におきましては、1年までに選考することになっております。

ガバナー補佐の職務についてですが、クラブへの訪問が第一の仕事となっております。各クラブに最低年4回訪問して、皆様方と親しく懇談させていただき、指導という形は少し皆さん方には抵抗があるかも知れませんが、RIの規定でもどんどん変わっておりますので、そういう新しい情報をガバナー補佐から得ていただいて、クラブの活性化につなげていただきたいという趣旨で、ガバナー補佐制度もできております。私のところはガバナー補佐はいらないんだとか、受け入れられないんだというようなことではなく、ガバナー補佐は私の分身でございますので、責任は私が全部取りますので、ぜひ、ガバナー補佐さんを暖かく迎えていただき、よりよいクラブ活動を実践していただきたいと願っております。ガバナー補佐の責務につきましても、地区行事の出席、その他たくさんあります。なかなか大変な仕事でございます。ぜひ、その点も皆さん方よく理解していただき、皆さん方のクラブに参りましたら、ぜひ暖かく迎えていただきたいと思っております。よろしく、重ねてお願い申し上げます。

4つ目は、地区に送っていただく各委員の方でございますが、地区の委員の任期は3年から5年といたしております。3年は委員としてやっていただき、特別に当2660地区では1年の副委員長、あと1年の委員長ということで計5年でチェンジしていただくということになります。委員の選出は、各クラブさ

んの理事会で選ばれるわけですので、この点をよく理解していただいて、過去の勤務年月の確認をしていただいてお送り願いますよう、よろしく願い申し上げます。

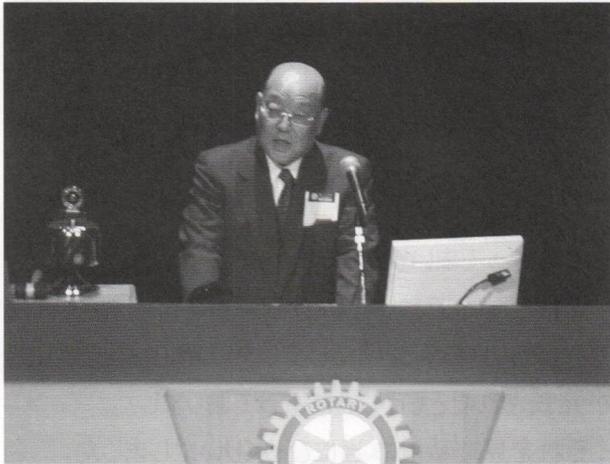
また、06年～07年度における委員の選出で、各クラブさんから出ていただこうと思っておりましたが、28クラブで委員が1人も出ておられないというのが実情です。

これは、地区委員会の委員のリフレッシュ化のために、新たな人材の発掘・登用・育成が望まれております。ぜひ委員を1人は出していただき、併せて地区とクラブのパイプ役としての役割を果たしていただくことも重要と考えています。さらに、会員100名以上のクラブにおきましては別途に3名、70名～100名未満のクラブには別途2名、50名～70名未満のクラブには別途1名をお願いしております。5つ目に、きょうお集まりの中で一番注目しておられますのが、CLPの推進ということではないかと思っております。2006年～2007年度の地区大会におきまして、決議案事項第5条CLPを導入・推進することが決議されております。CLPの目的は皆様のご承知のとおり、効果的なクラブ管理の枠組みを提供することによりクラブレベルでのロータリー強化を図ることです。これが目的とされております。また、長期的な計画をも作成する、委員会構成を簡素化する、クラブ効率化とレベルアップを図るなどがございますが、きょう敦賀ロータリークラブの刃根様を講師としてお招きいたしております。CLPについて詳しくお話いただけるものと思っております。また、大いに参考にさせていただいて、クラブの活性化にぜひつなげていただきたいと思っております。

ロータリー財団についてでございます。先ほどRIの方針の中でロータリー財団を説明いたしました。活動内容をよく理解していただき、クラブ活動に生かしていただきたいと思っております。また、生かしていただくことにより、より一層のご支援もお願い申し上げます。画面に表示して



ありますとおり、当地区は一人当たり寄附額は136.21ドルでございます。全国の平均が112.58ドルであります。この表は各クラブの皆さんが努力していただいた結果だと思っております。今後とも一層の寄附支援をよろしく願い申し上げたいと思います。



次に、ロータリー米山記念奨学会のことでございます。当地区の寄附額は全国的にも第3位という実績でございます。引き続き次年度も一層の協力をお願い申し上げます。一方、米山奨学会も多くの応募生があるのですが、選考も難しい状態でございます。また、奨学生へのカウンセラー等を各クラブの皆様方をお願い申し上げておりますが、今後とも奨学生の所期の目標を達成できるように、委員会の皆様を中心としてぜひよろしくご指導、ご支援をお願いいたします。

終わりに、恐らく皆さんもなじみのあるお話をさせていただきます。これは、PETSのときも少しお話させていただきましたので、ああ聞いたなと思われるでしょうが、もう一度お聞き願いたいと思います。

ある夜、船長が船室係の少年を甲板に呼び出しました。そして、舵を取るように言いました。船長は北極星を目指して指差して、どこまでもその星に向かって進むように指示をいたしました。少年は意気揚々と舵を引き受けました。それから数分間は順調に進んでおりました。いつの間にか船の向きが変わり始めたのです。見ると北極星は船の横

にあります。1時間もすると完全に船の真後ろになってしまいました。そこにあらわれた船長は、どうしているんだと言う間もなく、少年の方が大きく叫びました。「船長、今度はほかの星を選んでください。船は予定より早く進んであの星を追い越してしまいました」という話でございます。

本日出席のロータリアンの皆さんは、クラブに戻られましたら意義ある奉仕の旅の方針をクラブに示してくれるのがロータリーの綱領であるということ、どうか会員の皆様にいま一度伝えていただきたいと思っております。一人一人のロータリアンの描く明確な進路には、個人の関心や能力が反映されるでしょう。次年度の主導的立場にある皆さんは、未来に向かって「ロータリーは、分かちあいの心」の実践を北極星に見立てて、これを見失わずにともに進むなら、この航海は無事になし遂げることができると私は信じております。

最後に、クラブの目標の達成には、理屈よりもまず実行を第一に、そのときどきで全力投球を続けていけば、道は必ず開けます。まさに、前に道なし、後に道あります。クラブが選んだ道が、そのクラブのたどった道でございます。ぜひ最後まで皆さん方が選んだ道を、失敗を恐れずにひたむきに進んでいっていただきたいと思っております。

どうも長時間にわたりご清聴ありがとうございました。



CLPの現状と課題

RI第2650地区
2007～08年度ガバナー補佐

刀根 莊兵衛
(敦賀ロータリークラブ)



このたび神崎パスト・ガバナー様の方から、CLPについてお話をするようにというご依頼をいただきました。私はCLPの専門家ではございませんが、2004～05年度の地区の代表幹事をやらせていただきまして、その折に地区の方でCLPを導入するということが決定いたしました。

私が事務局となりCLPの事務局案をまとめ、地区の方で提案いたしまして、ご説明会をいたしましたところ、ほとんどのクラブの方にご賛同いただきまして、本年度からCLPがスタートしたということです。

きょうは私どもの地区のCLPの現状、そしてほぼ1年が経過いたしまして色々な課題が見えてまいりました。その課題につきまして、それからまた最後の方で私どもの地区がCLPを導入するに当たりまして、各クラブからいろんなご質問がございました。その質問につきまして、代表的な質疑応答のご紹介をさせていただきたいと思っております。

スライドを使って説明をさせていただきます。私どもの地区の導入の経緯ですが、ちょうどCLPという言葉を知りましたのは2005年の1月で、ご承知のとおりRI理事会というのが年4回開かれます、その理事会の抄録というもの少し送られてきます。

2005年の1月にガバナー事務所をやっておりましたときに、2004年11月のRI理事会の抄録という

ものを送ってまいりました。

それを読んでおりますと、2004年11月の理事会でRIはCLPを承認いたしまして、新しい推奨細則が発表されたということになっておりました。

それを見て私は本当にびっくりいたしました。

2004年といいますのは、皆さんご承知のとおりRIの規定審議会が開かれる年で、本年もそうでございますが、半年後ぐらいに新しい手続要覧が出るわけでございます。定款または細則がいろいろと変更になるわけで、各クラブはそれを見まして自クラブの定款または細則を変更する訳です。ちょうどその作業をやっている最中に、実は新しい細則が出ましたという形になったわけです。

早速RIの日本事務局の方へ聞いてみましたが、ほとんど資料がないということで、資料としては新しい細則、そしてCLPの簡単な要項の2枚物のペーパーだけでございました。

その当時理事をされておりました田中作次さんにご連絡いたしまして、2回ぐらいいろいろ電話でお話をさせていただきました。その時、田中理事さんからは少し待った方がいいよというお話がございました。

DLPも導入まで6年かかった訳だし、CLPも当然それくらい時間がかかるでしょうと、そういうことでやはり時間をかけてやるべきだということでもございました。我々の地区の方も、3月にはCLPのご紹介



をさせていただきましたが、次年度は態度を保留しようということに致しました。しかし、新しい細則が出た以上は何かしなければならぬということで地区内に検討委員会を設け、検討させていただきました。

また、田中理事さんには他にもいろいろお聞きいたしました。これはオフレコの話なのですが、田中理事さんから実はこの推奨細則というのは妥協の産物なんだというお話もちょうだいいたしました。実はRI理事会において、CLPが出たときには、推奨細則の第8条に四大奉仕という項目があるのですが、実はそれがなかったんだということでございました。しかし、それでは日本のロータリーは納得ができないということで田中理事がかなり反対をされて、妥協案として第8条に四大奉仕という項目を挿入し、それが成立したという経緯をお聞きいたしました。

CLPが導入された以上、地区の方で何とか検討しようということで、地区のPastor・ガバナーの皆さんに集まっていただき検討委員会を開催いたしました。

その結果、賛否両論ございました。真っ二つに分かれまして、反対派の方はやはりこの新しい機能的な組織は、会社組織そのものじゃないか。ロータリーになじまないということで反対されました。また賛成の先生方は、CLPというのはDLPの延長じゃないか。かつて、私どもの地区の方はDLPを最後まで反対いたしました。2002年に強制的な導入となりまして、ようやくDLPを導入したわけです。

地区としては最後まで反対してみたが、やった結果はよかったんじゃないかと、ガバナー補佐は結構うまく働いているということから、やはり何事も反対するのではなくて一度やってみたらどうだということになりました。諮問委員会の中でそういう声が大きくなりまして、地区として一度やってみようという結論となりました。

そこで、何かモデルプランをつくれということにな

り、地区としてモデルプラン、モデル細則というのを作成いたしました。そして2005年8月に地区で、その当時の会長、幹事さん、次年度の会長、幹事さんを集めまして説明会を開催いたしました。その結果、82クラブのご賛同をいただきまして、11月にはそれぞれのクラブの細則を変更していただき、2006年7月からCLPを実施いたしました。

ここで、RIが言っておりますCLPを少しおさらいしてみたいと思います。まず前提条件ということですが、昨年秋の岡山でのゾーン研究会で、ポイド会長さん、フタ事務総長さんも申されたということでございますが、この新しい推奨細則の冒頭に書いてございますが、本細則は単に推奨されているにすぎない。従いましてロータリークラブは、標準ロータリークラブ定款、RI定款、RI細則及びロータリー章典と矛盾しない限り、クラブ自身の実情に応じて変更することができるということになってございます。ポイド会長さんも、これはあくまでも推奨、一つの試み、単なるツールを提供している、少しでもクラブの強化に役立つのであれば採用してほしいと訴えられております。

次に、このCLPの背景というのを少し考えてみたいと思いますが、私は三つくらいあるのではないかと考えております。

- ①一つは弱体化したクラブの蘇生ということ。
- ②会員数の減少に対応すること。
- ③時代の変化に適応したクラブの強化をするということ。

世界の会員数を見ますと20名以下というのが大体20%あると言われており、10名以下のクラブというのも相当数あるということです。また非常に活動が低迷いたしまして、終焉のふちにあるクラブも相当数あると、こういふことからCLPが登場したのと思っております。

日本におきまして、後ほどご説明いたしますが、20名以下のクラブも相当ございますし、脱会したクラブというのも2006年末までで18クラブになっております。このようなクラブを救済するため、時



代に適応したクラブ強化のために、RI理事会が考え出したのがCLPとっております。

日本のロータリアンの数を見てもみますと、1996年には13万人いらっしゃいましたが、現在では10万人を割るところになっております。世界のロータリアンの数ですが、2000年までは若干減っていますが、少し持ち直していることになっております。

次に、クラブの会員数でございますが、青が日本、緑が世界でございますが、日本の場合は平均60名ぐらいから現在42、3名に減少しています。世界の方はそれほど大きく減ってはいないということでございます。

日本の平均会員数ですが、大体43名ぐらい、私どもの2650地区は55名、それから世界的には大体37名ということと申します。それから、その平均会員数で見てもみますと、一番多いのがこれはデータが古いものでございますが、大体30～40名が一番多くて、次が40～50名、それから20～30名が3番目という形になっております。一番多いクラブが東京ロータリークラブと、一番少ないのが野沢温泉ロータリークラブとなっております。しかし、この野沢温泉ロータリークラブは2005年11月に脱会しております。

先ほどご説明いたしました脱会クラブですが、2000年に福島県の大越ロータリークラブが脱会され、2006年の12月末までに18クラブ脱会されております。

野沢温泉ロータリークラブは17名の会員が、あるときに大分裂を起こし2名という会員数になりました。長野県のガバナー補佐の方にお伺いしたのですが、「そろそろやめたらどうですか」というお話をされたところ、2名の方がどうしても頑張るということで毎年会長、幹事さんが入れかわり2年半ぐらいやられたそうです。しかし、2005年の11月にあえなく脱会をしたということでした。

この傾向を見ておりますと、昔は1けた台になっておやめになるところが多かったんですが、現在で

は2けた23名とか10何名でも脱会しているというクラブもあるようです。

次にCLPの基本的な考え方に移らせていただきます。私は6つくらいあるのではないかと申しております。私どもの地区でCLPと言いますと、運営の機能化、簡素化、いわゆる委員会組織を変更することであろうと言われるのです。しかし、いろんな考え方があるのではないかと申しております。

まず、1つは継続した計画の立案ということ。長期計画を立てるということです。ロータリーは単年度ということやってまいりました。単年度のいいところもございまして3～5年の計画を立ててやっていくということが非常に重要ではないかということ。こういった考え方がCLPの考え方だと思っております。

もう1つは、全員参加ということ。長期計画を立てるときも全員参加、またプロジェクトをやるときも全員参加をする、親睦を動機づけに全員参加を心がける、こういう考え方がCLPの考え方でございます。

それから3つ目は、意思決定の際のコンセンサスということでございます。クラブのいろんな情報などは会長さん、幹事さん、理事さんの間ではかなり共有化されておりますが、会員さんの間ではなかなか共有化されていない。クラブの情報を皆さん共有化することによってコンセンサスを得やすい、そして地区とクラブとの間のコミュニケーション、こういうことを図ることによっていろんなコンセンサスができるということだと思っております。

それから4つ目に、連続性の促進ということ。プロジェクト、人事におきましても3年ぐらいのいわゆる継続性を持たそうということ。委員長さん、副委員長さん、委員が3年でずっと回っていく、こういったサイクルを考えていくというのがCLPの基本的な考え方でございます。

そして5つ目は、将来のリーダーを育成するというロータリー教育を一生懸命やっという基



本的な考え方がございます。

最後に、運営の機能化、簡素化という考え方、こういうところが全部まとまってCLPという形になっていると思っております。

その運営の機能化、簡素化のお話ですが、このもととなる考え方がRIが効果的なクラブとなる4つの要素ということをRIは言っております。

これに基づいた委員会構成がCLPの常任委員会構成と考えております。4つの要素とは、会員組織、奉仕活動、ロータリー財団、リーダーシップのこの4つでございます。

次に、これはRIのいつも出している「効果的なクラブとなる4つの要素」の表ですが、最初に会員基盤を維持し強化させ増加させる、それから成果のあるプロジェクトを実施する。ロータリー財団を支援する。クラブレベルを超えた指導者を育成する。この4つの柱によって効果的なクラブができると言っております。これに見合うような委員会組織というのがCLPの常任委員会組織でございます。

クラブ管理運営委員会、クラブ広報委員会、会員増強退会防止委員会、奉仕プロジェクト委員会、ロータリー財団委員会、この5つでございます。そしてこの5つをDLPがCLPを支援するという組織になってございます。ガバナー補佐がクラブ管理運営を、地区の広報委員会がクラブの広報委員会を、地区の会員増強委員会がクラブの会員増強退会防止委員会を、地区のプログラム委員会がクラブの奉仕プロジェクト委員会を、地区のロータリー財団委員会がクラブのロータリー財団委員会を支援する組織になっています。

続いて、CLPの導入の経緯を少しお話をさせていただきます。2005年に初めてCLPという言葉を知ったわけですが、実は随分昔からRIの方では考えられたそうです。2000年9月にはLDT委員会が現在の常任委員会は非常に多いと指摘しています。以前の細則ですとたしか18委員会推奨されていたわけですが、その18委員会の推奨の組織といいま

すのは、150人規模の会員数を想定した委員会組織だそうで、日本の40名から50名といったような平均的な会員数ではもう多過ぎる。1人が2つないし3つの委員会を掛け持ちしなければ、その委員会を埋めることができない、非常に負担になっているだろうということから、5つの常任委員会しか持たない新しいクラブの管理組織を推奨したということでございます。

2002年にはそのガイドラインを開発しており、2003年には、RI理事会は原則的に承認し、試験的にやってみようということになりました。

2003～04年に6カ国18クラブによって試験的に採用され、それが大変よかったということで2004年11月に推奨クラブ細則として新しくなりました。

RIはCLPの目的をこのように言っております。「クラブ・リーダーシップ・プランの目的は、効果的なクラブの管理の枠組みを提供することによって、クラブレベルでロータリーを強化することです。」ということです。

その利点として5つ挙げております。プロジェクト及び意思決定の継続性、意思決定及び目標設定の際のコンセンサスを得やすい、クラブ指導者の活動の場の拡大と強化と、それからクラブ指導者の継続性、クラブ活動における全クラブ会員の参加と、こういったことが利点と言っております。RIはCLPを実施するに当たり、9つのステップを言っております。

まず、最初の段階ですが、効果的なクラブの要素に取り組む長期計画を立てる、長期計画を立案するということでございます。

2番目として、それを今度は単年度に落とし込む。長期計画と合致した年間目標を設定することでございます。

3番目として、クラブ協議会を開催し会員に計画策定に参加してもらい、ロータリーに関する情報を常に把握してもらえようとする。

4番目として、クラブ会長、理事会、委員長、クラ



ブ会員、地区ガバナー、ガバナー補佐及び地区委員会の間に明確な意思疎通が図れるように確認をする。

5番目として、将来の指導者育成を確実にする一貫した引き継ぎ計画を、概念を含め指導者の継続性を確保する。

6番目はクラブ委員会の構成とクラブ指導者の役割と責務を反映させるべく細則に修正を加える。

7番目として、会員の親睦をさらに深めるような機会を提供する。

8番目として、全会員がプロジェクトや業務に活発に関与し合うように計る。

9番目最後ですが、以下を確実にするため包括的な研修を企画する。クラブ指導者が地区研修会の会合に出席をする、新会員のための一貫したオリエンテーションを定期的実施する、現会員のための継続的な教育の機会を提供する。

CLPを考案いたしましたLDT委員会、つまり(Leadership Development Training Committee)リーダーシップ・デベロップメント・トレーニング・コミティ、リーダーシップ研修開発委員会と言うのでしょうか、RI元理事でLDT委員会元委員長のロンバートンさんがこのように言っております。

これはザ・ロータリアンという雑誌のインタビュー記事の方からピックアップしたのですが、CLPを導入することによって、逆にこういうことがチェックできますといわれております。

効果的なクラブとなる要素に、どのように取り組んでいるかということがチェックできますし、クラブ会長、理事、委員長、委員、地区役員とのコミュニケーションを図っているかどうかということがチェックできます。また、リーダーシップと奉仕活動の連続性ということをチェックできますし、クラブの現状を反映した細則になっているかどうかということがチェックできます。動機づけのために親睦を活用しているかということもチェックできます。最後に、すべての会員にロータリー教育を提供しているかとい

うこともチェックできますということです。

RIは5つの常任委員会についてこのように言っております。四大奉仕に基づく年間目標及び長期目標に取り組むというのが常任委員会の役割である。会長エレクト、会長、直前会長が協力して、指導の一貫性と計画の継続性を図る。

可能であれば、委員会の委員は3年を任期として任命する。会長エレクトは、空白を埋めるために委員及び委員長を任命する。年度開始に計画を立てるための会議を開催する。委員長は同じ委員会の経験を備えた人を推薦すると、なっています。

その常任委員会の下に小委員会を置くことができると述べております。

クラブの人数に応じて小委員会を設けることができることで、参考例として、会員増強退会防止の下には、職業奉仕、会員増強、会員選考、ロータリー情報などを置くことができます。クラブ広報の下には、広報、IT、雑誌、クラブ会報などを置くことができます。それからクラブ管理運営委員会の下には、プログラム、親睦、出席、規定審議、ニコニコなどを置くことができます。ロータリー財団の下には、この8つの委員会を持つところはないと思いますが、このような委員会を置くことができる。

それから奉仕プロジェクトの下には、いわゆる職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕等々、こういった委員会を置くことができるということです。

それからもう1つ、このCLPで特徴的なことは、理事と常任委員長の役割について分けて考えているということです。

従来の細則によりますと、四大奉仕の委員長は理事であるということになっていましたが、今回のCLPでは、常任委員会の委員長は、必ずしも理事でなくてもいいということになっています。むしろこれを分けるといった考え方があるかもしれません。

RIによると、クラブ理事はクラブを管理するために選出されたもので、委員会や予算案について客観的な意思決定を行うことで、理事としていろん



なクラブの意思決定を行う機関であるということです。それに対しまして、クラブの常任委員会の委員長は、決まったことを実行するものであるということです。会長エレクトより任命されて、クラブの目標の遂行を受け持ち、各自の委員会の活動に焦点を当てる、こういった形になっています。

次に、私どもの地区の推奨委員会構成というのを、ご紹介をさせていただきます。RIの5つの常任委員会、これをどうしようかと非常に悩みました。先般の田中RI理事さん、八戸南ロータリークラブの黒田研修リーダーさんにもいろいろご相談申し上げ、その結果、やっぱり6つぐらいがいいかなということになりました。

RIが言っております5つの常任委員会にさらにもうひとつ米山を加えて、6つの常任委員会を地区として推奨させていただきました。

当初、例えば職業奉仕委員会をどのように配置しようかといろいろ悩んだわけですが、たくさんの常任委員会になると意味がないということで、この6つにさせていただきました。

次に、地区の推奨組織として、理事のメンバーをどうしようかということになったわけです。RIの推奨細則では、常任委員会の委員長は理事ではなくてもいいということになっていたわけですが、これも田中RI理事さんにご相談し、日本的に解釈するなら、常任委員会の委員長は理事が望ましいのではということで、地区推奨の組織として、常任委員会の委員長は理事が望ましいということにさせていただきました。

奉仕プロジェクト委員会に小委員会を置く場合、やはり職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕、国際奉仕などを置いてほしいということをお願いいたしました。また、常任委員会委員長を、クラブの事情によって変わりますができましたら理事にしてほしいということをお願いしました。そうなりますと、理事の数が大変ふえるということになります。

そこで、奉仕プロジェクト委員会委員長、あるいは

クラブ管理運営委員会委員長を副会長あるいは会長エレクトが兼務することによって理事の数を少し抑えられるのではないかと申しあげました。小委員会を設置しない場合でも、担当の委員を置いてほしいということをお願いいたしました。

その結果、地区内の82クラブの賛同いただき、CLPが導入されました。

現在の私どもの地区のCLPの現状でございますが、この6つのパターンに分かれると思います。これは私が考えたパターンでして、これが適当かどうかはわかりませんが、常任委員会別に分けています。

まず最初の四大奉仕型といいますのは、従来どおりの委員会組織ということで、CLPを採用しなかったクラブですが、14クラブございました。

それから四大奉仕とCLPの折衷型といいますか、これは私が勝手に名づけましたが、四大奉仕委員会はあるのですが、それにプラスCLPに特徴的な広報とか、ロータリー財団とか、会員増強を追加していくところが2クラブございました。

それから、CLPを採用して、7つの常任委員会にしているところ、私どもは6つということを推奨したわけですが、さらにそれに追加しまして、職業奉仕委員会と米山を常任委員会に致し、7つの常任委員会にしているところが1クラブございました。

我々が提案したとおり6つの常任委員会にしているところが46クラブございました。それをさらに細分化しますと、職業奉仕、社会奉仕、青少年等々、理事にされているところ、あるいは全部理事でないところ、一部理事のところ、その他といったところに分かれます。

また、CLPを採用されまして、5つの常任委員会にしているところが32クラブございました。これはRIが言っているとおりではないのですが、例えば米山と財団と一緒に致しまして寄附金委員会と称しているところ、あるいは米山を国際奉仕の中に含めているところ等々を含めまして32クラブでございます。

さらにまた細分化いたしますと、奉仕プロジェクト



の中の委員会に、職業奉仕、社会奉仕等々の委員会を理事にしているところ、あるいは全部理事でないところ、一部理事のところと細分化できます。それから、CLPを採用して4つの常任委員会にしているところもございました。これはRIが提唱している常任委員会の数より1委員会少ないのですが、米山を奉仕プロジェクトの中に入れ、また広報をクラブ管理運営委員会の傘下に入れるということで、4つの常任委員会にしているところが1クラブございました。

こういった形で2650地区のCLPが進んでおります。ここで他の地区のCLPの現状を見てみたいと思います。お隣の2680地区の田中毅パスト・ガバナーが提唱されているのですが、会員数が少ない場合は、常任委員会の数は2つでいいのじゃないかと言われております。

1つはクラブの中を担当するクラブ奉仕委員会、もう1つはクラブの外を担当する奉仕委員会、この2つでいいんじゃないかと。その中にさらに細分化をいたしまして、クラブ奉仕委員会の中にはクラブ管理委員会、会員委員会、この2つでいいかと、そしてまた奉仕活動委員会の中には、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕とこういった委員会を置くのはどうだろうかという提案をされており、実行されているクラブもあるようです。それから、田中パスト・ガバナーは、会員数が大きくなれば従来どおりで良いのではないかとご提案しておられます。

もう1つ、鈴鹿西ロータリークラブ、先進的にCLPを導入されたクラブです。

ここは常任委員会の数はRIの言っている5つにされておりまして。ただ、特徴的なものは、職業奉仕、社会奉仕といった委員会を置かないということです。プロジェクトごとに委員会を置いて、それに全員参加をしてもらっているのだということでした。例えば社会奉仕と青少年とかいろんな委員会がございますが、いろんなプロジェクトを組む場合に、どうしてもその活動が重複してしまう。

どちらがイニシアチブを取るかということで、もめたということがあり、それならいっそのこと委員会の垣根を取っ払ってプロジェクトごとに委員会を決めようと、3年計画でいろいろなプロジェクト委員会を立ち上げてやっておられるということでした。

このクラブの大変立派なところは、長期計画をきちっと立てておられるところです。3～5年の計画、それから目標数値もきちっと明らかにされ、例えば、会員増強ですと、毎年1名は絶対すると。退会防止であれば年10%以内にする。奉仕プロジェクトであれば、地域社会奉仕プロジェクトは年に3件以上する。あるいは国際奉仕活動プロジェクトは年に1回以上する。こういう数値目標を掲げて3～5年の計画を立てていることです。

次に、私どもの地区のCLPの課題を少し整理してみたいと思います。

導入後ほぼ1年間経過しまして振り返ってみますと、大体5つくらいの問題があるんじゃないかなと感じております。

1つは、地区委員会との整合性といった問題です。地区委員会は従来どおり、例えば社会奉仕、職業奉仕とあるわけで、クラブによりましては奉仕プロジェクトのみということで、クラブの奉仕プロジェクトの中に職業奉仕あるいは社会奉仕委員会を置かないと言ったクラブが出てまいりました。地区で職業奉仕委員会を開きますから各クラブの職業奉仕の委員長さんはお集まりくださいといった場合に、会合に出てこれないクラブが数クラブ出てきたことです。

そして、地区でいろいろなこととお話ししても、その委員会はありませんからということで拒否される場所が出てまいりました。そうなりますと地区委員会との整合性といったことが今後非常に問題になると思っております。

新潟の地区では、逆に地区委員会を大幅に縮小いたしまして、地区の方に職業奉仕委員会あるいは社会奉仕委員会を置かないといったようなところもあるそうです。どちらが良いのかわかりませんが、



地区委員会とクラブ委員会との整合性ということを考えなければ、今後うまくCLPが機能しないのではないかと考えております。

それから、2番目の問題点といたしまして、小委員会の簡素化です。CLPになれば委員会を簡素化するということになるわけですが、残念ながらあるクラブではCLPを導入したにもかかわらず常任委員会の下にたくさんの小委員会を置かれているところもありました。自分のところのクラブの人数より多いような委員会数を設けられ、逆に委員会の数がふえたと言っておられるところがありました。やはりこの際思い切ってCLPを導入したのであれば委員会を簡素化することが必要かと思えます。

地区内ではそういうクラブがまだいくつか見受けられ、そういうところが今後の問題かなと考えております。

3番目として、奉仕理念の提唱と書かせていただきました。ロータリーには職業奉仕という看板がありますが、職業奉仕委員会を置かないというクラブが出てまいりました。もちろん今の職業奉仕委員会が職業奉仕理念をうまく提唱しているかどうかは問題ですが、そういった委員会を置かないとなつてまいりますと、今後どう職業理念を提唱していくのか、奉仕理念を提唱していくのかということが問題になってくると思っております。

4番目として、長期計画の立案ということでございますが、CLPの最初の第一のステップが長期計画でございます。私どもの地区の場合ほとんどのクラブを導入手続きで、その第一のステップを飛ばして導入されたところが非常に多くて、長期計画をほとんどのクラブが立案されていないということでした。今、それを一生懸命言っており、多くのクラブが長期計画を立案されつつありますが、やはりきちとした長期計画を立てることが今後の課題と思っております。

それから理事のあり方でございます。CLPでは理事と常任委員会の委員長を区別する、分けると

いうことでした。しかし、私どもの地区では常任委員会の委員長イコール理事となつていまして、今後理事と常任委員長のあり方についてどのようにすれば良いのかということを考えていく必要があると思っております。

次に、先ほどお話いたしました奉仕理念の研鑽でございます。ロータリーでは1927年のオステンド大会で初めて四大奉仕という考え方が導入されましたが、それ以前は「入りて学び、出でて奉仕せよ」と、例会が奉仕理念を学ぶ機会であつて、例会の外へ出て奉仕作業をするということになっています。そういった意味でまた昔へ戻り、例会の充実を図る必要があるのではないかと考えておりますし、クラブの長期計画におきましても、理想的なクラブとして職業奉仕、奉仕理念の提唱をどこかで行っていくということが必要かと思っております。

次に、長期計画の立て方ですが、これはいろいろな例もあると思いますが、前橋ロータリークラブさんの例をご紹介します。

このクラブは、4年ほど前に50周年を迎えられた非常に歴史の古いクラブでして、100名くらいの会員さんをお持ちのクラブでございます。ちょうど50周年を迎えられたときに非常にマンネリ化、停滞をしているということから、50年を目指して、クラブを改革していかなばならないということで、クラブの改革提言というのをまとめられております。その提言が参考になるのではないかとご紹介をさせていただきます。

このクラブは現状認識ということで、会員満足度調査、あるいはクラブ活力度テストというのをやっておられ、これは両方ともRIの資料でございます。これを何回か実施いたしまして、会員さんがどういふところで不満足に思っているのか、満足しているのか、あるいは理事さんによるクラブ活力度テストによって理事さん自身が自クラブを自分たちで評価をして、どれくらい活力があるのかということ調査されております。



その結果、非常に問題があるということで、じゃあ理想的なクラブとは何だろうか。理想的なロータリークラブは何だろうかといろんな提案をされております。理想的なロータリークラブ、会員像というのを明確にされております。

次に、クラブ改革の方向性といまして、7つの方向性を出してございまして、まず長期的なビジョンを作成する、長期計画を作成するということです。2番目の方向性として、ロータリー理念への理解ということで、職業奉仕を中心としたロータリー理念をいかに理解させるかということの方向性を出してございます。

3番目に、会員満足度を高めるような会の運営、例会の運営、クラブの運営の方向性を示されております。4番目に、自己研鑽の場としての例会の充実、5番目に委員会の再編・統合。6番目に地域ニーズに合った地元密着の事業をやっていこうという方向性。最後にクラブ運営のスリム化・透明化と、こういった7つの方針を出してございます。

その中で具体的な提言を細かくまとめておられますが、まず1番目としてロータリー理念の共有化、ロータリーの勉強会の定例化をしよう。それから会員のオリエンテーションをもっと強化していこう。こういったことをまず提言されております。

2番目として、例会を充実させることで、出席したくなるような例会、いろんな具体例を出しておられます。それから情報の共有化、今言いましたように理事、会長、幹事だけが知っているのではなくて、すべての情報を会員と共有化していこうということです。それからまたクラブフォーラムをどんどん活用していこう。そして、委員会の活性化を図っていこう、委員会活動の強化、また事業内容を抜本的に見直していこうとの具体的な提案をされております。それから、地域社会のかかわりを深めようということで、地域ニーズに合ったいろんな奉仕活動をやろう、市民の声を聞いて、発信する仕組みをつくっていこう、そして近隣クラブとの連携を図っていこう、

社会に提言するような事業をやっていこう、そして5番目といまして、組織運営の活性化をやって、リーダーシップを高めていこう、効果的な予算づくりをやっていこう、組織強化をしよう、こういったことを具体的にまとめられております。

今後の長期計画を立案するに当たりまして参考になるのではないかと考えております。

私どもの地区でCLPを導入するに当たり、いろんな質疑がありました。厳しい質問がございました。

質問の1番目ですが、CLPを採用するメリットが見えてこない、今までの組織でも会員増強には力を入れているし、奉仕プロジェクトも盛んにやっている。それなのになぜCLPが必要なのだ、これは瀕死の状態のクラブを救うだけの方策妙案で、大きなクラブにも適用できるというが活発に活動しているクラブは、どんなメリットがあるんだとのご質問でした。

これは黒田RI元研修リーダーにもいろいろお聞きしたのですが、これまで十分に活力を持ってクラブを管理・運営しているところは、無理をしてCLPを採用する必要はありません。しかし、時代の変化とともにクラブ委員会構成の簡素化、機能性、効率化というのが求められております。

CLPは会員の減少に直面し、活動のマンネリ化で社会ニーズの変化に対応できないクラブのためだけではなく、すべてのクラブにとって新世紀に求められる魅力あるロータリーを構築するための変革の一つのモデルプランとして、またクラブ運営を再点検する機会としてとらえていただければいいのではないのでしょうか。

また、会員満足度調査、クラブ活力度テストを実施することも大変必要だと思います。

それから、RIが言っております9つの手順について検討するのも意義があると思います。その中で、それぞれのクラブに適合したCLPのよいところを取り上げれば良いのではないのでしょうかとお答えいたしました。



次の質問で、CLPIは、結局RIが人集め、金集めのための意図を反映したものではないですかと非常に辛らつな質問もございました。このように答えました。RI元理事でCLPを立案いたしましたLDT委員会の委員長さん、ロン・バートンさんが述べています、CLPIはあくまでも時代の変化に対応したクラブ強化のためだということで、5つの常任委員会の構成は、RIが提唱しております効果的なクラブとなる4つの要素に基づいて構成されています。効果的なクラブの第1の要素は、会員を維持し増強させるということです。会員増強はロータリークラブ生存にとって根本的なことでして、CLPにおける会員増強、退会防止は会員の質の向上を大切にしてい退会防止を図り、十分なロータリー情報を伝えながら新会員を勧誘することなのです。多くの会員は国際奉仕を通じて世界とかかわる機会を持っており、それによってロータリーに引きつけられます。それを行う好都合な方法が、効果的なクラブの第3の要素であるロータリー財団への支援を通じて行うことができます。

ロータリー財団と言いますと日本では寄附集めというふうなイメージがあるわけですが、ロータリーのプログラムを研究して自分たちが参加できるプログラムを探して、クラブの能力の範囲内で実行することが求められています。

「クラブは自主性を持って実行すべきだと思います。無理する必要はございません、人集め、金集めというのは表面的な解釈ではないでしょうかとお答えをいたしました。」

次に、四大奉仕を実践する組織が新しい5つの常任委員会というのは理解ができない。特に金看板の職業奉仕というのが忘れ去られているのではないか、こういった質問がございました。これに対しまして、これは重田RI理事さんがおっしゃったことを少しリメイクいたしました。新しいクラブの細則では、四大奉仕をクラブ活性化のための理念と実践の枠組みと位置づけております。

クラブ委員会は四大奉仕に基づいた年次及び長期的な目標を推進する責任を持っております。また、現在クラブの委員会活動が形骸化、マンネリ化の危機にさらされているおそれがあるならば、小規模なクラブにも適用できる効果的な委員会構成を適用するというのも必要ではないでしょうか。ただ、四大奉仕を土台とした効果的なクラブ活動を展開するのは、委員会の名目よりも会員の熱意によるものです。職業奉仕の理念を学ぶ機会を各クラブの中で持つということは大変重要で、各クラブでどのような形にせよ職業奉仕理念を研鑽する委員会、あるいはそういうような機会を設けるというのは必要だと思います。

前橋ロータリークラブさんでは、奉仕理念委員会というのを設けているそうでして、どういう形にせよ職業奉仕理念を学ぶという機会を設ける必要があると思っております。

また、会長が例会で常に奉仕理念を提唱を行う、会長の時間で奉仕理念の提唱を行う、ロータリー情報委員会の奉仕理念について解説するという機会を設けることも重要ではないでしょうかとお答えをいたしました。

次の質問でございますが、奉仕プロジェクトの委員会の中に、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕などをひとまとめにした意味はどこにあるのかというご質問でした。

CLPが奉仕プロジェクトの中に社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕を並べて取り組んだことは、1つの進化と言えるかもしれません。社会の役割構造が急速に変化をして、奉仕分野のお互いの壁が低くなった現在、各部門が垣根を取り払ってセクショナリズムを廃し、地域社会あるいは世界の新しいニーズに対して効果的にこたえるということは意義があることではないでしょうかとお答えいたしました。これは重田RI理事さんがおっしゃったことを少しリメイクいたしました。

次の質問でございますが、CLPはクラブを超え



てロータリーにおいて奉仕できる指導者を育てると言っていますが、CLPはどのように育てるのですかという質問がございました。

クラブによっては、十分にクラブを超えて奉仕できる指導者を育ててきたと思います。RIのCLPは、あくまでも一般的な方針、具体例でございます。特にDLPによる地区研修リーダー、ガバナー補佐、地区委員会とCLPとCLPによる常任委員会との連絡を密にすると説明しております。むしろ、クラブからDLPを活用するといったような姿勢があれば、さらに効果的ではないでしょうか。

自分のクラブの運営や地区内の奉仕活動だけで手がいっぱいなクラブは、CLPによって問題を明確にするということが必要です。地区レベルの各セミナーに参加をして、国際的な奉仕活動に参加することにより、クラブレベルを超えた会員が育つのではないかと思いますとお答えいたしました。

次の質問でございますが、常任委員会は5つ必要ですかというふうな質問がございました。RIが提唱するCLPは、5つの常任委員会にしてほしいということでございますが、クラブの自主性で委員会構成が決定するものでして、クラブの会員数に応じまして常任委員会の数を加えたり、逆に減らしたりしてもやむを得ないのではないのでしょうかとお答えいたしました。

それから次に、常任委員会の名称は変更可能ですかという質問がございました。委員会の名称というのはクラブ細則の問題で、クラブの判断に任されているのだとお答えいたしました。

次の質問ですが、日本独自の米山記念奨学会はどのようにするのですかという質問がございました。日本のロータリーでは委員会として米山奨学会を当然加えるべきです。常任委員会として新たに加えることも可能ですし、奉仕プロジェクトの中の小委員会として加えることも可能ですとお答えいたしました。

次に、常任委員会で広報が必要かという質問が

ありました。

広報委員会を常任委員会にできないというのは会員数が非常に少ないクラブでは残念ながらやむを得ないと思います。会員数がある程度になれば独立させてやるという方向で認めざるを得ません。広報委員会を会員組織委員会、クラブ管理運営委員会の中の小委員会として入れざるを得ないというのが、日本のロータリーの認識ではありますが、しかし、世界のロータリーの趨勢というのを認識しておく必要があると思います。

RIの会長賞のプログラムの中に必ず公共的イメージということが他のいろんな目標に並んであるということで、2番目として、草の根レベルの公共イメージの向上ということがクラブの活力のために不可欠であることから、やはり広報委員会を常任委員会として置くのが望ましいのではないかと。そしてまた、広報委員会の活動として、地域のニーズに応じた奉仕プログラムを探して、その実践を何らかの方法で地域に広報していくことを検討したり、工夫したり、情報をまとめて報道機関に働きかけるということだけでもかなりの仕事になるわけで、常任委員会として必要だということを訴えております。

次に、常任委員会でロータリー財団が必要なのか、国際奉仕ではだめなのか、こういった質問がございました。ロータリー財団というのは大変重要なもので、これを常任委員会から外すということになりますとCLPの意味がなく、意義がなくなってくるということです。

会員数の少ないクラブであっても常任委員会として単なる寄附集めではなくて、さまざまなプログラムを検討して自分たちが参加できるプログラムを探さなければなりません。ですから、年度によってはプログラムの参加の検討だけで終わって、プログラムが実践できないという年度があっても、寄附額が少ない年度があってもやむを得ません。しかしながら、必ずロータリー財団というのを常任委員会として加えてほしいということをお願いいたしました。



次に、会員増強退会防止委員会の名称では、クラブ内の合意が得にくい。また、ロータリー情報委員会が会員増強退会防止委員会の傘下の小委員会というのは納得ができないというご質問でした。常任委員会の名称ですが、英語ではmembershipというふうになっています。メンバーシップ・コミティとなっています。これが現在、会員増強退会防止委員会と訳されているのですが、単なる会員増強・退会防止だけではなくて、包括的な計画を立案・実施すると説明されております。

つまり、日本的には会員委員会、会員組織委員会という表現が正しいかもしれませんが、RIの情報はあくまでも英語を基本といたしており、日本的な言葉を使用しても良いのではないのでしょうか。RI世界本部の日本語翻訳課の方で一応の相談の上、便宜上このような訳になっておりますが、翻訳に疑義があるときは原文に戻るということになっておりますと申し上げました。それから、ロータリー情報委員会が傘下の小委員会ということですが、そのような意味でロータリー情報委員会が会員増強退会防止委員会の傘下に入っていると、包括的な退会防止だけではなくて、包括的な計画を立案・実施するのだということから、ロータリー情報委員会も会員増強退会防止委員会の傘下に入っているのだとお答えいたしました。

そして、CLPでも既存会員及び新会員のための包括的な研修を強調しており、これが次年度指導者の育成にもつながっているということをお話し申し上げました。また、小委員会をどのような傘下にするのかは、クラブの裁量権の範囲であるということですので、その辺はどうぞ自由にやってくださいということをお話ししました。

最後に今までのお話のまとめをさせていただきますと、CLPとは、クラブ活性化のための一つの手段であるということで、その基本的な考え方というのはやはり長期計画の立案、全員参加でクラブを活性化をする、将来のリーダーを育成する、ロータ

リー教育を一生懸命やっていこうということ、そしてクラブ運営の簡素化、こういったいろんな考え方が1つにまとまってCLPになっているということがございます。

採択は自由ですが、各クラブは自クラブが発展するようにCLPのいいところを取り入れてほしい、毎年これを見直してほしいということをRIは提唱しております。

最後に、余談でございますが、先般、関場RI研修リーダー様のご挨拶の中でこのようなお話をされておられました。RIで会員が退会する理由というのを少し検討されたそうですが、会員が退会される理由は3つあるということでした。

1つはリーダーシップの脆弱性、それから2番目は費用に見合う充実感がない。費用が高いのではなく、ロータリーに入ってお金を払っているのに充実感がない、満足感が得られない。3番目は、やりがいのある奉仕活動を見出せない。

この3つがRIの調査した会員が退会する主な理由であるということでした。その折にもCLPを導入することによって、対策を提供できるのではないかと仰っておられました。

以上、大変雑駁なお話でしたが、CLPにつきましてご説明を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。





●司会(岡本 厚)

ただいまより2007～08年度のための地区協議会を開催いたします。

●岩田宙造ガバナー (点 鐘)



●司会(岡本 厚)

続きまして、国歌斉唱、その後ロータリーソング「奉仕の理想」を皆様とともに歌いたと思います。

ソングリーダーを池田くれはロータリークラブ 谷 勅行会員にお願いいたします。

●ソングリーダー(谷 勅行)

(国歌斉唱ならびにロータリーソング)



●司会(岡本 厚)

皆様、ご着席ください。岩田宙造ガバナーよりごあいさつをいただきます。

●岩田宙造ガバナー

いよいよ本日は、新谷年度のための総まとめの勉強会でござ

います。RI次年度会長ウィルキンソン氏の方針の伝達及び新谷次年度ガバナーの方針と活動計画を詳しくお聞きいたします。ロータリークラブの次期指導者が、新しい任務に備えて準備するために開かれております。クラブ会長エレクト及び次ロータリー年度に指導的役割を果たすよう会長エレクトから任命されましたロータリークラブ会員に対し、

後半もさらに部門別協議会が用意されております。次年度に向けて活動計画を立てていただくために、万全の備え準備がなされてきております。ご参加の皆様には、きょうの地区協議会が目的・計画どおりに進みますようご協力をお願いごあいさつとさせていただきます。

●司会(岡本 厚)

引き続きまして、地区協議会実行委員長でございます池田くれはロータリークラブ長嶋貞孝より、開会に当たってのごあいさつをさせていただきます。

●地区協議会実行委員長(長嶋貞孝)

※11ページに記載。

●司会(岡本 厚)

池田くれはロータリークラブ 檀 信義会長より歓迎のごあいさつをさせていただきます。

●池田くれはロータリークラブ会長(檀 信義)

※12ページに記載。

●司会(岡本 厚)

続きまして、新谷ガバナー・エレクトより、ご出席のガバナー、パスト・ガバナー、研修委員並びにガバナー補佐のご紹介をさせていただきます。

●新谷秀一ガバナー・エレクト

ただいまより、地区協議会出席者のパスト・ガバナーさん初め、皆さん方をご紹介させていただきます。戸田 孝パスト・ガバナー。熊澤忠躬パスト・ガバナー。中川章三パスト・ガバナー。近藤雅臣パスト・ガバナー。柏木 尚パスト・ガバナー。寺田和之パスト・ガバナー。井上暎夫パスト・ガバナー。若林紀男パスト・ガバナー。宮田宏章パスト・ガバナー。神崎 茂パスト・ガバナー。以上のパスト・ガバナーさんでいらっしゃいます。

ただいまより、地区研修員のご紹介をさせていただきます。

地区研修委員、川上善司さん。地区研修委員、橋本憲之さん。地区研修委員、畑田 豊さん。地区研修委員、瀧川紀征さん。地区研修委員、松井隆雄さん。地区研修委員、井上家昌さん。地区研修委員、岩本洋子さん。地区研修委員、居相英機さん。



2006～07年度I.M.3組ガバナー補佐のご紹介をさせていただきます。金森市造さん。

ただいまより、私の年度の各I.M担当別にガバナー補佐を紹介させていただきます。次期ガバナー補佐、第1組、上野弘之さん。第2組、芳賀 洋さん。第3組、平田大一さん。第4組、岡村政嗣さん。第5組、平林武昭さん。第6組、山本武男さん。第7組、松村榮一さん。第8組、三木 優さん。

以上、ご紹介させていただきました。

●長岡啓基登録委員長

本日、地区内85クラブ9部門の出席義務者の皆様、計723名のご出席を得ております。

●司会(岡本 厚)

新谷ガバナー・エレクトより、次年度の方針をお話いただきます。

●新谷秀一ガバナー・エレクト

※13ページに記載。

●司会(岡本 厚)

続きまして、新谷ガバナー・エレクトより、ガバナー・ノミニーのご紹介をしていただき、ガバナー・ノミニーより一言ごあいさつをいただきたいと思ひます。

●新谷秀一ガバナー・エレクト

次年度のノミニーを紹介させていただきます。横山ノミニーでございます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

●横山守雄ガバナー・ノミニー

ただいまご紹介賜りました大阪中央の横山でございます。本日のこの地区協議会の最初のページ、プログラムをごらんいただきたいと思ひますが、ガバナー・ノミニーのあいさつとしまして、2人の名前が挙がっております。本日、次の大谷ノミニーさんは所用のため本日ご欠席ということで、私1人のあいさつということになりましたが、どうしてそのノミニーが2人いるのと、そういうふうにご挨拶お思ひになるかもわかりませんが、これは昨年度からRIのルールが変わりまして、ノミニーは早く選出するようにと規定が変わったのでございます。現在、世界じゅう

に530の地区がございますが、それぞれの地区におけるガバナー・ノミニーあるいはエレクトの死亡率というのが結構高いんだそうでございます。

いろいろとガバナー就任までのストレス、プレッシャーというものがございまして、そのせいかなと思っております。そこでRIは、安全面と申しましようか、予備軍を1人置いておいた方がいいなということで2人のノミニーになったのではないのでしょうか。

実はこの地区におきましても、ここ20数年来4、5名のノミニー、エレクトの方がお亡くなりになっているのでございます。私は幸いこの1年間何とか生き延びてまいりましたが、人生一寸先は真っ暗やみだと申しますから、来年の7月までもつかどうか、全く自信がないところでございます。

次年度のRIの活動テーマ「ロータリーシェアーズ」、ロータリーは、分かちあいの心ということで、本日も来場の皆様、クラブリーダーの皆様は、これはなかなかいいテーマだなど、そういうふう思っている方が結構多いのではないかと存じます。

新谷次年度ガバナーも、常日ごろから仕事もロータリーも仲よくやりましよう、楽しくやりましようとおっしゃっておりますから、新谷ガバナーご自身もこれはぴったりの次年度のテーマだと、お考えになっていらっしゃるかと存じます。

本日お集まりの皆様が、次年度本当にお互いにこの助け合い、分かちあいの精神で、次年度の1年間が有意義な1年になりますように心から祈念申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

●司会(岡本 厚)

それでは、ただいまより2005～06年度の表彰に移らせていただきます。

神崎パスト・ガバナー、どうぞ壇上へお進みください。

まず、共同プロジェクト最高賞、他団体と共同で実施した活動において、見事な成果を上げたロータリークラブをたたえ表彰するものです。

続きまして、1人当たり寄附額の上位3クラブ、地区内の1人当たりの寄附上位3クラブに送られま



す。100%財団の友会員のクラブ、すべての正会員がロータリー年度の個人的に年次プログラム基金へ100ドル以上の寄附を行い、1人当たり100ドルの寄附を達成したクラブに対して送られます。

まず最初に、共同プロジェクト最高賞の受賞クラブは、茨木東ロータリークラブです。会長エレクト北尾 哲様、どうぞご登壇ください。神崎パスト・ガバナーより認証状を贈呈させていただきます。

●神崎 茂パスト・ガバナー

大変立派な賞状でございます。
おめでとうございます。



●司会(岡本 厚)

ロータリー財団、1人当たり寄附額の上位3クラブを受賞されましたのは、千里メイプルロータリークラブ、大阪梅田東ロータリークラブ、東大阪ロータリークラブの3クラブです。

代表でお受け取りいただきますのは、千里メイプルロータリークラブ会長エレクトの柳原健治様です。どうぞ、ご登壇ください。神崎パスト・ガバナーより認証バナーを贈呈いたします。

●神崎 茂パスト・ガバナー

ありがとうございました。おめでとうございます。

●司会(岡本 厚)

100%財団の友会員のクラブを受賞されましたのは、守ロイブニングロータリークラブ、大阪天王寺ロータリークラブ、大阪城ロータリークラブの3クラブです。代表で守ロイブニングロータリークラブの会長エレクト大島栄子様、ご登壇ください。



●神崎 茂パスト・ガバナー

大変大きな立派なバナーですね。
どうもありがとうございます。

●司会(岡本 厚)

最後に、毎年あなたも100ドルを受賞されましたのは、ごらんの25クラブでございます。

代表で大阪リバーサイドロータリークラブ会長エレクト松井素子様、ご登壇ください。

●神崎 茂パスト・ガバナー

どうもありがとうございました。

●司会(岡本 厚)

受賞クラブの皆様、本当におめでとうございます。神崎パスト・ガバナーどうもありがとうございました。

それでは、本日ご講演いただきます刀根莊兵衛様のご入場です。拍手をもってお迎えください。

ご紹介させていただきます。RI第2650地区手続規則委員会委員長としてご活躍をされておられます刀根様でございます。

●敦賀ロータリークラブ(刀根莊兵衛)

ただいまご紹介いただきました敦賀ロータリークラブの刀根でございます。きょうはお招きをいただきまして、まことにありがとうございました。

※20ページに記載

●司会(岡本 厚)

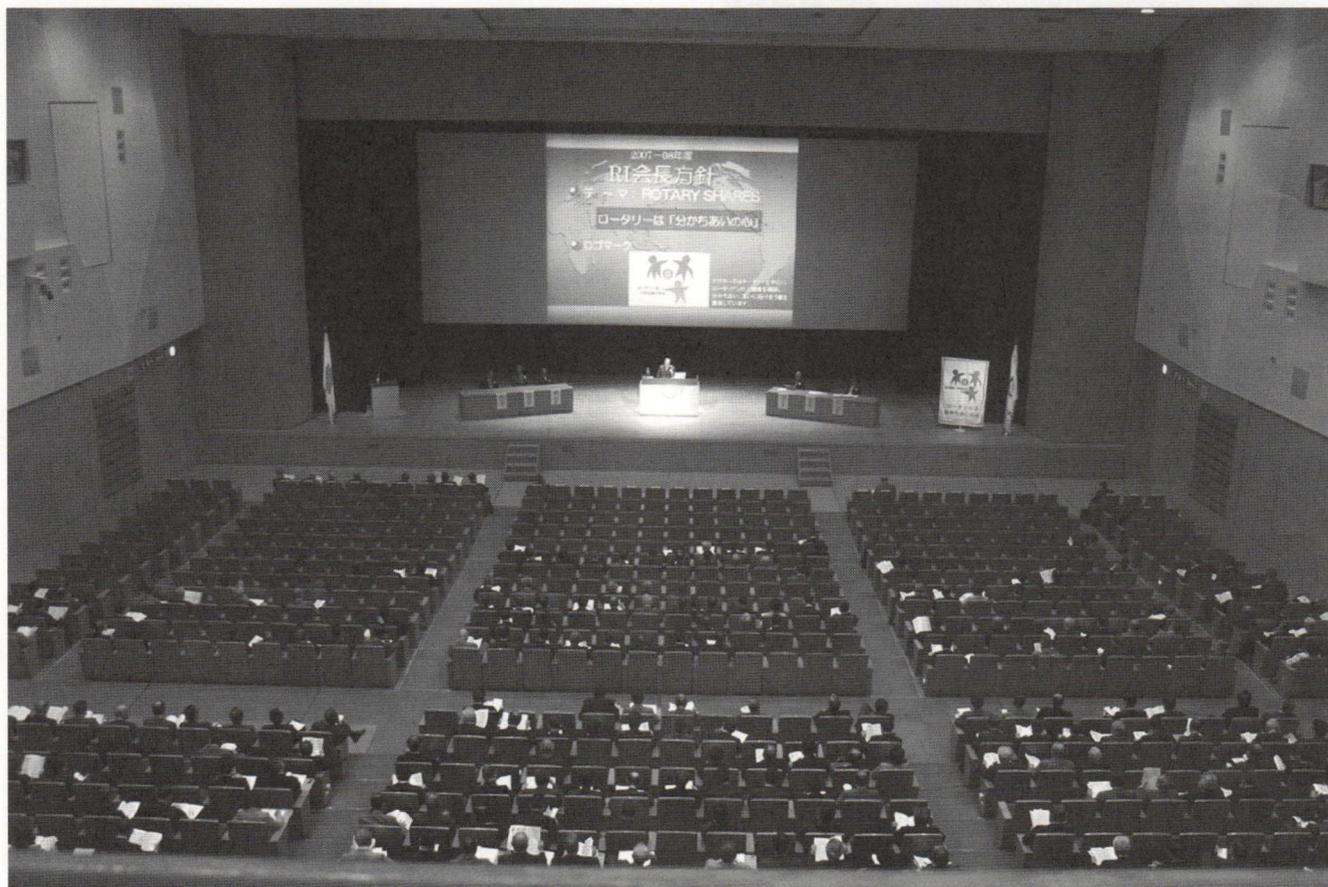
これで午前中の会議のすべてが終わりとなりますが、ここで昼食及び午後の会場などについてご案内申し上げます。昼食についてのご案内を申し上げます。エレベーターをご利用いただき、国際会議場の10階までお上がりください。会長部門と



職業奉仕部門は12階です。午後より皆様が出席されます部門別会場でご昼食のご用意をしております。皆様の名札の色の部屋を明示しておりますのでお入りください。また、各部門別会場内は指定席となっておりますので、ご自分のお席にお着きください。なお、リーダー、サブリーダーの方々も部門別会場でご昼食をお願い申し上げます。

それでは、午前の部、閉会の点鐘を岩田ガバナーよろしくお願いいたします。

●岩田宙造ガバナー（点鐘）



- 会長 一青 谷 謙
- 副会長 廣野 森
- 幹事 大塚 雅夫
- 幹事 榎守 山 壽
- 幹事 山崎 川 謙
- 幹事 星 宗 土 共



2007~2008年度のための地区協議会

部門別協議会

午後

大会の成功を期すべく、各部門の委員が、この

2007年8月5日(土)に、本会会館にて、

平成19年度(2007年)の地区協議会を開催し、

各部門の委員が、この協議会に参加し、

協議会の成功を期すべく、各部門の委員が、

この協議会に参加し、協議会の成功を期す

べく、各部門の委員が、この協議会に参加

し、協議会の成功を期すべく、各部門の委員

が、この協議会に参加し、協議会の成功を期

すべく、各部門の委員が、この協議会に参加

し、協議会の成功を期すべく、各部門の委員

が、この協議会に参加し、協議会の成功を期

すべく、各部門の委員が、この協議会に参加

し、協議会の成功を期すべく、各部門の委員

が、この協議会に参加し、協議会の成功を期

すべく、各部門の委員が、この協議会に参加

協議会を開催し、各部門の委員が、この協議

会に参加し、協議会の成功を期すべく、各

部門の委員が、この協議会に参加し、協議

会の成功を期すべく、各部門の委員が、こ

の協議会に参加し、協議会の成功を期すべ

く、各部門の委員が、この協議会に参加し

、協議会の成功を期すべく、各部門の委員

が、この協議会に参加し、協議会の成功を

期すべく、各部門の委員が、この協議会に

参加し、協議会の成功を期すべく、各部門

の委員が、この協議会に参加し、協議会の

成功を期すべく、各部門の委員が、この

協議会に参加し、協議会の成功を期すべ

く、各部門の委員が、この協議会に参加



会長部門 12階 特別会議場



●新谷ガバナー・エレクト

会長部門協議会を始めます。会長エレクトの皆様方と親しくいろいろお話させていただける、またとない機会でもあります。どうぞご遠慮なくいろいろなご質問、ご提案等をいただければ非常に幸いですと思っております。

司会者からお話がありましたように、本当にこの会議室は、天井がドームになっておりまして、本会議場の一番立派な部屋です。この様な部屋で皆様と一緒に協議会をさせていただくのを楽しみにしています。これから後、重要な案件が提出されますので、十分ご審議願いまして、会長部門協議会がスムーズに行くようご協力をお願い申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。

本会議場の最初の重要な案件は、2007～08年度の2660地区の予算案のご説明と審議でございます。私がガバナーエレクトとして責務を果たすための、2007年度国際協議会が2007年1月28日～2月3日までアメリカカリフォルニアのサンディエゴで行われました。私ももちろん出席すべく準備しておりましたが、1月始めに肺炎にかかり、急遽入院いたしました。

私の予定では、20日には退院して、出席しようと思っておりましたが、病気が長引き、国際協議会に出席できないので、ガバナーエレクトを辞退する決意をいたしておりましたところ、近藤パストガバナーからお電話があり、講習会は、日本国内で追って受けられるようになるとのことで、欠席してもいい

<リーダー>
 ガバナーエレクト 新谷 秀一 (池田くれは)
 <サブリーダー>
 次年度地区代表幹事 森 茂寛 (池田くれは)
 <サブリーダー>
 次年度地区財務委員長 北野 紀之 (池田)
 <サブリーダー>
 ガバナー・ノミネー 横山 守雄 (大阪中央)
 <サブリーダー>
 地区研修委員 瀧川 紀征 (吹田西)
 <サブリーダー>
 地区研修委員 井上 家昌 (東大阪東)

から、病気療養に専念するように指導していただきました。

おかげさまで、肺炎も治癒し2月18、19日と二日間にわたって2007年度RI研修リーダーの安平和彦様(姫路ロータリークラブ:職業分類 弁護士)より講習を11時間30分受けました。また、ガバナー事務所の大木様より電話で3時間の講習を受け、合計14時間30分の研修を終了しまして、本日ここにエレクトとして皆様の前に立つことができました。そして、もうお一人忘れてはならないのが、京都の2650地区ガバナーエレクトの橋本様です。橋本様には国際協議会のお話等をうかがうだけではなく、その上、いろいろな荷物をアメリカから持って帰っていただき、ロータリーの友情に感謝いたしております。

神崎パストガバナー、岩田ガバナーのお二人には、いろいろとロータリー運営に関しましてご指導いただきました。また、RI研修リーダーの安平様の講習を受けて、初めてロータリーのことが十分理解できるようになりました。私がちょうど皆様と同じ会長エレクトの時は、ロータリーについて十分理解できずに、前年度の会長の引継ぎのままに運営していたことを恥ずかしく思います。皆様はその様なことはないと思いますが、ロータリアンの手引きである、『手続要覧』を熟読していただきたいと思います。本日の会長部門協議会が終わりましたら、2週間以内にクラブ協議会を開催できるように準備を整えていただきたいと思います。また、クラブ協議会は、最低年4回～6回開催されるようお願いいたします。クラブ協議会は、クラブ運営において、会長さんが会員の意見を聞く重要なチャンスでもあり、ぜひとも実行していただきたいと思います。また、クラブ



協議会にガバナー補佐の出席依頼がありましたら、年4回義務づけられておりますので、ご相談の上、日程の調整をお願いいたします。

さて、先の本会議で次年度地区方針として説明いたしましたとおり、地区としてDLPの新しい方針にもとづいて運用することとなり組織の一部変更と研修委員会の充実、ガバナー補佐の選考方法・職務の明示、地区委員の全クラブ全選出・委員のローテーションの推進などが実施されることとなっております。

そして各クラブにはCLPの積極的な推進を提唱することとなりました。先だって戸田パストガバナーとのお話しの時、クラブでCLPというのを検討したら80%ぐらいは整理できるのではないかと。私も、クラブの中の組織を見ておりましたら、ああそうだなあ、やはりクラブ奉仕をうまくまとめれば、CLPは大方のことはできるのではないかと踏んでおります。そう甘くないと言われるかもしれませんが、よろしくご協力のほどお願いいたします。

先日も大阪東ロータリークラブの山本さんがガバナー補佐に出てくださいまして、そのお願いに伺いました。例会にも出席させていただき、こんな立派にやっておられるところだったら明日にでも移籍したいなあと思った次第です。どこがいい悪いといっているわけでは決してございませんので、ぜひ会長皆さんも7月1日の始るまでにちょっと大きいクラブに一度訪問していただけたらいいかなー。そして最後の最後までいていただけたら、いろんなことが見えてくるのじゃないかなあと思うわけです。そうしますと、自分のクラブでこれが足りないなあ、あれが足りないなあということが、ももっとお解かりになることだと思います。

また、RI規定も次々にかわっています。過去からの惰性でなく、本当にこれでいいのか、ほんといろんな点で直さないといけない、改良しないといけない、そういう意味合いがCLPのもつ大きな意義だと思います。どうぞ予算とCLPの取り組みを含めまして、よろしくご報告申し上げます。

●北野地区財務委員長

先日のPETSの席上でも一応の予算の概要はご説明申し上げましたが、きょうはこの協議会におきまして、次年度の予算を決議ご承認いただきたいということで、確認の意味で再度ご説明申し上げます。

予算承認までのスケジュールを、改めて追ってみました。又、予算案策定に当り過去の流れも調べて見ました。

まず12月の次期幹事会に一応概要を提示することができました。引き続き12月の諮問委員会で予算編成についての報告をいたしました。そして3月1日、2日の次年度の地区委員会の委員長さんから、次年度の事業計画及び希望の予算額の見積もりをいただきました。新谷ガバナー・エレクト、森次期代表幹事、戸田パスト・ガバナーのご出席の上でミーティングをさせていただきました。ある意味では予算折衝ということで、いろいろとこちらも教えられ、委員長さんいろいろと頑張られたところがあります。

それから、3月10日の地区チーム研修セミナーで、地区研修員、地区委員長、地区幹事、ガバナー補佐、パスト・ガバナー、といった方々にご説明、報告いたしました。

次に3月24日に会長エレクト研修セミナーで予算編成についてご報告申し上げます。そして、今回の地区協議会が予算承認の場になるわけでございます。

予算編成は、基本的に岩田ガバナー年度、湯浅財務委員長の方針を踏襲することにしており





ます。即ち、前年同様会員減少の中、緊縮予算を継続しなければならないということと、地区会計の健全化、財務面からの地区活動の効率化と活性化を図っていかなければならないということでございます。

特に主な点として、赤字予算であり、資金を繰越金を取崩してから使用しているということ、それから先ほど申しましたように、合同ミーティングで希望予算額及び事業計画をヒアリングしているということ。次に各委員会では予備費を持たないこと、予備費を持てばどうしてもむだになるということ、必要であれば本部の予備費を使うということ、又、地区の活動はあくまでも地区の予算で賄うということ。行事への参加は受益者負担の原則でいくということです。それから地区の会計、仕組みについては地区の運営資金予算、それから地区の活動資金予算、基金会計、特別会計というものがあります。私はこれを継続していくことを前提にして、予算をつくってきました。

井上パスト・ガバナーのときに予算体系を運営資金と活動資金に分けられ、非常に明瞭性が高まっています。

さらに会員の減少、資金の危機ということで、安定した資金を確保しておこうと、基金制度ができたということでございます。

後で詳しく見ますが、特別会計というのが次のページにあります。これは地区大会資金、米山奨学生活動資金、それから世界社会奉仕基金、それからRI規定審議会の派遣積立金という項目で成り立っております。

もう一つ、今日、この会議の地区協議会予算というものがあるわけですが、この部分は各クラブから13万円ほど特別に徴収させていただいて、運営がなされております。86ロータリークラブで計算し、13万円を掛けると1,118万円の予算総額になります。別に予算策定をし、剰余金が出た場合、この剰余金は地区の運営資金に繰入れされます。

予算の編成の前提というのは、会費と会員数の掛け算ですから、5年前の会員が5,000名であっ

たのが、今や4,000名を割るかどうかという人数になり、予算も縮小し、活動も縮小し、一般管理の部門も縮小せざるを得ない実態となっているのです。

予算策定に当って今年度新谷ガバナー・エレクトの意思決定で会員数を、4,000人を死守しようということになりました。会員増強をぜひぜひよろしくお願いしたいということでもあります。

そこにも書いていますように、地区負担金は地区の運営費として9,500円、地区活動費を7,500円、地区大会費を5,000円、総額で2万2,000円を皆様から徴収させていただき、この地区会計が成り立っています。ですから5,000人が4,000人になるということは、1,000人、2割の減少です。1,000人掛ける2万2,000円は2,200万円の減収があったということなのです。2,200万円の減収というのは、非常に恐ろしいことであり、これを体重でいえば60キロの体重が48キロになったわけですから、どこか体調がおかしいのと違うかと言われるということです。

従いまして予算については、引き続きシビアな管理のもとで運営していくということですが、前年度からの繰越金をつぶして、地区の活動はできるだけ活発に維持しようということできております。

例えば、地区運営予算の収入が、9,500円の4,000人ですから3,800万円、それからRIの助成金があって、雑収入が先ほど申しました協議会での剰余金等を入れて4,220万円。支出合計が4,319万円で、収支差額が99万円の赤字になっています。

それから、地区活動資金が3,000万円、これは7,500円の4,000人分です。それに対して支出合計が、3,301万5,000円で301万5,000円の赤字になっています。この赤字を繰越金で賄っているわけです。

各クラブの負担をおさえ繰越金を費やして活動を維持していこうという訳です。これから皆さんの努力で増員、会員の増強もあるでしょうし、合理化あるいは効率化を図って資金を浮かしていこうということでもあります。

次に個別予算の中で、地区の運営資金では



支出合計が4,319万円、ガバナー事務所経費が3,134万円。これはガバナー及びガバナー事務所に対するもので一般管理費です。この分につきまして、人員の入替えを図り4名になり200万円の削減をいたしました。

それからホームページ等新しく更新していくというので、この部分に150万円の開発費を計上しました。これは今回限りですが、維持費として126万円を入れています。事務用品費20万円、雑費50万円を削減し、事務所経費合計で14万円を削減しています。その他ガバナー等にかかわる諸経費、交通費等についても節約しております。

増加部分では、ガバナー補佐の経費としてCLPで動かれるということで、16万円ほど上乗せしております。

地区の活動資金案につきましても、地区委員長さんとの予算案を個別にミーティングをして、了解をいただいた金額が活動費として上がっております。

しかし、どうしても必要なもの又は、重点項目につきまして予算の上乗せというか、クラブ奉仕の20万円、これはCLP関連、情報広報の10万円、職業奉仕10万円、これも研修費用として計上しています。

それから青少年奉仕部門につきましては、これはいずれにせよ、将来のために若い人たちの育成、養成をしていかなければならないということで、金額は大きいのですが現状を維持しています。それからローターアクトあるいはインターアクトについての青少年活動の一環として、10万円、14万円を上乗せしております。

今年度特に変わっているのは、ロータリー財団の中のGSE、研究グループ交換です。これは今年度は予定プログラムがないということで、149万円の減少になっています。すなわち派遣とか受け入れがなかったということでございます。

もう一つ、研修委員会として新しく20万円の予算を計上しています。これも新しい時代に対応する予算ということでございます。

地区の財政の健全化、地区の活動の活性化、財政基盤の安定確保ということを望んでおります。

以上のことを踏まえまして、ご審議いただき、来年度の予算をご承認いただきたいということでございます。よろしくお願いたします。

●新谷ガバナー・エレクト

すぐにおわかりにくい点もあると思いますが、PETSのときにもお話ししているの、十分検討していただけたものと思っております。

只今、北野財務委員長より申し上げましたことで、何かご質問はございませんか。

●大阪イブニング(西野博子)

大阪イブニングロータリークラブの西野でございます。この表をPETSのときに見せていただいておりますが、理解が悪いのかわかりませんが、基本方針の3という部分ですね。基本方針3の中の地区資金とは別に地区協議会会計なんです、登録料として徴収することについて、今年度1クラブ当たり13万円の徴収ということは、クラブ単位の13万円の徴収なんですか。

私どものクラブは、20何人という弱小クラブに対して200人もいるクラブと比べて13万円ずつ負担するというのは、不公平なように思うのですが。

●北野地区財務委員長

均等割で、負担は大きいと思いますが。

●大阪イブニング(西野博子)

私どもも13万円負担ということですね。

●北野地区財務委員長

そういうことでございます。金額のウエートというのではなく、1クラブ当りの負担が13万円均等割ということなんです。

●大阪イブニング(西野博子)

多いか少ないかというのは一目瞭然ではありませんか。単純な算数計算だと思いますが。

●森地区代表幹事

代表幹事の新米でございますが、従来どおり13万円という予算が取られております。3年ぐらい前は15万の予算のもとでこの協議会を行いました。人数が多い、少ないかによって配分いたしますと、この協議会ができなくなるように思います。

固定的な負担のものが非常に多く、予算が余り



ましたら一般会計に入ります。これは皆さんのお金でございますので、ご理解いただきたいと思っております。

●大阪イブニング(西野博子)

これは会員増強にもかかわることだと思えます。1人当たりの負担額が多くなると、小さいクラブには入りたくないということも起こって、会員増強して、皆さん一緒にやりましょうよというのには、やっぱり何かのサポートがないと会員はふえてこない。

●森地区代表幹事

話として承りまして、2008年度に向かって、横山ノミニ一年度で何とかいい方向づけができることを期待しております。

●横山ガバナー・ノミニ

私も日ごろから感じていました。地区協議会は各クラブから会長、幹事他1人ずつ出られるという意味で、従来からやってきたと思うのです。ただCLPが導入されクラブの組織も形態も変わって行くところからの問題として、考えていかなければいけないと思います。

改善の余地はありますし、やらなければいけないと感じておりますので、次年度以降そういうことも含めて検討させていただきます。

●大東(清水 修)

ガバナー事務所経費で、給料手当が200万減額していただいておりますが、社会労働保険料が反対に40万ふえているというのは、給料が下がって労働保険料がどうして上がるのか理解できないのですが。

●北野地区財務委員長

おっしゃる通りです。ただ、事務局の方から、現実には給与総額の14%が実数字ですというアドバイスがありまして、2,000万円の14%という計算をいたしました。

それで金額が上っています。

●新谷ガバナー・エレクト

先ほどの大阪イブニングRCの西野さんのご質問、今の東大RC清水さんの質問がありました。ロータリーとしてはその年度・年度で終わってしまいますから、

引き継ぐときには当該年度予算と、これ以上に予算は使わないよということだけが引き継がれるというのが現状です。適正な予算を組むという点から、岩田G・山本代表幹事、次年度として私と森代表幹事で、次年度各委員長の方との個別面談を行い予算額を決定したわけです。しかし、一方を締めれば片方で出て行くというような形で大変でございました。事務局も人数を減らして、我々で処理を持って帰ってやるか、能力のある人を雇ってそれだけの処理をやっていただくとか、いろんな工夫をしているのが現状です。

DLPをはじめいろいろな面で岩田年度、私、横山年度と向こう3ヶ年の継続事業で計画し、大きな改善もやってきておりますので、私の足りなかつた面は横山年度で仕上げていただくことで進めたいと思います。改善できる予算というの私も見えてきていますので、横山年度の予算には少しでも改善し、結果として発表できるようにして引き継ぎたいと思っております。どうぞ本日ご出席の会長様方にもご協力ご支援のほどお願い申し上げます。

国際ロータリー細則第15条第6節第2項の規定によりまして、本日ご出席の会長エレクト様の拍手をもって承認いただきたいと思います。どうもありがとうございます。

続きまして、地区大会の件ですが、今までは参加者だけが、受益者負担ということで4,000円相当を持つという形になっており、その以前は全部均等割ということでやっておりました。そういう点で非常に、逆な、先ほど西野さん言われた反対のことがどんどん起こってまいりまして、地区大会が開けないと、こういうような数字も出てまいりました。

皆さんが満足していただき、喜んでいただけるような形を取りたいということで、先ほど申しましたとおり、ご家族もをご参加願えるような地区大会をやりたいと願望しております。できる限り努力したいと思っておりますし、地区大会委員長を初め関係者一同努力してもらえものと期待しております。会員全員が4,000円の登録という形で、今年度予算は予算組みがされております。その点もあわせてご



了解願えたものと思っております。

●司会(田中喜佐雄)

次年度の予算が承認されました。

ありがとうございました。

●瀧川地区研修委員

所属クラブは吹田西ロータリークラブでございます。朝から難しい話、この後も多分難しい話が続くと思うのですが、会長エレクト諸氏には3月の24日のPETS、地区協議会と、ロータリーで一番長い日になってるんじゃないかと思っておりますが、会長就任間近に控えまして、決意のほどが、ひしひしと伝わってくるような雰囲気でございます。

私がお話するのは、マニュアルや規約とかということじゃなくて、会長としてこういうことを気をつけた方がいいんじゃないか、心がけた方がいいんじゃないかということをお話をしたいと思っております。

満を持して会長に就任をなさろうという方もおられますれば、やむを得ず、あるいは中には、おだてられてなってる会長さんもおられるかと思うのですが、この7月からは、クラブを代表する会長ということでございますので、役割と責任を十分に自覚していただき頑張っていたいただかなければならないと思います。

お集まりの85の会長の方は、数字をみますと、年齢が47歳という方が一番若くございます。何人かおられます。一番上は80歳です。ですからロータリーっていうのはおもしろい団体ですね、47歳の会長さんもおられれば、80歳の会長さんもおられるという、これがロータリークラブのよさでもあるわけなんです。

47歳が若過ぎるというわけではございません、結構若い会長さんもおられますし、また80歳も決して年がい過ぎていることはございません。94歳でやったという会長さんもおられますのでご心配には及びません。

平均年齢に直しますと大体63.4歳、皆さん自分が若いかな年上か、ちょっとまあお考えいただいたら結構かと思うんですが。

在籍年数が長いのが26年、どうしても大きなク

ラブはやっぱり会長に就任するまでにはかなり時間がかかるようですね。順番っていうのですか、そういうふうになっていきますと時間がかかるのでしょうか。新しいクラブであれば、古いクラブから転籍されなかったら在席年数1年で会長やってる方がおられるわけですから、決して心配は要りませんし、先輩もおられるわけで十分務められると思うので、頑張っていたきたいと思います。

平均ロータリー年数が14年、こういうふうな数字になっております。

この会長研修の目的は、会長としての技能、知識及び意欲を持てるよう養成します。技能っていうのは指導力、あるいはその動機づけとかを、きちっと伝えなさいということだと思っております。そんなに難しいことはございません、やはりその人の持っている個性が大事かと思っております。

2番目の項に移りますが、会長はロータリークラブの顔であるというふうに私は書いたのです。私もきょうお話しすることは別に、規約やテーマを何もなしに私がいろんな経験の中で考えたことを書いていたのですが。

やはり何々ロータリークラブの会長はだれですかっというふうなこともよく地域では起こりますし、だれだれが会長でありますと言えば、へえという場合もあれば、やっぱりという場合もいろいろあると思えます、どういうふうに皆さん評価なさるかわかりませんが、やはり会長さんの名前、ふだんの顔がそのクラブの、ブランドというんですか、そういうふうにあらわれてくること多いんじゃないかと思えます。

1年間は、やはりクラブを代表して地域の団体とのおつき合いがあるかと思えますし、いろんな会合で各団体が呼ばれたときに、やっぱりロータリークラブの会長、ライオンズクラブの会長、理事長というような形で呼ばれると思えます。できるだけ、ご出席いただきたい。代理の者に行かそうじゃなくて、会長が行っていただきたいと思っております。

地域のいろんな団体と交流することによって、地域のニーズあるいは地域の動静がわかってくるんじゃないかと思えます。大阪市内のクラブとは感覚が



違うんですが、衛星都市のクラブとでは地域との密着性っていうのは相当違ってきます。衛星都市ではロータリークラブっていうのは、かなりウエートが重きに置かれているところがあると思います。

衛星都市の場合は食・住が密着してる場合が多いです。大阪市内のクラブの場合は企業は大阪市内にあるのですが、住民としては他市にあたりあるいは他府県にあたりする場合があります。地方の場合は、やっぱり行政からすべての団体との密着性が高い団体にロータリークラブなっているところもあるかと思えます。

ロータリークラブの行っていることを、よく広報してほしいというのが、若林年度からそういう運動が強く進められてまいりまして、新聞社5社ほどの主幹で、ガバナーあるいは広報委員長とが1年に1回か2回お会いいたしまして、この年度にロータリー、地区としてやってること、いろんなクラブが、こういうことをやってるというようなことを、お互いに情報交換したり、我々に取材のお願いをしたりしたんですが、メディアの方でも、ロータリーが何をしてるかっていうことを案外知らなかったり、こんなにいいことをなさってたんですか、一番情報通である彼らがそういうふうなご意見でございました。

若林年度、宮田年度とそういう会談を進め、その後は地区を離れてましたので、よく存じ上げておりませんが、必ず役所には広報室があったり共同記者室っていうのがございますので、いろんな行事はできるだけそこに持ち込むということです。

会えなくてもプリントを渡してくるだけでも結構でございますから、共同通信社等も入ってますから、どこかで掲載されたりPRをしていただけます。

そういう結びつきは絶えずやっていただき、会長さん自身が行うのが最もいいんでしょうが、広報委員会があると思いますので、広報委員会を通じて、絶えずそういう報道関係とはお近づきになっていただきたいと思えます。

他クラブとのつき合いとか、地区、よその地区との関連とかいうことも書いておいたんですが、ロータリークラブ同士はもう義理人情のかけ合いと、

自分とこのクラブが何か主催するときに、他のクラブからたくさん登録してもらおうと思ったら、よそのクラブがやるときに、絶えず我々もそれに対して積極的に参画していかなければ、5人登録やったら、うちも5人登録でな冷たい話になってしまいます。

お互いに義理がけ日和じゃないんですが、やっぱりたくさん来ていただくと思うならば、ふだんからそういうことも絶えず注意をしていただきたい。

これは会長さんがこれだけの人間を動員せえということをお願いだと思います。それがクラブ同士の親密も増しますし、クラブの活性化にもなるかと思えます。

地区とかRIとの関係もそうですが、クラブの管理とか運営とかいう面に関して、きちっととられておいた方がいいんじゃないかと思えます。

会長さんはクラブにおけるロータリー情報の最新のニュースを絶えずキャッチしておくようにガバナー補佐さん、あるいはガバナーあるいは地区委員等々、いろんな面でご連絡なさったらいいんじゃないかと思えます。

ロータリー博士みたいな人がおりますが、そうじゃなくてもいいんですが、やはり何か聞かれたときとか、立ち往生することなく、手続要覧とかロータリアン必携なんかとかは絶えずよく手元に置いておかれて、あんなもんみな覚えたって、覚えられるもんじゃないんで、手元に置いておかれるということは僕は大事かと思えます。

大阪南クラブさんおられますね、100周年のときに大阪南クラブさんのホームページに、手続要覧、ロータリアン必携をアップされていますので、そこから引っ張り出したら最新の分が入っていると思います。規定委員会に変更されたものも、すぐ変更して載せているとおっしゃっていました。

会員の拡大、これは一番大事なことなんですが、会員の拡大に触れますが、これは会長さんの持っている熱意というのが僕は大事だと思います。

会長さんが拡大するのだということで絶えずそういうことを申し上げておりますと、会員にもそれが浸透してまいります。そういう意味において会長さ



んの拡大にける熱意が大事だと思うのです。

その次に会長推薦の是非、いいこと悪いこと、こう書いておったのですが。中に会長さんが熱心な余り自分がたくさん推薦してくることがあるんです。会長推薦で理事会に出されたら、だれがベケ言えますか、難しいと思うんです。クラブによって会長は推薦しないというところもあるようです。ある人が会長さんになったときに、その人の関連のというか、下請というのか、10何人入れたという話。そしたら変な形になっちゃったんですって、当然わかりますよね。それと一緒に余り熱心で、おれのときに20人ふやすんやとかいうて頑張られた人もおられるのですが、数では結構ですが、クラブが現形をとどめない形になったというようなことがあります。

そういうことも気をつけていただいたらいいかと思えます。そのクラブが持っている歴史とか、古いなにかがあるかと思うので、古いパスト会長さんにいろいろお聞きになった方がいいかと思っております。

会長の時間、これは毎例会にあるわけですから、1分で終わる会長も、3分で終わる会長も5分で終わる会長もおりますでしょう、皆さん方、どういう会長の時間にしようかとお考えですか。

頭にロータリー情報っていうのを入れないといけないんですが、最もいい機会でございますので。会員の皆さんに会長の思い、あるいは考え方を伝えるのが会長の時間です。毎回新しいことを考えることも大変難しいことなんです、これは柔軟に考え

ていただけたらいいかと思えます。

私もいろんなクラブ回っていますが、川柳の得意な会長さんがおられ、時流に合った川柳を発表されてその解説なさって大変おもしろかったし、あるお寺のお坊さんが会長さんのときは、法話というんですか長々しいんじゃない短い法話で、これは結構いい話してましたね、私も2回ぐらいしか聞いていませんが、なかなかためになる話もしていました。ある会長さんは、しゃべったら会員にどう思いますかということをあてて、毎回会長の時間が一番緊張すると言っていた例会もありました。いろんなやり方がありますが、メンバーを一番つかむ時間でございますので、ぜひともこの会長の時間、頑張つてやっていただきたいと思えます。

45～6回あるかと思うのですが、シリーズでやっていかれるという会長さんもございますし、1年間の会長卓話を冊子にして出した会長さんは数知れずあるかと思えます。いい記念ですから記録して置いておいて、もし、気に入ったらですね、あと冊子にして出されたらよろしいです。本にするとなると緊張するかもわかりませんが、いい記念になるかと思えます。

どの会長さんも終わってから、もう1回させてもらったら名誉会長やったんやけどと。この会場に2回目の会長さんおられますか。ここではないですが、そういう会長さんも、さっきの朝の話やないけど野沢温泉、会長と幹事が交代でやったようなことあり





ましたが、2回目、多分名誉会長さんになると思います。2回やったら、見事な会長をやるんですけどなという会長さんがおられました、残念ながらこの地区は2回やるのは少ないようでございます。1回しかございませんので一つ頑張って、悔いの残さないような会長卓話をやっていただけたらと思います。

一番会長さんの個性が出る時間です。だからそのクラブの1年間の例会の雰囲気が僕は変わると思っています。これは大変大事だと思いますし、我々もメークアップに行っても、会長さんの卓話の時間から、そのクラブの雰囲気がわかります。そういうことは大事に考えていただいた方がいいと思います。

かたい話ばかりをしなくてもいいかと思っております。

ロータリー行事への参加要請ですが、きょうは100%いろんな所も部門も含めて100%でしょうが、地区大会あるいはいろんなのがありますが、会長さんは皆を誘って率先して出ていただきたいと思っております。あるいはいろんなプロジェクトもそうございますが、会長さんそのものがしっかり皆さんを鼓舞し、引き連れて出るというようなことがなかったら、なかなか皆さんが動かないように思います。

CLPとかDLPの話が出てきます、変わらなきゃならないというような話ですが、ロータリーが変わらなきゃならないっていうのは、昔から言われていることでありまして、世界は変わる、だからロータリークラブも変わらなきゃならないっていうのは、ポール・ハリスが言った言葉ですからね、絶えず時代とともにロータリーの活動っていうのは変わっていかなきゃならない。組織のあり方も僕は変わらなきゃならないと思っており、決してCLPがきょうに起こった問題ではないかと思っております。

これを変えることに、決して逡巡する必要はないと思います。思い切って、この1年間自分が会長のときに、こうしたいんだと、それがよかったか悪かったかは後から結果が出てきます、やったらよろしい。こんなことをしやがってという文句はそれはいかん、会長に選んだおまえらが悪いのだと、開き直るような気持ちで、思い切ってやっていただけたらいいか

と思います。

●井上地区研修委員

東大阪市東ロータリークラブ井上と申します。具体的なクラブの中での運営の仕方、流れというのが変わってまいりまして、ご参考になるクラブがありましたらと思ひまして、それが第1点です。

第2点としては、PETSのときに皆様の方に、クラブの会長さんのアンケートをいただき、これをもとに私たちは今後の研修委員会の参考にしながら、この1年間考えていきたいと思ひます。

今この席に私は研修委員として座っておりますが、皆様と一緒に今までの研修のあり方というものにつきまして十分検討し、1年間をかけた今後のあるべき会長の研修プログラムに対する開発とか、整備とか、それを実施することで、この1年間やろうと非常に画期的に今期、岩田ガバナーで、先般ガバナー月信でご紹介ありまして、発表されました。その線に沿いまして今後私たちが皆さんと一緒に考えたいと思ひますので、どしどしお気づきの点につきましては、いろいろご意見なりをお寄せいただき私たちが一緒に勉強してまいりたいと思ひます。

3月24日会長エレクトの研修セミナー終わりましたの印象なんですが、このクラブ役員キット、皆様と同じものを私もいただきましたが、正直言ひまして私が会長をいたしました5、6年前から比べますと非常に詳細で専門的で、しかもボリュームが大変にあります。どういうふうにしてクラブで受けとめるかというようなことが、大変大事な問題になってまいります。

こういう資料を、あり余る情報が会長となられた場合は入ってまいります。これはどういうふうにしてシャッフルするかというのは、会長の仕事としては昔では考えられないような問題が出ております。

例えばこのクラブ会長要覧は、前年度も私いただき検討しましたが、20ページふえております。当然のことながら皆さん、もう既に見られた方はCLPにつきまして、詳細に内容は初めて今期の皆さんのところが最初です。ですから厚さが20ページふえました。この役員キットの他にももちろんRIから



のCLPに関する公式文書としては、各クラブにそれは送られております。

今年は3年に一度の規定審議会の改正がこの4月の22日から、シカゴで28日まで井上パスト・ガバナーが出発の準備をされておりますが、CLP、CLPと申し上げている中で、この改訂作業が皆様のクラブの方に就任早々入ります。

7月の初めに各クラブに準備いたしておりますが、幹事それから各クラブの規定情報委員長を集めまして説明会があるわけなんです、それをしっかりクラブに持ち帰り、皆様で早急に、それを検討するという体制をやっていたかないと、会社なら営業方針を誤りますと業績が悪い、利益が落ちるといことがあります、このロータリーの世界だけではどこからもチェックされないという状況であります。

ことは改訂の年になります、手続要覧これはすべてに精通するのは無理です、ですから、少なくとも字引のように、クラブと地区の欄だけは、お題目はどういうものがあるか、そのときに必要なときだけ見ていただくという形で、処理していただければいいと思います。

これだけの膨大な資料を会長がすべて掌握する、CLPもあり、クラブ定款の細則の改正、さらにはこの役員キットに精通するという事は、なかなか難しい。お互いに皆さんが抱えておられる問題っていうのは、隣の近隣クラブでも同じ問題を抱えておられるわけで、ここのところは、ぜひガバナーさんを經由し、あるいは親しいクラブとの情報交換をどんどんすると。今、抱えておられる課題は、ほかのクラブあるいはロータリーが抱えている今の課題であります。

この前のお願いしましたアンケート、全クラブ4問すべて整理させていただきました。

これを今後参考にさせていただきたいと思っております。

想像するに、やはり会員減少、退会防止策、これはどのクラブも今抱えている非常に深刻な問題であります。先ほど財政の面でも、4,000名体制を死守するというようなことで予算を作成されておりますが、単に会員が減ったという問題は、我々の社

会的な地位といえますか、存在価値というものか問われておるんじゃないか。

それからロータリーの魅力はどうかというようなところは、CLPを經由していろいろと皆さんが検討され、CLPがあろうがなかろうが、今のロータリーを、各クラブ、RIも我々もすべてもう一度見直すというのが今の一番大事な時期じゃなかろうかと思っております。委員会構成を10の委員会を5つにしたからとか、そんな数で決して今クラブの活性化はできません。

過去よりガバナーがおっしゃっていますように、高齢化、硬直化、高コストと、これを3Kとおっしゃいますが、この研修を含めました会員教育の問題、各クラブでだんだんとロータリーの語り部がおられなくなった。

仲よしクラブと、親睦と親睦活動の混同ですね。飲み会、ゴルフ会、同好会、これいいのですが、本来のロータリーの親睦とは何かというものを、会長を初めとしてしっかり語っていただく。

大阪クラブは親睦委員会じゃなしに友好委員会とこういふふうにおっしゃっておられるのは、十分に配慮があるわけです。

そういったところの見直しをぜひしていただきたい。会員減少、退会防止、これは皆さんのアンケートから見ますと連鎖反応なんですね。

会員減少、退会防止はやはり残された会員の高齢化ですね、高齢化になる中でどうなるかといいますと、在席されながら長期欠席者、理由はよくわからないが欠席やと、出席率は落ちてくる。出席免除、パスト会長になられたからもう出席免除、足して85年になれば出席免除というのは機械的な計算による例会に参加されない。

RIの方の動きにつきましても我々日本ではいろいろ批判があります。メイクアップの緩和ですね。

Eクラブでインターネットで30分間交信すればメイクアップにするとか、ああいう規定が前回この2004年で認められまして、今回はそれが世界じゅういろんなクラブから、やめようということで試行錯誤いろいろと世界じゅうのクラブが考えておるわけです。

例会に出席されない限られた人数で、新会員が



入られても全然それは例会の魅力としてつながってこない。こういうところがやはり活性化の一番大事なことじゃないでしょうか。

まずは入られた新会員に対して、古い一番長老の会員がよう入って来られましたなあと名刺を持って行くような雰囲気クラブでなければ入るまでいろいろな増強増強と言われますが、今4,000名、かつては5,400というような時代もあったわけですが、私たちが本当に奉仕団体の唯一の誇るべきものは何か、職業奉仕であるとか、ロータリーの精神、理念というものをみんなと一緒に勉強するということが、今必要であると思います。

先ほど新谷ガバナー・エレクトもおっしゃいましたように、このCLPは、先ほど2650地区でやられましたが、2年前にあれだけの準備と地区を上げてのCLPの取り組み方につきまして感心したわけがあります。

その会合に、菅生パスト・ガバナーが決定されたCLP導入の、いわゆる責任のお一人でもある菅生さんが、向こうで講義をやられて、2650地区の会員が感銘を受けたというお話でしたが、その地区が今、日本全国の中で一番最先端といえますか、考え方であります。この地区はこの地区、皆さんのクラブが主体で、あくまで地区が強制するものじゃない、クラブが主体、多様性、それから4大奉仕、これは基本という大基本のもとに進められております。

各クラブの皆様につきましては、いろんな地区でも行われているものをよく情報を入れて、CLP検討委員会を各クラブ立ち上げておられますが、何のために立ち上げるかという、他のクラブに入ってくるいろんな情報をまず整理することが必要なんです。

RIから来る、地区から来る、他の地区から来るインターネットから、各検索すればどんどんCLPに対する情報はあります、さてそれじゃあクラブの会員にどういう情報を伝えればいいのかというところは整理しませんと。とにかくこれにしるCLPにしる、いわゆる情報過多という時代になります。会長としては、

この時期いろいろとお考えいただく大変一つの大きな曲がり角、ロータリーの成功、発展、安定のためには、過去100年は過去100年になりました。

しかし一寸の分には一寸の影ありと、必ずこの課題を抱えておるわけでありまして、このアンケートから見られますように、委員会構成がこんなんであるとか、それから財政が逼迫している、女性会員の入会の問題、奉仕、奉仕事業に関する費用をどういうふうに負担するか、それから会員へのロータリー情報が不足しておるとか、年代間の価値観の相違、新会員の提携やというようなことが、如実にご意見をいただきました。

ただ、さあこれをどういうに要約し、今後の我々に役立てるかはこの研修委員会がこれから皆様と一緒に勉強させていただきたいと思います。

最後に、新谷ガバナー・エレクトのお言葉と重複するようですが、一番私が感銘を受けましたのはビチャイ・ラタクルさんの100周年のお話であります。クラブを充実させる方法は基本に立ち返ること、基本に立ち返ること。ロータリーの変えることのない原則を守る、原則とは4大奉仕だと。原則に立ち返るとは、ロータリーの心臓の鼓動であるクラブ奉仕に、一心に耳を傾けることだと。

今回のCLPIは、委員会構成は最終的な結果はそういう形になるかもしれませんが、皆さんの各クラブのロータリーの心臓の鼓動に、一心に耳を傾けていただくというのは、私は今回のCLPの真髄じゃないかと思うわけであります。

したがって、会員数が多いとか少ないとかいうのじゃないに、とりあえず一度自分たちのクラブの、ロータリーの心臓の鼓動が、きちんと打ってるかどうか、健全に打ってるかどうか、この鼓動そのものにロータリーの存在、ロータリーの健全さがかかっておると、これは非常に説得のある言葉であると思っております。

最後に、いつも締めくくりはこの言葉にさせていただいております。

ロータリークラブの会員でありましたイギリスの首相ウィンストン・チャーチルは、「過去を正しく分



析しなければ未来は語れない。」この言葉を最後に発表させていただきまして、私のお話とさせていただきます。

●横山ガバナー・ノミニー

午前中に隣の地区の刀根さんのCLPに関するお話をお聞きになったと思いますが、初めて聞かれた方は、恐らく半分ぐらいしか、おわかりにならなかったんじゃないかと思います。

これは今年の12月の地区大会で、会長幹事懇談会というのがございまして、その全体会議の中で、このCLPに関する議題として取り上げ、パネルディスカッションをいたしました。私はその中のパネリストの一人として発言させていただいたのですが、そのときのことを、繰り返しになりますが皆様にご説明申し上げたいと思います。

本日お集まりの会長さんは、専門職の方もいらっしゃいますが、大半の方は企業の組織、企業と組織のトップリーダーの方でいらっしゃいます。

皆様は日ごろから、自分の企業業績がこれからどうしたら安定するか、右肩上がりで発展していくか、そういうことは絶えずお考えになっていらっしゃると思います。また組織をどういう形で今後継承させていこうかと、お考えになっていらっしゃると思います。

日ごろから考えていらっしゃるのと同じような発想で、CLPというものが考案され、いろいろと実験もして考案されて結果がよかったということで世界的に推奨していこうと、いうふうに聞いております。

このCLPというものを、皆様の企業の考え方に置きかえて、1回いろいろと考えていただきましたら、CLPっていうのはこういうものかということが、わかりやすくなるんじゃないかなと思っております。

皆様のクラブにおかれましては、この14、5年間の間に、どれぐらい会員さんが減少されておりますでしょうか。全国的には大体3割です、当地区もピーク時は5,500名の会員さんがいらっしゃいましたけれども、現在は4,000名、ぎりぎりの線まで落ち込んでいるわけでございます。4,000名をいつ切るかなというような話も出ているぐらいですから、その3割、5,500名から4,000名っていうことは1,500名減っ

ているということですね。

CLPという考え方は、どういうことが一番のベースかと申しますと、やはり現在の自分たちのクラブの問題点は何か。3割減ったクラブさんは、これだけになったのかというような現状の問題点をまず分析するというのが第一です。ですから地区で指導してくれとか、専門家はどうしたらいいんですかというのではなく、クラブにおかれまして、会員さんと一緒に何が問題かという現状分析から始まるということになります。

今までのクラブの運営というのは、クラブ定款は全世界共通のRIの規則です。それとは別に、クラブ細則というものは皆様のクラブで全部お持ちなのですが、現状では推奨クラブ細則、これをほぼ踏襲されて同じパターンでクラブ細則でやりになっている。例えばこの地区ですと、大阪クラブが最初のクラブさんですから、それから子クラブ、孫クラブと、今現在86クラブあるわけです、皆様のクラブができた時点で恐らく親クラブのクラブ細則を採用され、あるいは、RIも推奨細則というものを発行しておりますから、それにのっとってやっていらっしゃる。ですからほぼ同じようなパターンで、クラブ運営というのがなされている。そこにやはり問題があったということです。

社会も非常に対応化しておりますから、各クラブで自分たちが最もいいと判断される組織運営、クラブ細則をつくっていただき、クラブ運営もこの時代にマッチしたような形で多様化していこうと、これがCLPの基本的な考え方でございます。

去年当たりから、このCLP検討委員会、準備委員会というものを設けて検討を始めてくださいと地区の方でも奨励しているわけでございます。

きょうはその進みぐあいどれぐらいなってるかなということで、ご質問したいと森代表幹事をお願いしておきましたら、早速、質問したいということをしてこの資料をつけていただきました。

これからその点につきまして、皆様にお聞きし、カウントしてみたいと思います。よろしくお願ひします。質問用紙は皆様のお手元でございますが、既に、



CLPを導入していると、そういうクラブさん、ちょっと挙手をお願いしたいです。3クラブありましたね。

それでは2番目に、CLP検討委員会、準備委員会、そういった組織をクラブ内に設けているというクラブさん。21クラブ。今、手を挙げられましたクラブさんの中で、このCLPを実際に次年度から実行しよう、実施しようというクラブさん何クラブいらっしゃいますでしょうか。9クラブ。

次の質問は、CLPを既に検討中であるが実際の導入は次々年度以降、すなわち新谷年度以降になるというクラブさんはどれくらいいらっしゃるのでしょうか。23クラブですか。

次の質問は若干変わってまいります。現在までにCLPの導入に関しまして、クラブ内で組織的な検討を全然行ったことがないというクラブさんは、何クラブいらっしゃいますでしょうか。多いですね、41クラブ。

では今手を挙げられましたクラブさんの中で、次年度には一回この検討委員会、準備委員会を設けてCLPの検討作業に入りたいと、ご計画のクラブさんは何クラブございますでしょうか。34クラブさんですね。

最後になりますが、CLPの検討をする予定は全然ないクラブさんは何クラブいらっしゃいますでしょうか。7クラブさんですね。あっ、9クラブさんですね。

ご協力ありがとうございました。今後の研修委員の皆さんも含めまして参考になるのではないかと思います。

このCLPを組織的にご検討なさっているクラブさん、次年度以降そういった作業を開始されるクラブさん、そのまま検討を続けて行かれたらよろしいのではないかと思います。

本年度の岩田ガバナーに続きまして、次年度の新谷ガバナーもCLPの推進ということを当地区の重点活動項目の一つとして掲げていらっしゃいます。昨年の12月の地区大会におきまして、各クラブさんにCLPを推奨していきましようということが決議され採択されております。

したがって、CLPの推進ということは次々年

度も3年連続で、同じ方針で継続していくということを予定しております。それはなぜかと申しますと、このCLPを検討するということは、現在のクラブの組織や運営上の問題点を、会員自身で見出して、将来クラブが進むべき道を自分たち自身で、決められるという絶好の機会が訪れたということでございます。今までのワンパターンのクラブ運営ではなくて、自分たちでクラブ組織も運営も決めていけるという機会が訪れたということでございます。

CLPについて、検討する予定がないと今、おっしゃいました9クラブさんにおかれましては、もう一回よく考えていただいて、検討した方がいいんじゃないかな、何か問題があるかなと。そういう観点から前向きにCLPについては検討をお願いしたいと思います。

その際に必要な資料、情報、支援につきましては、ご担当のガバナー補佐が皆様のクラブを応援、支援していくことになっております。

ガバナー補佐がクラブを訪問された際には、いろいろとご相談いただきたいと存じます。

このCLPをサポートしておりますのは、DLP、地区リーダーシップさんでございます。DLPもこのCLPと同じような発想法で地区組織の活性化、地区の発展を目指して、全世界の530地区に対し義務づけたシステムでして、当地区では2002年度にDLPを導入済みでございます。

DLPがCLPと違う点は、DLPは全世界共通のシステムでございますが、CLPは世界の3万2,000ほどのクラブ、これは千差万別であるわけですから、それぞれのクラブの状況に応じてCLPの採否を含めて、その組織編成、運営方法は、クラブの事情に応じて決めてよいということになっているわけであり、強制されているわけではございません。

自分のクラブの将来のことを考え、何が一番いいか、どうしたら魅力あるクラブになるか、活性化するかという観点から考えていただくことが必要ではないかと思います。

●交野(猪奥年紀)

交野ロータリークラブの猪奥と申します。午前中



の刀根講師の講演は大変感銘を受けました。今までいろんな刷り物を読んでいるんですが、読めば読むほどわらなくなるという状態だったんですが、きょう初めてわかった気がしました。

最後の質問集とか、Q&Aがあり、2650地区以外の他地区の情報も盛られてまして、当クラブの中で出たいろんな議論が尽くされていたように思います。

横山ノミニーも最後にいわれましたが、基本はクラブが考えることだと思うんですが、やはり先進事例っていうのを詳しく教えていただくというのは大変ためになり、私もメモは取ったんですが、講師も少し時間を気にされ、早口でお話になったところもあるので、大変失礼かとは思いますが、講演録をもしお配りいただけますと各クラブ大変助かるんじゃないかと思えます。全部欲しいのですが、Q&Aの部分と他地区の情報の部分はちょっと私も全然メモが取れなかったの、お願いできれば大変ありがたいと思えます。

横山ノミニーの質問事項で、何もやってませんというところに手を挙げたんですが、実は16常任委員会があるんです、それを無理やり合併して5つにするつもりです。

地区から推薦されているCLPと似た部分と似てない部分があるんですが、きょうのお話を聞いて、できるだけCLPに合うように修正できるものはしたいと考えております。

●横山ガバナー・ノミニー

刀根さんの資料につきましては、ぜひ欲しいという方が結構おられるようですので、地区の方で相談しまして、特に井上研修委員さんはいろいろと資料もお集めいただいておりますし、各クラブの会長さんにお役に立つような形でぜひ。

●井上地区研修委員

参考資料につきましては、ガバナー補佐を経由しまして、地区委員会を積極的にご利用いただくということをお願いいたします。

あるクラブは実行されましたが、後でいろいろこちらの方から疑問点を指摘しますと、もう少し手直して他のクラブの情報も入れてなかったなという

こともございました。ぜひガバナー補佐、地区委員会、それからクラブと一緒に話し合いをさせていただきながら進めていただければ、我々も勉強になるということでございます。

●横山ガバナー・ノミニー

今いわれましたように、16委員会を既に5委員会にしようと、それがCLPそのものだと思います。そういうふうには捕らえていただき、今後クラブにとって必要な委員会でどういう形で運営したらいいかということをご検討されたいんじゃないかと思えます。

●箕面中央(浦川光雄)

箕面中央ロータリーの浦川でございます。CLPいろいろ聞いていますが、やるやろってな話ばかりで、伺ってみたら、もううちはやるつもりがないところ、ところが9クラブもあるということ、今伺いました。

そういう方の意見をしっかりと我々も聞かせてもらわないと、それやれ、それやれと、これだけの人数集めてですね、1回、2回の説明会で、会長の責任でやれと言わんばかりにいわれるが、行き届かないと思うんです。

これはガバナー補佐に相談しなさいとか、いろいろあるのだけれども、これを実際にやるとしたら大変な作業量と思うんです、クラブでは。3～4年も続くと思うんですが、いずれにしてもCLPのコンセプトの説明を聞いただけで、それをどないしてるとか、そういう議論も何もないし、これから出てくるのでしょうか。むしろ、もうやらない、やる必要がないというようなクラブのご意見も、我々としては聞かせてほしい。そこに何か意味があると私は思います。

●横山ガバナー・ノミニー

CLPの採否につきましては、これはもうクラブの裁量で決めるということになっておりますから、CLPを実行しないということも選択肢の一つであるということです。

CLPなんぞはやらんぞというクラブさんいらっしゃいましたらご意見をお伺いしたいと思います。

●吹田(紙谷正行)

私ところはもう来年、再来年で50周年迎えるク



ラブで、チャーターメンバーも1人おられます、現在50周年に向けての準備委員会もできました。若干やめられた方がおられたのですが、増強委員会の方が頑張られまして、推薦状なり推薦する方をいろいろ出し、3～4名この年度におきまして増強できました。

私の考えなんです、皆さんの協力があって現在70名近く会員がおられますので、こういうものがあるというのはお話ししておりますが、まだせっぱ詰まってないので手を挙げさせていただいたわけです。

●横山ガバナー・ノミニー

ちょっと申し忘れたのですが、私の話の中でいろいろと会員が減少して、クラブ活動が衰退しているという話の前提でお聞きになったと思いますが、当地区86クラブの中には会員が逆にふえて非常にクラブ活動も活性化しているというクラブさんも幾つかございます。平均的に3割減ってるが、実際はふえてこのままでいいじゃないかというご意見もありました。

きょうの刀根さんの説明の中で、4大奉仕をそのまま残しているという隣の地区のクラブさんが幾つかございました。本当にいろいろと多様化してくるのではないかなと。

CLPが導入されますと、勢いのあるクラブ、後退化していくクラブ、こういう差がだんだん出てくるんじゃないかな。これから入る人はどこのクラブを選択するか。やはりそれは活発で、クラブに入ったら愉快で、魅力あり、そういうクラブは人数がふえていきますでしょうし、沈滞化してどうにもならんというようなクラブさんは、減っていくかと思えます。

一元的なクラブ運営では、クラブが消滅していく可能性も出てくるということで、当地区におきましても本年度で、消滅というクラブももう既に出ているわけでございます。30名以下のクラブさんは年々ふえております。そういうクラブさんは、どうしたら会員を引きとめて、魅力あるクラブにできるかということ、問題点として取り上げて考えていただく必要があるんじゃないかなと。

●井上地区研修委員

吹田さんのお話、確かに50周年ということでありますと、行事の関係でいろいろ大変だと思います。クラブ活性化についてのチェックリストを作成いたしました。これをクラブの中でCLPといろいろ難しくいわれてますが、このチェックリストに基づいて検証していただくとわかりやすい。自分たちのクラブで欠けてるものがないかというチェックリストを、わかりやすくつくりました。

これは、クラブ奉仕拡大委員会がつくったというよりも皆様のアンケート、各クラブの状況の課題をいろいろと踏まえた上でつくったリストです。ですから8項目の中で見たら、この点についてうちは足りない部分があるなということ、行事でお忙しいと思いますが並行して、そういうお時間をおつくりいただくことがCLPの導入の過程になるんじゃないかと今回資料を1枚つけさせていただいております。

●横山ガバナー・ノミニー

きょうのアンケートの結果を見ましても、ほぼ90%のクラブさんが何らかの形で今後このCLPを自分のクラブの問題として検討されていくという結果が出たようでございますから、これから1年間、いろんな面でご検討いただき、前向きにクラブの発展についてお考えいただきたいと存じます。

●新谷ガバナー・エレクト

いろんなご意見聞かせていただきまして、私は先ほどの研修委員の方から、会長エレクトさんの年齢をお聞きいたしまして、ふっと思い出しました。青春とは心の若さであると言われた松下幸之助さんが大阪クラブにいらっやって、私と親クラブである池田クラブの会員とで、大阪クラブさんへメーカーアップに行きましたときに、ここへ座れと言われて、はあツと直立不動で物が言えなかった。

そうすると幸之助さんが、「くん」と呼べ、松下君と呼べと言われたほんとの話でございます。

ですから大阪クラブは素晴らしいのだと。少し長くなりますけど、ガバナー補佐さんを選んでくださいということで、大阪クラブさんの担当だったのです。これだけ歴史もあってすばらしい、しかも一番スター



トでございますので、DNAのもととはそこだと言われるわけでございます。

ところがガバナー補佐さんが出せないところなのです。どういことかといいますと、よくわかりました奥田さんのお話を伺って。奥田さんは大丸の会長さんでしかもCEOを務められている偉い方なのですが、決まりは決まりなんだし、もう少し前向きに考えてもらいたいということで、大変失礼と思いつながら大分きつくお話をしたんですけれども、よくよくお話を伺いますと、こういう古い歴史のあるクラブは会長になる順番がなかなか回ってこない、回ってきたら相当の年代になるのだ、そうするとガバナー補佐になるともう1人のエレクトをつけてくれたらできるんですが、そうでないとできない、なかなかそういう激務に耐えられないということでございます。

そのときにお話ししまして、奥田さん、そうですね、我々でも気づかないことたくさんありますねと、やはり年齢順じゃなしに、たまには若い人も入れとかんといけませんねえと、そういうお話で最後は別れたんです。

やはり古いクラブだから万全だということじゃなしに、やはり、そのクラブクラブで全体を動かして皆なでやろうというロータリークラブという形は難しいのだらうと思います。

老人というのは何なんだという定義づけなのですが、20歳でも80歳でも働かないのが老人であって、20歳でも80歳でも働く人は若者であると言われてます。

我々のガバナー補佐さんは、ご出席の会長エレクトさんのクラブに相談役を置いたんだというつもりで、ぜひ温かく、また相談役っていったらやはり社長なり会長なりして、その次は相談役とこう順番になっておると思いますが、そういうおつもりで温かく迎えていただき、また私の分身としていろんなことをお教え願いましたらと思います。

また、ロータリー財団の佐藤さんや、世界社会奉仕の植村さんのような方もいらっしゃいますし、そうした立派な方をお願いして、もっともっと財団を利用してクラブを活性化しようという方法もございます。

ですから、ロータリーというのほどこにどのような立派な人材がおられるかわからない、また、素晴らしい人材が埋もれているのだということをお感じいただきたいと思います。すばらしい縁をもって終わらせていただきたいと思ひますし、大きな重たい荷物になったか、軽い荷物になったかわかりませんが、長時間どうもありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



幹事・S.A.A部門 10階 1003号室



<リーダー>
 地区代表幹事 山本 博史 (大阪南)
 <サブリーダー>
 ガバナー補佐 金森 市造 (くずは)
 <サブリーダー>
 ガバナー補佐 橋本 憲之 (大阪南)
 <サブリーダー>
 次年度地区会計 森 純也 (池田)

●山本地区代表幹事

個別のロータリアンはそれぞれ所属しておられるロータリーの会員であり、RIの会員は各クラブです。RIの世界本部と書いてありますが、これはイリノイ州のエバンストンにあるということです。

RIの理事会というのは、RIの管理主体でありまして国際ロータリーの定款及び細則の規定に従いましてRIの業務、資金について指示と管理を行うという役割をしております。

理事会は、各年度4回程度開かれ、決定事項の詳細はロータリーの友に掲載されます。ロータリーの友をご覧いただきましたらRIの理事会でどのような決定がなされたのかがわかります。

理事会のメンバーは19名で、理事の選挙は世界中の会員数ができるだけ等しくなるように34のゾーンに分けられております。4年おきに各ゾーンから任期2年の理事が1名指名されます。日本の地区は第1～4ゾーンに属しており、一部の都市を除き、毎年2名の日本のRIの理事が誕生しているということです。

当2660地区で言いますと、2002年から2004年に大阪北ロータリークラブの菅生浩三さんがRIの理事をされました。

組織規定というのは、RIの定款と細則と標準ロータリークラブ定款、この3つをRIの組織規定と呼んでおります。

文章は、RIによるロータリークラブの管理となっており、我々からしますと、この管理とか監督という言葉を知ると何かあんまりいい感じは持てないので

ありますが、英語を訳したということでご理解をいただきたいと思います。RIによるロータリークラブの管理の基本原則は、加盟ロータリークラブの大幅な自治である。ですから原則は加盟されているロータリークラブの自治によるものだと、これはもう明らかになっております。

この基本原則の上にRIは全世界のロータリークラブの運営と活動の均一性を保持するためにさまざまな方策をとっています。RIと各クラブというのは、決して上下の関係ではないということなのです。

ただし、RIの組織運営及びクラブの管理上、必要な事項を先ほど申し上げましたRI定款、RI細則で定めています。この遵守を各クラブに課しておりますので、このRIの定款とRIの細則は守らなければならないということです。

標準ロータリークラブ定款を採択することも義務づけておりますので、これも義務であります。

クラブ細則というのは、手続要覧にも記載されておりますが、これはあくまで推奨されているにすぎません。そういった意味ではRI定款、RI細則、クラブ定款に矛盾しない限りクラブ自身の事情に応じて変更できるものであるということでありまして。たまに別にRIなんかどうでもいいじゃないかという非常に極端なご意見も聞くことあるのですが、ロータリークラブという名前がつく限りは、RIの先ほど申し上げた定款と細則に矛盾できないということと、標準ロータリークラブ定款を定めなければならない。

あとは、義務としては人頭分担金、これを支払わなければならない、これも義務です。

もう一つそれぞれのロータリアンはロータリーの情報誌を一冊購入しなければならない。恐らくほとんどロータリーの友を取っておられると思うのですが、これも義務化されております。ですから、各クラブとRIの関係といいますと義務というのはそれだけでございまして、あとはそれぞれのクラブが自



主的にご判断されて運営されるべきものであります。

先ほど新谷ガバナーエレクトからもご説明ありましたように、運動方針を定めるというのは、全世界のロータリークラブに呼びかけておられるわけですね。やはり個々にばらばらにするよりも、やはり一つの何か大きな方向をみんなが目指した方が、効果があるということで、呼びかけておられるわけですから、この呼びかけの内容を理解し賛同し、ご協力をいただくことであります。

もちろん地区も同じでありまして、ガバナーが地区の方針ということを出されますが、これはあくまで呼びかけておられるということでもありますので、これにご賛同いただくかどうかですからそういったこともあって、2月にはペッツ、会長予定者の勉強会がございますし、あと地区の委員長さんをお集まりいただいて地区チーム研修セミナーもやっております。

本日のこの地区協議会で大きな方向性を打ち出されて、特に12階の会長部門において1年間の予算、方針、事業等を承認していただいて7月1日からスタートするシステムであります。

ガバナーが呼びかけられるさまざまな事柄、例えばお金が絡むことでありましたら、例えば財団の寄付など、あくまでこれは目標で、呼びかけてお願いをし、それぞれのクラブがどのようにお考えになるのか、もちろんロータリー精神にのっってご判断をいただいて、快く協力してやろうというのがベストでありまして。これは義務なのかどうなのかという話になりますと、義務ではございません。

あとは、規定審議会などがあります。この規定審議会だけちょっとご説明いたしますと、RIの立法機関でありまして。3年に一度シカゴで開催されます。本年がその3年に一度に当たりまして、今年は井上パストガバナーが当地区を代表してこの規定審議会にご出席いただきます。

先ほど申し上げました地区の話であります。世界には529地区、日本には34地区あります。

そしてそれぞれが4桁の番号が付されておりまして、RIは毎年開催される国際大会で、各地区ごとに1名の地区ガバナーを選びます。

地区というのは、各クラブの活動をお手伝いすることが唯一の目的であります。地区は決してクラブの上部機関ではありません。奉仕活動のみずから行うような組織でもないわけであります。

地区委員会というのがあります。1948年にガバナーみずから委員長となって、各1名の委員で四大奉仕の委員会をつくったのが最初であります。あくまでガバナーの諮問機関的なもので運営機関ではなかったのです。1980年ごろからRIの方針が変わり、地区組織が飛躍的に拡大をいたしました。

地区の肥大化ということが言われましたので、2002年、当地区でも2002年から地区のスリム化を行おうということで、徐々にスリムな形になっております。

ただ、まだまだ10何委員会ございますし、今後、各クラブでご検討いただいているCLPが進展していきますと、当然地区の組織も今までのようなペース以上なスリム化というものが恐らくなされるのではないかと考えております。

幹事さんをお願いをしたいと思っておりますのは、やはり幹事さんの手腕一つで、それぞれのクラブの活動というものが全く変わってまいります。恐らく幹事さんの役割というのは、クラブにかかわるすべてであるという言い方もできると思うのです。

例えば、地区の方で合同委員長会議というようなものも行いますし、例えば財団セミナー等も行います。結構豊富な情報をそういった委員会なりセミナーでお出しをしております。

ところが残念なことにクラブの方からは、お金だけ集めて全然活動内容がわからんとおっしゃるのですが、実は情報はお渡ししてるんですよ。

例えば財団セミナーに出られた委員長さんが、そのまま資料を会社の机の中へ入れっ放しだとか、クラブでお話にならない。その結果、情報が伝わらないということでもあります。それは担当の委員長の問題であると言ってしまうばそれまでですが、ぜひとも幹事さんがその情報をクラブにフィードバックさせ、生かすような働きかけをしていただきたいです。

クラブさんによりましては、ご出席がほとんどない



クラブもありますし、これも大変残念なことで、せっかくのクラブの運動を向上させる機会を逃してると思っていますので、もちろん数多い合同委員会の中では、土曜日忙しい中、半日使って行ったけど大した内容じゃなかったというのもあるかも知れません。

それはそれでご批判を頂戴して、よりよい内容にしていくという努力を地区も続けていくべきであろうと思えますし、出席されなければそういった改善もできないということでもありますので、ぜひとも幹事さんは、ご担当の方がそういったセミナー、委員会等にご出席いただけるようにこころ配りをさせていただきたいと思えます。

12月に池田くれはさんが地区大会をホストクラブとして開催されますが、地区大会等の出席でもやはりなるべく多くの方に出発していただき、ロータリー活動がますます盛り上がるような地区大会にするためには、幹事さんがどのような働きかけをクラブでしていただけるかということにかかってくると思えます。

地区からは、お願いばかりが多過ぎることになるのかもわかりませんが、これも徐々にあまり無理なお願いはしないでおこうという方向に動いておりますし、ご協力をいただき、ご意見をいただいて改善すべき点は改善していきたいと思っております。

資料をご覧いただいたらわかりますように、21ページから後、各委員会からクラブへのお願いというのがまとめてあります。これはちょっと手前みそになるのですが、岩田年度からこれを始めました。

各委員会からばらばらにお願いが各クラブに来るんですね。一体どれだけやらな、いかんねんという話になりますので、まず最初にこれだけお願いをしたいということをまとめさせていただきました。そして、委員長の皆様にもここに書いてある以外のお願いは原則としないでくれるなど。もし書いてないことが起こってもあくまでガバナーの了承を得てから、委員会が勝手にといえますかお願いをしてもらっては困るということで、それは守っていただいとっております。

お願い事項も冒頭にまとめ、皆様のご協力を

得ようという情報開示の努力もしております。

私はもう2カ月で終わりなんですけど次年度になりかわりましてお願いをいたしまして私の部分を終わらせていただきます。

●橋本ガバナー補佐

幹事になられたら職務としては、ロータリーは何か、ロータリーの特色は何なのかという事柄を各自の言葉でほかの人たちに伝えることができるようにひとつ考えていただきたいと思えます。

そのためには、改めてロータリー綱領をお読みいただきたい。ロータリー綱領を英語で申しますとオブジェクト・オブ・ロータリーとなっていますからロータリーの目的は何かということが書いてございます。綱領は、目的が何かと書いてございますから、それをひとつお読みいただきたいと思えます。そこには有益な事業は奉仕の理想の基盤として実施しているものである。そのような考え方を事業を通じて育成し、あるいは主張して、さらにそれを実践の中であらわしていくことがロータリアンの務めである。したがって、職業奉仕というのは、何か自分の職業で社会に奉仕をするという具体的なボランティアの働きが職業奉仕ではなくて、日常の職業を通して奉仕していくということがロータリーの一番特色になっています。

ロータリアン個々は、これをもとに同じような考え方で個人生活においても地域の生活においても、原文で申しますと、ビジネスライフはもちろんのことパーソナルライフにもコミュニティライフにおいても、実践をしようという理想を持っておるのがロータリアンだと書いています。

職業については、私の職業宣言という宣言書がございますから、それをお読みいただきましたら、より具体的に職場における一つの職業のあり方について述べられております。そういうことを特色とするロータリーですから、この働きの基本は変わらない事柄でございます、しかし、ロータリーの創立以来、今日まで100年を経過いたしました結果、いろんな点において具体的に変化があるべきであると思えます。ポール・ハリスが時代とともにロータリーは



変わるべきであると言っておりますから、原理原則はそのままですが、あくまでも変わるべきものは変わるといふ柔軟さを持って措置していくということが今日のロータリーにとって必要な事柄であると思えます。

職業奉仕が一番大事な問題だと考えます。金看板というようなこと先ほど出ておりましたが、最も根底的なもの金看板で職業奉仕をつくる、その職業は英語でポケーションと言います。ポケーションという言葉を使っております。決してオキペーションとは言っておりませんで、これは英語の方がはっきり意味あるわけで、ポケーションというのは使命という言葉で、あるいはある一つの使命を持って働んだというような形のものが我々のロータリーにあるということでございます。

私の好んでおります一つの格言と申しましょうか、これは洪沢栄一という実業家ですけど、遺訓として残された言葉がございまして、我々大阪人には大変馴染み深い言葉でございますけれども「片手にそろばん、片手に論語」という言葉があります。片手に論語、片手にそろばん、この両手をもって仕事をすると、論語は言うまでもなく人の道を示している言葉でございますし、その人の道に従って、また片方ではそろばん、損得を計算して仕事をすると、この2つを十分わきまえて仕事をしていくのではないかと考えております。

2番に、正しく理解すべき事柄がございまして。これはロータリークラブと国際ロータリーとの関係、情報の伝達というものは、幹事にとって非常に必

要な事柄でございます。

ロータリーはご存じのようにシカゴに生まれ、やがてこれがアメリカ中に移ってまいりました。そこでできましたのがアソシエーションのロータリーオブアメリカという組織で、このアメリカは北米大陸を意味しておりますが北米大陸の連合体、ロータリー連合体というのがロータリーの一番最初の国際組織でございます。それは1910年に生まれました。最初のロータリーができて5年してできたのですが、続いて1922年になって現在のロータリーインターナショナルという国際ロータリーという言葉が生まれてまいりまして、今日に至っておるわけでございます。

したがって、あくまでも先ほども申しましたように、ロータリーの組織というのはアソシエーション、連合体という組織でございます。もちろん国際ロータリーは、クラブを代表することは当然でございますが、むしろそれぞれのクラブがRIによって奨励され助けられ、またクラブの拡大に機能するように働きを持っているのがロータリーインターナショナルでございます。

私は1960年代にロータリーインターナショナルを訪ねましたときには、エバンストンに小さな個人のお家がありました。木造の一階建ての家であります。これが今から20年ほど前に急に大きくなってまいりまして、今やエバンストンに18階建てのビルを持っております。ビルが世界の本部になりました。

したがって、それができてから世界本部というワールドヘッドクォーターという名前をつけておりますが、私はおかしいということを直接申しました。最近





あんまりヘッドクォーターという字を見ませんが、ヘッドクォーターは本部ですから本部には支部がありません。そうすると我々のロータリーは支部になっちゃう。ぼくはそうじゃないと、これは間違うとる、事務的な形でいろいろ処置をするために本部であるが、決して機能的に組織的に本部ではないということを書いて、このことは、今や正しく受け止められているようで幸いなことでございます。

世界の国際ロータリーというのは、世界的な広がりをもって、かつロータリーとして今日の社会的な一つの存在であるためにRIが定めた一定の規定を守り、そのことによって各クラブが承認を受け、そして情報を各会員に知らしめることが私ども幹事にとっても非常に大切なことでございます。

一つのクラブだといいますけど、同時に世界的なものでもあるわけです。そういう面を持ってありますがゆえに世界的なロータリーの動きということに対しても、幹事の方がよくご注意をいただきたいと思えます。

今年は、シカゴで4月22日からだと思えますが、規定審議会が開かれます。規定審議会が開かれましたら、そこで変更する条項が出てまいりましたら各クラブでもディスカッションして、そのイエス、ノーを決めていただくことが必要になってまいります。今まではクラブ理事会が相談して決めたのですが、我々が加盟している、我々で組織している世界中のロータリーの規則でございますから、我々がイエス、ノーを言うべき場がそこにもあるわけです。クラブで十分にディスカッションして、イエス、ノーを言うていただくことも必要になってまいります。

クラブを代表する立場に幹事があるということもよくご承知おきいただきたいと思えます。クラブの運営の業務は、会長とともに幹事であることを認識していただきたい。その内容とあり方については、クラブの最高決議機関である理事会の決定に従ってやっていくのだと。そこで全体的にかかわる事柄は幹事が取り扱い、特に奉仕のプロジェクトに対する事柄は、各委員会にて会員全体が関与するものと考えていくようにしたいと思えます。

リーダーシップのあり方を戸田パストガバナーは、会長エレクト研修会で我々のロータリーのリーダーシップというのは新幹線型リーダーシップだ。

それはどういうことかと申しますと、新幹線は車両に全部モーターがついとると、そして全員がモーターを動かして一つになって走っていくのだ。巨大な機関車があってみんなを引き連れていくのではないと、みんながリーダーシップを持ってそれで動いていくのが新幹線だということを書いておられました。

いい例だと思います。と同時に幹事さんは、会長とともにクラブを代表する立場でございますから、幹事さんの言動はまさに新幹線の先頭車のようなものでございまして、特にクラブに対しては、幹事さんのあり方が、そのクラブの印象にもなっていくことがございますので、よろしくお考えをいただきたいと思えます。

幹事さんの大切な役割は、効果的に各クラブが動いてくれるようにすることだ。そしてその中心は、会員の基盤を強化して援助することにある。そして地域のニーズを取り上げたプロジェクトを実施し、これを成功に導くように助けていくことにあると思えます。

自分のクラブのどういうところが長所か短所かということをよくわきまえていただき、クラブの活動の方向を見出し必要な援助をしていくようなことをお考えをいただきたいと思えます。

特に、会員の事柄につきましては欠席される会員、しばしば欠席される会員には、幹事さんがやっぱり個人的なちょっとはがき一本でも出すということが非常に会員の活性化につながっていきますから、ぜひそういう人の問題に対する注意を払っていただきたいと思えます。

つぎに、クラブ全般にかかわること、特に理事会を重視して理事会の運営をしっかり頑張ってやっていただきたいと思うのです。理事会はやっぱり理事が皆集まって相談し決める事柄がございますが、最高決議機関でございますから、そこでは重要なことがしばしば決議されるはずでございます。



きょうもお話がありましたようなCLPの協議など開いております部門は、必ず理事会に逐次報告をし、理事会と共同の作業がやはりお互いピンポンの玉を返していくようなそういう作業が必要だと私は考えております。

どうかそういう面で理事会の司会役としても会長を助け、まとめて、クラブの運営にご努力をいただけたら大変幸いです。

また、ガバナー補佐が皆さんのクラブにお訪ねをすることになっていると思いますが、特に今、第1回のガバナー補佐とそれぞれのクラブで協議会が開かれるはずでございます。これはガバナーの内規と申しますか、手続要覧によりますと、まず会長と懇談しなさいとRIIは言っております。

しかし私は、会長一人ではなしにやはり幹事さんと会長とできれば副会長、主要な理事会の三役が集まって、補佐と懇談されることがより有効だと思います。これは会長というものに対する考え方が、欧米のものと我々と若干重なっておりますから日本の慣習に従って、三役の人たちが一緒に集まって相談をするということの方がよからうと思っております。

そういう点も含めて、いつでも何かあれば補佐と相談すると、これには補佐は4回まわってくることを決められているようでして、回数だけで勝負をせず、内容の濃い助け合いをして、必要な助けを得る、こういう問題があるからどうかという事柄をどんどん遠慮なくお話をさせていただいて、よいパートナーを持って進めていただきたいと思います。

最後にCLPの作業について申します。12月の地区大会でCLPを推奨する、導入を推奨するという決議が行われましたので、各クラブでは必要な場を設けて検討作業に入っているものと思われま

すが、内容については既にご承知のとおりでございますが、先ほども申しましたようにポール・ハリスは「変わるべきものはどんどん変えていくべきだ」と言われております。100年をたった今日の状況を見て、我々のクラブに問題があります。

たとえばあるクラブは15年たって、どんどん衰弱し、衰死手前というような状況もございますし、あるク

ラブは衰死しかかっておりましたが、10数名しかおらないところを踏ん張りを入れまして、今度は倍になったということもございます。

そういうクラブの今ある現状を見まして、クラブを活性化させるためにはどうするか、委員会は今のままでいいのかというところがCLPの問題点でございますから、その点をご関係の方々は十分ご承知いただき、幹事の方たちはそういう面での牽引役になって、それをまとめていく推進力としてお働きをいただきたいと感ずる次第でございます。

CLPは、今年度7月から始まりまして6カ月、12月の末あたりを目標にいたしまして、どう改革を考えるべきかという点をまとめていただくことがふさわしいのではなからうかと地区でも話し合いをいたしております。

その結果それがよしとするならば、それぞれのクラブにおいて、あとの6カ月にわたってクラブの中の委員会をどうするかという考えに移っていく、そして次の年度に新しい一つのシステムができて上がるという考えで、行程的にはそのようなことを念頭に入れて推進していただきたいと思います。

幹事のリーダーシップというものは非常に重要でございます。ガバナー補佐が支援をいたしますが、会員皆様方の支援を得てロータリークラブが本当に生き生きした、楽しくしかも社会の人たち見ているクラブだという評価を得るようなお働きになりますように心から願っている次第でございます。

●金森ガバナー補佐

与えられました課題はSAAということでございます。私も初めてクラブに入会させていただきました、いろんな馴染まない言葉がございますけれども、SAAというのは何ぞやと初めずっと思っておりました。そのことについて今から皆さんとともにお話をしてお勉強させていただきたいと思います。

SAAと申しますのは、レジュメに出させていただきました内容でございますように会場監督とさせていただきます。それは、SAAということをお略されてこのようになっておりますので、ご理解を賜って日本語では会場監督ということをお願いいたします。ただ、



通称はSAAになっております。

したがって、このレジュメのところに書いてございますように、SAAというのは例会の中での秩序を保つ一番の指揮官あるいは監督、会場監督でございますので、責任は重いです。

先ほどの新谷ガバナーエレクトのところにも話がありましたように、次年度の「分かち合う心」ということで、皆さんとともに和やかに友好に保つことがある程度主眼ということになってまいりますと、例会をどのように、そのように和ませていくかということはSAAの両肩のかかっていると思っております。

例会場における最高の権限を持つ執行機関の役員であるということでございますから、だれよりも例会の事情におきましては、一番指揮官として胸を張ってお仕事を努めていただきたいと思っております。

例会がよくなるかは、また楽しくならないのかというさじ加減は、一に会場監督であるSAAにかかっていると申しても過言ではございません。

したがって、その辺のところをよく理解されましたら、SAAはすごいなという気持ちになろうと思っております。

具体的な職務については、もう常に例会に出席されておりますのでよくご存じと思っておりますけれども、341ページのところの具体的な職務の内容ということに書いてあるような内容でご理解を賜っていただきたいと思っております。

プログラム委員会との関係ということでございますけれども、年間計画が立てられますので、よく自分の年間計画の中で、例会がスムーズにいくようにプログラム委員会との関係を密にされまして、直近の例会だけではなく月に3週、4週

ぐらいの方までも理解をされて準備をされた方がいいと思っております。というのは、卓話者の問題が直近になって出られないということもあるかと思っておりますので、先ほどガバナーのノミネーというのが言われましたけれども、直近になって卓話者がおられないというのが大変困ります。

私自身も先般、自分の体の都合で直近になって、その日になって卓話をエスケープさせてもらって申しわけなかったことがあったのですが、そのときにどのように対応するかということもSAAの仕事だと思っております。だからその辺のところもよくご理解されましてプログラム委員会等持っていただきたいと思っております。

同じく親睦委員会との関係も重要視を必要とされます。ただ単なる司会進行だけではなくに和む例会にするために、また来てよかった例会にするために、今度も来ようと思う例会にするためには、やはり手腕にかかってまいりますので、親睦委員会との関係もよく密にして取り組んでいただきたい。特にクラブの行事ですね、移動例会とか等々のときにはやはり遺漏のないように十分に密にさせていただいて、親睦活動の中間を担っていただきたい、そしてしっかりとクラブの例会が運営できるようにやっていただきたいと思っております。

レジュメの中の例会のことについてでございますが、352ページと353ページには、ロータリーのクラブの定款の中での標準の内容が書いてございます。353ページのところには、例会の原則的な運営について書いてございますので、よくお目通しを願いたいと思っております。特に例会変更等々の問題については、会長、幹事、理事会等々を密にさせていただいて取り組んでいただかなければならないと思っております。

353ページのところに、例会は原則として本クラブ会員以外の者の参加は認められないと書いてありますけれども、他クラブの会員はメイクアップという理由によって参加されるということです。原則をよく理解されまして、しっかりとした厳粛な中でも和やかな雰囲気づくりをしていただきたいと思っております。





SAAの毎週の仕事の例会の運営についての説明でございますが、354ページのところに書いてございます開会の点鐘から356ページの閉会の点鐘まですべて1時間はSAAの力にかかっております。ある程度なれてまいりますと、その流れに従って流れていくような雰囲気もあろうかと思いますが、毎回の例会がやはりSAAの手腕にかかっておりますのでよく理解をされまして、やはり楽しく和やかな雰囲気の中での厳粛な例会運営をしていただきたい。

特に、来訪ロータリアンの紹介でございますが、遺漏のないようにある程度個々の決まりがございますので、この決まりをよく理解されましてメイクアップに来られた方、またゲストに来られた方、その辺のところの紹介の順序をお間違えなきようにしていただきたいと思っております。

あと、会長の時間とか委員会の幹事報告はスムーズに進むだろうと思っておりますけれども、問題は卓話者に対してのお世話でございます。また、お客様に対してのテーブルの問題も理解をしていただきたいと思っております。

お客様がおいでになっても席がうろうろされるようではなしに、親睦委員の皆さんとともにSAAは気を使って、そのゲストに対してきめ細かい裁量をしていただきたいと思っております。

卓話者に対しては、必ず事前に外部卓話者に対しても内部卓話者に対してもレジュメの問題がございます。そしてまた週報についての問題があらうかと思っております。週報に記載する内容等々も事前に次はだれだれが卓話者とわかっておりましたら、早いうちにその卓話者に対して卓話の内容の要旨を入手していただきましたら、週報をしていただく人については非常にありがたいことでございますので、そのような気配りもSAAはしていただけたら幸いかと思っております。

そして私語です。最近は和やかなところにも親睦も非常に大事ですが、やはり例会はお互いの人生の道場と先ほども言われましたが、スピーチをする人たちにとっては、私語が十分耳に入りますので、私語を慎むような配慮もひとつお願いをしていた

だきたいと思っております。

次は、席順についてですけれども、ややもすれば友達同士、仲良くなった者同士が席を同じくしたいという気持ちはよくわかりますが、年配の方、若い方、そしてまた異業種の方の限られた時間での和やかな一時でございますので、どうかその辺のところの気配りをしていただきたいと思っております。

特によく言われますことは、そこに新入会員に対しての席順でございます。どうか新入会員が退会されることも寂しいということもよく言われますけれども、そんなことにならないようにスポンサーの会員の皆様方、また和やかにできる人たちの隣に座れるような席順の配慮していただきたいと思っております。

そして、隣におられる橋本様からお聞きしたことです。例えばの例として、12干支の干支がございませぬ、その干支の人たちを集めて席を、きょうは干支で集まってる人間やから干支同士で話をしなさいとかいうようなこと、そして、居住者が家の近くにおられる方は、その辺のところの居住者の近くでの集まりを例会のテーブルをつくるとかいうこと、そしてまた、職業でもよく似た職業の人たちを席につけるとかいう考え方、一つ目的を持って4回やる例会を和やかにしていただきましたら幸いと思っております。

先ほど橋本様からもお話ありましたように、欠席者の扱いについても気配りをしていただきまして年間によく休まれる方については、それなりに対応をしてSAAとして幹事に報告するなりしていただいて、欠席者の扱いはお願いします。

一番都合が悪いのは中途退席される方です。30分おったら例会はそれでパスやと思っておられる皆さん方もおられると思いますが、やはりそれは少し困ります。したがって、次に申し上げますそういう人たちにとっては、エスケープするわけですからニコニコ箱に入れていただくような配慮を初めにしていただいたら皆さん方もご理解をされると思います。したがって、遅刻、早退についてもご配慮いただいて、卓話者に対して遺漏のない失礼のないような対応をできるように、SAAとして初めのときに



お話をしていただきましたら伝わってゆくと思います。

続きまして、最近ニコニコ箱については、どうも目的が逸脱しているようなクラブ運営をされているところがございます。あくまでもここにこするもの、何か自分について後ろめたい気持ちがあったときに、ごめんなさいと言ってやるようなもの、一番の初めは罰金ということになっておったようでございます。

しかしながら、最近はニコニコ箱の集金を義務化しているようなクラブも見られるところでございます。決して義務化されるものではございません。心から自分の目的に向かって、うれしかったこと悲しかったこと、あるいは後ろめたいこと、そのときにということでございますのでよくご理解をされまして、ニコニコ箱の由来をもう一度再確認していただきたいと思ひます。

そして義務化されているクラブにおいては、本会計にニコニコ箱の金額を計上されて事業計画を取り組まれているようなところも散見するようになってまいりました。それもまたちょっと趣が違いますので、あくまでも用途はみずからの奉仕活動について使うという本旨に基づいてやっていただきたいと思ひます。

そのことにつきましては、一番初め、レジュメの初めの340ページの真ん中辺にニコニコ箱の会計は、会員が受益者とならない云々と書いてございますので、お目通しをしていただきたいと思ひます。

いずれにいたしましても、SAAは例会を和やかにする大きなキーポイントでございます。そしてまたクラブ運営、来週も来たいというような雰囲気にする手腕がSAAにかかっております。どうか和やかな例会が運営されますように今一度SAAの役目をご理解していただきまして、次年度楽しいクラブ運営



にしていきたいと思ひます。これによってクラブは活性すると思ひます。

●山本地区代表幹事

金森ガバナー補佐からのお話もございました。今年1年、少し幾つかのクラブでお聞きしたのですが、SAAの位置づけが、ごく一部でしょうが現場監督ではなくて、何かもうほんとの司会者だけというような位置づけになってるクラブがあるようにも聞いております。

やはり現場監督であるということは、金森ガバナー補佐のおっしゃった和やかな例会のみならず、そのクラブとしての品格ある例会にするために、やはり絶大な権限を持っておられるのがSAAでありますので、ただもしそういう認識でないクラブがありましたら、SAAご本人が、私は権限があるのだとは言にくいと思ひますので、ぜひとも幹事さんが、SAAというのは権限があるんだよという方に持って行っていただけたらなと思ひます。

●森次年度地区会計

それでは、会計の方から予算の編成についてお話しさせていただきます。

①予算の編成につきましては、会員が年々減少傾向をたどり緊縮予算の継続を余儀なくされております。

予算の編成にあたっては、前年並み4,000人の会員数が維持できるものとして編成しております。

②この環境下で地区会計の健全化・地区活動の効率化、活性化を図るものでなければなりません。編成にあたっては2006～07年岩田年度の方針を踏襲したものとなっております。

すなわち、28～29ページに予算が載っていますが、各委員会がお使いになる〈地区活動資金〉、これは委員会、委員長にお願いして事業計画を出していただき、それを基にミーティングをして予算編成をしました。そこで、昨年より予算を削減いただいた委員会さんにつきましては、委員長と次年度ガバナーエレクトとご協議いただき、これでやってください…というふうにご納得いただいております。その報告をもとに予算を組んでおるとのことでございます。予備費については、各委員会ですと



総花的で大きくなるので、地区会計のほうで一元化して計上しています。

・〈特別会計〉についても、一部統合された昨年のものを継承しております。

この結果、各クラブでご負担いただく今年度の一人当たり分担金は、昨年同様22,000円。その内訳は地区運営資金9,500円、地区活動資金7,500円、地区大会資金が5,000円でございます。

地区大会につきましては各クラブ一人当たり5,000円の予算を頂戴しておりますが、登録料は全員登録の4,000円をお願いいたします。

なお地区大会は12月7日、8日ここ大阪国際会議場とお隣のリーガロイヤルホテルを会場にして開催されます。皆さま奮ってご参加をお願いします。特に初日の晩餐会には各クラブの会長・幹事さんはぜひともご出席いただきますようお願いいたします。

・こうして組まれた予算は赤字を前提にした予算であります。各クラブの負担を極力回避するために、その対価として繰越金の取り崩しを行うことが過年度に決まっております。

・また予算が超過した場合の予備費からの支出については、ガバナー・地区代表幹事・地区財務委員会に事前相談をお願いします。フットワーク軽く運用を図ってまいります。

なお予算は、先ほど山本リーダーの話の中にもありましたように、別室での会長部門でご決議いただいて本執行となりますのでご承知おきいただきたいと思ひます。

最後に実務的な話しになりますが、資金は該当期に口座のほうに振り込んでいただくこととなります。18～19ページに記載しておりますので、ご一読よろしくをお願いします。

●山本地区代表幹事

どうもありがとうございました。今年度から、岩田年度から若干変わった点についてお話をさせていただきたいのですが、先ほど赤字予算というお話がございました。単年度赤字の予算を岩田年度から組んでおります。

これは、地区の方でいわゆる繰り越されてきた、持っ

ているお金が6,000万弱になっておりまして、幾らあれば適正なのかということで、とりあえず2,000万あれば適正だろうというふうに考えまして、ただ、ある年でどっと使い切るとまたこれ大変なことになりますので、皆様のご了解を得て6,000万弱が2,000万になる。ですから約4,000万ですね、これを5年から8年かけて1人頭の頂戴するお金を上げることなく、均等に2,000万の基金が残るようにやっていきましょう、運営していきましょうと、その間に地区の会員人数も変化もあるかもわかりませんし、また運営もスリム化していく努力をしながら、その5年から8年の間に考えてまいりましょうと、このようなコンセンサスで赤字予算を組んでいるということだけのご説明させていただきたいと思ひます。

地区とクラブの関係を、例えば誤解のないようにということなんです。例えばIMありますね。IMを開催していただくときに、IMはあくまで地区が主催でありまして、そしてホストクラブに運営をお願いしているという行事であります。

場所によりましたら、ガバナーが行かれたときに、来賓という形で扱っていただくことがあるのですが、主催者がガバナーでございますので、主催者が来賓というのはやっぱりおかしいです。

そういう意味ではガバナーはガバナーとして扱っていただくことが筋が通っていると思ひますし、過度にお気を使いたいということもありませんし、公式訪問に行った際にですね、ガバナーがほんとの5分ぐらいしかお話の時間がいただけなかったということもあるようではありますが、やはりこれは公式訪問に行っておりますので、最低30分ぐらいはお話をさせていただかないとガバナーも行ったかいがないということでもあります。

過度のことも結構ですし、必要なものはお気遣いいただきたいと思ひますし、また社会常識上、当たり前前の敬意はぜひともガバナーもガバナー補佐に対しても払っていただけたらなと思ひます。

微妙な言い回しでご理解いただきたいと思ひます。

●山本地区代表幹事

点鐘いうのは単なる合図かなと不勉強で思っ



おりましたら、点鐘から点鐘というのは、その間に皆さん出席しなさいよということなのですね。点鐘が終わったらもう帰っていいよということらしくて、いろんな会議で不勉強で適当なところで点鐘を入れておりましたら、点鐘を入れるということは帰ってええねんと言われまして。あとは会長がご欠席の場合、点鐘を鳴らすこと、ちょっと一言お願いします。



●橋本ガバナー補佐

会長が欠席の場合、元会長、直前会長です。直前会長がその席を全うされる責任があるわけです。副会長では、規則でいうといかんそうでございますので、元会長、しかも直前会長から順番に直前会長がまた欠席であればその前の会長という形で、その任務に当たっていただくという形になります、そういうしきたりといえますか儀礼的なことがございます。

●山本地区代表幹事

点鐘をだれが鳴らすのかとか、点鐘の意味とか考え方によってはどうでもええやんと。点鐘はだれが鳴らすべきで、どういう意味だということ突き詰めていくと、例会も締まった例会に持っていくことも可能と思ひまして、ちょっと話題を提供させていただきました。

●箕面中央(水谷京二氏)

CLPの現状と課題というお話がございましたが、これを実行する場合に、今既にスタートし、旧型のタイプの組み合わせができていいる場合、この

CLPの導入についてクラブ定款との関係とか、その辺の扱いについて何か教えていただくことがありましたらお願いしたい。

●橋本ガバナー補佐

クラブ定款は変えることができないのです。変えることができますのはクラブ細則のみです。クラブ細則の中で決まっている事柄です。

具体的にはやはり委員会活動、現在の委員会活動がCLPの申しておりますようにプログラムはすべて、今までは、1年計画のプログラムをやるといことが奉仕のプログラムやその他運営についても1年で、物事を考えていくというのがロータリーの特徴でございました。

ところが、それは長期になっているものもあるわけです。例えばプログラムでもね、国際的な関係で兄弟関係になるとか、あるいは他のクラブで奉仕をし、これは3年契約だということで、1年契約でやっていますが3年も続けるところもあります。

もう一遍見直して必ずしも1年でやめないといけないということはないことが変わってきたわけです。それで長期計画というわけです。

私は全面的に全部5年計画を、今の委員会が全部つくって来年か再来年、5年間は理事になっても会長になっても、じっとしとったら勝手にずっーと行くねんとそんなもんじゃないです。

やはり計画は1年ごとに立てていくのだ。1年ごとに立てて、目標は何年間計画の長い目標を持つてあるが、計画は1年ごとに立てて5年間ぐらいを一つのプログラムとして長くやるものはやっという。1年で終わるものは終わっても構わない。そういう考え方で長期的な計画を策定しなさいというのです。

もう一つは、全員参加と言っています。奉仕プログラムは、委員会がたくさんあり、小さいクラブでもコミットな委員会がちょっとしかありませんから、だから、うちはこんなことしませんと、そういうことではなしに、やはりプログラムは全員が参加するのだと、大きなクラブはたくさん委員会には属しているが、委員長と副委員長だけが一生懸命やって、ほかの



ものは何もせんでも済んでしまうということではなしに、全員がそれにかかわっていくようなものを持つべきやというのが第2のポイントです。

そういう観点から、現在の自分たちのクラブの運営の仕方、組織それから委員会のあり方を見直してみようというのがCLPなのです。そういう点からお考えいただければ結構だと思います。

RIが常任委員会とか言うてますが、常任委員会とか委員会はどこない違うねんということ問題になります。しかし、何も向こうは常任委員会なんかいうておりません。日本語で常任委員会と決めたわけですけど、向こうあくまでもコミッティと言っています。コミッティを再検討しようということが、RIは言っている事柄ですから、それぞれのクラブで今持っているコミッティを再検討しようと、全員が参加できるように。

そういうような点で委員会をおつくりになって、それを改正するためには、だらだらやるのではなしに今年は、今年の半分ぐらいは、どういう具合にうちは改正しようか、今の委員会でそのままで十分に耐えられるかということを検討し、必要であれば変え、必要でないと判断すれば、変えないという結論を出した方がいいのではないかと。

来年度の前半ぐらいで、そして後半ぐらいになって変えないかということになったら、全員協議会

を開いて相談し、いよいよ会則の細則を決めていくと、クラブの細則の変更手続をすると、そして最後にクラブの総会で会則の変更を決議するというところで、来年度一年はそれぐらいにかかるのではないかと。

新谷年度の再来年の年度にはCLPの問題は一つの形を持ってそれぞれのクラブがどうなるかは別として、一応その問題は作業が終わるという考え方があるということを最初申し上げたのです。

●山本地区代表幹事

それぞれのクラブの、また例会の品格や活性化、空気そのものをつくれるのがこの幹事さんSAAの皆さんだと思います。ぜひともすばらしいクラブ例会になりますようお祈りいたしまして、これにてこの会を閉会といたします。





クラブ奉仕部門 10階 1001号室

<リーダー> 岩田 宙造 (大阪南)
ガバナー

<サブリーダー> 川上 善司 (大阪平野)
次年度クラブ奉仕・拡大増強委員長

<サブリーダー> 瀬戸 孝太郎 (大阪東)
次年度情報・広報委員長



●岩田ガバナー

今年度ガバナーに就任いたしまして約9ヵ月過ぎましたが、地区大会に関しましては皆様方に大変お世話になり、無事済ませることができ、皆様方の心温まるご理解、ご支援に感謝いたしております。

就任当時から問題として①地区委員会に関連すること、②地区リーダーシッププランDLPにつきまして、今日お話していただけたと思いますが、午前中のお話にもありました③CLPに関し、これをRIが推奨しているということ等々、いろいろな問題を引き継いでスタートしました。新谷ガバナーエレクト、横山ガバナーノミーの一方ならぬご支援をいただき、また8人のガバナー補佐、地区幹事団の強力なバックアップのもとに、何とかやってきたつもりです。

最初の①、②ですが地区委員会あるいはDLP、これに関しまして月信の1、2、3月号にお知らせしましたように、ガバナー補佐、地区研修リーダー、地区委員会について、これまで口頭で色々と言われてきたものを文章にして、皆さんと同じ情報を共有し、そして色々これからこの地区もさることながらクラブに有効なクラブの活性化ということに努めていきたいということで考えました、あるいは話し合いをしてきたところでガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミー、3人が常に一緒になってやってまいったところでは、その一部と言いますか、地区委員会に関しましては、皆さん方にもかなりご無理なことをお願いし、またガバナー補佐さんに関しましては、かなりご無理をしていただいているところがございますが、過渡期でございますので多少のご不満

は少しお許しいただいて、地区もクラブもうまくいけるようにということを考えてやってきました。今日は地区、クラブとしても非常な重要なポジションで役割を果たしていただく、クラブ奉仕部門の協議会をこれから開かせていただきます。私自身とにかリーダーの役割をやらせていただいて、今日ご紹介ありましたように、強力なサブリーダーに出席参加してもらっています。きょうは前半、川上サブリーダー、川上サブリーダーは地区研修委員も兼ねてもらっております。大変な役をお願いしておりますが、まず川上リーダーから組織強化、それからクラブの活性化、会員増強、拡大について、現状を踏まえて次年度に向けてのクラブ奉仕部門の活動についてお話をしていただけるものと思っております。

瀬戸さんには、ロータリーの情報・広報について、特に広報はロータリーとしてIR会長の強調事項にもなった大変重要な課題であります。

●川上クラブ奉仕・拡大増強委員長

ロータリーの在り方も時代と共に変わりつつあり、地域社会や国際社会のニーズも変化してきました。奉仕の第二世紀において、グローバル化を視野に入れたロータリーがその責務を果たし、安定、成長を成し遂げるにはどのような改革が必要になるのか「クラブ奉仕委員会」と言うより「クラブ管理委員会」として今後の活動が重要になってくると考えます。

ロータリーの100年余に及ぶ長い歴史を経た今、ともすればマンネリ化、会員の減少、形骸化などになりがちなクラブにRI推奨の、CLPという新しい息を吹き込み、21世紀世界の、ニーズに適合出来るクラブに改革することであり、より高いレベルにクラブを導く、ことが求められていると考えます。2006年岩田ガバナーは当地区としてCLPの推奨を掲げられ、7月にCLP委員会を創設され地区としての対応について議論を重ね、12月8日会長、幹事会で「CLP討論会」をへて9日の地区大会に



於いて第5号議案としてCLPの導入を決議されました。今後各クラブはこの変化に対応していく柔軟な考え方が必要であり、組織強化の総点検としてロータリーの本質、哲学、倫理を考え論議を深めていかななくてはならないと考えます。

昨年実施されたCLP導入について国内全地域でのアンケート調査では約50%近くが実施段階、意思決定段階であり今年度は導入に向かつて、全国的に過渡期の状態にあることが報告されています。現在ロータリークラブが抱えている共通の課題として「組織強化」と「クラブの活性化」「会員増強」であります。こうした現状を踏まえ、各クラブ奉仕委員長の皆様と、クラブ管理や運営について共に考え、自クラブを見直していただきたいと存じます。

「組織強化」

2660地区では会員の減少が続いてきました。86クラブの中で40名以下が42クラブもあり、実に48.8%になります。会員に対して委員会数が多く、クラブの現状にそぐわなくなってきました。各クラブではすでに委員会の統廃合などによって縮小されておられますが、まだ十分ではありません。

効果的なクラブ管理の枠組みを提供することによりクラブ強化を図る目的で、RI推奨、クラブ・リーダーシップ・プラン「CLP」の取り入れを考え、より現実的なクラブ運営を行なえるよう、ガバナー、ガバナー補佐と共に地区クラブ奉仕委員会が連携のもとに、クラブの意向を尊重しながら今後取り組む事になります。

歴史あるクラブも、短いクラブも、会員数の多いクラブも、小人数のクラブも、クラブ組織強化の点検としCLPの導入を検討し、RI推奨のCLP委員会を採用するか、又は従来の委員会をベースにより簡素化するか、現状改革か、自クラブの実情にあつた委員会構成の論議を深めていただきたい。

現状で問題がないと思っているクラブや、活動がマンネリ化になつたり、奉仕活動が低調なクラブ等も含め、この機会にぜひクラブ委員会構成や、活動内容を見直し、効果的なクラブ管理の枠組を検討するための機会としてとらえ、「CLP」導入の

検討を加える必要があると考えます。

各クラブの理想に合致した独創的な委員会構成ができ、積極的な委員会活動になれば、結果的に組織強化と魅力的なロータリーになるのではないかと。

運営面では、毎年RI会長のテーマや地区ガバナーの方針、クラブ会長の目標が年度初めに出されますが、これらの各方針が会員によく理解されるよう広報が来ているか、週報やクラブ行事を通じて委員会活動や奉仕活動等を、会員の方々に参加を積極的に呼びかけているか。

理事会はクラブの要であり当年度の運営について十分見直しをして、前年踏襲にならぬよう委員会構成や各クラブ行事、例会の在り方など会員が参加意識、やりがいの持てるクラブ運営になっているか。

会員減少等によるクラブの財政健全化が課題となっておりますが、昨今はNPOのような奉仕団体が数多く有り、誰もが奉仕の選択巾が広くなりロータリー活動にも課題が残ります。ロータリーはボランティア団体なのになぜ入会金が何十万も要するのか、あるいは年会費が高いのではと、会員増強時に聞かれる事があるそうです。入会金や年会費の見直しなどを考えておられるクラブや、すでに実行しているクラブもあります。今後のクラブの運営にかかわってくる問題であり固定経費をいかに軽減し奉仕活動に生かせるか、絶えず支出内容を見直し単年度予算だけではなく、クラブの将来を考え長期的な財政健全化を図っていくべきです。

3年毎のRI規定審議会が、米国イリノイ州シカゴで2007年4月22日～28日にかけて開催されます。今回の提出期限は昨年の6月30日までに、RI事務総長に受理されることが条件になっております。全世界から数多くの案件が、規定審議会において





議論されると思われます。今年度は当地区から井上パストガバナーが出席されます。ちなみに3年前、2004年度のRI規定審議会では、50の立法案と50の制定案が採択されております。

一昨年各クラブにアンケートをお願いして、「3年毎の改正時にクラブ定款等の整備が行なわれているか」を調査いたしました。3年毎に整備されていないクラブが相当数あるのには驚きました。改正年度に当たる今期、各クラブの規定委員長との委員長会を開催して、理念を共有したいと思います。

クラブ定款・細則はロータリーのバイブルです、クラブ定款は3年毎、細則は必要に応じて随時見直しをしていただき、未整備であれば早急に改正をお願いしたい。

「クラブ活性化」

会員の一人一人とロータリークラブがロータリーの理念、精神的な核心をしつかり自覚することがクラブ活性化の最初のステップになります。

例会はロータリーという組織の要をなすものであり、クラブ活性化は例会出席から始まります。出席は我々にとって親睦を積み重ねるためにも良い機会であり、単なる社交だけに留まらず、ロータリーという共通の目的を目指す、道づれによって友情と信頼が深められます。ところが何故か、最近はこの例会出席の重要さに関する認識が徐々にうすれ「都合がつけば出ればいい」程度にしか理解されていない会員が相当おられるように思われます。そのため出席率が90%どころか、70%60%と言う惨状が多く見受けられます。

魅力ある例会にするには前例重視ではなく、新しい情報やアイデア、手段や方法を親睦、SSA、プログラムの各委員会が、その機能を十分に生かしていけるよう理事会と連携を密にしていける必要がある。

例会の内容の充実も大切です。会長の時間の使い方、卓話の在り方や、幹事、SAAの報告内容の充実、コミュニケーションの工夫など例会が楽しく心暖まる親睦の場になるような、プログラム作りを実施することにより出席率の向上が図られ、クラ

ブの活性化にもつながります。

出席率100%が正しくて必ずそれを目指せとは決して申しではありません、そんな外形的なことではなく出席のもつ重要な意味を正しく理解すべきです。会員にとって例会出席は基本であり、それがなければクラブの活性化が始まらないからです。

ロータリーも新世紀に入り3年になります、今後のロータリーを考える中で何を望み何を考えていくべきか、クラブの将来の在り方などを考える委員会の設置も視野に入れて行くべきではないか。

遠い将来の事ではなくクラブの5年先の展望を考えようと、30周年を機に「サーティー5委員会」や創立50年を何年か先に控えて「21世紀委員会」を設置され、当面の課題や今後の問題に対処しておられます。

クラブとして「奉仕の理想」を鼓舞育成し会員の自己啓発を図ると共に、ロータリーを理解し、これに共感や賛同する人々を増大させる一助と考え「ロータリー大学」を創設し地域の奉仕団体や学校への出前事業など、その活動も4年目になり年間行事として定着しているクラブもあり、又「ロータリー研究会」や「クラブ改革委員会」を実施されているクラブもあります。

CLPの導入を考え「CLP委員会」を創設し、理想と現状認識のギャップを埋めていくプロセスの中で、会員の意識向上と研鑽を重ねながら、今後のロータリークラブの考察が出来ると、すでに委員会を実施されているクラブもあり、今年度より多くのクラブが取り組んで行かれると考えます。

お互いの個性を尊重し合い欠点をかばい合う寛容さで、明るくわだかまりのない会員間の人間関係を構築し、ロータリーの精神とその意義を理解し親睦を深めることが、クラブ活性化を支える不可欠の人的基盤となります。

「会員増強・拡大」

昨今のような情勢もあろうかと存じますが、全世界のロータリアンは168ヶ国、1,208,562人で2000年から2006年の6年間で、29,010名の増加です。(以下2006年度の統計)逆に日本では退会



者が17,190名で、99,449人になりました。当2660地区では5年間で737人の減少です。

今期は岩田ガバナーが、86クラブ純増一名の目標を掲げられその成果が出てきました。会員は2月末現在で74人の純増で、全会員は4,170名です。この予定で行きますと年度末には目標が達成され、減少に歯止めがかかり、増強に向うのではないかと大いに期待しております。

いかなる団体であれ、その活力を維持し、発展させて行く為には構成員の自然減、社会減はまぬがれず常に増強し更に拡大を図ることは当然の勤めです。ロータリーも同じであり会員増強はクラブ組織の強化と、運営や奉仕活動の充実に必要なことは申すまでもなく、ロータリアン一人一人の責務として、会員増強すべきだと考えます。

では具体的にどのような取組みをしていかなければならないか…

- ・ロータリーの目指すところを世の中の人に知ってもらうための広報が必要です。
- ・奉仕活動を地域と世界に広める為、ロータリーとして何をしてきたかを機会あるごとに伝える。
- ・21世紀においてロータリーが何をなそうとしているのかを理解していただくことが重要です。

ロータリーも隠匿を美德のように考える時代ではなく、広報活動が必要な委員会構成になってきました。

日々活動の中での広報活動ですが、それを実行してられるクラブの例として、各市町村では市民祭りや区民祭りか、又はそれに準ずる行事が毎年行われております。そのような催しではその地区の代表的な各種団体の活動を、テーマとしたブースが設置されてあります。その一ヶ所のブースを借りて地域の方々にロータリーを理解していただく為の活動をしておられます。

年度毎の社会奉仕活動や、WCS活動のパネルを展示しての広報や、職業奉仕として、弁護士による法律相談や、医師による健康相談、税理士による税務相談、環境問題ではケフナの苗木や花の種を来られた人達に、ロータリー活動を理解してい

ただパンフレットと共に配布しています。社会奉仕委員会を中心に、四大奉仕の各委員会が新しいテーマを決めて、ロータリーを認知して頂くために、毎年区民祭りに参加し広報活動をしておられます。

会員増強には地域で文化活動のお世話をしている会員や、所属業界での各会員の人脈や友人、家族の知人等を通じ幅広く、勧誘活動を通じて新会員の発掘を図り増強の促進を図っていくようにする。

21世紀のロータリーは女性会員を考えなくては成り立たないと言われております。当地区では女性の未入会クラブは全クラブの中の、40クラブでまだ半数近くあります。全世界の女性ロータリアンは13%強であり、日本ではわずか3%にすぎません。女性会員の入会に異論のあるクラブもあるかと聞いてはおりますが、男女同権の世であります。クラブ・フォーラムや協議会などを通じて会員の意識改革をはかり、女性会員の増強を積極的に行なう。

新会員の増強と既存会員の退会防止や、新クラブの拡大はさけて通れないロータリーの課題です。ただ新会員の過半が5年以内に、退会しているという従来の実情には、反省と対策が必要であり、2007年度に3～5年の新入会員の為の研修会を計画しております。入会して数年で退会する例は「ロータリーの素晴らしさが良く分からず離陸」出来なかった為に『飛ぶ楽しさ』をあきらめてしまう…それこそ本人にとっても、ロータリーにとっても残念このうえないことです。

ロータリークラブの在り方や、奉仕プロジェクトへの積極的な参加は、会員間の対話の充実になり、又、豊かで精神的な内容の交流は、既存会員、新会員の双方が親睦と友情を深められ、楽しい雰囲気はクラブの魅力を増す基礎です。

絶えず会員一人一人が適格な会員の発掘と増強を心掛け、そこから共鳴者を獲得し、共感者の輪の中から新たなロータリアンを育てることが求められます。

次年度の新谷ガバナーエレクトも、各クラブ純増一名の目標の達成を要請されておられます。今年度に続き地区として86名以上の純増を、クラブ会



員の協力の元に、クラブ奉仕・会員増強委員会として、目指していただきたいと存じます。

会員増強こそ、ロータリー活動のエネルギーでもあります。

2007～2008年度 クラブ奉仕委員会事業予定

(1) 2007年規定審議会決定の説明会

RI規定審議会の決議内容等の、定款、クラブ細則に関する情報セミナーの開催

8月4日(土) ヴィアーレ大阪

(2) 拡大・増強委員会 セミナー

クラブ会長、増強委員長と共に会員増強に関するバズセッション形式によるセミナーの開催

9月1日(土) 天満研修センター

●瀬戸情報・公開広報委員長

皆さん こんにちは、情報広報の瀬戸でございます。と、まず申し上げます。

本日は皆様の前でお話ということで少々心が緊張しております。そんな時、お互いに打ち解けるのには挨拶が一番手っ取り早いです。

さて、挨拶について私の好きな文章をすこし引用させていただきます。神戸在住の現在日本を代表する俳人の一人である後藤比奈夫氏の朝日新聞社「俳句の見える風景」の中の一文です。さて挨拶も、「お早う」「今日は」「今晚は」の、ごく簡単なところから始まって、暑い寒いといった季節の挨拶、それからもう少し改まって、年に一度の年始の挨拶を交わします。私たちは新年という時に一度の年始の挨拶を交わします。

私たちは新年という時の切れ目を格別に意識して、この出発点を殊更めでたいものと信じるのです。人間の浅はかな知恵かも知れませんが、そう思い込むことでまたあたらしい気力で一年を迎えようというのです。悲しいこともつらいことも、去年から同じように続いているのに、正月になって、「新年おめでとう」は少々おかしいと思いますが、これも長い間の習慣なのでしょう。ですから私たちは逆に、去年今年貫く棒の如きもの 虚子 といった年の改まり方に、大きな魅力を感じもするわけです。年去り年来るといふ大きな境界を、大晦

日と元旦の間に屹立させてみますと、このように強烈な自然や人間の意志が見えてきます。連続している時間を区切って季節を際立たせるもの、言ってみれば自然に対する人間からの挨拶とも考えられ、またその結果として季節ごとに自然が変化のある姿をみせてくれるのは、自然から人間への挨拶ということにもなります。

今年の「ロータリーの友」1月号 横組5P-13Pにわたりロータリー理解推進月間ロータリーの可能性を広げる広報活動という特集が掲載されました。すでにお読みの方も沢山いらっしゃると思いますが、その中でクラブ・地区・RI全ての立場で、広報活動が重要な課題の一つであるという共通認識は出来上がっているものの日本に於いてはまだまだかけ声だけで、その実践を重視しているリーダーが非常に少ない、陰徳という考えから抜け出していないのではないかという危惧感を発言された方がおり、ロータリー広報活動の難しさを実感いたしました。

先ほどの挨拶と広報の関係につきましては、今のロータリーの広報活動をかんがえまして、又後ほどお話をさせていただきます。

情報ホームページについて。

さて、ロータリー情報については、私は「ロータリーの友」を特に活用していただきたいと思っております。実は三年前にロータリーの友地区委員をさせていただきました。それまでは殆ど自分の興味のあるコーナー以外目を通しておりませんでした。

私は、昔ですが10年以上地方の情報誌を発行しておりました事から、若干雑誌の編集に興味を持っておりました。しかしロータリーの友地区委員は編集に口を出してはいけないと釘をさされまして多少がっかりした思いをいたしました。一般会員より一週間ほど前に新しい号を配布され、その号の感想文が義務づけられましたので、おかげさまでじっくり熟読いたしました。RIの情報は横組み、国内の情報は縦組みと従来は縦組みのページをよく読んでいたような気がいたしましたが、今では横組みのページの方が面白い記事が多く、役に立つ様に思っております。RI関係の記事が50%、各地区に出来



るだけ公平な記事配分など様々な制約があります中で「ロータリーの友」は年々内容が充実してきている様に思います。余談ですが、3年前、大阪でRI国際大会が開催されました時、国際会議特集に大阪に来られたロータリアンの経営する大阪の美味しい食事処を紹介したらどうでしょうかとていあんいたし、2Pだけでしたが中央市場のお寿司屋さん、本町のそば屋さん、オムライスの元祖、たこ焼屋さんと4店掲載したところ、大変各お店ともロータリアンで賑わったようであります。

「ロータリーの友」の注目度は想像以上に高いと思いましたが同時に、今後地区の有意義な事業などは是非積極的に掲載努力をいたしたいと考えております。

ホームページについて、

RI本部では「ザ・ロータリアン」は広報部、ホームページはコミュニケーション部と完全に分離されております。また特色としてはホームページは全くインナー向きで、機能性を重視しているように思います。ロータリーの友事務所に於いては「ロータリーの友」誌とホームページの差別化はしておりません。ただ、ホームページの性格上、表現方法に於いては「ロータリーの友」誌より穏健になっております。たとえば、会員と一般の人の写真では一般の人がはっきり写らないような写真を選ぶ、というような配慮をしているようです。また、会員外のひとが分かりにくいロータリー用語の使用については十分に注意しているようです。

地区のホームページについては、昨年来、木村情報広報委員様の努力で見やすい充実したホームページが出来上がりました。私はアナログ人間なので、ホームページについては余り語る資格がないと思っておりますが、特にクラブのホームページについてはID、パスワード等の設定により会員限定のサイトと外部の人と分けた方がよいかも知れません。例えばクリスマス例会、その他懇親会などの写真が沢山でていますと一般の人はいつもロータリーの会合は宴会ばかりかと誤解をまねくかも知れません。

幸い次年度も木村委員様に情報・広報副委員長として残っていただきますので、何かございましたら木村副委員長様にご連絡下さい。

広報について、

「ロータリーの友」1月号にロータリーのイメージ調査の日本での結果が掲載されておりました。674件の有効回答数の中で聞いたことがない50.1%、聞いたことがある32.9%、わからない16.9%、この数字が想像以上か以下か私にはわかりませんが、私は5割ぐらいの人はロータリークラブの存在を知っていると思っております、ショックな数字であります。今までの日本のロータリーは陰徳という考え方で、きてきたと思っておられる会員の方は、今まで数多くおられると思います。しかしより積極的な対外広報となりますと、今の段階ではロータリークラブ自らが社会に対しても働きかけ巻き込んでいかねばならないと思います。永年つちかった地区情報広報委員会の伝統を継承しつつ、新たな積み重ねをしていかなければならないと思います。

広報の考え方はPRからコミュニケーションへと変わっております。コミュニケーションには双方向という意味も入っております。最初、挨拶ということについて申し上げましたが、コミュニケーションのきっかけを作るのに挨拶はなくてはならないものです。優秀な広報マンの条件として、どれだけの人と挨拶ができるか、ということが必須条件になっています。対外広報のすぐ実績を求めることなく積み重ねの中で、どれだけ地区・クラブのロータリアンが社会・マスコミにコミュニケーションを取ることが出来るか、継続的にアプローチをすることが必要だと思っております。人間が新年を作ったようにロータリーもロータリー





新年に自然との挨拶ができるような事業ができればいいなあと考えております。

●大阪住之江(池田淳八)

先ほどの説明、非常にありがたかったんですが、プリントされたものを事前に配付をいただければ、質疑応答等の有効な時間活用ができたのではと思います。読むだけでは時間がもったいないと思いますので、事前に配付をいただければありがたいと思います。

世界では拡大されているのに日本では減少している、その中でも2660地区はかなりのメンバーの減少になっているという理由、退会者の理由の把握をされているのか。それに対する対策を委員長として何かお考えをお持ちなのか。

ロータリーは今の時代にマッチしていない。ロータリーに入るメリットはないのではないかとということと、高齢化し団塊の世代以上の方々で実際に各事業場の中心になっておられる方が団塊の世代、その下の方々との時代的な差がかなり乖離し、クラブの活動の魅力的なものがなくなって、ロータリークラブに入らないのではないかと考えますが、その辺のお考えもお聞きしたいということと、拡大、拡大と常に言われているのですが、拡大よりもメンバーが激減をしており、一時60名が今28名になっております。活動しろといっても活動できない状態、活動するには適正メンバーが何人いればいいのかということと、今は拡大よりも合併の推進役をガバナールームはじめ地区で。これでは会費がどんどん上がっていくと。まともな活動ができる適正なクラブに合併をする、その旗振り役をやるときではないのか。中身もないのにどんどん拡大し、片やどんどん退会者がふえていってるといことでは、いつまでたっても魅力のあるロータリークラブには生まれ変わらないように思います。

ロータリークラブは政治活動をしてはならないとよく言われますが、先日の東京都知事選を見ていると、東京と大阪の政治家のレベルはかなり落ちておるように思います。例えば、大阪都市再生プロジェクトをロータリークラブで立ち上げ、大阪の

再生をロータリークラブが目指す。それを大阪の府民に訴えていくというようなものは考えられないのかなということです。

広報の瀬戸委員長にお願いしたいのですが、ロータリーの友で毎月分厚いのが配付されるのですが、ロータリークラブのホームページにのせ、必要な場所はプリントアウトする。そうすると紙代がゼロになりますし、アナログ人間なのでホームページを開けることすらできないという方だけアンケートを取って、その方にだけ配付をするというような方法をロータリークラブで研究されたいかがでしょうか。

資源もかなり浪費していると思いますし、1回も見ないでゴミ箱へ捨てている方もたくさんいらっしゃると思いますので、こういうアナログからデジタルの時代になり、せっかくロータリークラブのホームページもあることですから、見たい方はいつでもホームページをクリックしてそこから閲覧するというような時代にマッチしたような方法を考えられないのか。

●川上クラブ奉仕・拡大増強委員長

資料につきましては、地区協議会用の資料というのは、もう半月ぐらい前ですか、1ヵ月ぐらい前に池田くればロータリー様の方にお渡しをしております。その資料を事前に各委員長さんにお渡しをされるのか、本日資料としてお渡しされるのかというのは、よくわかりませんが、例年はお越しになって、その資料を見ながらお話をさせていただくということが通例のように感じております。

地区として減少しているのをどのように考えているのかということですが、これは時代の趨勢というのがありますし、最大4,600ぐらいになったのはバブルのさなかでありまして、そのバブルとともに、会員が減少してきているのが現状であります。現在は高齢化でおやめになられる方、病気でおやめになられる方が10分の3ぐらいだと思います。転勤をされるとか、そういう企業も結構ふえているということで、クラブによってはそういう形で退会なりほかのクラブにおかわりになられるとか、そういう方も10分の2ほどあります。あと所業が忙しくなってきた、理由がわからない、一身上の理由でやめるという



方もおられ、ちょうどおやめになられるバランスとしては、極端に偏ってということはなく、おやめになられるのが多いような気がいたします。

それと入会される方ですが、先ほど申しましたように74名は純増なのです。245名くらいは新入会員に入られまして、148名くらいおやめになっておられるのです。ちょっと計算が違っているかも知れませんが、大体それくらいの大枠として入会と退会をされております。純増は74名になっていまして、これが期末にどれだけの数字になるかという1つの問題はありますが、結構入会もたくさんしていただいているんですね。年寄り・ご年配の方がふえられているというクラブもあります。全然若い人が入らんというクラブもありますし、逆にですね、40代の方がたくさん入っておられるクラブもあるんです。やはりクラブの考え方とか、皆さんの増強に対する認識が相当影響しているんじゃないかと思えます。きょうお見えになっておられるかと思いますが、先ほど申しました29名のクラブが14名純増されて42名のクラブになられたというお話をさせていただきましたが、やはり危機感を持たれ、このままではクラブの存続も危くなるというぐらいの危機感をみんなが共有されて、グループごとに分けて必ず今年何名入れるよという強い意識と認識と、それに掛かる時間をみんなが共有されて、責任を果たせるかどうかと思えます。

その14名入れられたクラブの元会長さんにお聞きしたのです、秘訣あったら教えてくださいって。そんな秘訣があったら私が教えてほしいですわというようにおっしゃいまして、各自がどれだけそのクラブに対する思いで増強を1年間費やしてくれた。そういうお話でした。

あと増強と同時に少なくなっているクラブは合併をしようかと、2つを1つにしようかということで、実は私ガバナー補佐をさせていただいたときに1つ相談を受けまして、何度か両方の会長さん、幹事さんとお話をさせていただきました。ところが皆、歴史が違うのですね。それと一番問題は、クラブによって持っておられるお金が違うのです。片方はほと

んど赤字に近いと、片方は1,000万近くあると。そういう状況の中で対等合併というのはなかなかできにくいのです。何とか1足す1を2にしたいなということでお話をされてたんですけど、結局1足す1は2にならずに1.5とか1.3とかになってしまうんです。大阪城クラブさんがうちの地区で消滅してしまったんです。最終的には13名くらいはおられて、その後どうするかという話になったときに、多数決でこれ以上存続はやめようではないかというのが多数派を占めた。やむにやまれず泣き泣き消滅というか、おやめになられることになったと聞いております。小さいクラブでも、存続してやっておられるところもあると思います。やはりこつこつと皆様1人でも多くクラブの活性化のために入れようという認識を持っていただいたら違った展開になるんじゃないかと思っております。

選挙はロータリーとしては、宗教とか政治色は一切ゼロでありますので、そのようなことは不可能と思っております。

あとロータリーとしてということですが、きょうですね、こうして地区協議会での講演からガバナー・エレクトさんのお話とか、またこういうものを持っていると勉強されたことをクラブで少しでも生かせるようにしていただければ、きょう来ていただいた価値といいますか、有意義なひとときになるのではないかと思っております。

●瀬戸情報・広報委員長

ロータリーの友といいますのは、地区ガバナーの委嘱を受けた機関誌であります。今はRIの広報部に直結しています。1952年に、ロータリーの友を作ろうと。そのときはガバナーの委嘱した機関誌だったのですが、それがようやく1977年にザ・ロータリアンを取らなくても日本の広報誌でいいですよという指定を受けたわけです。

これは日本のロータリーの友事務所にとっては感激的な事実だったわけです。要するに日本語で機関誌が読める。ロータリーの友というのは、ロータリーのバッジと一緒に、1人ずつが絶対に取らなければいけないという義務があるのです。ですから、その



辺をRIがどのように考えるか、RIが全部それをインターネットでやろうというふうになりましたら変わると思うのですが、ロータリーの友の方から日本はこうしますということは、今の段階では全く言えないと思っています。

私はアナログなので、本を読むのと、ホームページで感動を受けるのが、どうもよく理解ができていないのです。

●大阪難波(夏 明義)

1つ合併のことでちょっとお話があるのですが、2年前に幹事をさせていただいて、そのとき宮田ガバナーであったと思うんですが、7組の幹事会の中で、いろいろ増強の問題が出たとき、合併するべきではないかというのを私自身がずっと申し上げ、それでガバナー訪問のときに宮田ガバナーにもその話をさせていただくと、非常にいい話であると。バブルのときに非常に多くなったし、クラブ数も多くなった。今はこういう時代だから、また減少じゃないが、充実する時期じゃないかというお話も聞きまして、東京では2つのクラブの合併があり、名前は忘れしましたが、2つの名前のロータリークラブができたように聞いております。

大阪ではそのような例はあまりないということで、会長、幹事で進めていただければいいのではないかと。というのは、バブルのときに親クラブ、子クラブ、また多くなって、またその孫クラブとかいろいろできた経緯があるように思います。そして見てみますと、子クラブがほとんど衰退して人数も非常に減っております。そういうとき、また吸収するか合併するかいろんな形をとっていただいて、今住之江の方も言われたように、旗振り役をどうか何かしていただければ、もっともっと充実したクラブ運営ができるのではないかと。ただ増強だけに頼るのではなく、内部的な充実も図っていただこうようなお考えを、この地区のクラブ奉仕委員会で何かできないものかなという質問でございます。

●川上クラブ奉仕・拡大増強委員長

昨年6月だったと思うのですが、全国の増強委員長会議というのが東京でございまして、そのとき

にその話が出まして、去年日本で3つのクラブが消滅しています。何とか消滅せずに今おっしゃったというように、1つになるとか、吸収のような形になるのか、名前を2つにして1つのロータリーにするとか、いろんな案を模索されたそうですが、実質的には話がまとまらなかったとか成就しなかったと。もっと身近な問題で言いますと大阪城ロータリークラブさんのさっき話が出ましたが、親クラブが東ロータリークラブさんです。何で吸収を親クラブさんとしてお考えにならなかったのですかと元会長さんにお聞きいたしましたところ、そういうアプローチはしたんだ。でも、大阪城ロータリークラブさんとしては、親クラブに吸収されるというのは、皆さんの意見の統一が図られず、親子クラブでも難しいというのが現状なのです。

8組でも先ほど少し申しましたが、クラブ会長さんとか幹事さんはお考えになっておられるのですが、だれが鈴を付けにそのクラブへ行くのという話になったら、皆しり込みされるのです。何考えとんねんというのがまず古い方から言われるだろうなあというのと、それからあとのクラブの中のぎくしゃくした部分をどういうふうに解消していけるのかなとか、そこまで考えられますと、なかなか踏み込めないということで、結局話は相当盛り上がったのですが当事者だけで、クラブには、そういう形では還元できてないというのが現状です。何か名案なり、こういう方法があるということであれば、また今後地区としても前向きな検討課題としていければと思っております。

●岩田ガバナー

川上委員長、瀬戸委員長にはそれぞれの分野で、川上委員長には幅広く詳しく、また瀬戸委員長には非常に博識、文化の薫りの高いお話を、私どもにはなかなかできないお話を聞かせていただきました。本日はありがとうございました。



職業奉仕部門 12階 1202号室

＜リーダー＞ 戸田 孝 (八尾)
パスト・ガバナー

＜サブリーダー＞ 村木 茂 (新大阪)
次年度職業奉仕委員長

＜サブリーダー＞ 畑田 耕一 (豊中)
次年度職業奉仕副委員長

＜サブリーダー＞ 岩本 洋子 (大阪そねざき)
地区研修委員



●村木職業奉仕委員長

活動奉仕の一つ目。職業人の不祥事が非常に多発している現状に鑑み、今一度職業並びに、職業奉仕の意義の再確認を各クラブにおいてお願いしたいということです。ご存知のように、ロータリーが他の奉仕団体と異なっているところは、ロータリーが職業人の集まりであること。そして、職業奉仕という奉仕部門を持っているところにあります。職業を持つ、仕事をするということそれが社会に奉仕することであり、したがって個々のロータリアンは自らの職業に対し、まずは誇りを持ち、そして昨今コンプライアンスつまり、法令遵守ということをよく言われておりますが、ロータリアンの行動基準はこのような法令遵守ではなく堀江さん、村上さんなどの法令に違反するかどうか、我々の行動基準にはならないのです。我々の行動基準は、もっと高いところにある職業倫理あるいは商道德に基づいた行動を我々の基準とし、それを実践する。つまり、I serveとしての職業奉仕の再確認をお願いすることです。この点につき、次回の委員長会議にて、講師をお招きし十分時間をとって、お話をいただく予定でございます。

2番目が、出前授業の推進であります。近年教育界においても規制緩和が見られ、今や先生以外の者でも教壇に立つことが可能になっております。多彩な職業人の集まりである我々が、直接小学校に出向き、小学生に対し、自己の職業を通じての

さまざまな経験をお話して、職業の意義を子供たちに伝えていこうということが、この出前授業の考え方であります。地区では数年前から、各クラブにこの出前授業をお願いしております。第2660地区においては、約3分の1のクラブがすでに行っていたいております。次年度では、何とか大多数のクラブが行っていただきたいと考えております。

3番目が、職業奉仕です。皆さまからいろいろな職業に関してのお話を聞かせていただき、それを小雑誌につづるものでございます。皆さま自身の職業を通じてのご感想でもいいし、他のロータリアンでもいいし、それ以外の人でも結構でございますので、何か職業に関してのいいお話が耳に届きましたら、ご連絡いただきたいと思っております。これは数年前から行っており、もっともっといいお話をつづていきたいと考えております。この点につきまして次回の委員長会議において時間をかけてお話をさせていただきます。

まず皆さまのクラブをお願いしていたアンケート、その結果について戸田孝パストガバナーからお話をさせていただき、その後皆さま方に早急に取り組んでいただきたい出前授業について約1時間、畑田耕一次期副委員長にお話していただき、その後質問の時間を10分間ほど取らしていただく予定です。

なお職業奉仕月間の前、8月25日10時～12時まで、職業奉仕委員会会議委員長会議を予定しております。皆様のご出席よろしくお願いたします。

●戸田パスト・ガバナー

アンケートのプリントがありますが、まず一番最後を見ていただきたいのです。これは、ロータリーは何やわからんと言う人がたくさんおられるなかで、記憶にとどめるための最良の研修方法というのが載っております。一番左が読んだ結果記憶にどれだけ



とどまるかといいますと、10%しかとどまりません。聞いた結果は20%しか記憶にとどまらない。そして、その次にある見て聞いた結果、即ち私の原稿を見て、私の話をよく聞いていただきますと50%が記憶に残ることになっております。さらにそれを皆さんがクラブへ帰って、このいろんな工夫をし、アレンジしてクラブの皆さんに発言をして教えてあげると、その記憶にとどまる率が80%になる。

さらに皆さんがそれを実行すれば90%まで記憶にとどまる。記憶にとどめるにはこういう形が一番良いのだということになっております。

アンケートに答えるには項目がたくさんありますので、私がまず疑問・質問という最後のところを整理をいたしまして、お話ししたいと思います。第1番目に池田ロータリークラブさんと大阪北ロータリークラブさん、12と39ですね。「外部への職業奉仕として出前授業以外に有益な方法はあるでしょうか」ということ、北クラブさんも「今後どのようなテーマで展開されるか知らせてほしい」ということでありますが、ロータリアン各自が職業倫理を高めて人のお役に立ち、多くの人に喜ばれる技術や仕事を長年続けることで取引先や一般の人々から信用を得て、何回も注文をいただける、このことが職業奉仕の具体的な一つの説明であります。現在行われています出前授業とは、若い小学生・中学生も含めてでありますから、その人たちに、人のために尽くすことがどのように大切であるかということを知らしていくことが将来への布石になるということであり、これが非常に有効であると考えられます。

しかし、これだけかといわれますと、ロータリアンの大切な仕事の一つに地域社会への貢献がありますから、ロータリアンはできるだけ機会をつくって、事業の永続的繁栄は取引にかかわるすべての人にサービスの理念を適用することであり、これが各自の事業の成功と発展が得られるということを機会あるごとに伝えていただくことが大切であります。これを伝える場として、商工会議所、同業組合、ロータリークラブの例会もあるのです。これを伝えることで同業者の職業倫理を向上させることが、ロー

タリアンの事業経営にも役立つことになり、そういうことを皆さんで具体的にやっていただくということが大切なのです。取引にかかわるすべての人に、即ち、お客さん・仕入れ先・社員・同業者と取引にかかわる多くの人に満足を与えることが、事業の永続的な繁栄につながることになる。事業の根底にサービスの心を定着させ実践することが、人に喜ばれ、事業が永続発達するという職業奉仕の原理がロータリーの基礎となったのです。

20世紀初頭のシカゴは大変混乱した経済情勢の中にあつて、ロータリークラブは1業種1人で選ばれた会員でありますから、お互いに事業経営のアイデアの情報交換が盛んに行われました。

アイデアの交換というのは各クラブに在籍する異なった事業人のアイデアは、お互いにとって大変有益である。このことが一つの基礎となり、事業の基礎にサービスという理念が導入されて職業奉仕が形作られたのです。お互いの事業上のアイデアの交換などは皆さんのクラブでやったことは、あまりないと思います。そういうことが、第1番のアンケートの答えであります。出前授業は大切だけど、こういう大切なことがありますよという1例です。

2番目ですが、大阪難波ロータリークラブさん、それから高槻ロータリークラブさんの職業奉仕が原点であるという認識をする人が少ない、だからそれをどのように認識させるか。高槻さんは職業奉仕がロータリーの原点と理解しているが、企業活動として利益を求めるとサービスとどんなかわりがあるかという疑問ですね。

ここに書いてありますが、1908年にシカゴクラブに入会しましたアーサー・フレドリック・シェルドンは、





「商売はもうけなければ成立しない、経営者が利益を上げるのに真剣になるのは当然のことである。しかし、一体どうすれば永続的な利益が得られるのか、それは常にお客の身になって考え、お客のお役に立つ、いわゆるサービスの心を適用して取引を続けることで徐々に信頼関係が深まっていく。このような心で取引を長年にわたって続けることで、信用という精神的なものが築かれ、それが繁栄への基礎となる。繁栄は永続的なサービスによってもたらされるのである。」とあり、永続的な繁栄には、サービスを第1に取引を続けることであり、お金を儲けるのもサービスに徹することであるといえるでしょう。

シェルドンは商業道徳が混乱しているシカゴの街にあって、例外として正しい考えで経営しているビジネス商社が繁栄している様子を調査し、「繁栄への道はただ一つしかない。それはサービスの道である。」の結論を得た。即ち、サービスに徹した事業が成功することを確認したのであります。

そして、「He profits most who serves best」「最もよく奉仕する者に最も多く報られる」ということがここに書かれております。そして、1911年のポートランドの全米ロータリークラブ連合会でミネアポリスロータリークラブのフランク・コリンズは、演台に立って話します。「我々のクラブは創立以来守りとおした原則があります。それは利己ではなくサービスである。即ちService not selfである。」と演説したのです。のちのnot selfというのは、自己を否定する響きがあるので、Service above selfに変更されたのです。米山梅吉翁は、「超我の奉仕」と訳されているが、「サービス第1、自己第2」のほうが分かりやすく、これが事業の大きな足がかりであると述べられています。

このシェルドンとコリンズの2つの演説は、参加者に大きな感動を与えた。1950年のデトロイトの国際大会で「ロータリーの2つの標語」と決定されました。職業奉仕なくして永続的な商売繁盛は難しく、商売繁盛なくしてロータリアンにはなれないでしょう。職業奉仕がロータリーの根幹であるというひとつの証左です。

ロータリーの奉仕の原点である職業奉仕の考え方は、東洋思想に基づく日本古来の道徳観である。「積善の家には必ず余慶あり」は最もよく奉仕する者、最も多く報られる」につながるものであります。また「情けは人のためならず」、「善因が善果を生む」という思想が日本でも事業発展の基礎になっているのですね。

このようなことが、第2番目の質問に対しての考え方であり、皆さんでよく検討していただきたいと思います。次の職業奉仕委員長会議でももう少し具体的なお話をすることができると思います。

3番目ですが、高槻東ロータリークラブはロータリーの綱領に準拠したCLPは、細則8条に確かに4大奉仕を掲げ、職業奉仕に積極的に取り組むことが書いてあるが、今のCLPは職業奉仕観念が希薄となり、ロータリーの奉仕の特徴を失い、現実的には他のクラブと変わらないのではないかと、提言をしておられます。

こういう意見があるのが非常にいいんですね、私も同じ考えであります。

ロータリーの綱領に基づく4大奉仕部門はやはり私も堅持したいと思って、書いています。

私のクラブで、CLPの説明をしてくれというので、現在の組織とCLP案を示しました。何を変えたかと言いますと、クラブ奉仕は11の小委員会があるのです。クラブ奉仕委員長は副会長が担当しておられますね。

副会長が11の委員会をみな掌握できるか、これは無理であります。だからこれを3つに分けたのです。一つはクラブ管理、二つ目は会員組織、これはRIも提唱しており、大切なものであります。会員増強・退会防止・会員研修委員会を独立させ、三つ目には、RIの要望である広報であります。

広報というのは、今までロータリークラブというと、お金持ちの食事会というようなイメージがあるのではないかと。しかし、本当は高邁な精神に基づいて、実践的な活動を行っていることを地域社会に正しく広報し、ロータリーへの理解をしていただく、これが第3番目であります。あとは職業・社会・国際、ロー



タリー財団という常任委員会を配したのがCLPの一つのパターンであります。

それで、今、職業奉仕がおろそかになっているのではないかという質問は、以前と同じだと考え、このような案をつくったわけであります。

きょう第2650地区の講師によるCLPの説明がありました。あの方は大学の後輩で挨拶に見えましたが、解りやすく詳しく話をされましたが、ちょっと早口でしたが私の説明と同じ考えを持っておられる説明もありました。だから、クラブの実情に合わせて皆さんで、よくお考えいただくことが大切と思います。高槻東ロータリークラブの職業奉仕はどうなるのか、という疑問について書いたのです。

その次、豊中千里さんであります。本日欠席しておられますね。皆さんの参考になると思うので話したいと思います。

「We serveを否定するものではないが、I serveを中心とした職業奉仕はロータリアン個々人に精神的支柱、言語による表現範囲を超えた思想の領域、したがってロータリーの哲学といわれるが、このベーシックなところをよりご指導いただきたい」とありますね。

第1に、ロータリーが成り立つ基本とするのは、ロータリーの綱領であります。ロータリーの綱領は、「The Object of Rotary is to encourage and Foster the ideal of service as base of worthy enterprise」これが本文であります。

「ロータリーの綱領は有益な事業の根底に奉仕の理想を定着させ、それを力強く育てあげることである。」とあり、「ロータリアンが携わっている事業は社会に役立つ有益な事業である。その事業の根底に、奉仕の理想をしっかりと定着させ、それを力強く育て上げることである。」これがロータリーの目的であります。

目的と言うと怒られますが、綱領であります。このことが最も大切な基本であります。そのこの綱領を成し遂げる4つの分野をこう書いています。

①、奉仕の機会として知り合いを広めること。これは親しい友人を得て、奉仕の機会を広めようと

いうこと。

②、事業及び専門職務の道徳的水準を高めること、有用な職業には貴賤がないという認識を持つこと、ロータリアン各自が職業は天から与えられた天職であるという認識を持って職業倫理を高め、社会に奉仕すること。ロータリアン各自が奉仕の理想「他人に対する思いやりの心、助け合いの心」を家庭生活に生かして、温かい家庭を、事業生活に生かして人から信頼される事業の繁栄を、社会に適用して住みよい社会に実現を目指すとともに、次は、1921年のエジンバラの国際大会で、「相手の身になって考え、相手のお役に立とうという奉仕の理想の心で結ばれたロータリアンのつながりから、国際間の理解と親善と平和という理想を実現しようという壮大な奉仕」であります。ロータリーの綱領は難しいものではなく、私たちが普段より実践すべきロータリーの最も大切なものであります。

もう一つは、「ロータリーの綱領」の本文と、「決議23の34」であります。ロータリー不滅の原理です。第1に「ロータリーとは何か」が書いてあるのです。これは職業奉仕にとって最も大切であります。「ロータリーは一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と、他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は超我の奉仕の哲学であり、最もよく奉仕する者、最も多く報いられるとする実践倫理の原理に基づくものである。」

現在では後段の、「最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」が消えています。

2番目に「ロータリークラブの役割は何か」とあります。「ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、奉仕の理論が職業及び人生の成功と幸福の基礎であることを団体で学び、個人としてその理論を日常生活に実践し、個人・団体とも地域社会にその実例を示していくことである。」とあり、大事なものは、1と2と4であります。

4番目は「奉仕する者は行動しなければならない、ロータリーは単なる心構えのことをいうのではなく、ロータリーも哲学も単に主観的なものではあっては



ならず、それを客観的な行動に移さねばならない。」とある。1、2、4がロータリーのバックボーンであります。

6番目にロータリークラブが団体活動する場合の指針が述べられています。一番最後のg項に、「ロータリークラブが一固まりになって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアン、個々の力を動員するものの方がロータリー精神によりかかっていると云える。ロータリークラブの行う社会奉仕はロータリアンに奉仕の訓練を施すためのみ考えられた、いわば研究室の実験と見るべきである。」ここは、団体で活動しているように見えるけれども、それは一人一人に奉仕の訓練を施すための活動であるのだよと書いてあるのです。

だから、皆一緒になってやっているWe serveではなく、参加した各自がその経験を生かし、あくまで個人として社会に尽くすことを基本にしているのです。だから、We serveに見られがちであるが、個人でサービスするための訓練であることを認識し、各自が学び達成感・感動を受けて、あくまで個人として、人の為に尽くすことをロータリーは目指しているのです。

このような質問がありましたので、ここに書いたのですが、次の社会奉仕委員長会議では、40分ほど時間をいただきますので、次はもう少し系統的に、実例を入れて話したいと思います。欠席しないで参加されますことを願っています。

●畑田職業奉仕副委員長

今日は「出前授業のすすめ」という題でお話をさせていただきます。この地区では、出前授業を10年間のプロジェクトとして始めて今、5年目ですが、出前授業をこういう長い期間のプロジェクトにした理由は、いろいろあるでしょうけれども、一つはこの出前授業のような教育支援が、今、日本の学校教育で非常に必要になっているということでもあります。それから、こういう教育支援をロータリーで始めたその根底には、ロータリーの奉仕活動にはいろいろありますけれども、最後に残るものの重要な一つは文化的な奉仕活動ではないかという考えがあると思います。その文化を支える根底は教育ですから、

そういうことで教育支援としての出前授業が選ばれたと考えることもできようかと思えます。

私自身は1975年ごろから小学校、中学校、高等学校、それに大学、これは出前ではなくて本職であります。それと生涯教育、こちらは80歳の年輩の方もおられるところでお話をさせていただきます。そういう経験も踏まえて、きょうは出前授業を皆さんにやっていただきたいとお願いしている学校は、今一体どういう状況にあるのか、なぜ出前授業が必要なのかを、皆さんに知っておいていただいた方がいいと思われるその他諸々のことも含めて、お話をさせていただきます。

1.学校現場の状況——学校は悲鳴を上げている

●教育の個別化、多様化

最初に、私の感じております日本の学校の現状ですが、これは、一言で言うと「学校は悲鳴を上げている」というような状況に近い気がいたします。なぜそんなことになってきたかという話ですが、日本の国は戦争後の非常に混乱した状況からどんと立ち直ってきて、集団駆け足教育といえますが、全員が一斉に同じ方向に向かってどんと進んできたわけです。そのおかげで日本はここまで来たのです。ただ、そうやって日本人が日本の発展のことだけを考えてやってきた時代から、今、日本は世界のことを考えないといけない時代に入ってきました。それを象徴する言葉の一つがグローバル化かもしれません。グローバル化というのは世界の基準みたいなものがあって、それに合わせて仕事をしなさいというわけではありません。ましてや、アメリカの通りにしなさいというわけでもないのです。日本がしっかりした個性を持って、世界の中で、日本人も含めて世界の人々が幸せになれるような仕事をしていくのがグローバル化だと思います。そのためには日本の国民すべてがしっかりした個性を持って、個性豊かな日本の国をつくるしか方法がないわけです。そういう国民をつくる最初の段階が学校教育です。「個性ある子供を育てよう」、これを言うのは非常に簡単ですが、実行するのは大変難しいのです。個性ある子供を育てようとする、教育は個



性化しなければならず、当然非常に多様なものとなります。1人の先生が、クラスの子供の一人一人に、それぞれの子供に合う教育をするというのは、大変なことであります。これが、学校が大変になっている一つの理由です。

●教育課程の大きな変化

それでは、どのようにして個性豊かな国民を育て、国の個性を確立するかということです。それを目指して新しく新設されたのが、**総合的な学習**です。これは、子供がそれまでに学んできた知識をもとにして、自分で問題を発見して、自分でその解決方法を計画して、それを実行する、先生はそれを支援するという授業です。これからの日本を引っ張っていきける若者を育てようとして、計画された授業で、わが国にとって非常に大事なカリキュラムの変更であったといえます。残念ながら、その高邁な理念を国民がよく理解できなかった。あるいは、ときの文部大臣や文部省が、国民にわかりやすく、繰り返し説明する努力を怠ったのかもしれませんが。その結果、総合的な学習の所為で、学力が落ちたというような議論が出てきて、先生が一所懸命やっておられるのに、なかなか効果上がらないという場合もあるようです。

その次は**情報技術**の授業です。今日ここにお越しになっておられる方は、どちらかというと年配の方が多のですが、それでもコンピューターを使わずに仕事しておられる方は、まれだと思います。小学校で少なくともコンピューターの使い方と情報科学の根本的な精神だけは学ばせておく必要がある。これも総合的な学習と同様に小学校の先生はそれまでやったことない授業ですから大変な努力がいきます。

それからもう一つ、**英語の体験学習**がこのごろこの小学校でも行われております。これについては、いろいろ議論もあるようですが、英語そのものに堪能になれるというのではなくて、世界には日本語の通用しない国がいっぱいあるということを小学校のときに教えるのは大事なことです。英語はかなり多くの国で一応は通用する言語ですから、こ

れを体験的に学ばせておくというのは、大事なことだと思います。でもこれも、小学校の先生にとってはこれまでやったことのない大変な仕事になります。

●家庭や地域の教育力の低下

それから、先ほど職業倫理の話もありましたけれど、狭い意味でも広い意味でも、道徳が問題になるような事件が多発しております。これを、学校教育で道徳をきっちり教えないからだとおっしゃる方もありますが、以前はそんなことは、大部分、家庭と地域社会がやったのです。最近、家庭と地域社会の教育力が弱ってしましまして、学校の先生が簡単な躰けまで、教えねばならなくなってきた。戸を足で閉めたらいかんとか、障子を後ろ手で閉めるとか、そんなことまで学校の先生が言わないと家で言ってくれない。学校の先生はますます忙しくなる。

それから、保護者の方が学校にいろいろ興味をお持ちいただくのは有難いことなのですが、それが非常に視野の狭い興味の持ち方の保護者が割合おられまして、極端なことをいえば自分の子供と自分しか視野に入っていないというような方が先生にいろいろと要求される。このあいだも私のロータリークラブの会員のお医者さんから聞いたのですが、あるおばあさんがやって来て、「先生今日うちの孫が学校で熱 出しまして、先生が迎えに来てくれというのですわ。たまたま親がいなかったのが私が行ったのですが、行くなり校長室に入って、怒鳴ったりましてん。何で校長送ってこんねん」という話です。学校には生徒がたくさんいるわけですから、一人の子供が熱出したときには、保護者に迎えに来ていただくのが普通だと私は思います。こういう保護





者への対応に、先生が大変苦勞しておられます。また、校庭の草引きとか、トイレの掃除とか、給食やクラブ活動の世話など、先生のおやりにならねばならない本来の授業以外の仕事も増える一方なのです。それにもかかわらず、政府は先生の定員を減らすとか、給料を見直す(上げるという見直しではなくて)と言っている。学校やめてほかの仕事をしよかなと思うような先生の数が増えてくる前にしかるべき対策を立てる必要があります。

II. 学校教育の支援

そのようなわけで、学校の外の人間が、自分にできることで学校教育を支援するという必要の時期に来ていると私は思います。学外からの教育支援にはいろんなことが考えられるわけですが、ロータリークラブの方々の方が割合簡単にやっていただけて、しかもクラブの予算は殆んど使わないで、実行できる奉仕活動の一つとして、出前授業があります。いろいろな分野の専門家が沢山居るロータリーにとって出前授業は極めて適切な奉仕活動の一つだと私は思います。地区の職業奉仕員会でもそういうことで、出前授業を10年のプロジェクトに選ぶことになったのです。

●教育支援の種類

学校教育支援にはいろんなタイプがありまして。**出前授業**はその一つです。あちこちのロータリークラブでやっておられる**職場体験学習**も教育支援の一つです。これも以前は家庭や地域社会でできたのです。家が商店であれば、子供は自宅で職場体験ができる。普通の家でも庭の草むしり、風呂の水くみ、かまどで飯を炊くなど職場や社会の実生活を体験する機会は家の中に一杯あったのです。この頃はこのような仕事は子供がやらなくても、機械がやってくれるようになってしまいました。私が子供の頃はラジオの修繕なども自分でやりましたが、今のラジオはなかなか難しくして子供では修理できない。そんなことで職場体験学習というのが始まったのだと思います。これは沢山のロータリー会員の方がおやり頂いていると思います。

次に**PTAによる教育支援**を考えて見ます。PTA

というのは、保護者と先生と一緒に教育の事をいろいろ考えていこうということ、結成されました。最近、PTSAといまして、Sというのはステュデントのことですが、学生や生徒も一緒に教育のことを議論していこうという考えもあります。PTAが、いまはやりの言葉で言えば教育カフェのような雰囲気教育のことを語りあえる場になればよいなと私は思います。これがPTAの重要な教育支援だと思うのです。PTAが保護者と教師の対立の場になったりしてはいけません。

●出前授業の種類

さて、出前授業の話に入りますが、出前授業にも幾つかあって、皆さんが今頭の中に描いておられるような、誰かが学校に出かけて行って行う出前授業のほか、幼稚園から大学の先生までが互いに連携をとって、大学の先生が幼稚園に教えに行ったり、小学校の先生が大学で教えたり、あるいは中学校の先生が小学校に行くというような、そういう出前授業もあるのです。私がアメリカにおりました1970年代にはこれが盛んに行われておりました。

もう一つ、博物館・美術館などへ生徒の方が出かけていくそういう出前授業もあります。今日は最初にお話した標準の出前授業のお話、それも主として小学校への出前授業の話をしていただきたいと思います。

III. 小学校への出前授業——小学生に鋭い観察力、豊かな感性、好奇心を育てよう

先ほど戸田パストガバナーから小学校のときにたたきこんでおくのが一番よろしいというお話がありました。私も常々そう思っております。私自身のことを考えても小学校のときの印象というのは非常に強いことが多いのです。小学生というのは鋭い観察力と好奇心を持っている。感受性も非常に高い。小学校に出前授業に行くと、子供からいろいろな質問を受けますけれど、びっくりするような質問がよく出ます。一つ例を挙げますと、皆さんよくご存知のゴムに関する質問です。「ゴムを引っ張ったら伸びて、手を離すと元の長さに縮む。このゴムをそこらに放置しておくと、だんだんと、引っ張った



ら伸びるけれども、手を離しても元の長さまで戻らなくなる。もっと時間が経つとネチャネチャになってくる。もっと放っておくとネチャネチャになっていたものが、手にねばりつかなくなって、ポロポロの砂のようなものになる。先生あれは何でや」という質問なのです。皆さん答えられますか。ここまでゴムの一生を詳しく見ている方がここに何人おられるか分かりませんが、小学生の観察力というのはやっぱりすごいなと思いました。

ところで問題は、この質問を小学校の先生に子供がしたときに、小学校の先生が答えられるかということです。これはゴムという高分子の根本原理にかかわるゴムの哲学の問題なのです。今の小学校の先生には困ったことに自然科学専門の先生が非常に少ない。私共のクラブのある豊中でも、一つの小学校に5人以上自然科学専門の先生おられることは滅多にないのです。それで、このゴムのような質問は先生が答えられないで、飛ばされてしまう可能性が高い。そうするとどんなことになるか。この間、私の羽曳野の家でノーベル化学賞の白川先生が、子供に話をして下さったときに白川先生が言っておられたことなのですが、白川先生が中学校の先生に「雲は何故落ちてこないのか？」と質問されたところ、その先生は「それは雲をつかむような話だ」と冗談でまぎらわされたというのです。「質問しようかどうかとかなり迷ったあげく勇気を出して質問したのに、こんな答え方をされたので、物理が嫌になり、化学を選んだ」と白川先生は言っておられました。先生の不用意な一言が子供に好奇心を失わせてしまったということです。先生にとっては大変答えにくい難しい質問だったのですが、ここで先生が、「それは非常に難しい質問で先生もよく分からないので一緒に調べてみようか」と言われたら、白川先生は物理に進まれたかも知れません。

そういう場合に、先生を非難しても仕方がないので、こういうところをロータリーの専門家が出前授業で補えればよいということです。ロータリーには、雲の専門家もおれば、ゴムの専門家もおおと思います。年に一度か二度何かの専門の方が学校に行っ

ていただいて、学校の先生が通常の授業で対応できないような問題を解決していただくと有難いと思います。自分にも分からないようなことを聞かれた時は、はっきり分からないと言って下さい。わからないことをごまかしますと、子供は敏感に感じ取ります。ロータリーの方は、親睦のネットワークをお持ちですから、家に帰ってから電話で知り合いの専門家に聞いて答えを得ることも出来ます。広い分野にわたってそういうことやっていただけなのがロータリーの方の出前授業の強みの一つです。

●小学生に難しい話は無駄にはならない

出前授業をやって頂けませんかとお願いすると、自分のやっていることは難しいので子供なんかには到底分かってもらえませんかと言われる方があります。阪大の元総長の金森先生は、自分の専門の内容を子供に分かるようにしゃべれない人は自分が分かってないからだ、とよく言われました。これはかなりきつい言葉ですが、その通りだと思います。だけどそんなこと言ったら、だれも出前授業に行ってくれません。ただ、私がここで言いたいことは、子供はどんな難しい分かりにくいことを聞かされても、それを頭の中に入れて置いてくれる。そして、だんだんと勉強を重ねていって記憶したことが分かるようになったときに、それを頭の中から引っ張り出してきて、改めて理解してみようとする能力を持っているということです。これは大事なことです。だから、自分のやっていることが難しすぎて、子供に分からないのではないかというような心配はしないで、どんどんと出前授業をやっていただきたいと思います。子供のときに聞いた大事な話は、しっかりと頭の中に残っているのです。

私が小学生のときに聞いたことでいまでも強い印象とともに思い出すことができるお話を一つさせていただきます。私が小学校5年の8月に戦争が終わりました。その2ヶ月ほど前のことです。当時、海軍体操と言って、海軍の兵隊さんがやる体操を子供向けに作り直した体操があって、それを僕らは朝から晩までやらされていたのです。それで大変上手になったので、校長さんが周りの学校の先生



方を招いて参観授業をやられました。梅雨の雨の日で、体操ですから傘をさしては出来ませんので、ずぶ濡れになってやりました。終わったときに、その集まりの監督に来ていた陸軍の中尉さんが前に立ちまして、先ず、「君たちは今日非常に上手に体操やった。私は心強く思った」と言われました。その中尉さんは、恐らく、この子供たちは勉強せんと体操ばかりやっておったなと思ったのです。それでこう続けました。「だけど、戦争はわしら兵隊がやるから、君らは小学校の生徒だから、体操も大事だが勉強も一所懸命やってくれよ」と。しかもそのあとの一言がすごかったのです。「戦争が終わった後の世界の平和のために勉強してくれ」と。この言葉の哲学は、小学生の私には、はっきりとは分かりませんでした。ただ、私自身は海軍体操があまり好きではなかったもので、「兵隊さんがもっと体操せよ」と言うかと思っていたら、勉強せよと言われた。これが非常に嬉しかったのです。この「世界の平和のために勉強する」というのは、職業奉仕の精神の根本にも通じると思います。この兵隊さんは、終戦の2ヶ月前のことですから、恐らくは日本の負けることは分かっていたと思います。それを何かの形で子供に伝えたいと思われたのかもかもしれません。だけど、この時に、この兵隊さんによって私に注入された「世界の平和のために勉強する」という哲学のおかげで私は今こうして出前授業をやらせていただけているのだと思います。子供には先端の技術とか何とかということよりも、その根本にある原理・哲学をドカンと伝えてやっていただきたいと思います。子供はそれを、きちっと体のどこかへおさめているということです。

小学生の教育を通して社会の文化力を向上させる。それからもう一つ大事なことは、小学生に話をするということは、社会に向かって話をするということでもあるということです。小学生は、学校でいろいろなこと聞いて、家に帰って、「お母ちゃん今日学校で、こんな面白いことあったで。よそのおじいちゃんがやって来てこんな話したで」などと言うわけです。そうするとその話はその母親や父親を

通して地域社会にも伝わっていくということになります。あるいは、そうなるような社会をつくっておくべきだということかもしれません。これもロータリーの責任の一つでしょうか。

IV.教育の効果はいつ現れる？

●長期的影響

出前授業と直接関係があるかないかは別として、教育の効果はいつ現れるのかということも慎重に考えて置くべき重要な課題の一つです。教育効果の現れ方は2つありまして、一つは長期的影響です。「今の子供がこうなったのは教育が悪いからだ」といわれる方は、いつ、どこで行われた教育が悪かったのかお考えになったことがおありでしょうか。それは今の教育だけではないのです。今、子供を教えている先生が教育を受けたのはずっと前のことです。その子供の親や保護者もずっと前の教育を受けて育ってきたわけです。その効果が、今、子供を通して現れているとも言えるわけです。学校教育を受けて、学校を卒業して社会に出て、それから大抵の人は結婚をされて、子供ができて、というふうに、一人の個人の受けた教育の効果は社会に影響を与え続けます。学校教育を終えるまでの期間は一応決まっていますが、学校を出てから結婚するまでの年月は人によって違いますし、結婚してから子供が生まれるまでの年月もまた様々です。その間に住む場所も移動するわけです。したがって、教育の効果は、非常に広い時間・空間の範囲にわたって影響を及ぼすこととなります。これは教育のことを考えるに当たって頭に入れておかなければならないことの一つです。

●短期的影響

次に、短期的影響ですが、これは小学生6年での教育は1年経てば中学校に影響を与えるし、10年経てば、社会に強く影響を与えるようになるという話です。この様な効果については、畑田家住宅活用保存会のホームページに文科省の小谷利恵さんが書いておられます。いずれにしても、教育のことを考えるのに、今の子供がおかしいからといって、今の教育のやり方だけを早急にいじくりまわすと、



教育現場が混乱するだけで、問題の解決にならない場合があるということです。昔の教育がよかった、と言っている人の受けた教育の所為で、今の子供がおかしくなっているということもあり得るのです。

V.総合的な学習はなぜ導入されたか

ここでもう一度総合的な学習のお話をさせていただきたいと思います。この授業は先ほど言いましたように、子供が自分で問題を発見して、自分で考え、自分で答えを出すという授業です。**自主的な問題解決能力**を養わせるための授業で、日本が个性的な国になるためにはどうしても必要な授業なのです。この授業が成功するためには、もちろん基礎的な勉強は欠かせません。総合的な学習をやってみて、初めて基礎的な勉強の必要性がわかるということもあります。ここにおられる皆さん方でも学校時代の授業がすべて面白くて仕方がなかったという方はほんの少数だろうと思います。大抵の方は、割合苦痛に思いながら授業を受けておられたのではないのでしょうか。でも、大人になってから、あの時あの先生があれだけ厳しく教えてくださったから今の自分があるのだということをお分かりになった方は、沢山おられると思うのです。学校時代には**基礎的な科目の重要性**がなかなか分からないものなのです。そういうことに、生徒に気付かせて、学習意欲を高めようというのも、この総合的な学習のねらいの一つです。

日本の国は民主主義国家で、これを捨て去るわけにはいかないのです。そのときに大事なことは何かと言えば、国民のすべてがきっちりと自分でものを考える能力を持っているということです。この**民主主義国家が成立するための条件**が必ずしも満たされていない。これを何とかしなければいけないということで、文科省が一生懸命考え出した教育方法の一つが総合的な学習だと思います。今、格差の問題がいろいろと議論されていますが、今、日本の国で一番大きな、しかも大事な格差問題は何かと言えば、私は1票の格差と違うのかなと思うのです。1ヶ月も2ヶ月も考え抜いて、投票した1票と、殆んど考えることもなく適当に投じた1票とが全く

同じ価値で扱われています。だけど、一票の価値を見分けて重みをつけるというようなことは不可能です。解決する方法は格差を出来るだけ小さくすることしかない。そのために大事なものは教育です。根本的には教育がしっかりしていなければ、民主主義は成り立たないのです。大抵の人にとっては、民主主義でなくて、国の方針は総理大臣が決めてくれて、自分達はその通りにやる方が楽なのかもしれません。でも、それではもう日本の国はやっていけないのです。このことは総合的な学習と一緒に頭の片隅に入れておいていただきたいと思います。

VI.出前授業の目標

●好奇心旺盛な子供の「何故？」に答える

ここでもう一度、出前授業の目標の話に戻ります。一番大事なことは、先ほども言いましたように旺盛な子供の好奇心を大事に育てるということです。好奇心旺盛な子供はしばしば、あちこちで「何でや」と思います。「何でや」と思ったときに子供は先ず周りの人に聞きます、「お母ちゃん何でや」と。子供が「お母ちゃん何でや」と聞いたときに、「お母ちゃんはそんな難しいことわからんわ。お父ちゃんに聞いてみ」となることもある。お父ちゃんは帰りが遅くて聞く機会がない。そこで、学校の先生におそろおそろ聞いてみたら、「いま忙しいから一寸待ってくれ」と言われたきり、返事がない、というようなことが続くと、子供はだんだんと好奇心を失っていきます。そんなことになっては非常にまずい。ロータリーの専門家が出かけて行って、本領を発揮して欲しいと思うわけです。学校の先生は、教科書に書いてあることはきっちりと教えて下さいます。でも学校、特に小学校では、教科書に書いてない質問が、いっぱい出るのです。何故、小学校のことばかり言うかというと、中学校は専門教師制で専門家の先生が沢山おられるからです、

●子供が「何故？」の答えを自分で考える習慣をつける手助けをする

次に大事なことは、子供は、いつまでも、「何でや」と思ったときはすぐ人に教えてもらえるというのでは、総合的な学習の精神に反するという事です。こ



れではいつまで経っても考える力は身につけません。でも、考えるというのは、自分の頭で考えるのだから、自分でやってくれ、ではいつまでたっても子供は考える力を獲得出来ないのです。典型的な考えるパターンというか、考え方を、ある程度は教えてもらわないと、考えられるようにはならない。子供は周囲の一寸した支援があれば考える力を獲得する能力は持っているのです。たとえば、生まれたときには、言葉がしゃべれません。それがどうして言葉が話せるようになるのかということです。何年前の話ですが、うちの孫が、大人同士の会話の中で非常にうまく、適切などころで、「ばれたか」を言ったのです。「ばれたか」などというのは、かなり難しい言葉です。小さな子供が辞書を引いて調べるわけにはいきませんので、最初は誰かが「ばれたか」と言うのを聞いて、これは何だろうと思ひながら覚えておいて、どっかで「ばれたか」と言ってみるわけです。その時、大人が手たたいて喜んでくれたら、正しく使えたなと判断する。大人が変な顔をすれば、また次の機会を待つ。小さな子供はこんな風にして、言葉を覚え、それを使う能力を身につけ、考える力や判断力を養っていくわけです。子供は、このようにして思考力、判断力、想像力を身につけていく力を持っている。こういう力を大人になるまでずっと持ち続けられたら、すばらしい大人になるのですが、どっかで少しずつ消えていくのです。

それを消している一つの大きな要因が大学入試であることは間違いないのです。とは言っても、大学入試をやめるわけにはいかない。でも、入試の方法をいろいろと工夫することは可能でしょう。子供の持っているそういう力をもっと伸ばしてやる努力も必要です。それどうやってやるかですが、私自身は、後でお見せしますけれども、思考実験も含めていろいろな実験をしながら、子供にものを考えてもらう、あるいは、子供と一緒に考えて考えるという方法で努力しております。

●自分の専門分野の根本原理、哲学を語る

それから、自分の専門分野の話をするときに、その専門分野の根本的な原理、難しい言葉を使えば哲学ということになるのですが、それを話してやってい

ただきたいのです。私は専門が高分子化学です。高分子化学というのはプラスチックとかゴムとか、繊維とかそういうものの化学を研究する分野ですが、その根本哲学は何か言えば、高分子とは、紐のような非常に長い分子だということです。これが分かっていたら、先ほどの小学生のゴムについての質問には簡単に答えられます。

小学生に、「プラスチック知っているか」と聞くと、皆、知っている、と答えます。次に、「プラスチックとは何か」と聞くと、なんと答えると思われませんか。「燃やしたらダイオキシンが出るもの」という答えが非常に多いのです。これ間違いではないのです。確かに、そういうプラスチックもあります。でも、すべてのプラスチックが燃えたときにダイオキシンを出すわけではない。子供の答えは、事実ではあるけども、真実ではない。小学生には真実を教えてやっていただきたいのです。皆さんが小学校に出向かれる場合には、真実を教えてほしいのです。この場合の真実、根本原理は、高分子は細くて大変長い紐のような分子だ、ということです。このことを教えておけば、さっきも申し上げましたが、ゴムの一生に起こる変化は酸素や光の影響で、ゴムの分子がブツブツ切れていった結果だとして説明することができます。ただ、ゴムの一生の最後で伸び縮みしない砂のようなものになる理由を小学生に説明するのはかなり難しいのです。それで、これは、君たちが高校生か大学生になった時によく勉強したうえで、本を読んだり、先生に聞いたりして、理解してくれるように頼みます。

●演示実験をしながら子供と一緒に考える

もう少し時間がありますので、私が小学校の出前授業でやることの一部を実験を交えてお話しします。ゴムはなぜ伸びたり縮んだりするのかという話です。これ、皆さんお考えになったことがありますか。考えてみたことあるという方、ちょっと手を挙げてみてください。ほとんどないですね。それで、私が今手に持っているこれは何かと聞いたら、皆さんはプラスチックだとお答えになるでしょう。引っ張っても、伸びも縮みもしない。これを魔法瓶の中の熱湯に入れますと、やわらかくなるのはともかくとして、このように、伸び



縮みするようになります。つまり、プラスチックのあるものは、温度を上げるとゴムになるのです。それで、今日は充分な時間がないので実験はやりませんが、ゴムで錘をぶら下げておいて、そのゴムに熱湯をかけると、伸びるか縮むかということです。これどう思われますか。伸びると思われる方が多いようですね。これ、小学校で聞いても、伸びるといって非常に多いのです。ところが、実際は縮むのです。この二つの実験結果を見せて、ゴムが伸び縮みする理由が分かるかと子供に聞いても、これは、分からないと答えます。皆さんも多分お分かりにならないと思います。

それで次にこんな実験してもらおうのです、頭の中での思考実験です。細い糸を100～200m買ってきて、そこへ20～40匹のカナブン、ブンブンの足1本を5m程度離して瞬間接着剤で付けるのです。ブンブンを全部つけたところで、糸つきのブンブンを部屋の中へ放します。この場合、部屋の一方向から光が射しているようなことがあってはなりません。ブンブンが光の方向に一斉に飛んでいく可能性があるからです。さて、問題はブンブンが喜んで自分の好きな方向に飛んで行ったときに、その足についている糸が絡み合わなければ、どういう形になるかということです。これを小学生に聞くと、先ほどの錘をつるしたゴムに熱湯をかける実験の場合とは異なり、50%以上の子供が正しい答え、すなわち、ピンと張るような規則正しい形ではなく、ゴチャゴチャの形と答えます。ブンブンが激しく飛び回ると直線にはならないで、ランダムなゴチャゴチャの形になる。そのときにその糸の

両端を手で持って引っ張ると、ブンブンの力より人間の力が強ければ、糸は伸びます。手を離すと、またゴチャゴチャの形になる、すなわち縮む。ゴムは先ほども言いましたように、細長い分子です。その各部分がブンブンの足についた糸のように激しく動くと、ゴチャゴチャの形になって縮むのです。室温でゴムでないものでも温度を上げると、ゴムになったでしょう。あれは、ゴムになる素質は持っているけれども、室温ではあまり動いていない分子の温度を上げると、分子の部分、部分が激しく動き出してゴムの性質を示すようになったのです。錘をぶら下げたゴムに熱湯かけたときは、皆さんも冬よりは夏の方がよく動くように、温度が上がることで室温の時よりも、分子の各部分がもっと激しく動くようになり、丁度ブンブンが激しく動けば動くほど糸を引くの強い力を必要とするように、ゴムの力も強くなったということです。おもりの目方は一定ですから、ゴムの力が強くなれば、ゴムは縮むのです。

こういう思考実験を子供と一緒にやって、「わかったか?」と聞くと、40人のクラスですと、5、6人は分かったあるいは分かったような気がすると言います。本当にわかったかどうかは別として、わかったように思うのです。それから、少なくとも半分くらいの子供は、なるほど考えるということは、しんどいけれども面白いなあ、と思ってくれるようです。そうなればしめたもので、そのうちにだんだん考えるようになっていきます。なお、思考実験とはいえ、実験が終わったら市販の「はがし液」でブンブンの足と糸をはが





して置くことを忘れてはなりません。

こういう実験は学校の先生でも、材料さえあれば、できることはできます。でも、その分野の哲学をわきまえた専門家がやると、ひと味違います。どこか違うのです。そこを子供達は敏感に感じ取ってくれるのです。ここで、先ほどの温度を上げるとゴムになる材料を使って出来る別の実験をお見せします。まず、この材料を熱湯に入れてゴムにしてから、伸びるところまで引っ張ります。引っ張ったままで、室温まで冷やしますと、この様に最初よりずいぶん長い材料になります。これをピンセットではさんで、もう一度熱湯に浸すと元の長さにかえります。これは形状記憶材料でもあるのです。この実験はゴムの伸び縮みと、直接は関係ありません。でも、この面白い化学手品をここで見せておくと子供はゴムの伸び縮みのこともよく覚えておいてくれるのです。

VII.「密度」から哲学・根本原理の教育を考える

次に密度を中学生に教えることを、根本原理の教育という観点から少し考えてみたいと思います。

●密度の定義とその応用

密度とは皆さんよくご存知のように、物体の質量を体積で割ったものです。これを中学校で教える時には、まず密度の定義を教え、そのあと応用と称して、「質量1グラムのもので密度が $8\text{g}/\text{cm}^3$ であればその体積はいくらか」とか、「体積が 5cm^3 の物体の密度が $1.4\text{g}/\text{cm}^3$ であれば質量はいくらか」というような計算をさせます。それ以上のことは、今あまり教えないようです。

●密度という概念の必要性

でも、密度というのは本来何のためにあるのか、はもっと大事なことです。100キ口もあるような材木を池へほうり込んだら、ドボンと大きな音を立てて水しぶきが上がりますが、沈まない。ところが、4.5グラムの10円硬貨をポンと池にほうり込むと、シャポツと沈んでしまう。こういう現象は密度と深く関係しています。こういうことを考えるうえで密度という概念は不可欠なのです。

●密度の概念の根本原理

もう一つ面白いことをお話します。この水に浮いて

いる木ですが、これをのこぎりで切ると、切り屑として木の粉が出来ます。この木の粉は水に沈むのをご存知でしょうか。木の本当の密度は大抵1より大きいのです。だから木を粉にすれば、水に沈みます。大工さんは皆よく知っています。では何故材木は水に浮くのか。これはそんなに難しいことではなく、材木の顕微鏡写真を見せれば子供は納得してくれます。もう1つ密度のことをお話しておきます。銅貨が水に沈むのは銅の密度が水の密度より大きいからなのですが、このような物質による密度の差は何に起因しているのかということです。一つは銅と水を構成する原子または分子一つ一つの質量の差で、重い原子や分子で出来ている物質ほど密度が大きくなるのです。あと一つは、分子の集まり方です。物体の中で分子がギュウギュウに詰まっているほど密度は大きくなります。構成分子は全く同じでも水蒸気は気体で密度が小さく、水は液体で密度が1に近いのは、水の方が分子と分子との距離が近いからです。したがって、密度の話の前に、分子の概念とその集合の仕方のことを教えておかないと、根本原理の教育は出来ないのです。国によっては、中学校の理科の教科書で分子と気態・液態・固態の章の中で密度のことを教えるようにカリキュラムが組まれています。今の日本ではそうっていないのです。根本原理を重んじるか、小手先の技術のみにこだわるかの違いでしょうか。本当の学力とは入試技術にたけることでも、応用問題を解く能力でもなく、物事の根本原理に深くかかわって、考える力だということを国民は分かって欲しいと思います。こういうことを一寸子供に教えてやると、いろいろ考え方が広がっていくのです。子供に教えるのによい材料です。

日本の古い伝統的住宅には、昔の道具や工夫で、自然科学の根本にかかわるものいろいろが残っております。たとえば、これはうちの家に残っている薬用の竿秤です。この皿に目方をはかる物を乗せ、この分銅の位置をかえてバランスをとることによって、目方を、正確にいえば質量をはかることができます。竿を吊り下げる位置を変えて皿に近いところになると、もっと重いものまでかはれます。この竿秤を一度でも



使っておれば、物理で「てこの原理」が出てきた時には、その根本が簡単に理解できる筈です。これが重量秤ではなくて天秤で、質量をはかっているのだということも含めて理解できます。普通の天秤はこの竿の長さが同じで、左右の皿に、質量の分かった分銅と質量をはかりたい物体をのせて分銅と比べるのですが、さお秤の場合は分銅はいつも同じで支点と分銅の位置を変えて、てこの原理によって質量をはかるわけです。このように、古いものをちょっと持って行くだけで、小学校では実にいろいろな話ができます。

VIII. 学校教育法小学校の章

最後にもう一つ、小学校に行かれるときに、頭に入れておいていただきたい法律があります。学校教育法の小学校の章です。その18条に、小学校における教育の目標について、1項から8項まで7つのことが書いてあります。第1項には「学校内外の社会生活の経験に基づき、人間相互の関係について、正しい理解と共同、自主及び自律の精神を養うこと」と書いてあります。したい放題してはいけないときっちり書いてあります。それから、第2項には「郷土及び国家の現状と伝統について、正しい理解に導き、進んで国際協調の精神を養うこと」と書いてある。ロータリー精神を言いかえたようなことが書いてあるのです。

小学校へ行きますと、お世辞かもしれませんが、「私もよく勉強して大きくなったらおじいちゃんみたいにロータリアンになって、社会のために尽そうと思う」などと言ってくれることがあります。小学校での出前授業は、非常に長期的な会員増強なのです。小学校でロータリークラブの宣伝をするよりも、将来ロータリークラブの会員になってくれるような子供を育てるといのは大事なことです。そういう観点からも出前授業は必要です。

ところで、この「郷土及び国家の現状と伝統について正しい理解に導き、進んで国際協調の精神を養う」という目標が達成されておれば、愛国心、愛国心と騒ぐ必要もないような気がします。しかも、日本のことが良く分かったうえで、世界の国の人たちと一緒に、仲良く仕事ができるような心を養

えと書いてあるわけです。でも、これは日本の小学校ではかなり難しいことです。アメリカの小学校などですと、場所にもよりますが、クラスの生徒の半数近くが、アメリカ人でないこともある。こんなところでは国際協調の精神を養わせるのは比較的容易なように思えます。学校生活の大部分が国際協調です。それでも、私の子供達がアメリカの小学校に1年いたときのことで、今から30年以上前のことですが、年に4、5回異文化を勉強しようという授業があって、うちの子供は折り紙をみんなに教えたり、日本の菓子をつくったりしていたわけです。その模様が大概は翌日の朝の新聞に写真入で報道される。アメリカの小学校でもこれほど努力しているのですから、日本の小学校ではもっと努力しなければと思います。

第3項は、「衣、食、住、産業等について、基礎的な理解と技能を養わせる」ということです。こういうことが小学校の章にきっちり書いてあるのです。そのあとは、国語、算数、理科、社会、保健・体育、音楽、図工などの授業を一所懸命勉強しなさいという意味のことが8項から8項までに書かれています。ここで、衣、食、住、産業というのは非常に大事なことです。衣、食、住、産業という人間の日常生活の根本にかかわることを通して教育して欲しいということで、これが書いてあると思います。

IX. 衣育、食育、住育を考えよう

この間テレビを見ておりましたら、あるお母さんが、うちの子供は朝、昼、晩、スーパーで買った菓子パンとジュースとゼリーを食べさせています。すごく喜んで食べますので、と平然と言われたのです。一遍や二遍ならともかく、そんなものを毎日食べさせ続けたら、精神・神経状態までがおかしくなるのではないかと思います。

アメリカ合衆国上院栄養問題特別委員会が人間はどのような食事をするべきかを徹底的に調べて、**食育の重要性**に気づいたのは有名な話です。この結果が犯罪者を立ち直らせるのにも活用されているという話も聞きます。食育は健全な心身の発育に大変重要であるということで、そのことが、先にもお話したように、学校教育法にも記載されているのです。



次に、「住」の問題ですが、私は今、大阪府の登録有形文化財所有者の会の会長をやっておりまして、**住育の重要性**を提唱しております。私共の言う住育というのは、快適な生活をするためにはどんな家を立てたらよいかとか、子供が使いやすい勉強部屋はどんなふうにつくるのがよいか、というようなことではなくて、もっと根本的に、日本の伝統的住宅は潜在的な教育能力すなわち住育の力を持っているということなのです。時間がないので、今日は詳しい話はいたしません、子供たちが伝統的な木造住宅で生活する機会が大変少なくなったことが、先生方が一所懸命努力しておられるにもかかわらず、日本の教育が大変やりにくくなってきた一つの原因ではないかとさえ思うのです。木の家の教室があったらよいな、とも思います。木のぬくもり、温かさ、力強さ、したたかさをもっと大事にしたいと思います。本来、家は木であろうが石であろうが鉄筋コンクリートであろうが、その家をつくり、そこに住んできた人達の歴史を担っているのです。今、そこに住んでいる人たちは昔の人たちの歴史を体験しつつ、自分達の新しい文化をつけ加えて、家を後世に継承していくのです。家は文化・伝統を継承する文化財であって、単に雨露をしのぐ箱ではありません。ましてや消耗品ではありません。何百年も生き続けるべきものなのです。こういうことも出前授業で子供に伝えていただければ有難いと思います。

日本の古い家は屋根の葺き替えの方法、古材の利用から火消しつぼにいたるまでいろいろな点で、**勿体ないの心**を宿しています。もったいないという考え方は日本固有のものといわれますが、最近、アフリカのケニアの環境副大臣のワンガーリー・マータイさんが、この勿体ないの心を日本独特の精神として世界中に知らせて、本まで書いて下さいました。田中耕一さんが勿体ないの精神を発揮して実験を行い、その結果がノーベル賞につながったというのも有名な話です。こういうことも含めて、この「勿体ないの心」も「住育」とともに小学校の出前授業の題材の一つとしていいのかなという気がします。

X.おわりに

最初にも申しあげました通り、出前授業はロータリークラブにとって、非常に簡単に始められて、やりやすい奉仕活動の一つです。ただ、始める前に学校とよく相談していただいて、できるだけ教育委員会を通して実行して頂きたいと思います。

それから出前授業をおやりいただいたら、できるだけその内容あるいは成果をクラブのホームページで発信していただけるとありがたいのです。他のクラブの参考になります。私共の豊中ロータリークラブでは、出前授業の主題、講師名とその内容をすべてホームページに公開しておりますので参考にさせていただければ幸いです。

将来のささやかな夢としてロータリークラブが中心になって、出前授業をやれそうな組織・団体のネットワークをつくることができればよいなと思っております。出前授業が、できそうな組織はいろいろありますが、その一つは教師の集団です。特に総合大学は非常に多くの深い専門家をかかえておられます。しかし、専門分野の広がりで見ると、大学よりもロータリークラブの方が広いかもしれません。この二つが連携するだけでも、出前授業というより学校教育支援のための素晴らしいボランティア集団ができると思うのです。

以上、多少急ぎましたが、私の話を終わらせていただきます。少し時間が残っております、皆さんからご意見、ご質問をいただければ有難いと思います。どうもありがとうございました。

●村木職業奉仕委員長

どうも先生ありがとうございました。

出前授業の推進ですが、7月から動いていたのでは、間に合わないことがあります。すぐにも動いていただきたいと思っております。それで今先生からお話ありましたように、どんな質問でも結構でございますので、いろいろなお話がありましたので、ご質問していただけたらと思っております。

●畑田職業奉仕副委員長

理想的には、2月ごろに計画をつくっていただいて、それを教育委員会に提示していただきますと、4



月の中ごろくらいまでに教育委員会が学校の意向をふまえて計画をつくってくれます。それができた後で、学校と講師が直接コンタクトされるのが一番理想的だと思います。学校の年度とロータリー年度とが若干ずれておりますので、継続性を考慮した計画をお願いします。

●高槻(浜田厚男)

さっきのゴムの話をもう一度詳しくお話いただけませんか。ゴムは何故ネチャネチャになるのですか。

●畑田職業奉仕副委員長

この質問にほぼ完全にお答えするには、もう一つゴム分子の架橋(橋かけ)の話をせねばなりません。先ほど形状記憶ポリマーの話をしました。皆さんが形状記憶ポリマーを、昔よく使っておられたのは、さお竹の被覆です。竹そのままでは、使っているうちに、表面が汚くなるので、少し太目の形状記憶ポリマーのチューブをかぶせておいて、湯をかけるときゅっと縮んで表面がポリマー膜で覆われたさお竹になる。それから、最近どこでも使っているのは、電線の被覆です。昔は絶縁テープというのがあって、それを電線が裸になった部分に巻いたのです。これはだんだんとネチャネチャになってきて、ほこりがついて汚くなる。今は電気工事を見ておられたら分かりますが、電線が裸になったところに少し太目のポリエチレンチューブを入れまして、それをヒーターで温めるときゅっと縮まって絶縁膜になります。これも形状記憶ポリマーです。どちらも、室温で作った高分子の細いチューブの分子間に化学的に橋架けをする、すなわち、化学結合の橋を作って、その形を記憶させたうえで、高温にしてやわらかくしてから高圧ガスで膨らませ、そのまま冷却したものです。このとき材料の高分子は伸びたまま冷やされて動かなくなったので、チューブは膨らんだままなのです。それを再び高温にしてやると分子の各部分が動きやすくなって縮み、元の細い形にもどるのです。

この話を頭に入れていただいたうえで、ゴムのネチャネチャの話に戻りたいと思います。ネチャネチャの次に砂のようになる理由もお話します。これはかなり複雑な話です。先程、ゴムがネチャネチャになる

のはゴムの分子鎖が切れて短くなり、折角の橋架けの効果が無くなってからだとおっしゃいました。分子鎖の切れたところは、切断直後は非常に反応性の高い状態で、酸素などの働きで安定な構造に変わっていくのですが、場合によっては切断直後の活性部位が原因となって、新しい橋架け結合の出来ることがあります。ゴムの劣化の初期段階では分子鎖の切断の効果が優先するのですが、ゴム本来の分子鎖がどんどん切断されて短くなってくると、この再架橋の効果の方が大きくなって、最終的には橋架け密度の高い金網のような構造を持ったものが出来上がります。このような分子は、ゴムとは違ってその部分、部分が非常に動きにくく、砂のように硬いものになるのです。

ただ、これを小学生に完全に理解してもらうことは不可能なので、小学生に話すことは減多にありません。小学校では「君たちには難しすぎるので、これからよく勉強して、大学あるいは大学院に入った時に、思い出して考えてくれるように」と言っております。そうしますと、感想文に、「おじいちゃん、私一所懸命勉強して大学に行くから、そのときまで大学で待っててね」などと書いてある。これも、小学校への出前授業の楽しみの一つです。

●戸田パスト・ガバナー

職業奉仕というのは、ロータリーの基本でございますから、次年度どうぞよろしくお願いいたします。本日は畑田先生の大変珍しく、またああいう話を小学校でされ、驚きと関心を持って皆さんは聞くとおっしゃいます。

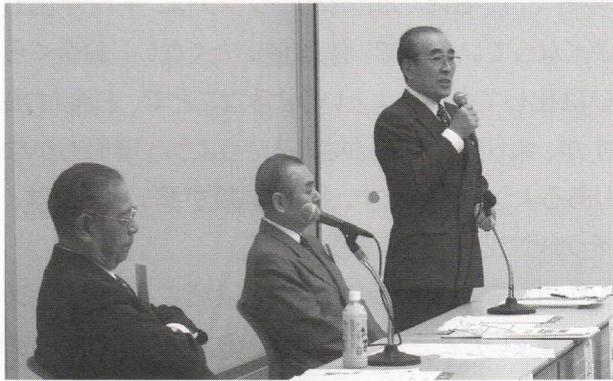
私もインターアクトクラブで話をしたことがありますが、そのときの話は、元京都大学の総長をされた平澤興先生がガバナーをされた時に私たちに話されたことでありまして、「ベートーベンの声が聞こえた」という話でありました。それを聞いた会員みんなが感動したことを思い出します。感動することで自分の心が前向きになって、やろうという気持ちになる。次の職業奉仕委員長会議でそういう話もまじえていきたいと思っています。皆さまどうもありがとうございました。



社会奉仕部門

10階 1002号室

＜リーダー＞
パスト・ガバナー 神崎 茂 (大阪西)
＜サブリーダー＞
次年度社会奉仕委員長 江上 清夫 (豊中千里)
＜サブリーダー＞
地区研修委員 畑田 豊 (大阪城南)



●神崎パスト・ガバナー

次年度の委員長の皆さんにお集まりをいただきまして、きょうの協議会で、勉強なされたことを材料にされ、7月1日から始まります次年度の社会奉仕の活動計画をじっくりおつくりをいただくという役割が、きょうの協議会にはあります。

100年前のシカゴのロータリークラブが設立された時点から、活動委員会として最も歴史が古いのが、実は社会奉仕委員会だと思えます。

御存じのように4人が、ふつうのごくありふれた社交クラブとして、まずロータリークラブを1905年にポール・ハリスさんの発想で始められたということ、それらのことについては皆さんもよく御存じのことです。発足早々に、一生懸命、会員増強、会員集めをしなきゃいかんということで、活動していた中で、ドナルド・カーターという人がロータリークラブに入るように誘われまして、入ってもいいですよという話になりました。

話を聞くと、ふつうのシカゴには何百とあったようでございますが、ふつうのいわゆる社交クラブ、会員の親睦を図る社交クラブであると。その上に、しばらくすると、お互いに商売の便宜を大変経済的にも厳しい時代でございましたので、お互いに知り合いを広めて、お互いに信頼できる関係でビジネスを相互にやっていたら都合であると、親睦と同時に、お金うけの足しにもなるという考え方、相互扶助といいますが、親睦と相互扶助という二つの柱でロータリークラブが始まったという話です。

そして、カーターさんという人が誘われて、そういうクラブのあり方を聞いた上で、それならば当時のシカゴの町にいっぱいありました社交クラブと何ら変わらないと、そして何か会員、相互の利益であるとか親睦であるとか仲間うちのことだけでは、この組織は発展しませんよという発想をしたわけです。何か公の、世の中のために尽くすようなことが、そういう活動があれば、そういう考えがあれば、入会してもよろしいよと。今の大阪でも、そういう反論をする勧誘された人がいるかもしれないですね。ロータリークラブって何か余裕のある人が1週間に1回集まって御飯を食べて、お互いに便宜を図り、いろんな意味で親睦を図っていると。それじゃあ、余り興味ないよという人がいてもおかしくない、同じようなことをいうカーターさんという人があらわれまして、それもそうだよと、ポール・ハリスは素直にそれを認めまして、そして、3番目の柱、ロータリークラブの、当時、綱領といっていたかどうか知りませんが、目的の一つに、シカゴの福祉に貢献をするという3番目の目的をつくり上げたわけでございます。

そして、最初にとりあげたプロジェクトが、これも皆さん御存じの公衆トイレを、当時シカゴの町にそんなものはなかったのです。公衆トイレをつくれればみんなが助かるだろうというふうな発想でもって、結果的にはシカゴの町、歩道の下に、二つの公衆トイレを設けたという話は、もう皆さんが御存じの話でございます。

写真なんかで皆さん御存じですが、あれは歩道の上に、工事の何か小屋みたいなもの建っておりますが、あれは実はトイレじゃなくて地下へ下りる入り口なんですね、あの写真は、歩道の下に、そういう空間を設けて、公衆トイレをシカゴの町でつくったという話は、皆さん御存じだろうと思います。

そういう社会奉仕的なシカゴ市の福祉に貢献す



るという趣旨で、身体障害者の福祉活動なんかに一生懸命、この活動を展開をしていくというのがございます。

この公衆トイレをつくったという話は、有名な話なのですが、これはそう簡単にはいかなかったんですね。発足当時のロータリークラブは、そんなに会員がいるわけじゃありませんで、寄附が集まるわけがございません、お金も何もないと。そしてそのシカゴの町のいろんな団体に話しかけをいたしまして、そういう人たちを糾合してそういう雰囲気盛り上げていったら、公衆トイレをみんなのためにつくろうという運動を始めたわけです。

その場合に、いろんな地域社会のいろんな団体に話をし、一緒に巻き込んでやっていったと。結果的には、2万ドルかかるとのですね。一つ1万ドルかかったのです。今から100年前の2万ドルですから、恐らくこれ、大金だろうと思いますね。それもまた障害が起こりまして、そう素直に、ああ、そうだ、そうだ、いい、いいということにはなったわけじゃございませんで、まず反対運動が起こったのですね。

どこから起こったかといったら百貨店組合が、まず手を挙げて、そんなものは反対だというわけです。それから、酒場組合も反対をいたしました。なぜならば、当時、シカゴの町でトイレの必要、生理的に必要な場面では、まず女性は百貨店にかけ込むのです。なにがしかの物を当然買うことにつながると思いますが、そして百貨店のトイレを借りると。今でも多少そういうことあるだろうと思いますが。男性はどちらに行くかという、酒場へ行くのですね。昼間から、朝から酒場があいているのかどうか、私はその辺のことはわかりませんが、酒場へかけ込むのです。ビールの1杯も飲んでトイレをお借りするというのが当時の習慣だったみたいでございます。したがって、商売のチャンスが薄くなるということで、二つの組合が大反対運動を起こしたということです。これ、実際でき上がったの1906年から7年の話ですけれども、実際には2年間かかって、ようやくできた。その2万ドルというのはシカゴ市が出したということであります。

ロータリークラブは、最初からそういうどんどんお金をそういうプロジェクトに出していくというような、今日では、日本のロータリークラブは、平均年齢も高くなっているんで、体は使いたくない。お金ぐらいは出してもいいよというようなことで、お金は出すが、余り身体は動かさんというような場面もかなりあるように思います。平均年齢が高いところは、そういうことだろうと思うのです。

私は、去年86クラブ、皆さんのところ、全クラブ回らせていただきまして、クラブの大小にかかわらず、大変熱心に社会奉仕活動をおやりになっているという事例を、これはもうクラブが大きいから立派なことやっているとか、クラブが小さいから、会員数が少ないから大したことがやれないとか、そんなことは一概には言えないです。各クラブの歴史、伝統、リーダーの考え方、それらによって、大変すばらしい社会奉仕活動をやっておられるという場面がたくさんございます。

昨年、もう引退をされましたが小泉総理は、会社もいろいろある、人生もいろいろだと言ってひんしゆくをかっておりましたが、私の体験からしまして、ロータリークラブも本当に大中小、サイズはともかく、取りまぜて、さまざまな立派な奉仕活動が存在するということを再認識させていただきました。

まず社会奉仕、これ社会奉仕っていうコミュニティーサービスっていう言葉そのものが、じゃあ、そのカーターさんがそういうことを言い出して、でき上がったときに、これ社会奉仕っていう言い方をしておったんかどうかですが、実は、先ほどもCLPのところまで話が出ておりましたが、1927年、これロータリー財団が立ち上がった年でございますが、このときにベルギーのオステンドというところの大会がございまして、大体、今のように規定審議会があって、そこで決議をして物を決めるというふうなルールがまだなかったころには、国際大会の席上での決議が、今の決定事項になったと。このオステンド大会、1927年のときに、四大奉仕という言葉ができ上がったのですね。それまでは、それはどうしていたかといったら、そんな言葉も何もないですから、社会奉仕と



という言葉も使われなかったわけです。当然、アーサー・シェルドンの職業奉仕っていうことも、当然、シェルドン自身は、職業奉仕、ボケーショナル・サービスなんていうことは、一言も言っておりません。27年になって初めて四大奉仕で、クラブ奉仕、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕という四大奉仕っていうこの言い方が生まれまして、今日に及んでおるといこととであります。

じゃあ、それまではどうしていたかというんですが、Internal activityというような言葉を、これはクラブ奉仕のような内部、ロータリアンの間でのいろいろなお互いの助け合いサービス、必要な仕事をお互いに分担してやるという、Internal activityというような言い方、内部での活動というような言い方。それから、External activityというのは、クラブから外に対する活動という言葉があったぐらいです。Internal activityとExternal activityというような言葉の中で、今のコミュニティサービス、社会奉仕というのは、考え方も進められていったということとでございます。CLPのお話がございますが、ある意味で奉仕プロジェクト委員会というようなものでまとめようというのは、そういう今の27年よりもっと前の、もとの、最初のころのロータリーの姿に、ある意味で戻る考え方が出てきたんじゃないかというのは、私の感想でございます。

これ、今の四大奉仕といいましても、もう今や、コミュニティという言葉をつい最近まではテリトリーと言っております。大阪でも何区と何区が私のテリトリーだという。これももう、テリトリーという言葉が消滅いたしておまして、我々大阪市内のような大きな区域の場合はローカリティーというような地域といいますか、そういう言葉に実は英語の表現も変わっておりますのです。ですから大阪市内全域どこからでも、この86クラブは会員を募ることができる。市内どこかに住んでおられるか、職場を持っておられれば、それが昔でいうところのテリトリーになるんだという考え方で、このコミュニティという言葉は、もともとは村とか町とか、せいぜい小さな町シティーぐらいの区域のことをコミュニティ

という言葉で表現したと思うのですが、御存じのように国際奉仕の分野で、WCSってというような考え方がございます。ワールド・コミュニティ・サービス。コミュニティっていうのは世界がコミュニティなんだというような言葉がどンドンしておまして、どこからどこまでが、いわゆる社会奉仕で、どこからどこまでがWCS、国際奉仕なのか。あるいは青少年の問題にしましても、いろいろ非常に混乱といいますが、区別がなくなりつつある。

そして、いろんな奉仕プロジェクトが単年度単位、RIの会長を初め地区のガバナー、クラブの会長、幹事も、1年で任期が終わることになっておりますが、最近、特に去年のステンハマーさんあたりからは、プロジェクトは継続性が必要だっていうような、きょうのCLPの話でも委員会は3年単位の委員会、3年ぐらいの経験が必要だという考え方で、そこでリーダーシップを確立しようじゃないかという考え方で、ロータリーも日々変化をしておるとい気がいたします。

今日の手続要覧では、1923年に始まりました職業奉仕に関するステートメントが、一つの基本になっておるといいます。それから、1923年の決議23-34っていう有名な決議がございますが、これは単なる決議の一つなんですけど、これは一つの大きなルールということになっております。

ぜひ、社会奉仕活動をお考えになる場合、当然、立案される場合、手続要覧5ページほどの文章ですけれども、一応目を通していただくということが必要だろうと思いますね。思いつきでおやりになるのではなしに、こういう原理、原則がありますよということの上に立って、ひとつお考えをいただきたいというふうに思います。

そのほか社会奉仕に関する文章もいろいろございます。それらのものも参考にいただきまして、これから皆さんの中から具体的な事例について、ケースについて発表があると思います。大事なことは、他の団体と協力をして目的を果たすといひますか、去年のステンハマーRI会長がそういうことを言い出しましたですが。ロータリークラブとして



社会奉仕を考える場合、イニシアチブはクラブがお持ちをいただきたい。どこかの市役所、区役所のできなかつたようなプロジェクトを下請のような形で区役所からもらってくるというような考え方は、ロータリーの社会奉仕の基本的な考え方ではないんだと。人のやっていることに乗っかっていくというような、これ一番安直といえますか、やりやすいやり方なのですが。極端なことを言えば、お金だけぽんと20万とか30万とかクラブから出して、そして私どもはこんな社会奉仕をやりましたというような考え方に、やっぱり問題があると思うのです。

先ほどのCLPでも出ましたクラブ会員全体のコンセンサス、委員長と副委員長が勝手に決めるというんじゃなくて、複数のプロジェクトの中から、皆さんで議論をして、できるだけ多くのロータリアンが参加をして、全員参加というのが理想ですけれども、委員長さんの思いつきでぽつと決めてしまうと、いったん決めてしまったら、それはひとり歩きしてしまいますから、そういうことではなしに、やはりもともとロータリーの活動の目的そのものが、やはり deal of Serviceっていいですか、奉仕の理想っていうふうに翻訳されておりますが、サービスっていう理念、考え方を実行に移す。

ロータリークラブは総称してサービスクラブという言い方をされておりますが、皆様御存じのように、クラブはいろんな種類のクラブがございます。その中でロータリーはサービスクラブという種類のクラブの元祖的存在だと思っておりますが、サービスクラブとしてのロータリーはそういうサービスの理念とともに、それを実行する、実施することによって体験を得ることが、サービスの体験を得るとということが非常に尊重されなきゃならんのです。

私も大した奉仕活動をやった経験もございませんが、例えば御堂筋、掃除して歩くというようなことをしましても、初めは寒い日であったりしますと、おっくうなんです。本当、正直言っておっくうなんですけど、ロータリーとして参加して、人の落とされたごみであるとか、御堂筋あたりは、ごみなんか割合ないのですが、やっぱり目につく、多いのはたばこの

吸殻ですね。たばこの吸殻を拾って歩くと、私の古い友達のロータリアンは、私はもくひろいするためにロータリアンになったん違うぞとって文句言っていました、そういうことも実際には、やったことない方は抵抗ありますよ。ごみ拾いなんて、私も75年生きておりますが、そんなことをやった経験ないわけですから。ロータリーで、みんなでやるからできるのです。

やりますと、やっぱりさわやかな体験ができますよ。御堂筋の両側を1キロずつぐらいですが、全体というわけにはいきませんから、それぐらいごと、二、三時間かかって、もう目の前で、若者はアベックで石の上へ座り込んでプカプカたばこ吸ってる、その下には、たばこの吸殻いっぱい落ちていたわけですよ。その目の前へ行ってたばこの吸殻を拾いますと、いかにも皮肉なおじさんやなど、嫌みなおじさんやなどというような顔して見えていますけど、「ここへ捨てないでね。ごみ箱へ捨ててね。」と言うたら、「はい。」とって割合素直に返事されて、何か文句の一つも言われるかと思いました。そういうことも、つまらん話ですけども体験として持ちますと、何時間保つか知りませんが、たばこの吸殻が一つもなくなってスカッとしました。

これは後日談もあるのですが、東警察署で、その活動の届けをしに行きましたら、道で店出ししたりして営業活動すると、手数料っていうのですか、3,000円とられるんですけど、我々のロータリーがやりまして、何と3,500円とられましてね。奉仕活動だといっても警察はロータリーがよくわからないですね。3,500円とられまして、これを新聞社に言いましたら、大変な記事になりまして、毎日新聞が夕刊で1面だあと、ロータリーがこういうことをやったら東警察署は3,500円手数料をとったとって大きな記事になりました。後で、天下の警察も、済みませんと。今後は奉仕活動については、この3,500円は頂戴いたしませんって警察が言いました。要するに、そういう体験を通じて、我々社会、世のため人のためにつくす、ささやかな経験でございますが、それはやはり、さわやかな気持ちを我々



は体験することができます。

実際に何もしないでサービスの理念、I deal of Service、よくわかりましたといってじっと座っているんじゃないくて、ロータリーが活動するということはそういう意味であります。

皆さんはもっとすばらしい立派な奉仕活動をやっておられるということは、私はよく存じ上げておりますので、どうぞこれからの時間、その辺の、実際におやりになっている話を聞かせていただきたいと思います。それらの話を参考にされ、各クラブで次年度の社会奉仕プロジェクトをお考えいただきたいと思います。

●畑田地区研修委員

研修委員会というのは、今年度初めて生まれた委員会でございます、ロータリー研究会というのがございましたが、この二つを合体させて、それぞれ各クラブのお手伝いをし、あるいはロータリーそのものの活性化を図るための勉強会を開いていこうということで生まれたのではなかろうかと思うわけでございます。

私はどちらかと云いますと、文系で、理論の方は弱いのです。それで過去30数年間、実践、前に立っていつも先頭切って走るというふうにロータリー活動をしてまいりました。

きょう、ここにお集まりの皆さん方は社会奉仕委員会で、各クラブには四大奉仕がございます。とりわけ私は社会奉仕が、クラブの活性化というこ

とでも、あるいは各クラブの名を上げるにも、社会奉仕委員会の果たす役割は大きいと思っております。国際奉仕・職業奉仕も大切でございますが、限られた部分、限られたことしかできません。ロータリーの基本はやはりコミュニティサービス、先ほど、テリトリー、コミュニティという二つの表現が出てまいりましたが、私たちの住む町、住む国をよくしようというのがロータリーの本質であるとするならば、その目的に向かって、その地域が何を求めているのか、そして求めていることにどう応えるのかが我々ロータリアンの使命ではないかと思っております。

私は、古い表現であります、「温故知新」という言葉が大変好きでございます。故きを温ねて新しきを知る。

それぞれの各クラブで、毎年会長が、社会奉仕委員長が頭をお悩ませになるのは、「ことし何しようか」、「いや、もうあれやったで」、「もう、あんなのあかんで」とか、そういうふうな表現がよく聞かれるわけでございます。私も過去長い間に、ほとんどの委員会の委員長を経験いたしました。さらには、皆の嫌がられる委員長を何度も受けました。「もう受けるのやらんから、助けてえな。」と言われると、「よっしゃ、ほな、おれやったろか。」というようなことで、やってきたわけではありますが、社会奉仕委員会は嫌がられる委員会ではありません。むしろ、各クラブの花形委員会。委員長になれば、もちろん理事でもございますし、クラブの中枢を





いくわけでありますから、花道に行くのであります。そのかわり、できが悪いと、後に悔いを残すことも人一倍大きかろうかと思えます。

何をやったらええんやろうと。どうですか、私は今、「故きを温ねて」を申しあげましたけれども、5年前、あ、まだ記憶にあるな。10年前、それぞれの委員長さんは何をなさったか。当然、皆さん委員長になられたら、せめて各クラブの20年は20年、30年は30年の歴史をひもとして、社会奉仕委員会が何をしてきたかということ、全部一遍調べてみてください。それだけのことをおやりになった委員長さん、何人いらっしゃるのかなと私は考えたときに、余りいらっしやらないと思う。

私は、今日ここでちょっとお話するだけで、昨日、わずか半日でありましたけれども、8組、10クラブでございますが、その10クラブの5年間の社会奉仕、全部読んでまいりました。いやあ、これ何んでやめたんやろう、ことしもおやりになったらいいのになと、沢山ございました。先ほど、神崎パスト・ガバナーからお話がありましたように、ロータリーは単年度で終わるといことがそのひとつでありましたし、あるいはサービスは service であって We service ではないと、いうふうなことでしたが、時代はどんどんと変わっておりますし、社会のあるいは国の求めるところ、ニーズも変わってきております。それに対応していかなければどんどんと退化していきだろろうと思えます。

先ほど、CLPについてもいろいろお話がございましたが、私なりに申し上げますと、ちょっと前部分が多くて、もう一つポイントが絞り切れなかったのではないかと。簡単に言いますと、CLPなんて難しく考える必要はないのであります。要するにクラブの活性化を図るために、出るをおさえて入るを図るといいますか、会員の増強でありますとか、収入面の方を考えていくということが一番の大切な要点でありまして、会員を増強するためにどうしたらいいのか。あるいはクラブの簡素化のためには委員会の編成をどのようにしたらいいのか、それを考えていかなければならないのではないか。

私たち研修委員会の委員は、それぞれのクラブのCLPだけじゃないのです。CLPは、一つのパーツにしすぎないわけですが、それぞれ皆さん方が思い悩み、どうしたらよかろうかという部分が、もしあるとするならば、そのことを申し出ていただいて、研修委員を派遣するなり、ガバナー補佐のアドバイスによって、それを補っていくことが私たちの使命であろうかと心得ております。ただ、申しあげましたように、なにぶん、まだ3月にスタートした研修委員会でございます、恐らく、神崎ガバナー、ほかのパスト・ガバナーも、どないしようかなというのが本音のところではないかと思うわけで、私が猫の首に鈴をつけるように、嫌な事をいろいろ言ひまして、それはそうやないで、ああやで、こうやでという試行錯誤を重ねながら、皆様と一緒に悩み、考え、進んでいきたいと思っております。

社会奉仕といえますと、今、大きな問題に取り上げておりますのは、環境問題であります。環境といひましても、空気が、水が、あるいは緑がある。きょうのこの資料の中にも淀川のクリーン作戦の問題でありますとかが出ておりますが、大阪は摂河泉といひますが、和泉は別にいたしまして、皆さん摂津と河内の人たちばかりでございます。河内には大和川が流れておりますし、摂津には琵琶湖から淀川が流れております。それからBY運動といひまして、琵琶湖と淀川の環境をよくしようというグループもございます。南の方では、大和川を美しくしよう。真ん中には寝屋川、玉串川、平野川、猫間川もございます。この川の浄化をいかにしていくか。

ここで水問題であります。水は、ふんだんに日本にはおいしい水がございますが、世界どの国でも、水は大変な問題であります。この水をよくするためには、どうしたらいいのか。まず山の緑を保たなければいけない。そうしたら植林をしようやないか。いや、木を植えたら、後は間伐もしないかん、草抜きもしてやらんといかん。そういうように、いろいろと社会奉仕をする部分では、数多くの問題が残っております。



問題がないとするならば、世の中は万々歳でございますが、皆様方、周囲をごらんになって、いいことと悪いこと、どっちが多いでしょう。何となく情けないような部分の方が多い。その情けないような部分の改善をしていこうというのがロータリーの果たす役目ではないかと思っておりますし、そのことを世の人たちの先駆けになってやっていけばロータリーを認知していただけるだろう。

そのことが、皆さん方の活動が広報につながります。

新聞社、テレビ局を呼んできて、これ撮してんか、これ書いてんかというのでなく、まずみずから、皆さん方それぞれが努力して実践して、そのことに評価を得てPRされれば、そんなええ団体やったらいれてもらおうかと、決してごちそう食べて、あるいはお金を使ってのんびりお話を聞く、もちろん社交団体としてスタートはしたが、今は奉仕団体として立派なロータリーでございますので、そのことが両立できるようなクラブ運営ができるように、それはひとつに社会奉仕委員長を承られた皆さん方の双肩にかかっているのではないかと思います。

私は、一研修委員でございますが、各クラブからお呼びがございましたら、どこへでも参りましてご相談に乗ります、お手伝いもさせていただきます。私は去年、各クラブをきょうのお話以上に回数を周りましたし、あるいはそれぞれのクラブでご活動になった活動には全部参加させていただきました。まず、実践すること、行動すること、それがロータリーの要諦ではないかということを申し上げます。

●江上地区社会奉仕委員長

本年度、地区社会奉仕委員の委員長を仰せつかっておりますが、実は、次年度も地区社会奉仕委員長を拝命いただきまして、これから皆様方と一緒に手をとって、次年度1年間事業を進めて参りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

社会奉仕といいますと、ご経験もあるかと思いますが、社会奉仕にはまず社会奉仕活動、二つ目は環境保全活動でございます。三つ目は交通問題、交通安全活動。四つ目は社会奉仕関連活動の四つに分けられると思います。そこで、まず社会

奉仕の活動といいますと、先ほども地区研修委員の畑田様の方からお話ございましたように、ロータリークラブは、私の経験では70%ぐらいは社会奉仕の仕事だと思っております。現実には私はこの1年間、そのように感じました。ということは、あらゆる部門に首を突っ込まないといけないわけです。だから、広域奉仕活動とも言っているわけです。笑い話で失礼ですが、社会奉仕というより、肉体労働委員会やないかと笑ってましたんですが、あっちこっち飛び回らないといかんということでございます。

まず、社会奉仕活動でございます。これは、皆様も御存じのように、ダメ・ゼッタイ運動の展開ですね。麻薬、覚せい剤の乱用防止活動、青少年なんかは最近減少しておりますが、いずれにしても多くございます。そこで、これは大阪府・薬務課の方で取り扱っておられますので、私たち、大変、協力させていただいております。

2番目の血液の充実、運動ですね。これは日本赤十字血液センターとロータリークラブ、これももう広く協力させていただいております。特に血液につきましては、大変少ないのです。ラジオでも放送しておりますが、非常に血液が不足しているのです。これも危険な状態だということらしいので、日本赤十字社の方から私に直接電話ありまして、何とかしてほしいとおっしゃるんで、大学生とか各企業にお電話いたしまして協力していただいているんですが、ロータリークラブといたしましても、皆さん献血にご協力をいただきますようお願いいたします。

また、ダメ・ゼッタイ運動を大阪府が10月から11月に大キャンペーンをされるそうです。これに私、先日会議に出ていただきたいとのことで、出席してまいりました。ぜひ協力してほしいとのことですので、またご案内申し上げますが、一大キャンペーンに参加させていただこうと思っております。

次には、環境保全の問題でございます。環境保全は、とにかく大変な地球全体、世界じゅうに環境問題というのは、協力しなければいけないと



ということで、私たちもできるだけエコ生活について、できるだけ節約したり節約したり、例えばゴミ問題、自動車の排気ガス、工場の排気ガス、これをグッと減らすことによって、大分違ってくるのではないかと考えております。

私たちもこれから公害に関しては、できるだけ企業、また企業だけではなく、個人としても取り組むとで、ロータリークラブもクリーン作戦をやっていきたくて考えております。

環境問題につきましては、地区の環境委員が次年度も委員会の方で各担当を決定させていただいております。環境問題を担当していただく方の方からいろいろとお話があるかと思っております。環境問題、大阪府ですばらしい環境を、いわゆる環境の問題をクリアした企業を表彰しています。そこでロータリークラブは表彰されている企業をお呼びしています。11月ごろには皆さんお集まりいただくと思っております。環境問題にどのようにして取り組んだか、クリアしたか。お話に来ていただくということで、11月に予定しております。また詳しいことはご案内したいと思います。

「おおさか環境賞」大賞クラブということなのですが、うちの方が推薦するというのもあるのです。

それから世界環境デー、6月にございますが、この運動への参画。それから「なにわエコ会議」にも参画、環境保全セミナーの開催と、いろいろ連絡が参っておりますので、また皆様にご報告させていただこうと思っております。

次は交通問題でございます。これは1人1人が交通にお気をつけ、安全に取り組んでいただきたいと思っております。

本年度の社会奉仕委員会ですが、来月の11日、春の全国交通安全週間です。このときは大阪城公園のところ集まって、大阪府知事・市長、府警本部、学校関係でしたらPTA、それからロータリー、ライオンズ、各代表の皆様が集まります。皆さんも、お集まりいただき、キャンペーンをおこないます。これは30分ぐらいで終わるのですが、大阪府知事の話がございまして、最後に必ず女優さんがキャン

ペーンのため来られ、最後にオープンカーに乗っていただいて、その辺をパレードし、解散となります。皆さんもそういった行事を行い、交通事故防止をお願いしたいと思います。

社会奉仕関連活動、皆様も御存じだと思いますが、これは災害に対する義援金というのが今までございました。災害の義援金。よくお願いいたしましてお世話になっておりますが、ことしは能登の方の地震がございまして、皆様にご案内申し上げ、大変ご協力いただき、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。

ここで申し上げたいことは、本年度から自殺防止につきまして取り組んでおります。皆様、御存じだと思いますが、自殺防止、去年の7月ぐらいに急遽、飛び込んできた話です。大阪ビフレンダーズクラブ大阪センターが自殺防止のセンターで、その理事長が、RIの元理事の菅生パスト・ガバナー。理事に戸田パストガバナーなのです。社会奉仕委員長、ちょっと話があるのとのこと、私に話が参りまして、すぐ取り組んで頂きたいとのこと、7月も入ってすぐで、どうしていいのかわからず、とりあえず義援金を集めようと、そうしますと各クラブの方から、これは人頭分担金でやるのか、浄財でやるのか、何でやるのかという話が参りまして、私、もちろん分担金なんてとんでもない。これは、自分の心の気持ちです。100円でもいいのです、200円でもいいのです。少しだけ、いわゆる災害の見舞金のような形でしていただいたら結構ですと言っておりましたが、卓話に来てほしいということで、2クラブほど参りまして、いろいろとお話しさせて頂き、またお電話でお話したこともあるのですが、最初は後手々々でした。私にすれば大したことないと思っていたのですが、不手際なことがあり申し訳なく思っております。

やっと落ちつきまして、次年度は継続するのか、しないのか、ということがございますが、私は継続をしていただきたいと思っております。

これは継続でさせていただくように、次年度新谷ガバナーには申し上げます。本当に、心、



気持ちでいいのです。100円でもいいのです。そういう形で取り組んでいただければと思っております。よろしく願い申し上げます。

広域活動は、ユネスコの寺子屋の協力によるユネスコ、寺子屋の運動の協力とか、書き損のはがきの、1円の募金なども取り組んでおります。社会奉仕というのは、本当にいろんなところに活動と取り組み、とにかく社会奉仕というのは、府庁へ行ったり市役所行ったり、次はちょっと来てくれといわれ、日本赤十字社大阪支社へ行ったり、いろいろ飛び回っているのですが、本当に社会奉仕って、何でこんなにあちこち走り回らなければと思うぐらい、いろんなところに突っ込むのです。

社会奉仕というのは、ロータリークラブで本当に重要な委員会であると思っております。これからは、皆様方と私と、楽しくいろいろ1年間やっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから社会奉仕の場合は、クラブそれぞれが皆様独自で自主的にいろいろ奉仕活動を行っていただきたいと思います。

委員会としては、バックアップをいたします。

以上で社会奉仕の次年度事業計画を立てておりますが、急に何が入ってくるかわかりませんので、それはまたそのときに組みわせていただこうと思っております。

とにかく四つです。社会奉仕活動、二番目には環境保全活動、それから三つ目は交通安全活動、四つめは社会奉仕関連活動と四つ、私は四つにして分けておりますので、そのような形で進めてまいりたいと思います。

●枚方(新庄幸一)

枚方ロータリークラブの来年度、社会奉仕委員長をさせていただきます新庄でございます。皆さんのお手元に配られている資料は、本年度2006年度の実績として直前のクラブの例会で配布しました淀川河川敷のクリーンハイクの写真をプリントアウトしたものです。クラブとの連絡の行き違いで、ここへ来てテーマを確認したところ「しだれ桜の植樹」

という、おとし私どものクラブが行いました事業がテーマになっておりましたので、資料とは違いますが「しだれ桜の植樹」のお話をさせていただきます。

この事業は、おとしのこの地区協議会がきっかけとなっております。おとしの地区協議会の中でここにおられます神崎バスター・ガバナーがRI会長賞にチャレンジすることを推奨され、昨年度の私のクラブの会長が強く感化され、RI会長賞へのチャレンジを会長方針の中心とされました。その一環として会長になったときにはぜひ行いたいと考えておられ、市民のためにそしてまた会員のきずなを深めるために、桜の植樹の提起をされました。この考えを受け、担当の社会奉仕委員長を含め協議をいたしました。

私も、そのとき幹事をさせていただいておりましたので、担当委員長さんとお話をさせていただいている中で、この年が枚方ロータリークラブの45年目の年になっており、クラブとしては何の事業も式典も行わないのですが、50周年にみんなで桜のもとで周年式典をしようじゃないかということで、「50周年に向けた植樹」を基本コンセプトに、またクラブとして45年の記念事業として桜の植樹を考えました。

当初は、淀川の河川敷に桜の植樹を行いたいという希望を持っており、淀川の河川敷でお花見ができる環境をつくりたい、市民のためにそういう環境をつくらうということで働きかけたのですが、淀川工事事務所が頑として受け付けていただけませんでした。淀川河川敷堤防には計算上計画されたもの以外、決して植えてはいけない、持ってきてはいけないというお話でした。そしてまた、私たちに「あなた方には植樹の実績もないじゃないですか」という話もされました。それならば、まずは実績をつくらなければいけないという考えが出てまいりました。

そこで、私たちは淀川への植樹という夢を胸にしながら、枚方市行政が行う植樹計画に協力しようという考えを持ち、公園課及び土木課と協議を繰り返してまいりました。その中では関西外大が



移転をした跡の公園、第2京阪国道への新道、そして天野川が候補として挙げたのですが、関西外大の公園はオープンが来年度のオープンになっておりまして、当年度ではとても事業としては完成をしないということで断念いたしました。また第2京阪国道への新道につきましては整備がおくれていることと、実際に植樹に至るかどうかわからないということで断念いたしました。天野川は他の団体が既に始めておられることからクラブの事業として成り立たないということでこれも断念し、再度、枚方市と候補を打診しました。

そこで枚方には枚方八景というのがありますが、その一つでもある万年寺山に大阪ガスとNTTから枚方市に寄贈された土地があり、その土地に公園が整備される計画があり、桜が植えられることが計画されており、協議の結果、その桜を枚方ロータリークラブが寄附し植樹することとなりました。植樹式は会員参加のもと、1月20日に行われ、その直後、例会で、記念プレートに載せる標語をメンバー全員で考え53のアイデアの中から、「咲かせよう奉仕の輪 桜と共に」という文字を刻むことに決めました。

クラブとしましては地区補助金の申請が長年行われておらず、今後のためにも活用しようという考えから、地区の補助金の申請も行いました。3月4日には御茶屋御殿展望広場としてオープニングセレモニーが行われ、枚方ロータリークラブも枚方市から感謝状をいただくことになりました。枚方ロータリークラブの活動を広く広報していくという目的もあり、この御茶屋御殿展望広場へのしだれ桜寄贈が朝日新聞3月2日大阪東部版に取り上げられ、京阪ケーブルテレビジョンという地域のケーブルテレビにも取り上げられ、枚方の防災放送でもあるFM枚方にも取り上げられました。

まさに今、植樹された桜は満開とは言えませんが、愛らしい花を何輪かつけております。予定どおり4年後の50周年には満開の桜の下で50周年が奉仕の輪を広げながら花咲いていることと祈念いたしております。

●大阪中央(西口)

岩田年度の社会奉仕の委員会の委員長をさせていただきます。

ことしのお正月に、震災孤児で里親事業をやっております小島さんというご家族のおうちに1月13日の土曜日に伺ったのですが、12日の新聞に出たよということで、新聞記事を下さしまして、それをコピーさせていただきました。もう一つの記事は、この1月17日に関連しまして、小島勝人君の妹さんの汀ちゃんという方が、学校の何かの原稿を書いてほしいと言われて、投稿した原稿らしいです。それをお母さんのお許しをちょうだいしまして、我がクラブの例会で皆様方にお配りした資料でございます。

この里親事業と申しますのは、震災が起こったのは平成7年の1月17日でございますが、当時、熊澤ガバナー年度かと思えます。そのときに、ガバナーの二大重点目標の一つとして、阪神大震災への長期的支援を掲げられました。

大阪中央ロータリークラブにおいても、フォーラムを開催いたしまして、いろんな意見をいただいた中から、里親クラブ事業について、地区の奉仕に積極的に加わっていかうではないかということで、芦屋市に住む、当時8歳の小島勝人君の支援を決定いたしました。

当クラブは、お兄ちゃんの小島勝人君なのですが、妹さんの小島汀ちゃんの方は大手前ロータリークラブの方で支援いただいているかと存じます。支援の内容ですが、当時、地区から100万円という資金をちょうだいいたしました。それから大阪中央ロータリークラブが姉妹提携をしております台北圓山ロータリークラブというのがございまして、そこから50万円、それで150万円ですね。それに大阪中央ロータリークラブの資金を幾らか出しておりますが、トータルで400万円前後になろうかと存じます。

具体的な支援の内容ですが、里親ということで毎年度の当クラブの社会奉仕委員長が中心になりまして、小島勝人君のご家庭に定期的に訪問



したり連絡してあげたり、それから大阪中央ロータリークラブの家族が参加する行事には積極的にお越しいただいたり、本当に父親がわりになって、いろんな相談に乗ってあげるという里親事業でございます。ロータリークラブの事業と申しますと、大体、単年度1日か2日で終わってしまうの多いかと思いますが、本当に気の遠くなるような述べ12年にまたがる事業となっていました。小島勝人君は現在大学の2年生になっておられます。それでサークル活動は、現在、ロータリーの精神が入ったのかどうかわかりませんが、ボランティア活動のサークルをされているようです。ことしの10月に小島勝人君が20歳になられますので、それを記念いたしまして、我がクラブで積み立てておりました、定期預金として残しておりました100万円を贈呈する予定でございますが100万円プラス、どのようなものを作って終了しようかと次年度の当クラブでの検討課題となっております。

通常短い期間で終わる社会奉仕の事業なのですが、気の遠くなるような10何年という事業、よくまあ続いたなと思います。私自身は、熊澤ガバナーのときにロータリーに入ったのですが、入ったときからずっと続いているなど、そういう気の遠くなる作業でございました。

小島勝人君のお母さんも、すごくお元気になられ、一生懸命働いておられますし、息子さんもアルバイトでも頑張っておられます。

これでロータリーの精神の一つでも生かされたのではないかと、ささやかながら喜んでおります。なかなか表には出ない事業なのですが、地味な事業として継続できたという事例でございます。

●大阪そねざき(宮田日出美)

こちらに書いてありますとおりの盲導犬育成支援です。初めは10周年という事業でやろうかということで、そのときの親睦ゴルフの委員長さんがゴルフの親睦と一緒にやらないかということで、10周年事業として始めたのです。それはいいことやっているので、ことしで4年目になるのですが続いております。

ロータリーのクラブの人たちっていうのは、いいところでプレーしたいっていうのがあれなのですが、その分、育成事業の方にお金を入れてくださいっていうことで、約3万円ぐらいですかね。1万円ぐらいの寄附をお願いしまして、初めての年度は一応80万円。それから2年目が50万円。これ50名参加ですね。それから、去年3回目が65名参加で50万円ですか。1頭育てるに当たって、盲導犬というのは300万かかるそうなのです。

だからまだ全然1頭にも満たない、1人にも当てられないというぐあいになっているのですが、いろいろやっていくうちに、いろいろ見えたものがありました。ロータリークラブの広報活動になると思うようになったのです。

人が人を呼んでメンバーさんがゲストを呼んでくれるということで、そのゲストが去年、おとしとで、そねざきロータリークラブの会員になっております。それとともに、これはうれしい誤算なのですが、やめられた方、やむを得ずやめられた方、退会者の方のなんかにゴルフやられる方にはお声かけさせていただいているのですが、それが2名ほど、これによって帰ってきていただいています、だから、そういう意味ではすごくいいかなと思っております。若い世代のゴルフをする人たちなんかを呼び込むことにもあれしてまして、ロータリーに入っても30代前半ですね、そういう方でもちょっとロータリークラブに興味があるっていうふうに思っただく、こんなことをしているのだということで、すごく興味





を持っていただけるようになったことです。

次回5月の29日火曜日なのですが、どれだけ集まるかわからないのですが、これはずっとやっていきたいなと思っております。だから、先ほどの大阪中央さんですか、そちらの方のすごく永い、うちも頑張ってやっていけたらなと思っております。

●八尾(小林茂禎)

八尾ロータリークラブの事業といたしましては、曾爾高原での自然の中の宿泊体験学習という活動事例を発表させていただきます。

八尾市小、中学校教員が生活指導上の問題解決に向けて研究推進を図ってこられました。この激変する社会の中でさまざまな困難な事態を抱える児童や生徒が学校や家庭を離れて宿泊し、自然の中で共同生活を体験する、自己変革や社会生活への適応を試みる場を提供するという趣旨で、具体的には学校になじみにくい児童・生徒を中心に参加を促して、平成9年8月に第1回自然の中で奈良曾爾村にある国立曾爾少年センターで開催されました。その後、平成13年度からは、リーダー研修も開催しております。主催はこの八尾市の小、中学校の指導研究協議会と共催といたしまして、八尾の校長会、そして八尾ロータリークラブでやっております。

八尾市教育委員会では、この取り組みにおける成果としては2点あるのではないかと考えております。第一に、ふだん余り接することのない自然の中で、多くのことを学んで、その中から育っていく子供たちの姿です。確かに自然が少なくなったことありますが、社会全体が人の触れ合いが少なくなると、自然と直接触れ合うさまざまな体験の機会が乏しくなっていることから、取り組みの大きな成果を上げております。野外炊飯、夜間のハイキング、スイカ割り大会、キャンドルファイヤー、全員によるレクリエーション、川遊び、竹細工の一輪挿しづくり、その残りの竹で竹トンボづくりをしました。そして、天体望遠鏡のすばらしい景品もいただいて、竹トンボ大会などを本当にさまざまな体験が行われました。同じ御飯を食べ、また一緒

にお風呂に入り、一緒に寝るという共同生活を送ることで、協力することや思いやりの心など、教室や家庭では味わえない体験をしたと思います。

ただ、友達をつくるのが苦手な子供たちなので、最初は大変きこなく、打ち解けるのに時間がかかりましたが、多くの大人たちやほかの学校の子供たちの支援で、人間関係ができると、ずっと友達だったかと思うぐらい笑顔を見せ、成長したことが見られました。そして、第2に成果としまして、学校への登校を渋っていた子供たちが、この自然の中で参加することで、少しでも登校できるようになったという報告も来ております。

子供の作文を一つ紹介させていただきます。小学校6年生です。

最初はこれに参加する気持ちはなかったが、先生が強く勧めてくれたので参加しました。1日、2日目と、みんなと一緒に楽しく遊んだりしていると、初めて会った人とも仲よしになりました。一番印象に残ったのは野外炊飯です。帰ってからは料理のときにお母さんのお手伝いをできるようになりました。何か今までの経験したことのない気持ちで、本当に楽しかったです。今でもそのときの友達と文通しています。今まで共同生活が苦手な学校への興味もなかった私ですが、これからは先生、仲間に入れて、残り少ない小学校生活を楽しもうと思うようになりました。

そして、先生の方からも、すこし作文書いていただきまして、中学生の教員の先生からは、「全体を通して感じたことは、教師が必死になれば子供も必ず必死な表情を見せるということだ。竹トンボづくりで見た表情、野外炊飯で見た表情は、本当に生き生きしていたと思う。それは、すぐそばで大人が見本となって必死になっているからではないだろうか。大人が必死さを忘れてしまい、それを子供に望むのは酷なことだ。あの表情を忘れないようにしていきたい。」と、このように先生方も評価されております。

大阪府教育委員会もこの取り組みが子供たちの健全育成に成果があると認めています。団塊の



世代の大量退職を控え、平成14年から八尾市の
新任者研修会としての側面も持っているということ
があります。最後に八尾ロータリークラブ社会奉仕
委員会といたしまして、多くの人たちのご支援を
いただき、本当に事業が継続して、これを行うと
なっております。私たちも、子供たちが別れるときに、
初め嫌々参加したものが、最後に本当に手を
振っていい顔で帰ってこられたことを覚えています
ので、これを続けていきたいと思っております。

●交野(金光次郎)

去る2月10日、IMで交野ゆうゆうセンターにて、
第3組、四条畷、門真、香里園、寝屋川、枚方、
寝屋川中央、守口、守口イブニング、大東中央と
大東、合計11ロータリークラブがご参加いただきま
して、岩田宙造ガバナー・ご来賓の皆様も多数
ご来場していただき、「水と環境保全」というテーマ
で、各ロータリークラブから、環境・水について発表
願ひ、滞りなく終了させていただきました。

生駒山系のおいしい水、私も引っ越して、
何十年いただいておりますが、まずコーヒーが
一番うまかったと、今でも思っておりますが、この
おいしい水をどうすれば長く続けられるか、私自身
も事業も含めて水を汚染しないように、環境保全
のことを私なりに、また企業として少しでもお役に
立てるように取り組んでおります。

●江上地区社会奉仕委員長

地区の補助金の問題ですか。私も財団の方は
直接余り関係ないのですが、実は皆様の方から、
こういうことをやりたい、ああいうことを企画したい
というときには、地区の補助金としてご用意してい
るわけですね。これは地区補助金って、皆さん
御存じだと思います。

今のところ、2,000ドル、2,000ドルの予定でござ
います。2,000ドルといいますが大体今の評価で
いえば22、3万ですか。そんなもんですね。その
ぐらいを補助しているわけです。

もう年度が迫ってきて、資金的に余りますと多少
なりとも少し出ても、それはもう大目に見ている
みたいですが、私も審査委員の1人として出させて

いただいているんですが、できるだけ皆さん、地区
の補助金をご利用なされることをお勧めしたいと
思います。一応、審査がございまして。全部書いて
いただくしおりがございまして、それを出して
いただいても、皆さん御存じだと思いますけど、
ただそれで、どんどん補助金をお使いいただき
たいと思っています。

皆様にここでお願いがあるんですが、最初に
申し上げたように8月の4日第1土曜日、第1回の
地区委員長会議がございまして。そのときに、どう
しても話させてほしいと、財団の委員長がおっしゃ
っていますので、初めておいでになります。私は
よろしいでしょうということで、私、お願いいたし
ました。それから、そのときにまたどんどんご質問
していただいたら結構です。

地区補助金は申請を出して承認をとらないこと
には絶対おいてこないです。2ヵ月に1回の審査
だったと思います。事前にそれがもらえるものだ
という動きをしないで、できるだけ早く相談とか、
準備とか、余裕を持って動いてもらったらと思
います。

●宮田地区社会奉仕副委員長

委員長が申しましたとおり、地区の社会奉仕
委員会としましては8月の4日に第1回目の委員長
全体会議、それと11月に環境問題に関する
研修会という勉強会を行います。そして第2回目に
委員長全体会議、3度、全体の委員会を行います。
委員会としては、「ダム・ゼツタイ」とか、献血とかを
行っております。

交通安全につきましては、各クラブでもされて



いると思
います
ので、時間
があれば参
加してい
ただいた
らと思
います。地
区の社会
奉仕委員
会は事業
を行いま
せん。



青少年奉仕部門 10階 1004号室 1005号室



●井上パスト・ガバナー

まず私の方から10分程度、最近の青少年にかかわる情報をちょっとお伝え申し上げまして、その後、4人の委員長さん方からお1人15分ずついろんなインフォメーションをしていただき、これで大体1時間10分でございますので、あと20分をフロアからの発言あるいは御質問等に当てたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

国際ロータリーのプログラムは今、一般プログラムとしてはただ一つ、ポリオの撲滅、これが一般プログラムとして国際ロータリーのプログラムであります。実は常設プログラムというのがございまして、これにインターアクト、ローターアクト、青少年交換、ライラ等のいわゆる新世代にかかわるプログラムが国際ロータリーの常設のプログラムとしてございます。国際ロータリーがいかに青少年を重視しているかというあらわれかと思っております。皆さん方は各クラブにおかれまして、1年間青少年の奉仕委員会を御担当ということで、RIが、大変重要視しております新世代のいろんなプログラムについて御理解をいただきたいと思っております。

最近のニュースであります。実は青少年交換におきまして、外国のロータリアンによるセクハラ問題が起きまして、RIが告訴されるという事態になりました。RIの方は、各地区においてその問題を処理してほしいというところから、各地区にそういう危機管理に関する問題を処理する危機管理委員会を設置してほしいと。その前提となる危機管理規定がない限り、今後、青少年交換活動はその地区には認めないというような大変強硬な姿勢に

- ＜リーダー＞ 井上 暎夫 (千里)
パスト・ガバナー
- ＜サブリーダー＞ 西上 博幸 (吹田江坂)
次年度青少年活動委員長
- ＜サブリーダー＞ 湯木 尚司 (大阪)
次年度ローターアクト委員長
- ＜サブリーダー＞ 田中 啓之 (大東)
次年度インターアクト委員長
- ＜サブリーダー＞ 徳岡 昭七郎 (大阪天満橋)
次年度青少年交換委員長
- ＜サブリーダー＞ 松井 隆夫 (大阪天王寺)
地区研修委員

出てまいりまして、私どもの地区の方も急遽、次年度からこの危機管理委員会を立ち上げることになりました。

発端は青少年交換でございますけど、地区の事業としまして、例えばライラとかあるいはインターアクト、ローターアクト、いろんなことでいろんなことが起こり得る状況はもちろん想定をされるわけで、私どもの危機管理規定は、そういう新世代にかかわるすべてのプログラムについて、今後、起きる問題について、この委員会が対処するという姿勢で臨みたいということでございます。これは、皆さんの年度、この7月から始まりますのでよろしくお願いを申し上げます。

地区では、独自であります。青少年奉仕部門の四つの委員会、米山奨学生、GSE、それと財団・学友と、この三つの委員会を加えまして新世代の合同委員長会議というのをもっております。これはロータリーがかかわる青少年の委員会は、この青少年奉仕部門だけにとどまらず国際奉仕とか、そういう部門にもやっぱりあるわけでありますので、この七つの委員会が情報を交換しながら、いろんなことを進め、独自の調整機関と申しますか、そのような委員長会議を持っております。実はこの新世代の合同委員長会議の中から、かつてプログラムにかかわった人たちのOBを中心に新しいロータリークラブをつくってはどうかという件が出てまいりまして、新しい新世代によるロータリークラブを、今、設立の準備中というところに来ております。このクラブは全く今までの、私どもが想像する、例えば例会です。ホテルで食事が出て、そういう例会スタイルではなくて、こういう会議室を借りて、食事を出さないロータリークラブ、ですから比較的新世代の皆



さん方に安い会費でロータリーをやっていただくようなところを今考えております。2年前に神奈川の方でかながわ湘南クラブというのはもう既に立ち上がっておりますし、そういうことに刺激されて西日本で初めてかなと思っておりますが、今そういう状況にあるということをお話を申し上げたいと思います。

きょう午前の部でガバナー・エレクトがお話しになったように、この青少年奉仕部門に新たに国際奉仕部門にありました青少年交換が私どもの部門に加わりました。このことは先ほど申し上げました危機管理規定の関係もございまして、同じグループということで青少年奉仕部門に新たに加わったということでございます。

●西上青少年活動委員長

我々委員会は17名のスタッフで運営をいたしてまいりますので、スタッフ一同どうぞよろしくお願いいたします。

青少年活動委員会の役割について少しお話をさせていただきます。地区ではロータリーの活性化と地域のつながりを達成するために、DLP、CLPの推進がなされているわけですが、RIの提唱事業のライラの実施とともに少年少女ニコニコキャンプを実施してまいります。また青少年活動正副委員長様を通じまして、各クラブに地区の方針及び青少年活動の情報交換また研修を行う活動をいたします。

委員会の年間の主な行事は、まず少年少女のニコニコキャンプそしてライラ、また正副委員長会議と、大きくは3つの行事があります。

この少年少女のニコニコキャンプにつきましては、ことし8月に池田ロータリークラブさんのホストにより、府立青少年海洋センターにて実施をいたします。小学生の高学年、つまり4年生から6年生を対象とした2泊3日のキャンプの実施でございます。この少年少女たちがキャンプの共同生活を通し、友情や心の豊かさを養い、自然に触れ、そしてチームワークの大切さや奉仕の精神等を体験学習することを目的といたしております。同時に、ホストクラブさんが提唱されるローターアクトのメンバーが、プログラ

ムの企画、立案、実施に至るまでの、直接、児童をお世話することにより、リーダーとしての研修を積み場としての役割も担っておるわけでございます。

また、ライラでございますが、これは秋と春がございます。秋のライラにつきましては、初級、上級のコースがございます。この10月に大阪梅田東ロータリークラブさんのホストによりまして、府立少年自然の家で実施をいたします。また、春のライラにつきましては、来年5月に大阪中之島ロータリークラブさんにホストをいただきまして実施をいたします。このライラは当地区では18歳から30歳の青少年を対象とした2泊3日の集中研修プログラムでございます。

1971年にRIの理事会は青少年活動プログラムの一つとして、このライラを採択したわけで、このプログラムは地区全体にわたり青少年とロータリアンを参加させる地区的な計画でございます。青少年の指導者及び善良な市民として資質を伸ばすことを目的としたプログラムで、日本では1976年6月に大阪羽衣青少年センターで初めて開催されております。

言うならば、日本のライラは大阪から始まったということになるわけですが、その後、1982年83年度におきまして、ライラ委員会が廃止されております。青少年活動委員会の中でライラを実施していくという形になってございます。また、この機会に地区主導型の運営からホストクラブ主導型の運営へと移行しております。

ロータリアンが青少年の模範のモットーに従い、クラブをあげてライラを実行し、地区青少年活動委員会がアシストをして今日まで運営をしております。

正副委員長会議でございますが、これも皆様方に今までアンケートやいろんなことでお世話になっ





ているわけですが、各クラブにおいて実施、または計画されている青少年活動の具体的なプログラム内容を事前にアンケート収集をいたしまして、各クラブへの情報として提供し、意見交換をし、地域の活性化、また青少年活動のより一層の反映を求めることを期待しているわけでございます。

7月早々に、また皆様方にこういった青少年活動の取り組み等についてのアンケートの御依頼をいたしますので、よろしく御協力をお願いいたします。

お手元の資料の中に一番下の表のところに、クラブさんへのお願いということで、今、私が申し上げました青少年活動委員会の役割とか、事業の目的内容を御理解されていると存じますが、いま一度、新たに認識をいただき、本日ここにお越しの皆様方には、各クラブへ帰られて、そして各ニコニコキャンプ、秋のライラ、春のライラには、ロータリアンの登録、また児童、青少年の参加をお願いしたいと思っております。

この秋と春に正副委員長会議を予定しておりますので、正副委員長様はぜひその場にご参加をいただきまして、地域の情報や、また地区の方針とかそういったものの研鑽を含めた意見交換、情報交換の場として活用いただきたいと思います。

ここで次年度のニコニコキャンプ、それと秋のライラ、春のライラのホストクラブをしていただきます各クラブから簡単に結構です、PRをお願いいたします。

●松尾副SAA

ニコニコキャンプを担当いたします池田ロータリー青少年奉仕委員長の松尾と申します。よろしくお願いいたします。短くということです、



キャッチフレーズだけでも申し上げたいと思います。「キラキラ太陽、キラキラ海、ニコニコ笑顔で楽しもう」覚えていただきましたでしょうか。どうぞロータリアンの皆様、参加児童、男女の御推薦等、よろしくお願いいたします。

●大阪中之島(中道正伸)

次年度、春のライラを担当させていただきます大阪中之島ロータリークラブ青少年委員長の中道でございます。来年の5月3日から5日までの間、2泊3日で大阪府立青少年海洋センターにて行いますので、ぜひ、ロータリアン2名の登録と青少年18歳から30歳の方の御参加をぜひよろしくお願いいたします。

●西上青少年活動委員長

本年度、少年少女ニコニコキャンプをホストいただきました寝屋川ロータリークラブさんに、終えられてよかったことと申しますか、また皆様方に御参考になるようなこと等がございますれば一言お願いいたします。

●寝屋川(畑山 勇)

去年のニコニコキャンプについて何も用意していないのですが、昨年8月の4日、5日、6日と思うんですが、金、土、日で場所は寝屋川市の野外活動センターで行いました。これは寝屋川市の隣の四条畷市にある山の中にあり、1年ほど前に依頼いただいた時点で実行委員会を立ち上げまして、たくさん参加いただくよう、みんなで一致協力いたしました。

寝屋川ロータリークラブでは、寝屋川市民支援基金というのをニコニコ箱の一部を利用して、いろんな奉仕活動をされている団体に毎年支援をしておりますが、そういう団体の中に青少年の健全育成ということで、軟式野球連盟とかソフトボール協会とかあるいはレスリング協会など、いろんなところに行っているんですが、IMの3組の例会に行きまして協力いただくようお願いし、そういう団体の方にもたくさん参加いただいて協力をいただきました。おかげでたくさんお越しいただきまして、夜の昆虫の観察とか自分たちで炊いた御飯で食べたとか、いろんな新しい経験をしたということで、父兄の方からもいろんな感謝のお言葉をいただきました。

●西上青少年活動委員長

秋のライラをホストいただきました大阪そねざきさん、ライラのお話いただきますでしょうか。



●大阪そねざき(鶴田正信)

去年、秋のライラを担当させていただきました、いわゆる琵琶湖バレイで、初めて大阪の地区を離れましてやらせていただきましたのですが、参加青少年の評判も好評であったし、そのほかロータリアンの方にも高い評価を受けたと思っております。私たちが去年担当させていただきました特に感じたことは、やはり、まず企画が大事であろうということです。参加青少年を多くスムーズに集めるかという点がやはりポイントになるのではないかと。そのために各クラブに早期に参加をお願いし、何回もお願いしていくということです。私たちの方では、ローターアクトクラブにも積極的に例会があったときには呼びかけさせていただきました。各ローターアクトクラブの世話されているクラブのご都合もあると思いますが、たくさんの会員の参加を、青少年の参加を働きかけるということが、やはりこのライラの成功のかぎになるのではないかと思っております。

●西上青少年活動委員長

そういう行事を終えられたクラブさんにとっては、やはりクラブが一丸となれる一つのきっかけでもあり、また、参加される児童や青少年の方々につきましても、行ってよかった、参加してよかったという言葉がほとんどでございます。今までIM単位で実施をしていたわけですが、本年度から地区全体ということになっておりますので、本日お見えの委員長様を通じまして、各クラブでこういった行事に向けての登録及び参加の申し出があるようお願いしたいと思います。

●井上パスト・ガバナー

CLPIについて、これはクラブを活性化する一つのプランではありますが、この青少年のニコニコキャンプあるいはライラ等、スポンサーいただくクラブの皆さん方、本当に御苦労であります、これを終わりますと本当にクラブが一つにまとまりますので、当たりましたら積極的に御尽力をいただきたいと思っております。

この青少年のニコニコキャンプでございますが、これは地区独自の事業でありまして、RIのプログラ

ムにはないのであります。実は数年前にこのニコニコキャンプをもうやめたらどうかという意見が一部出ましたが、ローターアクトの皆さんがこれはローターアクトの活動の大きな場になっていると。ですから、ぜひ続けてほしいという要望で、またそれぞれ今まで努力いただいたホストクラブの皆さん方のニコニコキャンプが本当にすばらしい成果を上げておりますので地区としてはやはり継続したいと思っております。

●湯木ローターアクト委員長

次年度ローターアクト委員会の地区委員長の大阪ロータリークラブの湯木でございます。私自身が26歳から30歳までの5年間、当2660地区のローターアクトのメンバーでございました。中川パスト・ガバナーが、ガバナーでいらっしゃるちょうど10年前の96年から97年度には地区代表を仰せつかりまして、非常に有意義な経験を積んだ思い出がございます。7年ぶりに現場復帰ということで、勉強を仕直し次年度につなぎたいと思っております。私自身、ローターアクトにめぐり会えたことに非常に喜びを感じております。またローターアクトのメンバーであったことにも誇りを持っておりまして、ローターアクト、本当に心から愛しております。そういう経験をもとに、現在の現役のメンバーにも何かそういうものを感じてもらえるように進めていきたいと思っております。

現在、次年度は、私どものローターアクト委員会は14名のロータリアンの方々に構成し進めてまいります。現在、当地区のローターアクトは21のクラブがございまして、会員は18歳から30歳までの学生さんから社会人の方まで約300名が私ども地区にはおられます。きょうお配りしました資料の方に、左側に例会日一覧表が、これが現在21クラブの各クラブが、大阪市内、北部ですね。池田・池田くれはさんや守口さんや各地区で例会を行っております。また右側の方には、これはもうローターアクトの目的であり、六つの目標という、これがテーマといえますか、これをもとにしながら、目標に、目的にしながら活動をするということで、これも私どものローター



アクトの会員名簿の巻頭にこのように添付して、常にローターアクトはこれを意識して活動できるような状況で進めております。

若い方とともに活動するわけで、私自身がローターアクトのときに申し上げました四つの力っていうものがございまして、一つ目の力が気力という、よく門はたたかないとあけてはもらえないと言います、自分自身が立ち上がろうとする思い、強い勇猛心と言いますか、まずやる気を持って活動に参加してほしい。見切り発車は脱線につながります。骨折り損に終わることもしばしばある。二つ目には知力、考え、しっかりしたビジョンを持って活動してほしい。私が地区代表をしましたときの国際ロータリーの会長のルイス・ピセンテ・ジアイさんという方がおられまして、「Build the future with action and vision、築け未来を行動力と先見の目で」というテーマで、まさしくこのアクションとビジョンが伴っていないといけな。

考えて動く力の行動力という言葉テーマにして、この気力と知力という二つの力、そして三つ目の力が協力でございます。やはり300名というメンバーがおります。その1人1人が共存、共栄と言いますか、そういう精神を持ってそれぞれが助け合い活動を進めていく。そして四つ目の力が、好きな言葉で、魅力という言葉があります。魅力ある人が集まれば魅力あるクラブができ、そして魅力あるクラブが集まれば魅力ある地区ができるという、そういう四つの力というものを、まずローターアクトの皆さんにも感じていただいて、何をやるにしても一つの物差しにさせていただきたいなと思っています。

この魅力的な人をつくるには自己研鑽と言いますか、自己を磨くということが非常に大事かと思えます。こういう自己改革の場がローターアクトにはたくさんございます。よく知育、徳育、体育とかいうような言葉もございますが、知育といったら勉強する知識ですね。体育というと身体、健康とか体を動かす、そしてこの三つ目の徳育という、これが非常に今、欠けていると世の中でもよく言われておりますが、道徳心と申しますか、こういう部分の私ど

も、何かアクターの方たちも何か勉強できる場がないかと、当たり前のことを当たり前にすることが一番難しいと言いますが、基本をしっかりとまず、私の活動計画の一番にございますテーマでございます。ローターアクトの会員であることに誇りを持ち、常日ごろから行動や言動、考え方によりフォーマル性を高め、世代を代表するマナーのある紳士淑女の育成に努めると読んでいると非常に難しいと思います。具体的にアクターの人たちに感じてもらいたい。

私は実は商売は飲食の仕事をしているのですが、店の方、会社の方でもちょっと最近おもしろい試みをしまして、若いスタッフが多いもので、いろんな人たちがいますが、品格向上委員会っていう委員会を店の内部でつくりまして、社員教育の一環としてそういう委員会をつくりました。品のある人、ない人、いろいろおりますが、そういう人をみんなうちの、まあ品が悪いというわけじゃないのですが、すごく品のある接客する女性であったり、まだ新入社員の入ったばかりのそういう若い男の子なんかいろいろ集めまして、そういう委員会をつくりまして、その中で皆それぞれスタッフが考えて、マナー講座、マナー教室を開いているのです。

これが非常にスタッフにも好評で、一つの例を言いますと、話し方ですね、会話術。例えば言葉遣い、立ち居振る舞い、その延長線に物事の見方とか進め方、そういうところにもマナーっていうものがやっぱり必要であると。そういう部分で非常にこういう試みが社内でもヒットしているのです。これをぜひローターアクトにもこういうふうな身近な部分でマナーっていうものもわきまえてもらいたい。

もう一つはあいさつですね。笑顔徹底 福がくる、あいさつ徹底 人が来るっていうような標語もございますが、あいさつも徹底しないとイケない。徹底することによってその物事の本質が見えてくるのじゃないかなと思います。あいさつが飛び交う職場とか環境というのは、明るい空気が流れていると思います。このあいさつというのも相手につながらないと意味がない。そういう意味で日々の暮らしの潤滑



油とも申しますか、こういうあいさつとか礼節というものをしっかりとマスターする、これによって、さらにフォーマル性高い環境が出されるのじゃないかと。

特にロータリーという世界も、ロータリアンの方はもちろんですが、非常にフォーマル性の高い団体でもあると思いますし、それだけにローターアクターにもそういう部分はしっかりと認識してもらって、逆にカジュアルしか知らない若い人は、フォーマルの世界へ行くのが非常にこわくてしょうがないのです、知らない世界ですから。

でも逆にフォーマルな環境をしっかりと知っとけば、カジュアルな世界にも十分対応できる素養はあると思います。そういった意味でローターアクトにもぜひそういうフォーマル性を持ってもらいたい。「ロータリーは分かちあいの心」というのが、次年度のウィルキンソン会長のテーマでございますが、私は分かちあいの心という言葉を感じたときにどういうキーワードが出てくるかなと思ったら、何か分かちあうっていうのは譲り合う心とか優しさとか人道的な考え方とか、やっぱり究極は愛という言葉じゃないかなと思うのですが、そういう部分も、よりフォーマルな中で、教育の中でまた活動を通して感じて築いていきたいと思います。

ここの活動計画の中には、この辺のテーマで書かせていただいているのですが、共通にして言えることは学ぶということなのです。

この第2660地区ローターアクトという団体でございますので、ロータリーを知る必要性がローターアクターにも大いにあると思います。私自身もちょうどポール・ハリスという、このロータリーの創始者の方の没後50年の時にもローターアクトの会員でしたのですが、そのときに私どもの地区では、ポール・ハリスの没後50年、ポール・ハリス氏について学ぼうというテーマで勉強した記憶がございます。このポール・ハリスさん、もちろんロータリーを知るにはポール・ハリスさんを知っておかなければと思いますが、それとともにRIの組織について、このローターアクトについてもまだまだ認識の薄い部分が多いかと思っておりますので、そうい

う部分をここに、特に3番に掲げていますローターアクト必携、ローターアクトガイドブックという、言わねばローターアクトの法律書みたいなものがございます、こういう分をきっちりと勉強する機会を持って、まずは学んで自分はどういう立場で、どういう組織のメンバーであるかということをしっかり認識した上で活動すると、活動にも幅ができて、より認識が深く、思いも寄せる部分が多いんじゃないかなと思います。

そう学んだ上で、ビジョンを持ったアクション、それを起こさなきゃいけません。そういった意味ではまずはこの6番ですね。活動の基盤をやはりローターアクトもロータリーと一緒に、各クラブの例会にあります。月に2回、各クラブがそれぞれの場所で例会をしております。例会内容の充実、特に卓話の内容であるとか、私はいつもおみやげを持って帰ってもらうような例会をしなさいとよく言っています。何も物じゃございませんで、その例会の出席者、ああ、よかったな、こんな話聞けたな、こんな友達とこういう喜びを分かち合えたなとか、そういう何かおみやげを持って帰れるような、そういう例会を築いてもらえるように各クラブの会長さんなんかにはお話をしていきたいと思っております。

このアクションの中では地域社会、このローターアクトの目的や目標の中にも地域社会との密接な関係、地域社会とのかわり合い、ニーズというものをやっぱり知らないといけない。商売でもそうですが、御用聞きという部分、やはり世の中で今何を求められているかっていう部分をいち早く察知して、それになかったようなものを、例えば商売でしたら商品をつくり上げて提案してという、そういう流れがありますが、やはりローターアクターも地域に密着して地域で、どう今ニーズがあるのかということをもっと知って、それを一度みんなで検討した上で活動のプロセスを通して実際に本番を迎える、これはまた一つのローターアクトの広報にもつながるお話かなと思っております。

現在、ローターアクトがしております地域社会との奉仕活動ですが、一つはまず献血活動がござい



ます。そして老人ホームや孤児院の訪問もいたしております。また、バザーを開催しまして、そこで収益として上がりました物を寄附したり、植樹なんかもして地域のそういう部分に役立っております。また各地域のお祭りなんかのお手伝いなんかも活動しているという報告を聞いております。

ローターアクトならではの活動で、国際奉仕、海外との触れ合い、国際交流っていうものもございしますが、まず大きなローターアクトの活動の中では海外研修が毎年秋に3泊4日で海外に参っております。海外研修の目的と申しますのは、まず一つがその地域と都市です、海外の国の歴史や文化を学ぶというのが一つの大きな柱でございますし、海外のローターアクターとの交流、そしてもう一つが海外ローターアクターとの共同奉仕作業、こういう部分の三つの柱をもちまして海外研修を行っております。その他ユニセフでございましたりセーブ・ザ・チルドレンという団体がございしますが、それに対して先ほどのバザーなども通しましてそちらの方に寄附をしたりという活動もございまして、里親運動もしております。

海外の子供たち、学校へ行きたくても行けないような子供たちに、1年間1万円で1人の子供さんの学費になるのです。そういう活動をして里親運動なんかも展開しております。また、クラブによっては海外との交流で姉妹提携を結んだりもしております。

私自身も地区代表のときに、タイ国で海外物資支援活動というのを行いまして、当時、そろばんが足りないと、タイの国の子供たち、東北部の貧しい国の子供たちは学校に行きたくても行けない。

ただ、学校へ行っていないくても年をとったときに必要な知識というのが識字能力と計算能力であると。計算能力の向上のために当時タイではそろばん教育が普及していたのです。数の原理を知るには一番いいということで。ただ肝心なそろばんを教える人は日本人がタイの人に教えて、それで教える人はいるのだけでも肝心なそろばんがない。それでたまたまその情報を知りまして、マスコミ等

にかけ合って告知しましたところ、一月で1,300集まりました。これを、当初はお送りしようと思ったのですが、やはりいろんな御提供いただいた方からのメッセージや思いを募られたものを送るだけでは申しわけないと思い、私はそれを持ってタイに飛びました。そして、タイの東北部の田舎町でございましたが、ロイエットという町に参りまして、向こうの学校に訪問し、学校といいますか村の子供たちが集まる場所に行きまして、そこでそろばんを手渡し、そのときの子供たちのまなざしというのは何とも言えない感激する部分に、非常に感動的な思いをいたしました。その後そろばん授業を拝見しまして帰ろうとしたらある子供たちが僕の手を引っ張りまして、彼らにとっては初めて見る外国人なのです。そろばん授業数時間を通して、非常に心が触れ合いまして、ランチをごちそうしてくれるという話になり、そして自分たちの食べる食事のままならない、そういう環境の中で私どもに食事をごちそうしてくれる。一生懸命向こうで子供たちがなれない手つきで料理をしてくれるわけです。

出てきた料理が一杯のベジタブルスープだったのです。野菜だけの一杯の、タイの香草なんかを使った料理で、シンプルな料理だったのですが、私は最高のごちそうと感じました。その子供たちの思いを感じて、心からのもてなし料理をいただいたような、そういう思い出になっております。

本当にそのときに、ロータリーの活動の原点というのは愛、喜びを分かち合うっていうのは、こういうことかなって実際に自分の肌で感じた思いがございまして、ぜひこの感動をローターアクターにも何か伝えることができ、実際アクションを起こしてどんどん感動するアクタライフを感じてもらいたいなと思っております。

ロータリーとローターアクトっていうのはこちらにも表記しておりますように、共同奉仕者という位置づけで考えていいと思います。そういう意味でも共同奉仕活動、ちょうどロータリークラブさんが主催されました橋の掃除がございましたね。中之島の橋の掃除がございましたが、あのときもローター



アクターのメンバーが参加させていただいて、そして共同清掃作業を行った思い出もございます。また、ロータリーとローターアクトの交流会というのもございまして、各地区の各クラブのロータリアンの方にも来ていただき、提唱、未提唱ともに皆さんお越しいただきまして、ロータークラブとともに、数年前の1例でいいますと、皆でお昼に手話を学びまして、その手話を通して身近に経験することのない手話でともに歌を歌いまして、午後からは円卓にいろんなロータリアン、ローターアクター、米山奨学生、いろんな方々に来ていただいて、円卓に座って交流会を持ったような思い出もございます。

また専門知識開発というローターアクターの一つの委員会がございますが、これは、やはり知識と経験豊富なロータリアンの方々にお話をいただく卓話の機会なんかも多く取り入れて、せっかくロータリーとローターアクターの特権として、それからロータリアンの方々との触れ合いは非常に大きなものだと思います。日ごろなかなか経験できないことですので、そういう専門知識の分野からお話をいただく、そういう場も各クラブにも進めていただきたいなと思っております。

インターアクトという団体、後ほど委員長様のお話でございますと思いますが、このインターアクトの皆さん、高校生の皆さんなんですが、インターアクト卒業された方に、ローターアクトにそのままエスカレーターで入会していただきたい、そういうふうな部分も含めてインターアクターの皆さんとの触れ合う機会も、ローターアクターからアクションを起こしていきたいなとも思っております。

他地区との交流というのもあります、他地区との交流は全国RAC研修会というのが毎年行われます。2月に行われるのですが、次年度も仙台で行われます。こちらの方にも多くのメンバーが参加し、また近隣の2640、2650、2680の皆さんとも、年1回は大きな交流会を開き、いろんな活動をしていきたい。その上にこのローターアクトの会長賞、RI会長賞という部分にもこういう活動を通して一番自信のある大きなそういう活動を、RI会長賞にも、皆さん大い

に出していただきたい、各クラブにも申し上げていきたいなと思っております。

私自身が感じたことをローターアクトに喜びを感じ、誇りを持って、そしてローターアクトを愛してくれるようなローターアクターを大いにつくっていくように次年度1年間頑張りたいと思います、どうぞロータリーの方々にも御支持、御支援いただきまして、また未提唱のクラブの皆さんにもぜひ、新しいローターアクトクラブ、これも会員増強の大きな一環だと思いますので、ぜひ、お考えいただきたいなと思っております。

●井上バスト・ガバナー

ローターアクトクラブというのは30歳で卒業いたします。ですから絶えず新しいメンバーの補充をしないとすぐ消滅するという運命にありますのでよろしくお願ひしたい。

私は2人の子供を持っておりまして、所属します千里には残念ながらローターアクトクラブがなかったのですが、親クラブの吹田さんにローターアクトがありまして、2人の子供をローターアクトに行かせました。そうしたら2人ともローターアクターを伴侶に選びまして、4人にふえました。どうか皆さん方、お知り合いで適齢期の青少年がおられましたら、ぜひ近所のローターアクターに御推薦をいただきたいと思ひます。

●田中インターアクト委員長

熱気あふれるローターアクト委員長のお話をちょうだいしまして圧倒されておりますが、そのお言葉に出ました14歳から18歳までの中学、高校生を対象にして、活動しておるのがインターアクトクラブでございます。学校主体の活動をしておりまして、この資料に書いてございます七つのクラブが推薦しております。高校名が書かれてございませんが、上からいきますと、大東ロータリークラブが提唱しておりますのが大阪桐蔭中学、高等学校。

それから谷野さんが副委員長で大阪阪南ロータリークラブが提唱されております、四天王寺高等学校、中学校です。それから庄野さんと松岡



さんの属しておられます大阪ロータリークラブが提唱されております、相愛中学、高等学校です。それから大阪南ロータリークラブさんが提唱されております清風学園です。大阪南西ロータリークラブさんが提唱されておりますのが、四天王寺羽曳が丘高等学校、中学校です。それから大阪住吉ロータリークラブさんが提唱されております浪速中学、高等学校です。それから八尾さんのロータリークラブさんが提唱されておりますのが金光八尾中学、高等学校です。

以上7校でクラブに属しております生徒が100名、顧問の先生が約20名、提唱ロータリークラブのインターアクト委員会のメンバーさんが合計で約40名、合計160名がかかわって活動しております。

活動テーマとしては、インターアクトのそれぞれテーマをこれまで決めてきておったのですが、やっぱり国際ロータリーが掲げておるテーマを継承するのがいいんじゃないのかということで、次年度は「Rotary Sharesロータリーは分かちあいの心」を意識しながら、地域社会への奉仕と国際理解を深める活動を推進したいと思っております。

活動方針なのですが、言いましたように学校を基盤としておりますので、それぞれの提唱クラブと学校の実情を考慮しながら学校長あるいは顧問の先生方と連携、協調して、インターアクトクラブの活動を支援していきたいと思っております。

近年、勉強が非常に優先しておりますので、クラブ活動が少し圧迫されている状況ですが、こういった環境だからこそ、クラブ活動に時間をくださいということで推進していきたいと思っております。少子化とか教育環境の変化が、そういったクラブ活動がだんだんやりにくくなり、勉強勉強とおるのですけど、少なくともやっぱりそういった勉強の合間に、人間味のある活動をする時間がとれるということが必要なんじゃないかということで活動をしていきたいと思っております。実際の活動計画につきましては、提唱クラブでありますとか担当のインターアクトクラブさんの意見を尊重して中身にちょっと個性の入ったもので支援していきたい方針

です。具体化する活動計画なのですが四つの活動内容が地区の主催としてあり、地区主催以外にも学校で、例えば募金活動とか周辺の道路の掃除とか、施設の慰問といったことは各学校でやっていただいております。地区が主体の内容としては海外研修です。海外にもインターアクトクラブがございますので、そこと交流をするということで、先方の学校でありますとか、施設、あるいは史跡などを訪問して国際理解と親善を深めようという活動をいたします。次の年度の提唱は大東ロータリークラブでして、担当は大阪桐蔭さんということになります。8月8日から11日の予定で、次年度は香港になると思います。

それから二つ目、年次大会ですが、インターアクトクラブの年間の活動報告と社会奉仕のイベントを行うというのが原則的で、年に1度の活動報告会へ皆様方御案内差し上げますのでぜひ参加いただき、インターアクトクラブがこんな活動しておるのだと、そして生徒たちが活動している様子というものはっきり見るということもできますので、ぜひ参加してほしいと思っております。提唱は大阪南ロータリークラブで、担当は四天王寺高等学校、中学校です。11月4日日曜日でございますので、ぜひお願いしたいと思います。場所は四天王寺高等学校、中学校を予定しております。

それから3番目、スクラムという活動誌33号の発行を予定しております。年に1度ですから、これ33年たっているという意味です。インターアクトの年間活動記録をまとめたスクラム33号を編集して発行するというので、提唱が大阪ロータリークラブさん、担当が相愛中学、高等学校さんのインターアクトクラブになります。発行予定は来年の3月ごろという予定です。非常に活動内容がよくまとめられておまして、ぜひ機会がございましたら各クラブにも配信しておりますので、ごらんいただけましたらと存じます。

4番目に新入生歓迎会。インターアクトクラブの新入生というのは、まさにロータリークラブの入り口に差ししかかっておるといようなことで、ようこそと



ということで、インターアクトクラブの新入生を歓迎し、各校のクラブ全員が交流する。各クラブは入りましても横のつながりが表面的にありませんので、この新入生歓迎会というのが、それぞれの学校のクラブの生徒たちの初めて出会う交流の場ということになります。ことしは大阪阪南ロータリークラブさんの提唱で四天王寺高等学校、中学校さんが担当いたします。来年の6月の予定でございます。

なお今年度、この年度は6月3日の日曜日に大阪府立総合青少年野外活動センターで交流することになっておりますので、参加をお願いしたいと思います。

この四つが年間の大きな活動内容なのですが、もう少し、新しいクラブが一つ、二つ欲しいなど、新しいクラブの設立に向けて地区内のインターアクトの活動が、いろいろな事情で減少傾向にあるので、皆さん方のお力添えをいただきまして、新クラブ設立というようなおいがしましたら、ぜひお声かけいただきまして、こんな活動しておるんですよといった説明とか、費用はどのぐらいかかるんでしょうかとかいった情報、ご説明させていただきます。

なお年間の会議なんかですが、リーダーシップフォーラム、これは海外研修へ行く前にどういう行動をするのだ、どんなことをやるのだ、そういったリーダーシップフォーラムという時間をとっております。あと地区委員とか正副委員長、クラブ顧問の合同会議を年に3回、9月、3月、6月に開きます。その他個別の会議につきましては随時開く予定にしております。近隣地区との合同委員会、これも随時となっておりますが、近年開かれておりません。必要に応じてこれは開催するということになっております。

以上が定期的な予定でございまして、もう四つ活動したらいいということではなくて、地区が推奨するのがこの四つの活動内容、このほかに学校独自で月次例会を開いて活動されておるということでございます。参考までに2枚ほど2006年から2007年度の活動内容に参加した生徒の声を

つけてございます。

まず海外研修ですけど、昨年はタイ王国に行かせてもらいました。清風学園の生徒の生の声です。

久しぶりに早起きをして身支度を調べ、大きな荷物を転がし、早朝から大騒ぎ。いよいよきょうから待ちに待った海外研修です。思えば用意に何日もかかり、ずっと前から心はせた海外研修。やっと海外に行く実感がわきました。

タイでまず初めに驚いたことは、タイの学生がとても積極的に僕らに話しかけてくることです。タイも英語は母国語ではないのに、英語を怖がらずに使っているところは圧倒されました。日本人ではなかなかできないことだと思いました。どうしても僕らは自分の英語に自信が持てず、人前で話すのに抵抗があります。しかしタイの学生は学んだ英語を必死に伝えようと話してきます。これはタイ人のすばらしいところであり、僕らも少し見習わなければいけないと思いました。英語はややこしい文法よりも、相手に言いたいことを伝えることの方が大切であると思いました。

次にタイで驚いたことは町の様子です。路上にたくさんの屋台があり、野良犬もたくさんいました。それなのに、日本でも珍しい超高層ビルもありました。あと、タイには川が多く、それを生活に利用している人もたくさんいました。バンコクで印象に残ったことは、とにかく明るく活気があることです。日本では見ることができないものをたくさん見ました。タイにはたくさんの日本語の看板があり、日本の製品があります。日本の会社もたくさんありました。タイの学生は日本の有名人のこともよく知っていました。しかし僕らは日本でタイの看板や製品を見かけることは少ないです。そう考えると、やはり国際社会において日本の方がタイより進んでいるのは確かです。しかし、タイの学生と交流して、人間の中身は日本人の方が劣っているのを感じました。日本人はもっと人間として大切なことを学ばなくてはとこの海外研修で思いました。

下の写真は交流をしている写真、真ん中の下側、これ、アサンブション高校へ行ったときに教室へ



入って、全員ではないですが、一部の生徒が写真撮ったスナップです。ステンレス製の机に座って、いすもステンレス製です。後ろ側は勉強の何か張り紙がいっぱい貼ってありまして、前の方に座っているのは向こうの生徒です。後ろ側のティーシャツを来ているのがインターアクターたちです。もう交流する気分になっていますが、目の輝き、動き、これが全然違うのです。

日本の学生たちは勉強疲れして、ちょっと元気がないのですよ。ところが向こうへ行って交流していると、だんだん目の輝きが、ぐんぐん、ぐんぐん目が輝いてくる、動きが活発になる、勝手に自分の意思表示をする、そういうのが出てきましてね。交流しているときの目の輝きというのが向こうの生徒と同じように輝いてきている。これは非常にいいことと思いました。

勉強疲れがどこか飛んだのじゃないのか、そういう勉強、勉強、勉強、これ必要なんですが、こういう時間を学校でもとっていただいて、短い時間ではあっても人間性を養うという時間があっていいのじゃないか、そんなことを感じさせられた内容でした。1人の生徒がこんな感じ方、いろいろな感じ方ございますが。

それから最後です。「年次大会を終えて。」これ去年11月に大阪住吉ロータリークラブの提唱で、浪速高校さんの生徒の分です。

「年次大会前日は緊張して開会式で皆さんの前でうまく活動報告が言えるかどうか不安でした。」というのは、ホスト校ですから、いろいろ準備、気を使ったのだと思います。「でも、失敗してもという気持ちで当日を迎えて、活動報告は僕なりにうまくいったと思いました。

その後の共同作業で僕たちは車いすの体験、アイマスクの体験、風船バレーボールをしました。その中で最も印象に残っているのは車いす体験です。毎日、講習が夜遅くまであり、「これ、勉強の方です。「遅くまであり、忙しくてなかなか車いすの練習をする時間がとれなかったので、当日の車いすの説明はうまくできませんでした。でも

車いすに乗ることはとてもいい経験になったと思っています。車いすに乗っている人を押したり、また自分が車いすに乗ったりすることによって、ふだん車いすに乗っているお年寄りや障害者の方の苦勞が少しわかった気がします。

アイマスク体験は少しこわかったです。暗やみの中をだれかに頼りながら歩くっていうのはとっても難しいし、付き添いの人を信頼していないと絶対にできないと思いました。年次大会に参加するのは今回で2回目ですが、参加するだけの前回と違い、今回は幹事校だったので、かなり前から準備をして大変でした。その分、終わったときは前回よりも充実感を感じました。この年次大会を終えて、僕は大切な経験ができたと思っています。僕は3年生で浪速高校のインターアクトクラブはこの大会で卒業ですが、また機会があればこのような活動に参加してみたいと思います。」

行動して、参加して、自分たちで何かやった、やったことの思いというのが残っています。非常に、私もマスクして歩きましたけど、階段なんか怖いですね。ここ階段ですよと言われても、もう進みにくいほど怖いです。だからそういう体験することで苦勞している人たちの心をわかる、相手に対する思いやりを感じるということも必要なんじゃないかなということで、いろいろ多感な年代を迎えておる中学、高校生たちに人間の生き方を少し学んでほしいなというところがインターアクトのねらいでございます。送り出したら今度はローターアクトというのが待っておるようでございますので、そういうルートにのっかればというように思っていますが、皆さん方のお近





くでもそうやってインターアクトの活動に参加しようというような機運がございましたら、ぜひ御協力をお願いしたいと思います。

●井上パスト・ガバナー

昨日、私、ロータリーの口座をつくりにある銀行へ行きましたら、その窓口の女性がロータリーにインターアクトクラブってあるのですねと声をかけられて、本当にびっくりしまして、あなたインターアクターですかと言ったら、いや違うと。私の卒業した学校もインターアクトクラブはなかったのだけど、友達から聞いたって言っていて、日ごろのこつこつした活動がやはり大事だなというふうに思いました。

●徳岡青少年交換委員長

The most wonderful program、楽しくやらないかんで、いつも一番初めにこれを言うことにしています。4番目になりますと、お先の方の話に聞きほれて、私は何を言えばいいのかわからないような状態になっています。

英語でYouth exchange program、私らは、いつもThe most wonderful programと、こういうふうに言っています。何でWonderful programかという、これは交換なのですね。留学じゃないのです。

15歳から18歳までの非常に感受性の強い女子、男子が、日本からはあっちの国、あっちの家庭の子供になるんです。向こうから来る子は、ついた日からこちらの家庭のお父さんお母さんというふうにしつけていますから、それで1年間、日本へ来て日本の子供になって、そこから日本の高等学校へ行って、そしてほとんどの高等学校では修学旅行の楽しみを体験させてあげようと2年生に入れてくれます。このごろ海外も行ったりますね。

来た子供に大変な体験なので、日本から行った子供、我々やっていますのは、言葉の関係で北米とヨーロッパを主体にやっています。ヨーロッパにもっと力を入れているのは、次の世紀でヨーロッパの世界での立場、力ということを考えて、ヨーロッパへ行くことを、北米よりもヨーロッパへ行くことを、

ヨーロッパも東ヨーロッパを含めてヨーロッパへ行くことを進めています、北米へ行った子供たちは1年間の交換滞在中で、最後の1ヶ月ぐらいロータリーの交換で行った子供たちばかりバスに乗りまして、20日間ぐらい北米を横断するのです。それはもう楽しい、後の報告にいっぱい書いてあります。

ヨーロッパへ行った子供たちは、同じようにロータリーの交換で行ったいろんな国の子供たちと一緒にバスに乗ったり、電車に乗ったりして1カ月ぐらいヨーロッパ中、ドイツに行っている子もイタリアも見た、ギリシャも見た、スウェーデン見た、スペインも行ったと、そういう最後の修学旅行をして帰ってくるわけです。

何でWonderfulかという、ほかのロータリーの委員会の行事と違って、季節がきたら行事をやっているふうじゃないんです。365日、しかも24時間子供を中心にして、そしてロータリーの人のカウンセラーさん、アテンドする方、ホストファミリーが24時間ついて、子供と一緒に喜怒哀楽を分かち合うのです。そして外国へ自分が送った子供たち、来た子供たち、そういうホストファミリーをひっくるめてロータリアンが本当のロータリーファミリーになるのです。だからWonderfulの上に、The mostをつけて宣伝しています。

ことは9月から12人、北米とヨーロッパのいろんな国へ、私行きたい、僕行きたいと言う子が行くことになります。そうすると、その先の国、家庭からも来ます。大方、女の子を出したところには女の子ということもありますが、別にそうとは限らないわけで、いつも問題になるのは、こっち側で受けて立つ方のホストのことですね。

ホストされる人が、子供を出したけれど、マンションなので、よう預かりませんという。マンションだからええんです。来た子は、何も変わった日本の特別の風景、様子、文化を見ようとして来日するのではない。ベッドないからベッド買いますという、それもいらんわけです。往復の飛行機の切符、それと何かあったときのための保険、それだけを



子供の家庭にもっていただいて、向こうへ送った場合、向こうの家庭であると皆見てもらうわけです。逆に、向こうから来る子もそういうRIのルールで、同じ条件で来日します。

学校代も要るし、制服代も要るし、交通費も要るし、基本は各交換したロータリークラブがもってやるわけなのですが、むこうの個人の人が、うちの子出しとんやから、うちが皆見ますと、そういう感覚と、中に、寄附という概念が日本と違いますから、どかっと出たりするわけです。

1人預かったら年間90万円ぐらい要る。基本は各ロータリークラブでお願いするわけです。だけれど、地区に5,000人足らずの会員がいるわけですから、その皆さんにいくらかお願いして、そこから割り当てていただくということです。それがこのごろ減っております。お金がなかったら、No money no honeyで、お金がなかったら何もうれしいことないわけです。今のガバナーさん、ノミニーさん、エレクトさんとで、侃々諤々やっているわけですが、地区からなにがしかの援助をいただいて、そして交換する各ロータリークラブの負担を減らしてもらって、このすばらしいプログラム、行きたいという子供たちは毎年ふえています。初め、錯覚して留学やと思いますが、留学と違う、向こうの子になって、向こうの言葉を通じて向こうの文化を覚えて帰ってくるのです。

下向いて、物もよう言わなかった子が大方です、日本の中学、高校生の子は、1年たって帰ってきたら、しゃきっと胸張って、人の前で堂々と自分の意見言うようになります。そしてはっきり自己主張をするようになります。1人で行っているわけですから、黙っていたら誰も構ってくれません。黙っとたら生きていけない。誤解されるから、はっきり言うようになって帰ってくる。向こうから来ている子もそういう子供はそういうことになります。

言葉はどうですか。全然心配要りません。もう、学校で言葉習わなかった方がよかったかも。向こうへ行ったら、その国の言葉を着いた日から、ファミリーから言われ、やわらかい脳が全部それを、

もう即吸収する。その子は1人やから必死になって覚えるわけで。

別に本を読むのでないけれども、3カ月もたったらまわりの皆が言うてること、教室で言うてることわかるようになります。ドイツ行った子でもフランス行った子でも、アメリカ行った子はアメリカなまりの言葉しゃべるようになり、6カ月たったらもう堂々とやっています。帰ってきたらもう向こうの子です。こっちへ来た子も全く一緒。でこぼこありますが。

井上パスト・ガナバーは我々のこのプログラムの最大の理解者です。我々の委員の中では大体10年ぐらやっている人は多くいますし、20年やっている人もいます。それはこのプログラムの、そういう毎日の感激に魅せられた人ではないかと私は思いますし、若い人に渡す仕組みをつくっていくということが我々のクラブの中でもありますけども、若干抵抗しているんですわ。外とのつながりがあります、一朝一夕にできません、何かあったというとき、きのうやった人で、どないしてしまんねん。頭おかしなって送り返したり暴れる子もおったりします。

井上パスト・ガナバーおっしゃったように、ハラスメントが発端でNPO法人にする最初の委員会として青少年交換委員会になっているわけですが、我々から見たらアメリカの悪い文化の端が入ってきたなと思うのですが、いずれ日本でもそういうことが起こるようになると思いますからそういう構成はすべきであると思います。

子供たちを交換した時点では1軒で面倒見るといのは約11カ月ですが、これは大変なことですし、子供にとってもせっかくのチャンス、不幸ですね。大体3軒ぐら回します。向こうへ行った子もそうですわ。3軒ぐら回します。それで皆さんのクラブの中のロータリアンの家庭で3軒ぐら見てもらうのが一番いいのですが、うちはもう年よりばっかりでよう面倒見んわということ、よくあるんです。

それは、それでその周りのお知り合いの方とかある場合には、ボランティアでやっていただくお方もおられます、きょう御出席の中には御子弟を送られた父兄の方もおられるわけですが、子供たちは



手を挙げる。手を挙げるのですが、お金のことそれからホストファミリーの数というのが日本の場合は障害になっているのです。

どうかこれを機会に、私どもの方もいろんな機会でお話をさせていただきますが、よくこのプログラムを理解され、そしてこのプログラムに参加していただくクラブがもっとふえてほしいと思います。

実は今、来ている子供たち、2人ほど連れてきて、そして、向こうへ行って帰ってきた子供たち2人ほど連れてきて、こんなおじいちゃんが話すよりもその子らに話さそうかと思っていましたが、学校がもう始まっていて、土曜日でも来れなくなりました。別の機会に、よくそういう子供たちを目の当たりにごらんになって、本当にこれはすばらしいプログラムだということを理解していただきたいと思います。そして、今年度は9月末まで皆さんにお知らせしますが、こういう形で子供たちを推薦してくださいというお願いを出しますので、できるだけたくさん参加していただきたい。

そして9月末で決まりましたら、今度出発は8月です。向こうの学校は9月です。この約11カ月の間に、委員会でお世話させていただき、オリエンテーション、向こうへ行くためにこんなことを気をつけなさい、こんな準備しないかんよ、行くのには国際的であるということは、日本的でないといかんよと、日本のこといっぱい知っとらな国際的になれないよと、こういう考え方で、8回ぐらいガバナー事務所でオリエンテーションをやって、相撲の仕切りみたいに出発前には心の準備も、気持ちもすぐ外国へ行けるような形に仕上げて行かすことにしています。

向こうから来る子も同じように来ます。それで、守らなければいけないこと、薬飲んだり、乗り物に自分で乗ったりしたらいかんとか、そういうこともしっかり何回も繰り返して仕込んで出しますし、向こうからもそういう子供が来ます。

本当にすばらしいプログラムで、皆さん自身がこの辺が本当のロータリーのサービスと思われるような企画ですから、ぜひともいろいろ御配慮願って参加いただくようお願いいたします。

●井上パスト・ガバナー

この青少年交換プログラムは唯一ロータリーの子弟も参加できるということと、交換学生が自分の子供になるということでもあります。

●松井地区研修委員

各委員長さんがお話しになり、未来をたくす青少年の育成という非常に大事な活動ですが、この活動をいかに受けとめるかということで私が今感じましたのは、委員会の活動に参加することで、その活動の重要性ということがわかると思います。最後にお話しになりました徳岡委員長さんの青少年交換委員会ですが、実は私の娘も交換学生としてカナダの方へ行かせていただきまして、当クラブも本年、4名の交換学生を受け入れております。経験をさせていただくことによって、今、徳岡委員長がお話になったことが非常によく理解できると思います。

●井上パスト・ガバナー

ポール・ハリスが始めましたロータリーというこの運動が、もう100年以上続いているわけで、このすばらしい運動が、やはり次にたくす新世代の皆さん方を育てないと、このロータリーっていう運動は継続していかないわけで、そのことを十分御理解をいただいた4人の委員長さん方が本当に熱く語っていただきました。

ただ残念なことは、私どもの地区からの一方的なお話が終わったことを、大変申しわけなく思っておりますが、来る7月から始まります新年度、どうか頑張って新世代のためにご尽力をいただきたいと心からお願いを申し上げまして、部門別協議会を終わりたいと思います。





国際奉仕部門 10階 1009号室

<リーダー> 若林 紀男 (大阪東)
 パスト・ガバナー
 <サブリーダー> 宮里 唯子 (茨木西)
 次年度国際奉仕・WCS委員長
 <サブリーダー> 居相 英機 (八尾)
 地区研修委員



●若林パスト・ガバナー

まず、皆様方には今日の地区協議会・部門別にご出席頂く目的は、7月からスタートする担当部門の指針をお考え頂くのに役立つ勉強会であるということをご認識ください。本日は次の方法で進行したいと思っております。

まず、私の方から国際奉仕全般をお話し申し上げ、次に国際奉仕WCS委員会の委員長さんからWCSに関する考え方・方針並びに最近の実践されたことを映像で説明いただきます。

国際奉仕部門ご出席の方々の中には、ロータリー財団のことを十二分に勉強しておられる方も多いかと思いますが、国際奉仕とロータリー財団は切っても切れぬ関係にあります。そこで居相さんからロータリー財団の真近の情報等も含めて御参考になるお話をさせていただきたいと考えております。

そのあと、少し時間を多くとり、皆様方から御意見、御質問をお受けすることにいたします。

私の方から少し国際奉仕全般について、お話し申し上げます。

当地区の国際奉仕委員会は、10年来国際大会への参加推進、世界各国のクラブから当地区クラブとの姉妹クラブ提携の申し出、当地区クラブの外国クラブとの提携の要望に対する仲人役を果たす、そしてRI関係者の来阪に対する接遇役を行う内容でありました。

昨年だったかと思いますが、水をテーマとしたゾーンフォーラムが開催され、そのホスト役を当地区が

要請され、受け皿として国際奉仕委員会が担当したことがあります。

新谷ガバナー・エレクトは、地区の国際奉仕部門について、もう少し具体的な奉仕活動を中心にすえたいとお考えになり、本年度より国際奉仕WCS委員会とされました。

四大奉仕の中で、近年一番守備範囲の広いのが国際奉仕と言われております。綱領の第4番目に書いてあります「国際間の理解と親善と平和を推進すること」、これを実践するためにはその奉仕活動の分野というものが大変多岐にわたっております。

特にRIは貧困を最大の要因と考え、その上に疾病、飢餓あるいは人権侵害、環境破壊があり、この大きなテーマを救済、解決することこそが綱領の実現につながると考えております。

どれ一つとっても大変ロングランの奉仕にならざるをえません。その奉仕がロングランというだけでなく、我々が国際奉仕を行う時に、様々な壁に直面するのです。

言語・習俗・経済・教育・宗教・文化などそれぞれの国が独自に持っているのです。この壁を理解した上で、奉仕に入っていく行かなければならないことを国際奉仕を行う際に十分注意することが肝要であります。

それでは、国際奉仕の何にどう取り組めば良いのか、ロータリアンとしてクラブとしてどの問題に力を注ぐべきなのか大いに迷うところであります。そこで、その糸口を見つけるためには、ロータリー国際親善奨学生に代表されるような各種の奨学金を付与して応援するプログラム、同額補助プログラム、古くは3Hプログラム、継続しておりますポリオ、こういったロータリー財団プログラムが用意されており、更に米山記念奨学会であったり、世界社会奉仕あるいは国際交流、青少年交換と多種多様な国際プログラムも用意されております。きょうお



集まりの85ロータリークラブの皆様方がクラブ独自のアイデアで奉仕されるのもいいことだと思います。

でも、いま一度ロータリーが持っている様々なプログラムに目を通していただいた上でそれぞれのクラブの目的、クラブのサイズにあった奉仕活動をお選びになり、その結果が理想の世界平和への一歩となれば、素晴らしいことだと思っています。

リーダーとして簡単に国際奉仕について申し上げました。次は、より具体的なお話を国際奉仕WCS委員長・宮里さんよりしていただきます。宮里さんは優秀な方であると同時に大変魅力的な女性でもあります。皆様には興味を持って聞いていただけたらと思います。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

来期国際奉仕・WCS委員会の委員長を務めさせていただきます茨木西ロータリークラブの宮里と申します。

委員会の名前が2つが引付きました。ということは、私ども委員会で国際奉仕活動それから世界社会奉仕活動、地区内の85クラブの皆様のために活動を進めていかなければなりません。

若林パスト・ガバナーがおっしゃいましたように国際奉仕というのは非常に広義ですし、また範疇も広うございます。ロータリーのウェブサイトで定義を見てみますと、「世界におけるロータリーの人道的援助活動を拡大し、世界理解と平和推進のため実施する方策を包含する」というふうに書かれておりまして、読みましてもよく何のことかわかりません。

ただ、私どものホームクラブで、男性会員が毎夜この国際奉仕活動をしているというふうに申しておりました。よく内容を聞いてみますと、皆様ご存じかどうかわかりませんが、最近の夜の街は随分インターナショナルになっていると。ロシアの女性の方だとかフィリピンだとかいろいろな方がいらして、いろいろ話をしている、これはまさに国際理解ではないかと。国際親善奉仕活動を身をもってやっているのだというようなお話を伺いました。確かにそうかもしれませんが、もう少し進めてロータリアンらしい活動をお願いしたいと思っています。

私は世界社会奉仕活動の方に軸足を置いてお話をさせていただきたいと思っております。

世界社会奉仕活動はこれも定義がございます。「二カ国以上のロータリークラブが地域社会奉仕活動を達成するために力を合わせるときWCSが生まれる」というふうに定義されております。英語で申しますと、ワールド・コミュニティ・サービス。この前のワールド世界を取りますと、コミュニティ・サービスいわゆる社会奉仕活動でございます。これが私たち日本から申しますと、地域を越えたとき、国・国境を越えたときに行う社会奉仕活動がいわゆる世界社会奉仕活動、WCSでございます。

私ども委員会では、年に2回から3回皆様にアンケートをお回しておりまして、どのようなWCS活動をされましたか、というアンケートを皆様に記入していただいております。そのときに、国内で海外の留学生に奨学金を渡したと、こういうWCS活動をしましたというお答えが時々参ります。けれど、今の定義から考えていただければ、二カ国以上の国々のロータリーが力を合わせて地域の社会奉仕活動をしましたというのが世界社会奉仕でございますので、こちらは国際奉仕あるいは社会奉仕活動ということになるかと思っております。

WCS活動の条件というのがございまして、先ほどと重複する部分もございまして、このWCS世界社会奉仕のプロジェクトはまず、人道主義的であること。

つまり、人間愛とか人として行うべき正しい道を踏み外さない。当然のことだと思いますが、こういう奉仕活動であること。2つ目は二カ国以上のロータリアンが参加していること。それから3つ目が二カ国以上のロータリーと一緒に協力しますが、そのうちの一カ国がプロジェクトの実施国であること。

この定義を、お書きとめいただいておりますようお願いいたします。今の定義をもう一度読み直していただければ、次回お願いいたしますアンケートの回答が、間違いなくWCSのプロジェクト報告になってこようかと思っております。

それから、多くのクラブさんの中には、うちは社会奉仕活動に力を入れるのだと、何でわざわざ外



へ出て行ってWCSをしなきゃいけないのだ、日本のこの地域でもたくさんやることあるんだとおっしゃるクラブさんがございます。私も確かにそうだと思います。けれど、ロータリーは世界最大の、世界有数の奉仕団体でございます。私たちロータリアンはこの世界で奉仕活動することが可能で、それが私たちの勉強の機会になると思っております。

私はいつも申し上げるのですが、この世界社会奉仕活動をするによってどういう恩恵があるのか、まさに国際奉仕の定義と重なってまいりまして、地球規模で奉仕と親睦がはかれます。そして国際理解がはかれます。そして3つ目、国際親善がはかれます。親善というのは難しいことではなくて、先ほど申しました1つのプロジェクトを立ち上げるのに、二カ国以上のロータリーが協力するわけですから、海外のロータリアン、海外のロータリークラブと強いきずなが生まれるということだと思います。

私ども地区委員会としましては、来期引き続きクラブ主体独自のプロジェクトをしていただきたい。すべて85クラブの皆さんに意義のある人道的な世界社会奉仕活動をしていただく、これが目標でございます。

今年度は、ほぼ80クラブの皆様既にWCS活動を実施していただいております。そして2つ目、補助金を活用していただきたいということ。補助金の活用は非常に面倒くさい手続もございます。けれど、これは私たちが自分たちが寄付したお金を自分たちの手で意義ある奉仕活動にもう一度引き出す作業でございます。ぜひ御活用いただいて、さらに意義あるWCS活動をしていただきたいと思っております。

中にはWCS活動のできないクラブさんがおいでになります。理由を伺ってみますと、だいたい3つに分けられるかと思っております。

1つ目、海外にネットワークがない。要するにプロジェクトが探せない。2つ目が会員が非常に少ないので予算が小さい。そして3つ目はコミュニケーションがはかれない。要するに、英語ができないとか、現地とのコミュニケーション会話、意思疎通がはかれないということだと思います。

1つ目2つ目の問題については、後ほど御説明させていただきます。まず、このコミュニケーションがはかれないという問題でございますが、皆様のクラブの中に必ずおひとりぐらいは英会話がお出来になる、若干お出来になる方がいらっしゃいます。世界社会奉仕委員長もしくは国際奉仕委員長、単年度で替わっているとは思いますが、こういった方にぜひ、コミュニケーションの窓口になっていただければと思います。

それから、財団の奨学生を利用するというのも可能でございます。もと奨学生が日本でたくさん活躍しておいでになって、ここにコミュニケーションの窓口をお願いすることも可能です。それから、案外現地には、元日本留学生だったというロータリアンの方がたくさんいらっしゃいます。私も東南アジアたくさんの国々を訪問してまいりましたけれど、ほとんどの国々で日本語ができるのですという会員さんがいらっしゃいました。こういう方と出会えると本当にしめたもので、後は非常にスムーズにいくと思っております。

最後の手段としまして、私ども委員会にお知らせください、コミュニケーションのお手伝いをさせていただくことも可能でございます。

さて、プロジェクトができない理由の1番目2番目に戻りたいと思っております。

まず、海外にネットワークがない、プロジェクトが探せない。これにつきましては、いつも言われることですが、ロータリーのウェブサイトプロジェクトの交換データベースというのがございます。これ私も実際に検索してみましたが、非常に便利です。まず国を決めていただく、国を入力します。タイ、ベトナムというふうに入力します。それから種類を入力します。例えば、今期は水プロジェクトをやりたいと、そうすると日本語で水というふうに入れていただきます。それから、規模別というところがございます。うちの今期は、10万円の資金があるということであれば、その10万円というふうに打っていただきますと、そういったプロジェクトが出てまいります。そこからまず選んでいただいて、そこに必ずコミュニケー



ションを、プロジェクトの担当者のメールアドレスなり何なりがございまして、そこからスタートされるのも非常にいい方法かと思えます。

また、国際大会でいろんなロータリアンと出会って、プロジェクトを提案いただく。そして皆様ほとんどのクラブさんがお持ちだと思います姉妹提携クラブ、ツインクラブ。特に東南アジアのクラブさんと姉妹提携を結んでいるクラブさんにおかれましては、こちらのクラブに今期WCSプロジェクトをやりたいので提案してくださいとおっしゃっていただければ、そういった国々は社会奉仕活動が非常に活発でございますので、必ず協力してくださいという御返事がくると思えます。

それから最後、これ私がよくやる手なのですが、海外の出張先、皆さんは割といいホテルにお泊りだと思います。ホテルのロビーでロータリーマークを探してみてください。もしロータリーマークがなければ、フロントにロータリーのミーティングはありますかと聞いてみてください。私たちが宿泊する90%のホテルにはロータリーの会合がございまして。日程が合えばそこでメイクアップしていただければ、そこからやはり親睦が始まり、WCS活動につながっていくと思えます。

2つ目の問題点、予算がない。たくさんのロータリー財団の補助金プログラムありますが、きょうは一つだけマッチング・グラント、DDFだけ御説明させていただきます。もし、皆さんのクラブへことし10万円予算を取ってらっしゃるクラブがございましたら、120万円規模のプロジェクトをお探しになってください。必ず予算は調達できます。私ども委員会がお手伝いさせていただきます。

マッチング・グラントをしてください、DDFを申請してくださいって言いますと、皆さん英語じゃないか、手続時間かかるし、よくわからないとおっしゃいます。そのところを私ども委員会でお手伝いさせていただきます。10万円予算があるクラブさんは120万円のプロジェクトを立案してください。20万円の予算をお持ちのところは130万円、3,000ドルの予算をお持ちのところは150万円規模のプロジェクトを

お探しください。必ずできます。財団の補助金を利用して必ずやることができます。私どもでお手伝いさせていただきます。

次に私ども委員会の活動を簡単に申し上げておきます。

先ほどパスト・ガバナーから御紹介いただきましたように、クラブ委員長会議これを年2回やっております。きょうは詳しいことは御説明できませんが、WCS活動の意義でありますとか、補助金の活用方法そういったものを御説明するとともに、85クラブの中から大変感動的なプロジェクトをされたというクラブさんに発表いただいております。これはこういった地区内の資産を皆さんと共有して、皆さんに感動を若干味わっていただいて、うちのクラブもぜひやってみようというお気持ちになっていただくために、こういった発表をしていただいております。

それから、私どもはプロジェクトのパートナーやプロジェクトそのものの御紹介もさせていただきます。補助金申請書のお手伝いもさせていただきますし、世界理解月間なんかには、よく卓話の御依頼ちょうだいいたしますが、ガバナー補佐制度と同じくして私どももIM単位で担当委員がおります。御連絡ちょうだいできれば必ずはせ参じて卓話をさせていただきますと思っています。

それから、私どもにとってはメインイベントでございますが、年に1回もしくは複数回視察旅行をしております。これは、プロジェクトの発掘と立案と実施でございます。後ほどスクリーンの方で見たいと思います。

それで、第1回のクラブ委員長会議を7月に開催いたします。また後日、御案内が参ると思えますが、ぜひ御参加ください。このときには、来期に準備しております地区プロジェクトを発表させていただきます。これに興味を持たれたクラブさんについては、一緒に企画・立案から進めてまいりたいというふうに思っております。先ほど申し上げましたIM担当の委員も紹介させていただきます。ぜひ名刺交換いただいて、気軽にお声をかけてください。それから補助金の活用についても、人道補助金委員会の



方から細かい説明をさせていただきます。

では、私どもの視察旅行についてちょっとスクリーンの方で御紹介をさせていただきます。昨年一昨年度のものを含めまして、私たち委員会が本当に自分たちで現地を訪れて、調査してまいりました。御存じのようにRIの四大協調事項のうち3つ、水・飢餓・識字率の中で、第3ゾーンの水のリーダーが2660地区でしたので、特に水プロジェクトに絞り込んで調査をしてまいりました。回りましたのはタイ、カンボジア、ミャンマー、インドネシア、モンゴルでございます。

まず、タイについてですが、もちろん気候は亜熱帯でございますので、水はないことはないのですが雨季・乾季がございます。地方によりましては乾季には干上がってしまいます。

一番の問題は、水を全く浄化せずに飲んでいるという状況です。数カ月前水質調査をしました、飲める水ではないというのが大半でございました。スクリーンを見させていただきます。

これはタイの小学校でございまして、タンクが2つございますが、これは雨水をためて使っております。これは校舎の状況、教室です。これはシロアリに食われてしまって柱自体が危ない教室です。これは畑を耕しているのですが、これもロータリーのプロジェクトの1つとして、給食を自給自足させようということで、子供たちみずから畑を耕しています。少し大きな学校になりますと、こういうコンクリートの貯水タンクがございますが、これもやはり井戸水ですとか雨水をためております。全く浄化装置なしにこうして、水を飲んだり給食用の食器を洗っております。これは現地ロータリアンが調査をしているところです。これは、井戸水でございます。井戸水もくみ上げてはいるのですが、ふたのない状況で非常に汚のうございます。

次はモンゴルでございます。モンゴルは御存じのように放牧民族の国なのですが、数年続きました大寒波でほとんどの家畜が死んでしまいました。地方では、遊牧民としての生活が成り立ちませんので、ウランバートル都市部にかなりの方々が流入

してきています。貧困層と富裕層の差がどんどん開いてきている。勝手にそのウランバートル周辺にゲルをたてて集落をつくって住んでおりますが、やはりインフラが全く整備されておられません。これは冬のゲルの集落でございまして、電気もなければガスもない。ガスもなければ水もないという状況です。ほとんどこれ凍土。私たちが行きました11月の上旬でしたが、これはまだ冬に入ったばかりです。ここからドンドン凍りついていきまして、女性・子供が何キロも歩いて、水をくみに行く。これが水をくんでいる状況です。これも湧き水で一体どこから水がきているのかわかりません。現地ロータリアンに目の前で水質調査をしてもらいましたが、まあまあ飲めるのじゃないかというようなことでした。

カンボジアでございます。もうここは本当に貧困の最たるもので、非常に子供たちの死亡率が高く、恐らく大半がこの水の問題だろうと思っています。非常に美しい国でございますけれど、調査の折もこのように道なき道を進まなければいけません。まだ雨季でございますので、水は割と豊富にございますが、ごらんのように非常に濁っております。これは乾季、干上がった場合にこうなると。乾季は特にこういった牛車、まあ彼女なんかは牛に乗っていますからまだいい方で、皆バケツ2杯の水をくむために何キロも何キロも歩いて行きます。こういう汚れた水を、生活水、飲料水として使っています。もうこうなりますと、浄水器以前の問題でございます。こういうふうに牛、家畜や動物と共存、水源地を利用しておりますので、当然ながら家畜からのいろいろな細菌の汚染も考えられるだろうということでございます。

ミャンマーについては、別資料がございますので本日は御紹介しておりませんが、私たち委員はこういうところに実際にみんなで足を運んでプロジェクトを立案しております。クラブ委員長会議の折には、皆様に御紹介させていただきながらぜひ行ってみたいというクラブさんがあれば御一緒していただきたいと思っています。

本当に貧困なところばかりですので、大変だなあ



というふうと思われるかもしれませんが、今申し上げましたタイでもこの視察後1万5,000ドル規模の水プロジェクトを実施いたしました。浄水器を幾つもの学校に全部で11校だったと思いますが浄水器を設置しましたし、モンゴルにつきましては1件は貯水タンク、1件は井戸を掘りました。約2万ドル規模を実施しました。

カンボジアにつきましても2万2,000ドルかけて井戸を掘りました。ミャンマーも9,000ドルをかけて井戸を掘りました。子供たちの笑顔ですとか農民の笑顔を本当に目で見て肌で感じる、すばらしい事業だというふうに思っています。

85クラブのクラブの中には、本当にすばらしい事業をしていらっしゃる場所もございますが、やはり世界社会奉仕委員長、国際奉仕委員長が単年度でかわっていきますので、年度ごとの取り組みに温度差のあるクラブさんもあるように感じております。この世界社会奉仕活動というのは、私はロータリーの本当に根本的な精神を発露させる大変すばらしいやりがいのあるプロジェクトだと思っていますし、またこういういろんな辺境の地を訪れることによって、いろんな勉強と経験をさせていただきます。

私もモンゴルに参りました折に、生まれて初めて、物心ついて初めて、草原の中でトイレをせざるを得ませんでした。本当に恥ずかしかったですし、つらいなと思いましたが、それがあって大きなプロジェクトができたということで非常に感激をいたしております。

私の話の最後になりましたが、神崎パスト・ガバナー

からぜひ御紹介しておいてほしいということでしたので、1件プロジェクトの報告をさせていただいて、私のお話を終わらせていただきます。

覚えておいででございましょうか。

2006年にインドネシアで、インドネシア・ジャワ島中部南西沖地震という非常に大型の地震がございました。その直後、皆様のクラブで義援金を寄付していただいたと思います。地区内で約400万円集まりました。パスト・ガバナーのお話では、通常はこういった義援金はロータリー財団に贈るのだそうです。けれど、パスト・ガバナーがせっかくWCS活動の活発な2660地区なので、皆様からいただいた浄財を目に見える形で何かプロジェクト、被災地の救援をしてくれないかというご依頼がございました。そこで、倒壊してしまいました小学校を建てることにいたしまして、もうそろそろ完結していると思います。全体には4万3,000～4,000ドル規模のプロジェクトでございましたが、私たちはそのうち3万4,000ドル、つまり皆さんからいただきました義援金をそっくりあちら、ジャク・ジャカルタロータリークラブにお贈りして、あと不足分の9,000ドルを現地のロータリークラブもしくは諸外国のロータリークラブから援助を受け、すばらしい校舎が建っています。中間報告もいただいております。完成の暁にはガバナー月誌の方で皆様に御報告させていただきます。

●若林パスト・ガバナー

大変内容のあるお話を伺えたと思っております。





最後に神崎パスト・ガバナーからのメッセージありましたが、要は神崎年度で集められた義援金は、地区内の特定クラブのプロジェクトに使用されたのではなく、地区WCSプロジェクトに使われ、現地のクラブ等からのお金も加わり、大きな意義ある内容に地区内86クラブの義援金が役立ったと言うことであります。

●居相サブリーダー

お話をするに当たりまして、目線をどこに置けばいいだろうかなとなかなかわかりません。それで本日は、私の独断と偏見を持って進めさせていただきたいと思います。まあそんなこと知ってるよとか、あるいはまた失礼なことを申し上げるかもしれませんが、同じロータリアンとしてお許しを願いたいと最初にお断りを申し上げます。

温故知新という言葉がございます。古きをたずねて新しきを知るという、これ私たちは今こうしておられるのもそういう先達のおかげです。また、すべてのものにはそれぞれ歴史というものがあると思います。物事を判断するときには、歴史的な目を持たないと本質を知ることができないと言われます。歴史から多くの教訓を得て、それを鏡に世の中の移り変わりを洞察することで、自分のあり方進むべき道が見えてくるのでは。何事にも道というものがあるということだろうと思います。

時は明治23年1890年といえますから、今から約120年前9月16日夜半の出来事です。和歌山県の串本沖ここの航行中の、今トルコ当時のオスマン帝国の軍艦エルトゥールル号が折り悪く台風に遭遇しまして、この大島檜野崎岬沖合にて座礁沈没しました。さらに旗艦が爆発し、504名の乗組員が死亡するという大変痛ましい海難事故が起こりました。このときに流れ着いた生存者の人たちに、村民は村中総出で救出に当たり、食料も蓄えもわずかだったにもかかわらず、えびとか卵とかサツマイモとかそれに非常用の用意していた鶏をも供出するなどして献身的な生存者の回復に努め、その結果、69名が救出されて生還することができたのです。このニュースは国交が樹立されていない、まだ日

本ではほとんど知られていないこのオスマン帝国でしたが、新聞が大々的にこれを報道しまして国中に伝わり、そしてまた世論の力が強い後押しとなって政府を動かす、また義援金活動でも成功をおさめたのです。

で、エルトゥールル号の犠牲者の遺族に向かった義援金を集めるキャンペーンが行われて、この義援金を持参したとき、日本の善意がオスマン朝に伝わり、熱烈な歓迎を受け、オスマン帝国の人々は熱狂したと記録されています。この事件は、トルコ人が公的公の場で日本とトルコの友好の歴史について語る時、必ずといっていいほど、第一義的に持ち出されるエルトゥールル号遭難事件です。

現在に至るまで記憶され続けているということは、串本町そして現在の今のある檜野崎灯台のそばには、このときのエルトゥールル号の遭難慰霊碑とそしてトルコ記念館が建ち、串本町と現在、在日日本トルコ大使館の間において、慰霊祭が5年ごとに今も行われているというお話です。御存じの方もあると思いますが。

そして現在、2430地区トルコのアンカラ、アンカラにあるロータリークラブからアリ・バケルさんを団長とした4名の団員を連れたこのGSE研究グループ交換で来日されておりますね。皆さんの各クラブでも歓迎会、あるいはまたメンバーの1人がホームステイを受けておられると思うのですが。

我々2660地区との間でこの研究グループ交換が行われるのは大体1カ月。1週間単位でロータリアンの自宅にホームステイして、それぞれが職業研修を受けるということになっております。で、来週21日に帰国をされます。

そしてまたこの研究グループ交換。ちょっと触れておきますと、原則として国を異にする2つのロータリー地区がペアを組み、お互いにロータリアンをリーダーとする専門職業人のチームを派遣し合い、相手国の諸制度やホスト家庭の生活様式を研究したり、知識を自国内で広め、生活様式を研究し、また体験し、これの相互理解を深めるということでございます。



そしてまた、GSEのチームが帰国後はこの訪問より得た知識を地区内のロータリーの回覧にそれを皆さんに報告をするという形で、またこのプログラムというのは、お金的に予算的にはどうなっているのかと申しますと、往復の運賃はロータリー財団が負担します。ロータリー財団の中にはWFっていうのがこうあるわけですね、国際活動資金っていうのがありますね。

そしてまた、地区に戻ってくるお金があるのです、DDFっていうのが。これが財団地区活動資金っていうのがあるんですが、地区に戻った金ではなくて、ロータリー財団が預かっているところからこの往復の運賃が出てきます。そして滞在は、原則としてホームステイをするということになっております。これは地区内の今、もう現にホームステイをいただいているメンバーの方があると思いますけれども。その現にトルコからそういう方たちが来ていると、で、二国間における往復ですから、実は来月5月に2660地区からこのトルコ2400地区に向けて、こちらから団長及び4名の団員が出発をするということになっております。

この2430地区が、我々の2660地区にグループ交換をするきっかけとなったといえますか背景がございまして。今から6年前のことです。両地区がロータリー財団活動の人的補助金プログラムの先ほど宮里さんからございました、同額補助金のマッチング・grantを利用しましてですね、トルコのアンカラ市にあるこの盲目の子供たちが通う視力障害児学校にこの盲人用の自動点字プリンターの贈呈をしたといういきさつがあるわけです。この自動点字プリンター、日本でも一時はやりましたね、手で1つずつ打っていくっていうやつ。それがトルコの方で、日本から贈った自動点字プリンターこれがあることで、大変喜ばれたというお話でございます。

この事業はアンカラの市長からもはじめトルコの文部大臣からも、大変我々2660地区の人的委員会で世界社会奉仕委員会そして窓口となったのはその時、大阪柏原ロータリークラブです。感謝と称賛の意が表明された。そしてこれには、ま

た後日談がございまして、当時の国際ロータリーのデブリン会長です。RIのデブリン会長がトルコのアンカラを訪問した、その2400地区の地区大会に出席したそうです。

この地区大会において、先ほど2660地区が2430地区に贈った盲人用の自動点字プリンターの贈呈、これに対してですね、大変喜ばれたということと同時に地区大会で財団活動の代表例として紹介されたわけなんです。そしてこのときに、視力障害児学校のこの教頭先生が出てみえまして、このプロジェクトにどれほど目の不自由な子供たちがこの目の不自由な子供たちの教育にとっても重要で、本当に本当にありがとうございましたというこの教頭先生は実は教頭先生みずからも盲目の方なんですけれども、本当に熱い熱いメッセージを贈ったということでございます。

これを聞きましたデブリン会長はですね、彼のスピーチに非常に感動と感銘を受けまして、その盲目の教頭先生を壇上にまで上げまして、あなたはロータリーの名誉会員ですと、かたく手を握りながら紹介され、そのときもう涙なしに会場を後にした人はひとりもいなかったと、という心に届くお礼の言葉が我々2660地区に届いたのです。で、何か盲目の教頭先生の顔を通して子供たちの喜ぶ姿の顔が浮かんでくるような気もいたします。

話変わります、ロータリーの誕生というのは皆様御存じのとおり、この20世紀初頭アメリカ、シカゴの町。当時著しい社会経済の発展の影で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。ちょうどその頃、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に耐えかねて友人3人と語らってお互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上のつき合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間をふやしたいという趣旨で、ロータリークラブの会合が考え出されたわけです。

そして、1905年2月23日シカゴロータリークラブが誕生しました。

それから、志を同じくするクラブが次々と各地で生まれて、そして国境を越え今では世界168カ国



の地域に広がり、地区の数は530またクラブ数は3万2,554、会員数は120万8,562。これは実は2006年9月30日現在ということで公表されている数字なのですが、この世界中のこのクラブが集まってきたと、現在この連合体が国際ロータリーと言われるわけですが。

このように歴史的に見ましても、ロータリーっていうのは職業倫理を重んじる実業人、専門職業人の集まりなのです。そしてこの組織が地球の隅々まで拡大するにつれて、ロータリーは世界に目を開いて幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

それを成文化したのがロータリー綱領といわれます。

御存じのことと思いますが、ロータリー綱領は4項目ございます。そしてこの4項目が四大奉仕につながっているわけですね。きょう午前中にお話を出てきたDLPありし、あるいはまたCLPこれから皆さんが各クラブで御検討なさる上においても、先ほど温故知新といった意味合いですね、最初のスタート時点をよく理解をしておいた上で、あとまた小題を考えていく。そんな意味で御存じと思いますが、ロータリー綱領の第1項これは奉仕の機会として知り合いを広めることです。またこれは、奉仕部門に当たります。ロータリーが自分たちのクラブをうまく機能させるために必要な活動のすべてが含まれています。

綱領の第2は、事業及び専門職務の道徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること、そしてロータリアン各自が業務を通じて、社会に奉仕するためにその業務を日にあらしめること。少し長いですが、これが職業奉仕部門に当たりますね。ロータリーの本筋といいたいでしょうか。この職業奉仕は、クラブと会員の両方の責任だと思えます。今日では、ロータリーの基本理念の1つになっておりますし、4つのテスト、ハーバード・テラーこれも職業奉仕の精神が生きていると思えます。

綱領の第3項というのは、ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活及び社会生活に常に奉仕

の理想を適応することとあります。これは社会奉仕部門をあらわしています。ロータリアンが自分の地域社会の生活の質を向上させるために、行うような活動に関係するものです。それはしばしば、若年層や高齢者への障害者などよりよい生活への希望を求めるとして、ロータリーに期待をよせる人々への援助も含んでいます。

最後は綱領の第4項ですが、奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的振興によって国際間の理解と親善と平和を推進することとあります。これが、ここ今取り上げている国際奉仕部門になります。ロータリーの国際奉仕は、ロータリアンが国際理解・国際親善・国際平和を推進するために、実施できることすべてであります。その方法は他の国の人々その文化・慣習・抱負・問題いつもそんなものを知ることであるわけですが、個人交流の方法もあれば、あるいはまた読書とか文通と、これもございます。

さらに、他国の人々の役に立つクラブ活動。そして、ロータリー財団を含むプロジェクトすべてに協力することです。ロータリークラブの活動はひとりの会員一人一人のロータリアンが原点となって、究極的には国際奉仕が目的であると言われますけれども、国際奉仕っていうのはひとりではできません。国際奉仕としてロータリー財団活動が重要であるといわれるゆえんではないかと思えます。

以上、ロータリー綱領に載られた4項目を、そしてこの目的を推進するために四大奉仕部門があるというお話をいたしました。

次は、ロータリー財団について少しお話をしたいと思います。

平均的なロータリアンは国際ロータリーとロータリー財団というのを混同される、同一視したりされる場合がありますが、けさの新谷次年度会長の方にもございましたけども、ガバナーからも説明ございましたが、国際ロータリーの傘下のもとにロータリー財団というものがある、独立性は強い組織といえどもその目的・使命・活動は両者一体のものである。ロータリー財団は13人の管理委員によって運営さ



れておりますが、そのうち4名までがRI会長経験者ですね。ですから今はジアイさん、次年度はリチャイ・ラタクルさんになっておりましたね。

この財団の創設というのは今から100年前、1917年当時国際ロータリー6代目会長アーチ・クランプによって基金の創設が提唱されました。そしてその10年後にロータリー財団と命名されたのです。そして1947年今から70年前ロータリーの創設者であるポール・ハリスが亡くなりました。それを期に多額の寄付金が世界から寄せられ、そしてその金額は100万ドルを超えたそうです。そしてその翌年に大学院生を対象に高等教育を受けさせるための奨学金制度が発足しました。

1947年といえば、日本は終戦を迎えてまだ2年目の社会も経済も混乱していた時期と思います。当時の100万ドル、例えば1ドル360円で換算するならば3億6,000万円の、今よりもっと価値があったのではないかと想像できるわけですが。このとき以降に国際親善奨学金制度というのは、今日まで年々と続いております。日本では緒方貞子さんを始め、多数の優秀な方がこの国際親善奨学生に利用されて学び、そして世界に社会に御活躍をされております。2006年この10月末時点でこの利用した学友数は世界で10万1,785人。日本では9,500人に上ると報告されています。現在、大学レベルで国際的奨学金を提供している団体としましては世界で最大の民間基金になっております。

ロータリーのこの財団活動というのは、3種類ございます。教育的プログラム、そして人道的補助金プログラム、そしてポリオプラスこの3種類ですね。

教育的プログラムは、今お話した国際親善奨学金プログラムこのほかにトルコのお話を加えたGSE研究グループ交換プログラム、そして財団学友、世界平和ヘローシップそしてロータリー平和及び紛争解決研究プログラムの5つになっております。この辺がなかなか理解しにくいところになっておりますが。

次に、3種類ある2種類目が人道的補助金プログラムですが、これは今から42年前1965年に財団への年次寄付が100万ドルを超えるようになり、

人道的テーマである保健の増進、飢餓の追放及び人間性の尊重を目的としたプログラム、これが新たに開始されたのです。

そして、この人道的補助金プログラムには4つございます。先ほど御説明のあったWCS世界社会奉仕のプログラム、これを支援するマッチング・グラント同額援助金です。そして、地区補助金という言葉は御存じでしょうか。ここもう3年目をことして迎えると思っておりますが、この地区補助金またあと説明したいと思っております。その後にもまたボランティア奉仕活動補助金、そして一昨年復活したのが3Hプログラムってということで、ここに実はここ次年度も本年も取り上げております。

この水保全であり、あるいはまた飢餓追放であり、識字率の向上こうところがでてくるわけです。

先ほど言った地区補助金、これはことして3年目になると思うのですが、地区レベルで決済しますので手続も簡単で大変使いやすい補助金です。皆さんのクラブでは、既に使われたクラブも多いと思っておりますが、内容が異なればこれ毎年申請することができます。手続については財団部門の協議会が別室で今行われておりますので、事務的なものはそちらの皆さんのクラブの財団委員長からお聞き願えればいかと思うのですが。ぜひともこの地区補助金っていうものをお使い願いたいと思うんですね。どのぐらいあるのかと申し上げますと、例えば2007年8年度の予算としましては、地区補助金が5万5,000ドル用意されております。これを、仮に115円で換算いたしますと、630万超える。だいたい1,500ドルとか2,000ドルとかですね、それくらいが地区補助金として出ます。自分負担は、クラブ負担は確か変わっていなければ約半分ということになります。

そしてまたついではですから、このWCSというマッチング・グラントという同額援助金は6万ドルを用意されております。これ690万ぐらいになります、日本円に換算しましてね。また、国際親善奨学生を送るためのこの奨学金、これは7名を用意しております、18万2,000ドルっていいますから約2,000



万ぐらいになるでしょうか。

三種類の今、教育的プログラム並びに人道的補助プログラムそして3つ目が、実はポリオプラス。このポリオっていうのは御存じと思いますが、小児麻痺。このウイルスに感染いたしますと、大変こう手足が麻痺してしまうという怖い病気でございます。5歳未満の子供たちが最もかかりやすく、手足の麻痺を起こす病気であり、このポリオを一掃しようという運動が始まったのです。これは、始まるその当時世界の情勢はどうであったかというのが、125カ国でこれポリオが蔓延していて、恐らく推計ですが、35万人のポリオ患者が存在していたと。

それから10数年にわたって、ロータリーのボランティアたちが命をかけて世界の隅々までこのポリオワクチンを届けて、20億人の子供たちに予防接種が行われました。この国際ロータリーはロータリー財団を通じて、かつて人類のなしえなかった世界の子供たちからポリオを追放する運動を提唱し実践し、今も推進しています。

このポリオ撲滅運動の今日の主なパートナーというのは、国際ロータリーが提唱し、かつまた資金的も出しておりますが、世界保健機構WHOあるいはユニセフ、また米国失業対策センターこうところが、今手を差し伸べております。

この壮大なプロジェクトを発足させるきっかけとなったのは実は、日本のロータリアンなのです。大正13年3月生まれ、東京麹町ロータリークラブのクラブ会長を務めていた山田ツネさんっていう方がおられます。この山田さんが、ポリオ免疫プロジェクトを始める動機とこうなったのは、1981年ボランティアとして4週間インドに滞在されたときのことです。

夜遅くまで続いた会合の帰りに、がさがさという音がして、ぎょっと立ち止まりました。犬か猫か何かえさをあさっているのかなと、その音のする方をじっと見ると、月の光で私が見たのは芝生の上をやせ細った少年が手とひじを使ってはっている姿でした。多分幼いころにポリオにかかり、足が麻痺してしまったのでしょう。この少年の姿を見たときに、山田ツネさん、みずから自分の心の中には

日本人の手でこのインドの子供たちをポリオから救いたいものだと思われたいです。そして翌年に、南インドのポリオ免疫プロジェクト、3つのロータリークラブと共同事業が推進しました。東京地区の100以上のクラブの協賛を得て活動の幅が広がっていったのです。そしてこの山田さんの人道的な心を打つ暖かい活動が多くなるとともに共感を呼び、奉仕の幅が拡大するとともに拡大。

当時効果が上がっていった1985年国際ロータリーは創立100周年に当たる2005年、もう2年前になりますね100周年。この2005年までに地球規模の記念すべき奉仕事業として、このポリオを取り上げたのです。そして国際ロータリーの記念事業としてポリオプラスキャンペーンというのが、大々的にやりました。

でも残念ながら、この2005年にポリオ撲滅はできなかったのです。まだ今も進められております。ポリオウイルスの根絶というのはできずに。

2006年10月31日現在全世界で、一時はもう250件という報告を受けていたのですが、2006年の去年の10月では1,526件の症例が報告されております。これを国別で見ますと、ナイジェリアが544件、イエメンが473件、インドネシアが283件この3国で1,526件のうち、1,300件の症例を占めている。それ以外の8カ国っていうのはほとんどひとけた台です。かなりいいところまでいっておりますけれども、このポリオの撲滅は国際ロータリーが国際レベルの団体や機関と協力して行う最優先の目標であると今日もまだ決議されております。

私たちはロータリーの創立以来初めて取り組んだ地球規模の壮大なポリオ撲滅が達成し、全世界からポリオウイルスが根絶され、ポリオから開放された世界を祝うことができることを願ってこれはやみません。

ロータリー財団が行っている3種類のプログラムについてお話をしました。

要して、財団活動を支援しこの推進していくには、お金がかかります。資金がなければ事業はできません。財団に対する寄付金というのは、御存じと思



いますが、年次寄付というのと恒久基金というこの2つがございます。毎年ロータリアン全員にお願いしているのが年次寄付です。きょうも何か発表ございましたね。生活水準から見れば、その100ドルの日本は少ない金額で、過去の実績からいきますとだいたい200ドル近くです。そういうものが日本人のロータリアンの年次寄付となっております。一人一人のロータリアンの善意がこの財団に惜しみない寄附として寄せられれば、この年次寄付があればこそ教育的あるいは人道的そしてポリオプラスプログラムを展開していくことができるわけでございます。

まあ、年次寄付というのはロータリー財団の礎となっております。この年次寄付のおかげで毎年繰り返してプログラムを実施するために必要な資金を確保できていますが、今後も考えたときに増大していく費用これを目指すためには、もう一つの基金恒久基金がこれ必要なんです。

恒久基金っていうのは、元金は使いません。恒久基金で集められたお金はそのままこう運用します。だから、運用益だけが財団プログラムに使われるというシステムになっております。

これは、インドのグチャラップロータリークラブのカリアン・ベネルジさんは次のように言っております。ポリオプラスプロジェクトがロータリーを永久にかえました。私たちができるという確信を持つに至りました。私たちはインドで一度に8,700万人の子供たちにポリオプラスの予防接種を行ったのです。

現在さらに多くの国際プロジェクトがロータリアン

によって、熱心に開発されています。その活動を維持するためのより強力な財政基盤が必要となりました。これを支援するのが恒久基金ですと。

またアメリカ、ネブラスカ州のオマハロータリークラブのハワード・バンさんは年次寄付はロータリー財団の中核であります。もはやこれだけでは十分ではありません。年次寄付は毎年使われる基金です。一方、恒久基金の元本はそのまま収益だけがプログラムに使われます。私たちの目標は将来のプログラムの拡充に備え、十分な資金を備えなければなりません。恒久基金は年次寄付を補うという点をお忘れならないようにお願いします、というメッセージです。

また、フィリピンのネトロマニラロータリークラブ、ラファエル・ヘチャラドさんはロータリーとロータリー財団は飢える人々へのきれいな水と食べ物、病を病む人々への医療、子供たちへの明るい未来そして人生のたそがれ期にある人々への慰安とケア。ロータリーのあすはロータリアンの今日の行いに左右されることをお忘れならないようにしてくださいと述べています。

最後に、次年度国際ロータリー、ウルフリッド・ウルクソン会長が、ロータリーは分かち合いの心ですときょうも発表ございました。そしてその分かち合いとしてなおかつ、お互いに助け合う心というものを実践する。これは実はロータリー財団がかなり資金的援助プログラム等をやっているということをきょう知っていただければ、いいと思うのです。国際奉仕の中にあって、当初は国際交流という





のがございまして、国際大会に参加していただくというのが、国際奉仕の中の国際交流テーマでございました。

例えば、国際大会の今後の予定、手元にありますので、ちょっと申し上げます。ことしはソルトレイクシティ、アメリカで開かれます。2008年はロサンゼルス、2009年は韓国ソウル、2010年はカナダのモントリオール、2011年は米国ニューオーリンズ、2012年はタイのバンコクとこのように国際大会が開かれる予定がもう決まっております。

どうかこのポリオプロジェクトを発足されるきっかけとなった、山田ツネさんのような人のために尽くす人々のことを決して忘れてはならないと思うのです。

この言葉を最後にして、本日お集まりの国際奉仕委員会の委員長の皆様方がロータリー財団について理解を深め、クラブへ持ち帰ってメンバー一人一人へ正しく周知、徹底されることを期待いたしまして私のお話とします。

●若林パスト・ガバナー

大変感動的で、しかも格調あるお話をいただきまして、居相さん本当にありがとうございました。

それでは、ここから皆様方より、WCSあるいは財団その他のことでご意見あるいはご質問ございましたら、ご遠慮なく発言下さい。

●大阪なにわ(吉川仁育)

過去にWCSを2、3回やらせていただいていると思うのですが、そのときに1回目と2回目とその同じ内容ではだめだということで、2回目が危ぶまれたということがあったのですが。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

2年にわたって同じプロジェクトがいけないということはないと思います。ただ、マッチング・グラントを申請とか補助金の折には、少し制約が出てまいりますので、その辺で何かが問題があって、そういうお答えだったのではないかと思います。けさ方もクラブのCLPの話で継続性というお話が出ておりましたし、本質的にはプロジェクトが継続することとは間違いとは言えないと思っております。

●大阪なにわ(吉川仁育)

タイの姉妹クラブと一緒にそのマッチング・グラントをやって、向こうの病院に何かを贈ると。1回目贈って、来年も同じような継続でということで、タイの方から言ってこられたのですが、何か同じようなことを続けてやるのはだめだということで。本の表紙だけ、カバーだけかえて出したように聞いて。結果的には、OKになったのですが、

●宮里国際奉仕・WCS委員長

恐らくそれは、問題なかったと思います。例えば、全く同様のプロジェクトであっても、どちらかのパートナーがかわるということであれば、マッチング・グラントに申請していただけます。万が一同じそのホストクラブ、インターナショナルパートナークラブ、それからプロジェクトの内容も同じ、それから寄贈先もしくは実施する先も同じということであれば、間違いなくマッチング・グラントは難しいと思います。テクニカルな部分もありますので。例えば、幾つかのクラブがプロジェクト参加されれば、パートナーをちょっとおかえいただくとかですね、そういうふうなことでクリアできると思います。

●大阪東(藤村達夫)

私どものクラブで、今まで国際奉仕委員長は何をやってこられたかという、国際、世界大会の参加それから姉妹クラブとの交流、それを私どもの場合はマネーラルロータリーと1年ごとに交互訪問をやっておるわけです。それと姉妹クラブまではいっていないのですが、交流クラブとして韓国モアクラブとの交流があります。そういう国際交流のことをフォローするだけで目いっぱいかなと、その中できょうお伺いして、WCSがメインでその本当のその国際奉仕っていう意味が、私はWCSだと思っております。きょうビデオを拝見して、すばらしい活動をされ、それが各クラブ単位でどこまでできるのか非常に疑問に思いました。

きょうのCLPの話をお伺いし、やっぱりCLPが国際奉仕の活動については、やっていかないととてもできない。継続性の問題ですね。それから皆さんの合意を得るっていかそういうことが導入されないと、1年単位で委員長が替われば、基本的に



WCSの活動はできない。

当面は、今の地区協議会のWCSの活動にクラブ単位で参加させてもらった方がよいのでないか。このような活動を多分私どものクラブの皆さんほとんど知らないです。だから我々がPRしなければいかんでしょうね。

例えばクラブのメンバーで、そういうところへ参加していただく道をつけていただくと。今、基本的に私自身が、国際奉仕委員長で果たしてどこまでできるかというときに、非常につらい思いをしております。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

この世界社会奉仕活動というのは、決してほかの奉仕部門も同じだと思いますが義務ではありません。きょういろいろ私の活動報告を聞いて、つらい思いをされたというのは、私が意図するところではありませんので、非常に申しわけない気持ちでいっぱいでございます。いろいろなやり方がありますし、私たちほとんど99%がやはりビジネスの世界におりまして、これで食べているわけではありませんので、本当に難しいことだと思います。

ロータリーは世界的な組織であり国境を越えてWCS活動もしくはその他の活動で本当に国際理解ですとか親睦が推し進められるということを実感していただきたいと思っています。

今のような御意見がございましたら、ぜひ私ども地区のプロジェクトにのっていただいて結構です。なるべく感動を現地に行かなくても感じていただけるようなファイナルをお届けするようにしていますし、きょうは時間がなくてはっきり御説明できなかったのですが、すべてのプロジェクトの資金は皆様の浄財でございます、私たちは各プロジェクトに、今期プロジェクトができないというクラブさんの資金をお預かりして、プロジェクトのスポンサーになって頂きます。

たとえば、モンゴルに行かれたら、プロジェクト実施先で、ご自分のクラブの名前を発見されることもあります。

また私の報告書や委員会のこの度の様なプレゼンの機会に少しでも見ていただいて、現地の人が

こうして助かっているのだという実感を少し共有させていただければ、ことし無理でも来年、来期無理でもまた再来年、新しい委員長さんにお考えいただけると思います。

それから、確かに継続性がないと難しい部分がたくさんございまして、私たちはWCS委員会と呼ばれているときから、世界社会奉仕はぜひ皆様のクラブで3年委員としていただきたい。委員長さんが3年継続される必要はありませんので、補助金の手続きなど、いろんなテクニックの部分もありますので、継承していただけるような委員会構成にしていただければと思っております。

お答えになっていないかもしれませんが、もし何かやりたいというお気持ちがおありになりましたら、ぜひ御相談くださいませ。一緒に考えさせていただきたいと思ひますし、何らかの形で実績を残していただけるように全力を挙げて、協力させていただきたいと思っております。

●門真(大竹洋一郎)

WCS活動で、現地視察の費用についてはどのように考えればよろしいでしょうか。

そのプロジェクトの予算に対して、現地視察の費用というのは非常に高くなると思うのですが。そのプロジェクトの予算の中に入るのか、クラブ持ちなのか個人持ちなのかを教えてくださいたいと思います。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

私ども委員会もそうです、私どものホームクラブもそうです、ほとんどのクラブさんがそうだと思います、個人持ちでございます。私たちはボランティアでございますので、やはり個人持ちになろうかと思ひます。

●大阪ちゃやまち(戸田和孝)

地区補助金について伺いたいのですが。私どもの地区である福祉施設にささやかな寄付とかあるいはチャリティーとかそういったものでやっているのですが、2年続けて同じところに同じプロジェクトはまかりならんという規定があるのですが、地区に密着した奉仕活動というのをやっておる関係上、2年続けて同じことはいかんという規定を弾力的に運用していただかないと、その施設から、こ



とどうなりますかって尋ねられたときに、いや2年続けてはできませんからお断りせざるを得ないと言うような答えはづらいものがあるんですが。

●居相サプリーダー

そのお言葉にはなかなか返事が困るのですが。いろんなプロジェクトあるなかにあっても、同じものにはお金を出不さいというのは原則になっているのです。

この地区補助金も2660地区の中で手続きがとられて、決定されております。恐らくちゃやまちの方にも1回目か2回目のときに出されましたね、何か過去の歴史的なものを掘り起こすということで記念碑的なもの。それをある継続的にしようとするれば、お金がまたかかるということではないかと勝手にちょっと推測してみたのですが。例えば目的であり、また資金の用途を別な切り口でできないでしょうかというのしかアドバイスできないのです。同じような目的で同じものを繰り返してやりますということであれば、現時点においては無理だというお答えになると思います。

●大阪なにわ(吉川仁育)

先ほどの交通費の件で自前ってということがあったのですが、私の記憶だけで話をして申しわけないのですが。WCSのマッチング・グラントのときに、交通費が出るって話があったのですが、

●宮里国際奉仕・WCS委員長

いえ、それはマッチング・グラントではなくて、また違う補助金でございます。昔でいう個人向け補助金、今は、ボランティア奉仕活動補助金と名称がかわりましたが、これは視察行かれるときに、この視察費用に対して出る補助金が別にございます。マッチング・グラントだとか世界社会奉仕活動するために現地視察に行きたいということで出る補助金でございます。

●大阪なにわ(吉川仁育)

マッチング・グラントが終わって、タイにそのものを持っていくときに補助金が出ると思ったのですが。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

それは恐らくやはりボランティア奉仕活動補助金のお話だと思います。

●大阪なにわ(吉川仁育)

そうですね。そのときにその何カ月前に言わなくちゃいけないのだが、始まるときにはもう間に合わないようなことが。使えないというのが現状なのですね。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

使えないっていうか、非常に使いにくい。

●大阪なにわ(吉川仁育)

使いにくいですね、7月に年度が始まってさあ出そうと思ったらもう申請の期間が過ぎて、前の年から出しとかないとできないような。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

いえ、そうではないです。出発の3カ月前までに申請を出し、2ヶ月前までに必ず承認を受けないといけないという規約がございます。私ども委員会でも、皆さんにいろいろお手伝いしないといけませんで、私たちが申請いたしました。それがあって極寒のモンゴルに、11月にしか行けなかったのです。

●大阪なにわ(吉川仁育)

それは前年度に出すことは、例えばきょうすぐに前年度のこととして出すことは可能でしょうか。今から出せば、例えば8月9月とかも可能だということですね。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

可能です。

●大阪なにわ(吉川仁育)

それは始まっていなくても構わない。

●宮里国際奉仕・WCS委員長

構わないです。

●若林バスト・ガバナー

皆様にはまだまだご質問がোধりでしょうが、これもちまして終わらせていただきます。

本日の部門別は素晴らしいサプリーダーのお陰で、リーダーの私自身もサプリーダーのお話に感動し、良い勉強が出来たと感謝の念でいっぱいあります。7月1日から、いよいよ本番で登場されますが、今日の地区協議会のこの部門別で何かヒントを得られましたら、ぜひとも皆様方の年度に生かしていただき、実りのある1年間となりますことを祈念申し上げ、閉会といたします。



ロータリー財団部門

10階
1006号室
1007号室



●宮田パスト・ガバナー

初めての方はきっとロータリー財団を理解することはなかなか難しいと思われることと存じます。ほかの地区でもそうなのですが、財団のすべてを理解している方は少ないと言われています。財団というのは幅が広く、そして奥行きが深い。そして細かい箇所が毎年変わるので。財団の本部の方でたびたび用語を変えたりするわけです。財団の独特な用語というものもあります。わかりにくいということは事実でございます。しかし当地区では、年に3回ほど会議を持ちますので、大まかのところをつかんでいただけるのではないかと思います。

一言だけ申し上げたいのがロータリーの歴史です。どのようにしてロータリー財団が出来たかであります。1917年まだロータリーができてから年が浅いころ、社交クラブみたいな感じでやっていた頃に、社会奉仕として公衆便所をシカゴ市内に作ったとか、やと個人で奉仕をしたとか、クラブでもやり出したというような頃に、アーチ・クラフという方がもう少し財源を集める方法をつくり、ある程度の規模の奉仕が出来るようにすることができないだろうかというのを提唱されたのです。

そして28年に財団という言葉ができ、そして47年にポール・ハリスが亡くなった翌年に世界中から約130万\$が集まり財団として資金的な大きな規模に確立された訳です。

現在の財団の目的を一口で言いますと、地域的、全国的、日本でいえば、日本の皆さんの地域で、日本の国全体で、それから国際的、人道的な、教育的なそして文化交流の奉仕を世界平和のため

<リーダー> パスト・ガバナー	宮田 宏章 (大阪北)
<サブリーダー> 次年度ロータリー財団委員長	佐藤 俊一 (大阪鶴見)
<サブリーダー> 次年度財団情報・増進委員長	北村 譲 (大阪中之島)
<サブリーダー> 次年度財団奨学金・学友委員長	簡 仁一 (茨木)
<サブリーダー> 次年度研究グループ交換委員長	田中 潤治 (大阪西北)
<サブリーダー> 次年度財団人道的補助金委員長	横井 憲二 (八尾)

に行うということです。

お隣の佐藤さんはそれを束ねられる委員長さんで、それから情報増進です。こちらはお金を集める方の委員長さんです。そしてあとの委員長さんはそれぞれの奉仕を具体化させる委員長さんです。

きょうは、どうすればクラブとして財団から補助をもらえるのか、そしてお金を使えるのか、そしてそれがクラブの活性化に役立つわけです。地域にも使うし、海外とのシスタークラブと一緒に使って、発展途上国に何か奉仕をするというようなことです。各クラブが行動を起こせるような補助金をもらう、そして使うわけで、どういうふうにしたらいいのかを勉強していただきたいと思います。

奉仕のために随分使わせていただいて、いろんなことでき、だから寄付するのだというようなふうに財団を見ていただきたいものです。

寄付した、そして大いに奉仕に使わせてもらった、だからまた寄付しようというそういう発想で、きょう1時間半聞いていただけたらと思います。

●佐藤ロータリー財団委員長

ロータリー財団というのは一般的に難しいと言われていたのですが、最初お聞きしたいのは過去に会長、幹事、ロータリー財団委員長を務められた方は何人くらいおられますでしょうか。ちょっと挙手をお願いいたします、やっぱり半分以上おられますね。それ以外の方は初めてで、全く初めての方はちょっとわかりにくく、一方何回もやっておられる方はこんな話はもういいということになるかもしれませんが、いろんな方向からロータリー財団についてまた一緒に皆さんとともに勉強していきたいと思っています。

年度予定として、8月末に、クラブの会長・幹事・財団委員長が集まって財団のセミナーを行います。



それから、秋にクラブの財団委員長会議と年に3回ありますので、皆さんとは本日を含め3回顔を合わせる事になると思っております。

地区財団委員長というのは3年間やらないといかんことになっております。ことしもやりまして、横山ノミニの次年度もう1年やらないかんということで、よろしく願います。

先ほども言われたように財団は難しいということと、もう一つは何か財団は寄付集めばっかりだというイメージがありまして、わたしのクラブなんかでも会長、幹事経験者が財団委員長になると、その方が会員にらみが利いてお金が集めやすいというようなこともあるようですが、中には委員長になれば、人に頼んでお金集めるため、頭下げるの嫌やなという方もおられるようですが、それやったらいっそのこと、クラブ予算の中に財団の寄付金組み込んでしまおうかというのも聞いているんですが、場合によっては、必要悪としてクラブが財団に上納するというやぐざの世界か暴力団の世界のようなイメージで思っておられる方もあると思うのですが、先ほど何遍も宮田さんが言われたように、なぜそうなるかというと、寄付集めてそのお金がどうなっているかということがわからないからです。お金ばかり集めて後どうなっているのだと、それは財団のプログラムが場合によっては身近でないから各クラブ奉仕とか関係ないような遠い世界の話でありますね。例えば世界社会奉仕、どこかで井戸水を作るとかそういったところの話とか、財団の学生を派遣するとかGSEをやるとか、関係してる人はすごく関係してるんですが、知らない人はまるっきり知らないということで、そうすると先ほど言いましたお金ばかり集めて後どうなっているのだろうということになると思うのです。でも本当言えば、その財団のプログラムというものをよく知れば、これはお金を納めないといかんということになると思うのです。

古い仏教の言葉で「喜捨」喜んで捨てるという言葉がありますが、タイにはお坊さんが多くおられて、一般庶民の方は、あまり裕福でないのにお坊さんには、お金差し上げる。差し上げることによって自

分の徳が増えるということで喜んでお金をあげる。ロータリー財団の理想的なのは、プログラムがあってこのお金を払うことによって自分も良かったと、得したというものになれば一番いいかなと。ですから皆さん方クラブに帰られてクラブ協議会でお話される時、皆さんにそういうふうの説得される内容の話をお話していただいて、決して上納金じゃないと、財団プログラムに感激してお金を納めるのだということが基本だと思います。

集まったお金をどう流れていくかということなんです。ご存じのように2種類ありまして、一つは年次寄付、毎年1人当たり幾らと午前中も新谷ガバナー・エレクトがおっしゃったように130\$以上払ってほしいということの目標がありますね。それが年次寄付です。もう一つは、恒久基金ということで2種類ある。寄付金額云々というのはどちらかというと年次寄付でありまして、年次寄付は後でまた地区に戻ってきたり、財団プログラムに使われるお金です。恒久基金は使われないでそのままプールするというお金なのです。よく例えられるのは、年次寄付というのはロータリーのプログラムという花を咲かせるために毎年、水をやっていく、その水が年次寄付です。恒久基金は水を溜める貯水池である。だから花を咲かせるためには、そういった毎日の水が必要であると同時にそれを必要なときに溜めておくプールが必要だということで恒久基金ができていると考えられたらいいと思います。

寄付金はRIのロータリー財団の財団管理委員会というところで、お金が管理されるのですが、皆さん方はそのまま見過ごされる。中にはあのお金は一体ちゃんと使われているのかどうかとか疑い深い人もあるかもしれませんが、2年間投資して、投資したお金の半分はまた地区へ返ってきます。





詳しくインターネットで見いただくとロータリーの財団報告というのがちゃんとありまして、どんなお金の幾ら使って投資した額の何割がプラスになったとか非常にきちっと報告されていますので、疑り深いか、より深く研究したいという方はインターネットを調べますと、公明正大に公表されております。不透明でなく必ず信用を置けるというか、確実に運用されていると私は思います。

年次寄付の半分は、WFといいまして世界の基金に残りまして、あとの半分が地区へ戻ってくるわけです。それがDDFというもので、戻ってきたお金をこの地区委員会でどうやってお金を使うかとシェア会議というのを開きまして、戻ってきたお金をつまり我々の3年前のお金ですね、そのうちの半分が戻ってくると、利息がついて、それをどういうふうに使おうかということになっております。かつては60%地区へ戻ってきたわけですが今は50%になったので、お金が20%減っています。一番被害を被っておるのが財団奨学生の奨学金なのですが、かつて私も財団奨学金の委員長やってましたが、そのころは奨学生を20人以上派遣することができたのです。今はもう10人に減ってしまっていて、半分以下になりました。つまりパイの大きさが減ってきたということで、パイの大きさが減っている中で、分配をいろいろ考えてるんですが、小さくなっているパイはどうしようもないので、パイの大きさを増やさないといかんと考えております。

財団プログラムの目的が非常に重要であるのに、身近でないのは結局、世界理解とか平和を達成するために使うんだというロータリーの歴史上、一番進化した形でのプログラムであるからだと思うのです。親睦団体とか地域の奉仕からはじまり、だんだん世界的に規模が広がり、そういう中でなじみが浅くなるということになるんですが、私が個人的に思うのは、ロータリーというのは大きな意味の平和団体だと思うのです。平和団体である側面というのがあって、幾らいろんなところにお金を費やしても結果は、なかなか出てきませんが、平和と世界理解は永遠の課題だと思うのです、それがロー

タリオンとして夢と希望を持ち続けられるのではないかと。

クラブ管理だけに集中しますとマンネリになると思うんですが、クラブ活動から離れてロータリー全体の世界の動きとか、ロータリー財団のそういったプログラムをよく考えてみますと、我々の夢とかロマンとかそういうものを追いつける、そういった立派なプログラムであるということで、私も10年以来ずっとこの財団に関係しているのです。

きょうはオリエンテーションですので、これから4人の委員長の方が話をされますが、いっぱいプログラムもあると思うんですが、クラブに帰られてお話される時は、きょうの話と、それともう1つお勧めしたいのは地区のホームページがあります。ことしは非常に上手に地区のホームページができております。ホームページをパッと開いていただきますと、今年の財団委員会、委員長はじめ、4人の委員長の活動内容が載っております。

それから、GSEで今、トルコから来ておりますが、活動内容はホームページに写真で載っておりますので、ぜひホームページを開いていただいて、きょうのお話の後、補足するなり勉強していただきたいと思います。

私もロータリーの知識はあまりありませんが、疑問に対して、質問に対してどこを調べたら答えが出てくるかはわかるかも知れません。例えば、お金がどこへ行って、返ってくるのがどういう流れとか、そういうロータリーの財団報告書が出てまいりますし、ホームページの中でロータリーの友とかあるいはロータリージャパンウェブとかそういったいろいろなロータリーに関する情報というのがいっぱい載っておりますので、そういうことをあわせて見ていただいて、これから1年一緒にロータリーについて考えたいと思います。

●北村財団情報・増進委員長

今リーダーと佐藤委員長が話されましたので重複することが多いと思うのですが、財団情報・増進委員会と言いますのは、財団のことをよりよく理解していただいて寄付の増進につなげていく、そうい



う委員会でありませう。お配りさせていただいてませう資料見ていただきましたら大体わかるんでは、歴史・歩みにつきては、出ておるんではそれをご覧なっただければありがたいと思てませう。宮田パスト・ガバナーがおっしゃいましたように、1916年、17年の第6代RIのアーチ・クランフ会長が提唱されて当初出発をした。初めのは全然お金も集まらなくて、ポール・ハリス・フェローさんが亡くなられて初めてお金が集まって財団の形を成してきたというふうなことでありませう。

ロータリー財団委員会には、4つの委員会、私達の担当してませう寄付を集める財団情報・増進委員会そして奨学生、学友とか世界フェローシップとかをお世話をする財団奨学金・学友委員会、そして先ほどお話がありましたGSE研究交換グループのお世話をされたり学友のお世話をされたりする研究グループ交換委員会、そして補助金を出される事などを担当される財団人道的補助金委員会がありませう。私達の情報・増進委員会以外は皆さんお金を使われる方、そして情報・増進の方は寄付金を集める立場というふうなことでありませう。使われる方のことはこれからまた説明をされませうので理解していただけると思てませうのですが、財団への寄付というのは、先ほどお話がありましたように年次寄付と恒久基金、使途指定寄付という3つがありませう。

年次寄付につきては、各クラブで会員の方に毎年1人いくら以上というふうなことでクラブで決められて、それを寄付していただくのですが、これは先ほどお話がありましたように、当年度に集まったお金は当年度を含め3年間留保されませうて、4年目に初めてその50%が地区の方へ返ってきませうて、地区財団活動資金DDFとなりませう。残りの半分は、財団本部に残されませうて、国際財団活動資金WFとなりませう。年次寄付で集まったお金は、3年の間にいろいろ投資されて、金額が増えませう。その増加した金額もトータルされた50%が各地区に返ってくるというふうなことでありませう。

恒久基金につきては、集まったお金について

は一切、手をつけないうで、元金については永久に貯蓄され、運用益だけが財団プログラムを遂行していくために使用していくというふうなことでありませう。恒久基金に1,000\$以上を寄付されませうるとベネファクターの称号が与えられるというふうなことでありませう。

それから使途指定寄付というのは、一番代表的な例としてポリオ・プラスですが、何に使うかという指定をして寄付をする、そういう寄付のことでは。上記のような寄付の種類がありませう。次に過去にどういふふうな形で年次寄付されてきませうているかと言てませうと、私の資料にも書いておるんでは、10年ぐらいい前からこの2660地区の寄付もだんだんと人数の減少もあり寄付が減ってきませうておるという現状でありませう。ただ、世界の平均からいませうと、2005年度で世界では平均1人当たり70\$という寄付なうですが、日本の平均は107\$というふうなことでありませう。ただ、地区の目標額が131.89\$に対して結果136.84\$、1人当たり平均寄付をされませうてませう。ですから日本の平均よりも30ドルほど多く我が地区では集めていただておるんでは。2006年度につきては、目標額123.88\$に対して結果として136.21\$と若干0.6\$ほど減っておるんではけれども、136\$以上は平均寄付をされませうてませう。そのときの日本の平均が112.58\$というふうなことで、その前年度よりも5\$ほど増えませうてませう。世界では、77\$と1割ほど増加をしておるんでは。2007年度は目標額につきては119.45\$というふうなことでありませう。まだ6月が終わっておるんではので結果が出ておるんではせんが恐らく昨年度と同じぐらいいにはなるのではないかなというふうなところでは。

冊子の方にもクラブへのお願ていうことで、書かせていただておるんではのですが、財団に対する1人当たりの平均年次寄付の目標額が毎年低下しておるんでは。年次寄付についての1人当たりの寄付と言てませうのは、寄付総額を会員数で割ったものではないという点にご留意いただておるんではと思てませう。そのふうなことで各クラブの会員の皆様が漏れなく年次寄付をしていただておるんではようお願ていただておるんではと思てませう。



例えば今期は1人当たり100\$以上の寄付ということで、メンバーが50人ですと、100掛ける50で、だれかが1人でポーンと一括して全額寄付したら平均100\$以上だということではなく、全員の方が100\$以上していただくということでもあります。なおかつ、エレクトがおっしゃっていましたように日本の平均所得GDPからいきますと、世界でも1、2を争う非常に高いGDPでありますから、平均100\$というのは世界の平均100\$が\$ということで、当然皆さんご存じのように、50\$とか60\$できないところと、また150\$するところもあわせての平均です。だから日本では、少なくとも1人当たり、前年度より少しでも多くしていただけるようお願いしたいと思うのであります。

それから先ほど話がありました、8月の25日の土曜日が財団セミナーの予定となっております。これは会長、幹事、ロータリー財団の委員長さんが出席していただくセミナーであり、8月の25日の土曜日、場所はYMCA、予約を入れておりますので変わらないと思います。13時、登録受付の13時30分開始です。会長、幹事、ロータリー財団委員長さんのご出席をお願いします。

それから10月の27日土曜日ですね、これは財団委員長会議、これもYMCAで1時受付の1時30分開始です。この2日間は、地区協議会にいらしていただいているような内容をもう少し掘り下げたことになると思います。

●簡財団奨学金・学友委員長

お手元の資料は国際親善奨学金と学友についてという題で書かせていただいておりますので、詳しい内容はこれを読んでいただければご理解していただけると思います。

財団の国際親善奨学金というのは、先ほど情報委員長からお話がありましたように、いただいた寄付の半分が3年後にこの地区に戻ってきて、それを奨学金として支給しています。今までは1人当たり2万6,000ドルですが、次々年度からは2万3,000ドルになります。大体1ドル120円で計算すると276万円になりますが、当地区のロータリア

ン1人当たりの寄付額が130ドルくらいですから、その半額が返ってくるということです。1人の奨学生を送り出すのに350人以上の寄付が集まってやっと、1人の留学生を日本からそれぞれの国に送り出している状況です。

以前はロータリー財団の資金のほとんどが、奨学金に使われていたのですが、最近はその以外に、世界社会奉仕とか国際奉仕、社会奉仕などに使われるようになってきています。

次年度は教育的なプログラムより人道的プログラムの方に多く使われると思います。例えば、2人奨学生を送り出すと、インドネシアで多分、小さい小学校ぐらいが建ってしまう。私が委員長の立場であんまり言うべきことじゃないと思うのですが、この教育的プログラムを、どの比率で実行していくかというのが、委員会の課題になると思います。

小学校を建てるとか、井戸を掘るということも重要なことだと思いますが、次世代を担う若者たちを育てるのもまたロータリーの目的の1つだと思いますので、バランスをうまく取りながら皆さんからいただいた寄付を使っていきたいと思っています。

この奨学生は毎年、試験があるのですが、12月ごろ、それぞれの大学、ホームページ、それからもちろん皆さんのクラブに募集要項を提示しまして、3月中にそれぞれのクラブから推薦をしていただきます。そして、4月に論文のテスト、5月6月にかけて最終面接をして毎年選ばれるのですが、1年間に8人から9人ぐらい、それでもですね、20万ドル以上ですから、2,400万円近いお金を奨学生に使っていくわけです。

そういう中で奨学生の選考基準も、かなり難しくなってきました。今までは大体英語圏はTOEFLのスコアが550点、それ以外の語学ですとベルリッツのレベル5から6だったんですが、次年度からは、英語圏で587点、英語圏以外の語学が、レベル7以上ということで、私は専門家じゃないんでわかりませんが、たまたま奨学生のOBの英語の先生に聞いたところ、留学経験がないと、これからはロータリーの奨学金を取れないんじゃないか言われました。



傾向としては、RIのロータリー財団に確かめていかなきゃいけないのですが、私の個人的な感じとしては、日本からはなるべく優秀な数名にして、あとは違う国から取り、日本のロータリー財団のお金は人道的目的に使いなさいという意図が多少入っていると思います。

ロータリー財団のこの地区のお金というのは奨学生に、もちろん優秀で海外に行けない子がまだ日本にもたくさんいますので、何名かは選抜していきますが、大きな流れとしては、人道的目的に使いなさいという流れは止められないと思っています。国際親善奨学生の選考及びお金の使い方について、簡単に説明させていただきましたがそれ以外の教育的プログラムといいますと、まずロータリー世界フェロー、それから昨年新しく新設されましたロータリー平和及び紛争解決研究フェローという2つのまた奨学生制度があるんです。これは地区には関係なく、全世界から選ばれていきます。

ロータリー世界平和フェローというのは、全世界から約70名の学生を募集しまして、世界各国にある5つの大学の教育機関で勉強するというプログラムです。これはワールドファンドで行われるものですので、ある意味では募集して受ければ、誰でも行ける奨学金制度です。

このロータリー世界平和フェローというのはもう5年前から、すでに5期生が誕生していますが、日本からはなかなか選ばれなくて、今まで日本で選ばれたのは14名ぐらいです。当地区からは一昨年、茨木東さんが推薦された寺西悦子さんが合格しまして、今オーストラリアのクイーンズ大学で勉強しています。これには人数制限がありませんので、どんどん募集をしていただきたいと思っています。

今度、新設されたロータリー平和及び紛争解決研究フェローは、タイのチュラロンコン大学で3ヵ月から6ヵ月ぐらい勉強するプログラムですが、これも人数制限がありませんのでどんどん募集をしていただきたいと思っています。

ロータリーの国際親善奨学生というと、日本から出ていく奨学生のことで、日本へ来るのは米山の

奨学生ということで、一般的にはそういうふうにとらえられていますが、日本から海外へ留学生を出すということは、当然ほかのヨーロッパとかアメリカとか、ほかのロータリーの地区からたまたま日本へ来る学生もいるわけですね。今までは大阪は人気がなく、久しぶりですが、次年度は韓国とアジア系のアメリカ人の、2名の国際親善奨学生がこの大阪を希望しています、2人とも女の子です。初めてのことで、ちょっと戸惑っていますが、受入地区として、2人の国際親善奨学生の、世話クラブ、また1年間その子たちの面倒を見ていただくカウンセラーを決めさせていただきたいと思っています。

うちのクラブはやったことないんで受けてあげようという方がいらっちゃって、ガバナー事務所に連絡していただくと一番いいんですが、それぞれの経歴を皆様のクラブにお流ししますので、もしそういうクラブがありましたらぜひ募集をして、面倒を見ていただきたいと思っています。それが1年の受入国際親善奨学生です。

それ以外に、あと3ヵ月と6ヵ月の文化交流で日本へ来る学生がいます。3ヵ月の子が韓国の男子1名、それからロシアの女の子1名、6ヵ月が、オーストラリアの男子1名、次年度は、計3名の文化研修生が当地区に勉強に来ますので、国際親善奨学生をこちらから出してないクラブに重点的にお願いすることになると思いますので、次年度は、なるべく地区のDLPの方針に従って今まで経験していないクラブの方にそういう経験をしていただきたいということで今、進めております。

詳細については1、2ヶ月中にクラブのロータリー財





団委員長あてに情報を流させていただきますので、ぜひクラブの理事会等でご検討願いたいと思います。それ以外に国際親善奨学生として留学から帰ってきた学生さんたちをそのまま、ロータリーとの関係を絶つということじゃなくて、長くロータリーに協力していただきたいということで、当地区ではPSCという名称で国際親善奨学生のOB会、学友会を作っております。主な役目というのはこれから行く国際親善奨学生の候補者に先輩としていろんなアドバイスをしたりオリエンテーションに参加したり、ロータリー財団月間、11月でしたか、多分、クラブの財団委員長さんはそのときに卓話をしなければならぬと思うのですが、そのときに国際親善奨学生を出してないクラブでどうい子たちがどうい経験をしてきたということをもし要望されれば、できる限り国際親善奨学生のOBをそれぞれのクラブの卓話に派遣させていただこうと思っていますので、なるべく早めにお申し込みしていただければ、対応させていただきますのでよろしくお願いいたします。

●田中研究グループ交換委員長

研究グループ交換(GSE)は、ロータリー財団の教育プログラムの一つであり、異なる二つのロータリー地区が組み合わせられ、ロータリアンではないチームメンバー4～6名及びロータリアンのチームリーダー1名から成る専門職業の研究グループを、お互いに派遣し、受け入れ合うものです。旅行期間は4～6週間で、チームは可能な限り地元のロータリアンの家庭に滞在します。

GSEに関わる費用については地区ガバナー・エレクトと地区のロータリー財団委員長により、正規のGSE補助金申請書を提出し、承認を得て行いますが、ロータリー財団への地区による寄付の如何にかかわらず、毎年、1組のチームを派遣するための資金を国際財団活動資金(WF)に申請できます。

研修の内容は、国、行政、司法、教育、社会事業、農業、工業、研究、宗教及び文化、レクリエーションなどの一般研修と、各々の団員の専門職に関連した職業研修をミックスして、受け入れロータリー

クラブが立案することになります。通常の観光旅行では得られない素晴らしい研修と人生経験が待っていますので、皆様の関心を集めて行きたいと考えます。

このプログラムは、原則ロータリー財団のWF(世界基金)から往復の航空運賃を負担してもらいます。又(派遣メンバーの出発前の語学研修を行う場合は、地区DDFよりその経費が負担されます)プログラムを受け入れた地域のロータリアンの善意と情熱で支えられるものです。団員の一人一人が親善大使であります。地球上にありますロータリー地区は、530ほどあると思います。毎年一つの地域から5人研究グループとして派遣されますと、2650人の人たちが世界中のロータリー地域とそれぞれのガバナーを代表して交流に出かけることとなります。当地区(2660地区)のガバナーを代表して、今年トルコの2430地区にまいります。

トルコからはすでにチームが大阪に来ておりましたが、全てのクラブの皆様が大変お世話になっておりますが、彼らは、今、真剣に日本事情について勉強をしている状況です。日本人はあまりトルコのことを知りません。また、同じようにトルコの人たちも日本のことをあまり知らないのが現状です。相互に合って話をするのが相互理解に役立ちます。彼らが関西空港に到着しました際、私は空港に出迎えました。そして団長さんを車に乗せ、大阪市内まで来る途中、話をしましたが、それでも多くのトルコのことがかかります。トルコは海に囲まれて、南北に山脈があり、山の間は高地だが、盆地や平原が多く、素晴らしい農地になっているので、トルコは自給自足である。国土は東西に長く、日本の九州、北海道を含めた日本列島の長さに近いが、南北の幅が大きいので、日本の2倍あり人口は日本の半分ぐらいである。などいろいろな情報を聞くことができます。

現在滞在中のトルコチームの日程表及び名簿など、本日お渡し申しあげました封筒に入れておりますので、彼らの動きに合わせて日本事情についてご教授してあげてください。



又、GSEは世界的相互理解と、友好親善を推進するために、国を異にする個人と個人が親しくふれあい、意見を交換するユニークな機会を提供しています。彼らが皆様のクラブを訪問の折りには十分に話をしてください。

この5月7日から約1ヶ月、本地区から派遣いたしますグループの人選も終わり、現地でのプログラムについて準備を整えておりますが、団長が決まらず私に委員長から団長としてトルコへ行くよう氏名されておりますので、この地区の大使として大いにがんばらなければと思っています。

私がお願いしたいのは、皆さんのクラブから参加者の推薦をお願いしたいので。

皆様の会社には、優秀な社員が沢山おられるはずです。

将来彼らが会社のリーダーとなり、活躍される頃には参加された経験が大いに役立ちます。参加者には経済的負担はありません。

私は今までのように一般募集するのではなく皆さんのクラブから、皆さんの会社からご推薦いただき、より効果的なプログラムにしたいと念願しています。

来年度の募集要項が出来上がりしだいに、クラブに配布いたしますので、ご検討下さい。なお募集要項が多数必要な場合にはお申し出下さい。

なお、GSEのプログラムに参加されて帰国されますと財団学友として、また、アルムニ会の会員として活躍いただけます。GSE学友との連絡を維持することは、このプログラムの目標の重要な一環です。GSEメンバーがこのプログラムを満喫し、体験を活かすことが地元地域のロータリーの業績を広めていくと考えられますので、今後もGSEのプログラムで、何かとお願いを申し上げますがよろしく願い申し上げます。

●横井財団人道的補助金委員長

今までは、我々がお金を払う話でしたが、これからは我々がクラブで奉仕事業をするときに逆にお金をいただける話ですので、今まで補助金申請されてるクラブもかなり多いとは思いますが、まだ一度も補助金申請をされていないクラブがありました

ら、今期は絶対するぞというつもりでこれからの話を聞いてください。

ロータリー財団には、大きな3つのプログラムがあります。教育的プログラム、人道的補助金のプログラム、ポリオ・プラスのプログラムです。ロータリー財団から3つの大きな流れがあり、その1つが人道的補助金プログラムです。

人道的補助金プログラムの中にはまた4つのプログラムがあります。地区補助金、マッチング・グラント、ボランティア活動の補助金、3-H補助金の4つです。これを理解していただいて、これからの話を聞いていただけたらいいかと思えます。

我々が使える補助金の財源は年次寄付です。3年間運用され、それと恒久基金の利息、これが3年後に戻ってきます。戻ってきたお金はシェアシステムというものによって、どういう比率で分配するのかを決定する会議があります。それによって、国際財団活動資金(WF)、それと財団活動資金(DDF)の2つに分けます。

今年度と来年はWF・DDFの比率は50%、50%です。WF・DDFとも我々が申請すると使える財源です。次年度の人道的分野で使えるDDFは11万5,000\$です。

マッチング・グラントに使えるDDFのお金が6万5,000\$です。地区補助金、これは自分のクラブがあるところで社会奉仕活動する場合、使えるお金が5万\$です。1事業に申請出来る金額は、マッチング・グラントは5,000\$、地区補助金の方は2,000\$の補助金が申請できます。大きいプロジェクトをされる場合は、委員会で予算の残額を見まして柔軟に対応させていただきます。

人道的補助金には4種類あります。

この4種類のうちで、実際使えるものは1番、地区補助金それから2番のマッチング・グラント、この2つと考えてください。ボランティア奉仕活動補助金、それから3-H補助金の申請をどうしてもチャレンジしたいというクラブがありましたら、前もって我々人道的補助金委員会にご連絡ください。

地区補助金、これは主として、国内の地域社会へ



の奉仕活動、社会奉仕に対する補助金で、マッチング・グラント、これはロータリーの存在する国にしか使えない補助金ですが、もしロータリークラブの存在しない国への支援をする場合、地区補助金の申請ができます。ただし、米国資産管理局制裁下にある国、ミャンマー、北朝鮮、これに対しては使えません。今現在使えるのは、ベトナムぐらいだと思います。カンボジアも最近ロータリークラブが2つぐらいできたそうで、この地区補助金の申請はできないということです。これは先ほど言いましたように、それぞれ皆さんのクラブで使えるお金です。地区補助金を利用しようと思われるクラブは早い時期から社会奉仕部門と財団の委員長が連絡を取り合って早くに立案していただいて、なるべく早い時期に申請を出すことをぜひお願いいたします。これがおくれますと最終報告書がある時期を越えて出ないと、地区に対しての補助金が下りなくなってしまいます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

■ マッチング・グラント、これは外国に対する国際世界社会奉仕活動、WCSに対して申請できる補助金です。もしある国のロータリークラブが奉仕活動したくてもお金もない、専門知識もない、そういう場合は海外に援助を求めます。逆に、日本のロータリークラブがどこかの国へ援助活動したいと思っていて、どこかないだろうかと探しているときに、これがうまく合致したとき、マッチング・グラントが成立します。利用できる補助金の財源は、ワールドファンドです。MGに対しても、地区財団活動資金(DDF)を利用できます。利用すると非常に大きな財源になりますので、マッチング・グラントをお考えているクラブはDDFの使用というのも考えてください。地区補助金のプロジェクトの申請と報告についての説明です。まず第1にロータリークラブが存在する国、もしくはロータリークラブの存在しない国の人道的補助金のニーズを調査してください。これは非常に時間がかかりますから早い時期から立案していただいて、早く実施していただくということが大切です。

2番目にプロジェクトの立案。このときはロータリー財団の地区セミナーハンドブック(各クラブに3冊配布)を、必ず内容をよく読んでください。RIのウェブサイトにも地区補助金の関連解説記事がたくさん載っていますので、立案するときに、そのプロジェクトが実際地区補助金の事業を受けるに適しているかどうかという判断の基準にさせていただけたらいいかと思います。

2660地区のウェブサイトには、地区補助金の事例集も出ておりますので、ぜひご覧ください。それと同時に予算について検討してください。地区補助金の申請可能な金額はクラブが負担する額の2分の1が支払われます。ただし1クラブ当たり補助金の限度額が2,000\$となっています。4,000\$の奉仕事業しようと思うと2,000ドルは地区補助金に申請できます。ただし大きなプロジェクト、たとえば1万ドル、2万ドルの事業をする場合、補助金の残額を見て柔軟に対応します。

本日の資料の中に財団地区補助金の申請書、これが地区補助金の申請書になります。書きやすいようにフォームを変えまして、7月1日改訂版と書いてありますが、最終報告書を書きやすいフォームに変えておりますので、これを簡明に書いてください。箇条書きですべて結構です。署名をする前に申請書が出来ましたら一度、人道的補助金委員会に見せてください。もし何か不備がありましたら、我々で訂正あるいはアドバイスさせていただきます、それから署名をしていただいて提出していただいた方がスムーズに申請は通ると思います。

人道的補助金委員会では、補助金申請は、RIのルールにのっとって行わないといけないので、そのお手伝いをさせていただきます。もし何かわからないことがありましたら、ぜひとも我々委員会に早目にご相談いただいたら適切なアドバイスをいたします。

申請終わりましたら、7月から奇数ごとに、年5回地区補助金の審査会をおこないます。それに承認されますとクラブに通知されて、補助金がクラブの口座に振り込まれます。社会奉仕事業をおこなったクラブはプロジェクト終了後、2ヵ月以内に最終



報告書を地区あてに提出していただきます。このとき、プロジェクトの様子がわかる写真あるいは領収証のコピーを添付していただきます。それらの書類はクラブに必ず保管をしていただきます。

マッチング・グラント申請と報告です。これはロータリークラブまた地区が被援助国のニーズをよく調べることが必要です。プロジェクトがマッチング・グラントの条件を満たして2カ国のクラブが合意することから始まります。援助の内容が決まれば、まず予算書を作成していただきます。このとき補助金を有効に利用するための計算ルールを理解していただく必要があります。地区財団活動資金(DDF)を使用すると補助金は大きくなります。国際パートナー、日本はこの国際パートナーとして援助を提供する側になります。援助を受ける側、これはホストパートナー、要するに実際その奉仕活動が行われる国です。

ケースA、これは国際パートナーが3,000\$現金を出します。DDFの申請はありません。ホストパートナーが現金1,000\$出します。DDFの申請はありません。そうしますと、合計4,000\$の事業資金が集まります。事業を行うお金ですね。

財団から補助金がそれぞれの2分の1、これですと国際パートナーが1,500\$、ホストパートナーが500\$、合計2,000\$出るはずですが、実は補助金の今最低のリミットが5,000\$になっています。ですから5,000\$以下のこういう申請は未承認になります。少なくとも補助金の額が5,000\$になるように予算書を組んでいただきたいです。

ケースBです。国際パートナーが現金で8,000\$、相手国が2,000\$、この場合合計1万ドルになります。DDFの使用はありません。現金に対して50%出ますからそれぞれ4,000\$と1,000\$が出て合計5,000\$です。DDFはありませんのでゼロです。そうしますと補助金の合計がこれで2分の1の5,000\$になります。これは承認されます。現金は実際1万ドル出ているだけですが、補助金が5,000\$追加されますから、事業資金としまして1万5,000\$になります。

ケースCです。国際パートナーは現金0です。ただ地区のDDF申請5,000\$。ホストパートナーこれも現金の持ち出しゼロです。DDFの申請2,000\$です。そうしますと、合計7,000\$です、現金はゼロですから現金に対する補助金は、ゼロです。DDFに対しては100%財団から補助金が出ます。この場合は7,000\$出るということです。これは承認されます。合計1万4,000\$の事業ができるということです。DDFを申請すると非常に大きな補助金額が獲得できます。

ケースD。これは国際パートナーが現金8,000\$、DDFが5,000\$申請です。相手国が現金1,000\$、DDF2,000\$です。これ合計しますと1万6,000\$です。現金に対して50%出ますので4,000\$と500\$で4,500\$、DDFの補助金は5,000\$と2,000\$が出ます。100%出ますから7,000\$です。そうしますと、補助金だけで1万1,500\$になります。現金と補助金を足しますと2万7,500\$と非常に大きな事業が行えるということです。

この1つ下、Eですが、国際パートナーが現金2,000\$、DDFの申請なしです。ホストパートナー現金が8,000\$、これもDDFなしです。現金の合計金額は1万ドルです。これは横を見ますと、補助金が2,000\$しか出ません。これはなぜかといいますと、ルールがありまして、ホストパートナーの30%以上を国際パートナーが支出しないと少ない方、要するにこれは国際パートナーの現金、2,000\$に対しての50%の1,000\$しか出ないということです。だから補助金合計2,000\$になります。この場合は5,000\$以下ですから補助金は出ません。

Fのケース。これは国際パートナーが現金3,000\$、ホストパートナーが現金7,000\$、これは30%超えております。この場合はそれぞれの50%ずつ補助金が出ますから1,500\$と3,500\$、補助金合計5,000\$になります。この場合補助金5,000\$以上になりますので承認されます。そうしますと1万5,000\$の事業資金ができます。このような複雑なルールがあります。これはまたRIのウェブサイトに出っていますが、もしご不明な点がありましたら我々



委員会にご相談いただきたいと思ひます。

ここに世界社会奉仕活動へのDDF使用願ひの資料を出しています。例になる数字が入っていますので、このようなフォームで書いて提出してください。MGも先ほどの地区補助金と一緒に、まず地区の人道的補助金委員会あるいはWCS委員会にDDFの使用願ひの承認とマッチング・グラント申請書のチェックを受けていただいた後、申請書をRI事務局、これは日本ではRI日本事務局財団室に提出していただきます。提出後1ヵ月ぐらいで受理番号が来ます。MG何番というものです。申請書は11枚つづりの資料になっていて、RIのウェブサイトに出ています。ただし、すべて英文です。記載はすべて英文でしてください。簡単な英語で結構ですので書けると思ひます。ウェブサイトには日本語訳も載っています。申請書は11ページつづりですが、最初の2ページ、これは説明文です。こういうケースはできますとかマッチング・グラントの説明文になっておりますので、残り9枚を埋めてください。申請書には、第1連絡者と第2連絡者、第3連絡者、3名の名前の記載が必要です。すべて第1連絡者にEメールで返ってまいります。第1連絡者になる方は必ずメールアドレスをお持ちになっている方をお願いしす。

承認されますと、認知通知とともに同意書、それから拠出金書式、送金書式が送られてきます。すべて記載していただいて、日本事務局財団室に送っていただきますと、送金場所にその補助金が下ります。これも必ず事業終了後2ヵ月以内に最終報告書をRI事務局に提出しなければなりません。最終報告書がOKであれば財団本部からファイルをとじるファイルクローズという連絡が入ります。

これがないと次の申請は絶対できません。すべての事業がクローズにならないと、そのクラブが次の申請を出しても受け付けてくれませんので、気をつけてください。

申請額ですが、5,000\$から2万5,000\$、これが一応現実的な額です。それ以上超えますと競争制になりますので非常に通りにくくなります。もし申

請を考えられている方は2万5,000\$までの額で考えてください。

適切な補助金の使用方法ですが、これも申請書を読んでいただいたらわかりますし、ウェブサイト詳しく出ています。それと財団セミナー・ハンドブックにも出ていますので、よく熟読していただいて、申請を出してください。

何かありましたら我々人道的補助金委員会に連絡していただいてもいいですし、事務局の方にも優秀なスタッフがそろっておりますので、質問していただいたらいいかと思ひます。

●佐藤ロータリー財団委員長

我々の話の中で1つ抜けておりましたポリオ・プラスですね、あれはどうなったのだということですが、実をいうと世界の中で4カ国ほどポリオが終結していない国があるようです。ナイジェリア、アフガニスタン、インド、パキスタンでそこが完全に終結しない以上、ポリオ・プラスは続けてやることになってるんですが、そしたら皆さんで募金するのかということですが、一応DDFで我々がシェアの中で地区から毎年ポリオ・プラスとしてRIに出しております。ですから皆さんの浄財の中の一部がまだポリオ・プラスにも流れているということで個人個人の方にはお願いはしておりませんが、まだポリオ・プラスは引き続き、世界でポリオがなくなる限りポリオはまだ終結宣言が出ていないということになっております。幸か不幸かポリオが終わらない以上、世界的な大きなキャンペーンで、例えばエイズをやるとかはまだ先の話だということでもありますので、ポリオはどうなっているのだというご質問に対しては現状そういうことでもあります。





もう1つ補足させていただきたいのは、財団学友という名前で先ほど簡さんの方でお話されたんですが、財団学友というのは実は財団奨学生だけではなくてGSEを経験をした団長も含めて、要するにロータリー財団で何かプログラムに参加して帰ってきた人がロータリーの財団学友という形になっておりまして、非常に優秀な方々ですので、将来のロータリアンとしての希望も持てますし、それぞれのクラブの活動の中でそういった推薦して帰ってこられたGSEのメンバーとか国際親善奨学生なんかをいろいろ呼んでいただきたいと思います。

帰ってきてあまりクラブに顔を出さないでそのまま消えてしまうような人もおられるのです。先ほども言いました多額の我々のお金で行ってそれきり消えてしまうのはほんともったいないと思うのです。RIでも次年度、財団管理委員長 ビチャイ・ラクタルさんが来年ロスの世界大会には財団学友を呼んで、学友大会をしようというようなことの計画もあるようです。ですから我々の委員会としても、そういった過去のロータリー学友の方をいろいろまとめていきたいと思っています。

GSEはGSEアルミナ会というのを作っており、財団奨学生の方はPSCいうのを作っているのですが、もう少し名簿整理をきちっとまとめて組織を発展していきたいと思っています。

そういった方を中心にしてロータリークラブを地区でも作ろうという動きになっております。ですから若い人だけのロータリークラブができますので、そういった方のためにも、財団学友の組織化が非常に必要だと考えております。

各クラブで推薦されて帰ってきて行方知らないと、我々地区がいろいろPSCの人をお願いして、どこ行ったか探してもらっているのです。皆さんにお願いがありますのは、1年間ロータリー財団の委員長になられて、ぜひコミュニケーション・連絡取っていただいて、おい、どうしてるんだ、どこにいるんだということで、クラブで財団学友のリストを作ってくださいと、また地区全体のリストを作る場合に非常にありがたいです。

確かにロータリー奨学金で外国へ行ったけれどまるっきり音沙汰ないと、けしからんと怒ってる方もおられますが、別に悪気があって連絡してこないじゃないと思うんです。こちらから呼びかければ反応してくれると思います。たとえば阿倍野ロータリーの方が非常に多くの財団奨学生を推薦しておられて、リストはちゃんとあるんですね。各クラブでも皆さんそういった財団の学友、GSE関係とこれから連絡取ってクラブとコンタクトしていただけるようお願いしたいと思っています。

●宮田パスト・ガバナー

各委員長さんは長い間、地区の方で財団をやっておられますので、私から見ると、すばらしい説明だったと思いますが、ちょっと疲れたなという方もおられるかと思っています。きょうは最初の日なので、これを一つの契機にしまして、この「ロータリー財団地域セミナーハンドブック」というものをよく読んでいただきたいと思います。

このハンドブックは11月にいつも改正され、内容がちょっとずつ変わりますが、何度もよみかえしていただきたいと思っています。そして本年8月、10月の財団会議にご参加いただけたらより理解がすすむと考えます。

午前中の講師のお話の中でCLPの新しい細則で、5常任委員会とかいうのがありました。これにも財団が一つの委員会としては入っています。しかし四大奉仕の方は1つにまとまった委員会になってしまいました。これについて不満の質問もあったとかいう話もありました。しかし、財団に協力することによって自動的に世界的な地域的な奉仕が実行出来るわけですね。もしここに世界地図があったとしますと、財団の運営によって世界中のクラブがお互いに交差しながら奉仕を行い、GSEも留学生交換も、この何十年間の間にもものすごい勢いですすんできたわけですから、この世界地図は交差の線で、いっぱいになります。どうぞ財団に対して深いご理解のほどお願いいたします。



米山奨学部門 10階 1008号室

<リーダー> 近藤 雅臣 (千里)

バスト・ガバナー

<サブリーダー> 岡田 義昭 (大阪淀川)

次年度米山奨学委員長

<サブリーダー> 池田 文治 (大東中央)

次年度米山奨学副委員長



●岡田次年度米山奨学委員長

米山奨学委員長を長くおやりになっていらっしゃる方も、今年度初めて委員長を引き受けたという方もいらっしゃると思いますので、米山記念奨学会の全般的なことについて述べさせていただきます。

米山奨学会の制度、それから寄附金のことについて、どういう人たちが合格しているか、さらに地区委員会についてもお話ししたいと思います。最後に学友について述べます。

これは、皆さん方にお渡ししましたプリントの中に書いてございますので簡単に飛ばしますが、使命としては優秀な学生を支援する。それから日本文化・習慣にふれる努力をする人、さらにコミュニケーション能力つまり社会参加、社会的貢献の意識を持って国際平和の創造と維持に貢献しそうな人、こういう人なら母国に帰ってもロータリアン的な活動もできるでしょうし日本とのかけ橋的な活動もできるだろうということを期待しているわけでございます。

米山奨学会というのは海外青少年交換と競合するから国際ロータリーは、この米山奨学会に対して非常に冷たいまなざしで見っていました。認められていなかったのですが、数年前国際ロータリーはこの50年にわたる日本のロータリーの米山奨学制度に対して大変な敬意を払い、今後、ロータリーの名前を使ってもいいということを国際ロータリーが決めたので、現在はすべて公式文書にはロータリーという名前がついてございます。

特徴としては、米山奨学生は例会に参加し、各種会合にも顔を出す。そして奨学金を受け取る

ということが唯一の義務になっております。昨日の奨学生オリエンテーションのとき奨学生の中には例会の時間に大事な講義があるので例会に出られないというようなことを言う学生もいました。しかし例会に参加するというのが、奨学金を受け取る唯一の最も大事な条件になっております。

カウンセラーは、国際的感覚を持ってこの奨学生との心の友情きずなを築いていただきたいと思います。そして奨学金が終わった後も、常に連絡を保って居場所を確認するということをカウンセラー自身が積極的に行動していただきたいと思います。

学生は例会に参加するだけでなく3月・9月にレポートを提出いたします。

レポートを提出したらカウンセラーは、それをチェックし、そして1部ロータリークラブに保存し、1部は奨学会に送るということになっております。10月の米山月間には必ず米山奨学生に卓話をお願いしてください。それは昨日おこないましたオリエンテーションのときにも、重々奨学生に伝えてあります。

カウンセラーは、この奨学生が大学で実際どういう状態で勉強しているか、果たして学位論文が期間内にとれるかどうかという情報交換する場合があります。熱心な学生なら限られた期間に博士号、修士課程にしても学位をとることができますが、さぼってる学生は期間が過ぎても学位論文が書けないという場合、それを奨学金延長してほしいということを学生が言ったら、カウンセラーはただちに指導教官と連絡をとって、この人はいつになったら学位をとれるのでしょうかと、1年先でも2年先でもこの子はだめだよと言ったら、そういう人に資金を与え続ける必要はないと思います。

カウンセラーの役割としては、これは8月4日にカウンセラー研修会を開きます。ここで問題点を出して、お互いにテーブルを交えてグループ討議いたします。そこで出てきた問題を皆さんで解決しよ



うということですが、とにかく友情のきずなを築いてほしいと思います。3～5年たってもあのかのときのカウンセラーまた会いたいとか、何とかコンタクトを保ちたいなという留学生が現実にはいますので、やはりカウンセラーは非常に大事な存在だと思います。

それから、日本の文化を、相手の文化も尊重しますが日本の文化も理解してもらうこと。ただし、お願いはできても強要することはできないですが、指導することはできると思います。

終了後も連絡をとり合うということは、これはもうカウンセラー自身がやっていたきませんとクラブ全体としてはなかなか動きにくいと思います。

カウンセラーと米山奨学委員長を兼任なさる方も多いかもしれませんが、ともかく米山奨学委員長の肩書のある方は寄附に御協力をお願いしたいと思います。かつて米山奨学委員会っていうのは寄附をお願いするというような、浅ましいことを公の席で言うなというふうに私たちは言われてきたのですが、私は恥を忍んで言います。

DLPで委員長は1年でございます、今回は初めて最後のお願いであります。よろしく願います。

寄附は11年ぐらい前までは大体20億円年間ございました。会員数が減ると同時に、だんだん減ってしましまして、一時は特別積立金を足していたのですが2005年からは特別一般会員の普通寄附と特別寄附を合計した、これだけで奨学生の運営やら奨学金を支給しております。これは約15億円弱です。地区別の過去の累積額を調べてみますと、これは皆さん方にお渡しした資料の中に、記載されておりますけれども2660地区は28億円弱寄附しております。全国34地区中1位と2位と5位が関西でございます。いかに関西が米山奨学会に貢献してきたかということがよくわかると思います。

では、昨年7月からことしの3月までの寄附額を見ますと、皆さんにお渡しした資料に載っておりますけれども2660地区は第3位でございます。毎年、京都・奈良は1億円を超しております。断トツ1位です。2660地区も6月ごろになりますと8,000万円ぐらいになることを期待しておりますので

が、毎年8,000万円は寄附しております。ただし2660地区の個人平均寄附額は7位でございます。つまりトータルの額を会員数で割りますと個人平均寄附額は全国の7位でございます。それから残念なことに普通寄附1人5,000円寄附をお願いしているのですが、3月末現在85クラブ中まだ5クラブが未納であるという通達がきております。

2660地区内のクラブ別寄附額を見てみますと、総額順位は大阪ロータリークラブが断トツ1位でございます。人数も多い環境もあるかもしれませんが大体500万円がこの順になっております。ところが総額をそのクラブ会員数で割った個人平均寄附額は1位が大阪なにわRCさん、それから2位の池田くればRCさんはもっと下だったのですが、ガバナーの関係で急速に2位に上がってまいりました。大阪東RCさん、柏原RCさん、東大阪RCさんと順になっております。衷心より感謝と敬意を表したいと思います。

前年度の寄附額を、175万から180万円で割った値が奨学生の数でございます。2005～7年は800名。ベトナム現地採用が2名、これは近藤先生が長年奨学会で運動なさったおかげでやっと実現します。つまり日本に来ている留学生はほとんどお金持ちです。

家からお金をもらって自費留学をしている人が多いわけですが、日本に来ることすらできないような貧しい学生で、優秀な人を現地で採用しようというのが長い間の念願でそれが実現いたします。

この第1期生が本年6月から2名、日本にやってまいります。海外の米山奨学会の推薦、これは韓国と台湾にございますので1名ずつ2名。合計800名から4名引いて国内採用は796名を国内で採用



796名を全国の地域にどういうふうに分けるか、その分け方はほとんど地区の寄附額で決定されます。留学生数の多さも10%ほど関係いたしますが、90%は寄附額の多いところに多くの奨学生を配分するという



ことになっております。

これが2007年、本年度の地区ごとの奨学生の割り当てであります。京都・奈良は、寄付額が1億円超しますので、奨学生の割り当てが47名断トツ1位でございます。大阪北2660地区は2年続いて8,000万円でございますので39名の配分がございました。一番少ないのが秋田7名でございます。ベトナムが2名ということになっております。

ベトナムの第1期生2名のうち1人は東京、1人は大阪。大阪大学の工学部でベトナムにおける土壌汚染というテーマで研究することになっています。大学入学は10月で、6月から10月まで日本語学校に通うことになっております。世話クラブは千里ロータリークラブでございます。

当地区では国公立大学4校、阪大、大阪教育大、大阪外大、市大この4校です。それから府大はありますけど堺市ですので、それから私立は13校でございます。幾ら応募の手紙を出しても何の返事もないところでは次の年から応募の書類を送っておりません。それから独立行政法人の学生支援機構であります大阪日本語教育センター、これは上六のちょっと南へ行ったらあります。大学に入学するまでに、ここで日本語を勉強して大学を受験するわけです。ここの優秀な人を採用しようということに、ことし初めて決定しました。

39名の割り当てがありましても2年継続が11名で、しかも日本語学校に2人分で1名分でございますので、実質新規採用は27名でございます。

この27名の2倍54名を2660地区の応募者数にするということになっております。私たちは忠実に2倍ということをやっておりますけども、沖縄なんかですと採用数1人に対して15名くらいの応募者があるかと思えば、静岡の地域では13名採用するのに応募者を15名にするというような、ちぐはぐな地域もございまして大阪では大学数も多いのでこういうふうな平等にやっております。

この大阪地区に有資格者が1,424名います、恐らくこれの4倍くらい留学生がいるはずでございます。そのうちの1,424名のうちの561名が大阪

大学の学生です。つまり大阪大学には、この地域の中の40%ぐらいを占めているということになります。大阪産業大学も非常に留学生が多く、応募者数を配分いたします。

応募者54名のうち阪大は21名、産業大学は9名各大学こういう応募者数を通知するわけでございます。0.1未満の大学は1人ということで総数69名を応募対象にするわけでございます。

大学では例えば21名応募してくださいという通知を出しますと、大阪大学では大学の各部ごとに選考委員会がありまして、そしてその大学の中で選考した人を応募してまいります。これはどこの大学でも選考委員会があって学内で選考するようになります。大学の推薦そして担当教授の公印つき推薦状がなければ応募できないというのが1999年から始まっております。それまではロータリアンの紹介、クラブの紹介で応募していたわけですが、8年前からは、そういう人しか受け付けておりません。

選考は大学の選考委員会の結果を信頼しますし、それから指導教官の推薦文も公認つきでございますので、これも信頼しようということで私たちは応募者の小論文、応募者が書いてくる論文とそのものの考え方、それと教授の推薦文とがピシッと一致しているかどうか、全然違うことを書いてないかどうかという調査を書類選考でいたします。日本語は十分話せる、それから来日したときの目的と帰国したときの方針がはっきり言えるという人、日本の文化、ロータリーの精神を理解してくれる人を選んでおります。

一国の奨学生を50%超えないことと、これ非常に難しいのですが全国11～12万人の留学生の中で60%以上強ぐらいが中国の留学生でございますので、普通にいきますと中国の学生が50%を超えることが多いのです。この50%以下は奨学会からの要望でございます。2660地区では大学別、専門別に合格率をできるだけバランスよくしております。2年支給者よりも1年支給者の留学生を採用しようと配慮しています。2年支給者が多過ぎ



まずと次の年の新規採用数が減りますので、それからクラブ推薦はとにかく採用しないことに決めております。それから高等教育専門学校の採用は2名、これ2名で正規1人分でございますので2名だけに限定する。できるだけ新規学生数を幅広く採用しようというのが方針です。

書類審査をいたしまして10点満点で書類申請した同じメンバーを面接するわけです。こちらの方の比重を多くしております。1人は甘い点をつける1人は辛い点をつけるということで、偏差値をとって調整し偏差値の3名の平均点をその人の最終得点にするということです。

これは、昨年の方の国別の合格率で中国13名でこのように、これまでは北東アジアの人が多かったのですが、去年から東南アジアの人がふえてまいりました。

ことしは東南アジアの人が若干減りました。英国カナダという欧州系の人でもタンザニアの人も1人来ましたし、中国が32名応募して12名しか合格しませんでした。合格者29名のうち辞退者が3名出ました。これは米山奨学金に合格したけれども大学の方でも別の奨学金に合格したという場合には、こちらの方を断っていただくことになっています。

これは大学別の合格率を見たものでございまして、阪大が21名受けて10名合格しております。今回大阪市大が5名受けて1人しか受かっておりません。ちょっとこここのところバランスが悪かったと思っております。この人たちは応募者数と合格数が同じであります。関西大学が5名受けて3名合格と

いうことで、毎年優秀な学生を送ってまいります。

それで1月に先ほど言いましたように、86クラブにアンケート調査をいたします。44クラブは受け入れ承諾、それで11クラブが継続でございますので合わせますと54クラブが受け入れということで、60%近いロータリークラブはこの世話をしてくださることになっております。ただし奨学生数がこれに満たさない問題、14クラブが今年度割り当てがなかったということでございます。

大学の所在地と自分の居住地と通いやすいロータリークラブを選んでいただいておりますが、来年はそういうことは一切無視して、この14クラブを最優先しようということになっております。

各クラブは世話するに当たり地区委員会に要望いたします。どんな要望かといいますと、女性を希望する。韓国以外の女性。これの理由はわかりません。それからベトナム、カンボジアの女性を希望する。これは貧困国の女性ということだと私は想像しております。

それから大阪大学、クラブに大阪大学の名誉教授がいるのでぜひ、あるいは近畿大学の関係の人がいるので近畿大学の奨学生をお願いします。あるいは中国、韓国以外、これがいまだに1ないし2クラブに存在いたします。温家宝が来日された今日でございますので、いつまでもこだわるといのは私も賛同しかねるんですが、それでも中国留学生拒否が減少してきました。昔はもっと多かったのです。それから女性希望者がふえました。





受け入れクラブも30%から60%に増加いたしました。地区委員会の委員数は最低8名必要です。委員長、副委員長、委員の役割りをきっちと決め、定期的に委員会を開催して記録を厳重に保存しています。そして年間行事の担当者を指定し、奉仕の平等性を貫こうということで、年間の計画を立てて年間の行事マニュアル化をいたしました。

人事に関しても去年の春に委員長、副委員長の任期を3年以下としようというふうに決めたのですが、DLPの方針が発表されまして実質1年になり、委員長も副委員長も1年でやめます。

これが年間の行事予定でございまして、昨日、新規奨学生のオリエンテーションを実施いたしました。皆さんほんとにいい学生ばかりが集まっております。6月の末に新旧合同の委員会を開きますが新委員が3名いらっしゃいますので新委員のオリエンテーションをする予定でございまして。

7月7日は学友会総会。これは新規奨学生とOB学友たちとの合同の総会でございまして。それからこれは毎年やっている地区合同委員会。それから8月4日のカウンセラー研修会。それから10月14日に秋のリクリエーションとして奨学生と学友者たちと一緒に宝塚観劇をいたします。

これは日本の文化を紹介ということでございまして、例えば日本の文化を紹介するのに歌舞伎なんかですと物すごく値段が高くてとても連れていきません。宝塚歌劇なら何千円程度で済みますので毎年ここに連れて行ってまいります。

それから10月下旬になりますと応募者の書類選考が始まります。1月20日に面接試験。1月の末にガバナーを交えて最終的な決定をいたします。2月3日は終了者の歓送会をいたします。卒業式みたいなものでございまして。2月の終わりか3月にしたいのですが、そのころやりますと奨学生が多く国に帰ってしまいますので参加者が十分集まらないということで早目にやっております。

ことしの3月までで109カ国13,903人の学生を送り出しました。学友会は日本に25あり、韓国・台湾に2つあります。大阪北部2660地区は終了者

が688名で、現在、学友会関西という名前で会長が林さんという方です。非常に熱心で米山奨学会の地区委員会の活動にボランティアで手伝ってくださっております。

年間の行事としては毎年2月に会報を発行しているのですが、きょうこの地区会議に会報が間に合いませんでしたので、いつかクラブあてに送らせていただきます。

秋のリクリエーション、この林さんが新規の奨学生とOBたちを連れて1泊旅行していただきます。

皆さん方にお配りしました学友の群像というところに出ていることばかりでございまして、この方の名前が出ておりません。陳さんといいます。台湾では徐さんという人が台湾のロータリー米山会を設立いたしました。

2004年から2006年までこの陳さんが理事長をして、そして去年日本の奨学会と台湾の奨学会合同でシンポジウムを開きました。この方は1973年から1975年大阪大学の工学部にいらっしゃった方でありまして。事業が成功してほっとしたときに大阪のロータリー世話クラブの連絡をとろうとした。カウンセラーも3人いたのですが非常に熱心なカウンセラーだったと思っております。とにかくカウンセラーに会いたい一念でいろいろコンタクトをしてきたのに全く接触できない。手紙を出しても届かない。それもそのはずです。当時のカウンセラーは3人も故人になっております。そういう情報を私たちは東京から得ましたので去年の秋、台湾へ5人のロータリアンでこの陳さんに会いに行っていました。

かたい握手をして昔の心がつながったというふうな気持ちで大変感激いたしました。現在の奨学生が母国で活躍するところには、私たちはもうこの世にいないと思っております。先ほど、こんな話がちょっと出ました。あんなに世話したのに何の連絡もない。

これは日本人の文化風習からくる発想でありまして、施しの発想だと私は思います。彼ら彼女らは心の中で皆、感謝しています。どの人に会っても。ぜひこちらから積極的に連絡をとるようにしていた



だきたいと思います。理想的にはカウンセラーが本人に会いに行くということが大事じゃないでしょうか。私たちも7年目にやっと見つかった元奨学生が大阪で結婚していることがわかりまして、さっそく夫婦を呼んでロータリアン数名と食事をいたしました。そのとき言った彼女、「赤ちゃんを産んだばかりで御主人は単身赴任でどっか行っちゃっていない、自分は大学で研究をしなきゃいけない、子育てしなきゃいけない、そんなときに奨学資金をもらって、もう生涯忘れることができません」と涙ながらに訴えておりました。

現在あるのは奨学金のおかげであるというふうに切実にみんな思っていて、世話クラブのカウンセラーに会いたがっております。とにかく大変な仕事をしてほっとしたときに、一息ついたときに米山奨学金のことを思い出すようであります。

消息が判明いたしましたら事務局にぜひとも御連絡いただくようお願いいたします。

本日お渡しました資料を参考に、10月の米山月間にぜひ皆様方、米山奨学委員長様が卓話をさせていただきたいと思います。本日使いましたパワーポイント、これは下手な私がつくったのですが、こんなのでよければ事務局に問い合わせすれば事務局から各クラブの事務局に転送いたしますので、このパワーポイントを使っただけでも結構ですから、どうか皆さん方自身で卓話をさせていただきたいと思います。どうしてもできないという場合には私たちがお伺いいたします。

●池田次年度米山奨学副委員長

これから質疑応答の時間に入りたいと思います。

●大阪天満橋(中村健輔)

資料に寄附金納入明細表ということでいただいておりますけれど、その中で特別寄附金という欄がございますが、

●岡田次年度米山奨学委員長

特別寄附と普通寄附の違いでしょうか。普通寄附というのは1人一律5,000円でクラブ全員がクラブでまとめて奨学会に送ること。特別寄附というのは個人が奨学会に寄附する。例えば、5万円寄附

して半年後にまた5万円寄附したら10万円累積されますから10万円ごとに功労賞の名前が送られてきます。

この特別寄附は、免税措置がございますので10万円寄附しても100万円寄附しても自分の所得控除がございます。そういう利点がございます。特別寄附というのは個人が、法人がする場合もでございます。いずれにしても普通寄附は一律に1人5,000円、特別寄附は個人ないし法人が直接奨学会に寄附する額でございます。全部累積されてまいりますので記録はきちっと残るはずですよ。

●大阪天満橋(中村健輔)

クラブでももちろん普通寄附はクラブとして集めておるのですが、特別寄附の方も年に何万円くらい出してくださいよというようなアナウンスしておりましたんで、その辺がちょっと勘違いしておりました。

●岡田次年度米山奨学委員長

京都は、各クラブにノルマを与えてノルマを達成したのはいいけれども、達成しなかったら何かあるそうです。それでみんなわあっと寄附するものから1億円超すのです。

●池田次年度米山奨学副委員長

地区としては普通寄附金で5,000円、それから特別寄附金で1万5,000円と合わせて1人2万円を目標にやっております。

●近藤パスト・ガバナー

まず申し上げたいのは、地区協議会でも地区大会でも米山奨学部門というのはプログラムの一番下に書いてあることに憤りを感じます。

日本のロータリアンが独自の奉仕活動として始めたこの米山奨学制度は、どれだけ日本のロータリーにとって誇り高く素晴らしいものであるかを皆さんは卑下しておられるような気がします。

島津理事長が東京の理事会において、今年国際ロータリーからロータリーと名前を冠してもよろしいというお許しが出て大変嬉しく思いますと言われたとき、私は自分の提案発言の中で、国際ロータリーが米山の上にその名前を冠することを許すといわれて何も頭を下げることはない、別に恩に



着せられるものではなく、そうされなくてもわれわれは立派にやってきた誇りがあると申し上げました。

われわれは米山の制度にもっと誇りを持ち、自分たちの制度としての愛着をもって発展させて行きたいと思っています。

行き過ぎた発言として叱られるかも知れませんが、財団よりこちらの方を優先して欲しいというのが偽らざる心境です。いずれにしても私たち日本のロータリアンが築き上げ、育ててきたこの素晴らしい制度を皆で大切に更にもっと大きく育てて行きたいものです。

会議の始まる前から、討論が始まるという熱気にみちた楽しい時間を過ごさせていただきましたこと厚く御礼申し上げます。米山奨学金制度を皆さんと共に、もっと充実した制度として大きく育てて行きたいと思っています。

先ほど委員長からご紹介がありました現地採用奨学生の件につきましては、1997年、私がガバナーをさせていただき、各クラブ訪問をした際に、皆さん方から日本に来ている奨学生はまだ恵まれている方で、東南アジアなどで優れた青年であっても日本で勉強したいが経済的に恵まれない人が多くいるはずである、このような有為な若い人材をこちらから積極的に探し出して採用してあげたらという意見を沢山いただいております。

その都度、地区の担当理事にお願いして運動してきたのですが、昨年の理事会でやっとそれが認められました。たった2人ですけれど採用枠が認められ、小生が言い出した張本人ということで選考委員のひとりにさせられ、現地で試験をしてまいりました。

試験の方法は現地の大学のご協力で公募方式で、400名程が集まり、それを200名に絞り、更に最後20名を選抜して、この人たちを半年間ホーチミン市の日本語学校に入れて、日本語の勉強をしていただきました。その間、先生方にそれぞれの学生たちを評価していただき、この評価を参考にしながら、私たち委員が20名を面接し最後に2名を選びました。この2人をどの地区でお願いするか

ということが大問題でしたが、本人の希望学問分野および経験の多い東京地区と関西地区に1名ずつお世話いただくことに学務小委員会で決定いたしました。

関西地区でお引き受けする学生は環境科学を志望しておりましたので、阪大大学院環境工学専攻で都市環境などの権威である盛岡教授にご指導いただく予定になっています。はじめての現地採用型奨学生ですので、まさにテストケースとして注目されます。

実際に面接試験を行いますとたった2人しか採用できないということが本当に残念に思えました。日本にきて勉強したいと切実に願っている皆さんの真剣な眼差しが忘れられません。現地採用という制度に関しては、第一回の採用はタイ国の国王が試験官になられて2名を東京ロータリーへ送るということになったそうです。しかし、入国の手続きが面倒で半年以上かかったそうで、これでは大変ということで国内にきた留学生から選抜する事にしたそうです。したがって、米山奨学制度は本来現地採用型を目指していたということをお頭に入れておいていただきたいと思います。

この制度をもう一度復活させ、持続させていければと望んでいます。

米山奨学制度は日本ロータリアンの手で築き上げられた誇りある素晴らしい制度です。





2007～2008年度のための地区協議会

資 料

刀根 莊兵衛 様 プロフィール

生年月日 昭和29年1月21日

ロータリー歴

現住所 福井県敦賀市白銀町4番2号

クラブ関係

昭和57年 敦賀ロータリークラブ入会
平成13年 理事 会長

昭和52年 大阪大学工学部石油化学科卒業
昭和54年 大阪大学工学部大学院プロセス工学科卒業
昭和54年 株式会社 塩荘専務取締役就任

地区関係

2004～2005年度 地区代表幹事
2006～2007年度 地区手続規則委員長
地区大会決議委員長
2007～2008年度 ガバナー補佐

平成9年 同社代表取締役社長就任 現在に至る
平成9年 (株)塩屋荘兵衛 代表取締役社長就任現在に至る
昭和62年 株式会社 八木熊取締役就任 現在に至る
平成8年 敦賀信用金庫監事就任 現在に至る
平成8年 (株)北陸トラベルサービス取締役就任 現在に至る

地区出席者名簿

役職名		氏名	クラブ名
ガバナー	クラブ奉仕部門	リーダー 岩田 宙造	大阪南
バスト・ガバナー	職業奉仕部門	リーダー 戸田 孝	八尾
バスト・ガバナー		熊澤 忠躬	守口
バスト・ガバナー		中川 章三	大阪城南
バスト・ガバナー	米山奨学部門	リーダー 近藤 雅臣	千里
バスト・ガバナー		柏木 尚	豊中
バスト・ガバナー		寺田 和之	大阪
バスト・ガバナー	青少年奉仕部門	リーダー 井上 暎夫	千里
バスト・ガバナー	国際奉仕部門	リーダー 若林 紀男	大阪東
バスト・ガバナー	ロータリー財団部門	リーダー 宮田 宏章	大阪北
バスト・ガバナー	社会奉仕部門	リーダー 神崎 茂	大阪西
ガバナー・エレクト	会長部門	リーダー 新谷 秀一	池田くれは
ガバナー・ノミニ	会長部門	サブリーダー 横山 守雄	大阪中央
地区代表幹事	幹事 S.A. A部門	リーダー 山本 博史	大阪南
地区研修委員	クラブ奉仕部門	サブリーダー 川上 善司	大阪平野
地区研修委員	青少年奉仕部門	サブリーダー 松井 隆雄	大阪天王寺
地区研修委員	幹事 S.A. A部門	サブリーダー 橋本 憲之	大阪南
地区研修委員	職業奉仕部門	サブリーダー 岩本 洋子	大阪そねざき
地区研修委員	会長部門	サブリーダー 瀧川 紀征	吹田西
地区研修委員	会長部門	サブリーダー 井上 家昌	東大阪東
地区研修委員	社会奉仕部門	サブリーダー 畑田 豊	大阪城南
地区研修委員	国際奉仕部門	サブリーダー 居相 英機	八尾
次期情報・広報委員長	クラブ奉仕部門	サブリーダー 瀬戸 孝太郎	大阪東
次期職業奉仕委員長	職業奉仕部門	サブリーダー 村木 茂	新大阪
次期社会奉仕委員会	社会奉仕部門	サブリーダー 江上 清夫	豊中千里
次期インターアクト委員長	青少年奉仕部門	サブリーダー 田中 啓之	大東
次期青少年活動委員長	青少年奉仕部門	サブリーダー 西上 博幸	吹田江坂
次期ロータリーアクト委員長	青少年奉仕部門	サブリーダー 湯木 尚治	大阪
次期青少年交換委員長	青少年奉仕部門	サブリーダー 徳岡 昭七郎	大阪天満橋
次期国際奉仕・WCS委員長	国際奉仕部門	サブリーダー 宮里 唯子	茨木西
次期ロータリー財団委員長	ロータリー財団部門	サブリーダー 佐藤 俊一	大阪鶴見
次期財団情報・増進委員長	ロータリー財団部門	サブリーダー 北村 譲	大阪中之島
次期財団奨学金・学友委員長	ロータリー財団部門	サブリーダー 簡 仁一	茨木
次期研究グループ交換委員長	ロータリー財団部門	サブリーダー 田中 潤治	大阪西北
次期財団法人道の補助金委員長	ロータリー財団部門	サブリーダー 横井 憲二	八尾
次期米山奨学委員長	米山奨学部門	サブリーダー 岡田 義昭	大阪淀川
次期米山奨学副委員長	米山奨学部門	サブリーダー 池田 文治	大東中央

役職名	氏名	クラブ名
I.M.第1組 次期ガバナー補佐	上野 弘之	箕面中央
I.M.第2組 次期ガバナー補佐	芳賀 洋	吹田江坂
I.M.第3組 次期ガバナー補佐	平田 大一	寝屋川
I.M.第4組 次期ガバナー補佐	岡村 政嗣	大阪柏原
I.M.第5組 次期ガバナー補佐	平林 武昭	大阪西北
I.M.第6組 次期ガバナー補佐	山本 武男	大阪東
I.M.第7組 次期ガバナー補佐	松村 榮一	大阪本町
I.M.第8組 次期ガバナー補佐	三木 優	大阪イブニング

役職名	氏名	クラブ名
次期地区 代表幹事	森 茂寛	池田くれは
次期地区副代表幹事	新田 耕平	池田くれは
次期地区財務委員長	北野 紀之	池田
次期地区幹事		
森 純也	霧山 勝弘	池田くれは 松室 利幸 池田くれは
田中 隆弥	長岡 啓基	池田くれは 中堂 武賢 池田くれは
池田 吉清	表 寛治	池田くれは
次々年度地区代表幹事	川崎 壽	大阪中央

地区協議会 出席表

No.	クラブ名	会長	幹事	SAA	クラブ奉仕	職業奉仕
1	大 東	清水 修	大西寛治	中原 毅	橋本正幸	小川芳男
2	大東中央	峠 松次	岡市勝男	木村博子	樋口光弘	長崎弘芳
3	東 大 阪	竹中照次	国宗範彰	瀬浦宏康	清水浩一	竹内成介
4	東大阪中央	原口隆夫	榎 啓一	浅野光男	百済洋一	福岡康民
5	東大阪東	岡田耕治	須カ洋 一	山村安德	水守俊明	川又章蔵
6	東大阪みどり	辻 茂	北井孝彦	野村悦子		西村俊彦
7	東大阪西	中西英二	柳山 稔		氏野隆司	南野和俊
8	枚方	森本匡胤	井上良典	谷岡好雄	吉岡明彦	
9	茨木	坂井正純	長澤利治	岡野彰	辰巳克平	
10	茨木東	北尾 哲	東野達雄	中尾 巖	森 専雅	
11	茨木西	中竹 正	川尻勝久	中西隆英	野地龍夫	竹林敏彦
12	池田	北野紀之	塩崎一義	西山 清	吉岡 崇	森 繁子
13	池田くれは	田中喜佐雄	松室利幸	池田吉清	中堂武賢	津田昌信
14	門真	宇治 忠	三谷武久	大井節子		前川洋一郎
15	交野	猪奥年紀	森 昌範	富田利一	雨田 正	長田恭子
16	香里園	川尻昌之	城野栄次	柏原徹太郎	西尾達夫	村川武征
17	くずは	長村 治	高島叔孝	山口尚志	北川順清	上山芳次
18	箕面	岡内重信	南川淳之祐		川端崇旦	小林奉之
19	箕面中央	浦川光雄	増田 俊	水谷京二	田遠正昭	川村智一
20	守口	佐治信隆	水谷治人	友永三湯紀	宮内勝夫	白井孝彦
21	守口イブニング	大島栄子	伴 範子		政 旬一	中道 茂
22	寝屋川	白井祥一郎	松下繁生	水カ 勝	紅露政利	武田一士
23	大 阪	小谷年司	津江明宏	松田 暉	四方 修	庄野晋吉
24	大阪阿倍野	山下義一	北村幸郎	林 利彦	和田弘堂	
25	大阪ちゃやまち	前田要之助	林 浩志	奥 博行		
26	大阪中央	飯田精三	井上嗣仁	上杉忠嗣	仲井 徹	村上憲一郎
27	大阪堂島	竹田秀道	川村俊明	道上	中島 武	佐藤太一郎
28	大阪フレンド	柴山泰範	岡田一恵	高田利美	安井 稔	田村房男
29	大阪阪南	前田忠蔵	米田誠治	田邊雅史	南部高志	谷野清孝
30	大阪東	太田重彦	土井孝夫	有竹正巳	盛田三五	瀬戸孝太郎
31	大阪東淀	八木春作	辻西勢治	大森茂樹	釧カ克 己	熊澤洋一
32	大阪平野	須戸弘昭	柿野雅一	河合蘭子	西田博司	小寫美恵子
33	大阪本町	鈴木儀雄	岡田俊作		安藤康雄	
34	大阪イブニング	西野博子	岩井晶博	塚本幸子	小松大二	濱野和子
35	大阪城南	梅崎道夫	山本英樹	永田藤夫	片山勝彦	山カ博史
36	大阪城東	小松 功	井土賢一	岸田清豪	谷岡正夫	岡 俊紀
37	大阪柏原	寺田信正	中西信博	谷口和宏	西尾寛一	竹内 寛
38	大阪北	荒井敬一郎	清水英明	池田喜八郎	丸山雅祥	益田哲生
39	大阪北梅田	安富國詞	杉本昌煥	伊藤長範	木下正二郎	長谷川誠太郎
40	大阪御堂筋	山田耕司	武島秀吉	岩カ利 晴	池原哲男	宮武明彦
41	大阪南	岸田 功	北川 哲	中北 清	三原幸二	
42	大阪中之島	泉紀世史	志水慶一	η 田宜彌	小林俊明	北村 薫
43	大阪難波	北田好文	千田忠司	本多純一	夏 明義	山田誠一

地区協議会 出席表

大阪府 会務部 印刷

No.	クラブ名	社会奉仕	青少年奉仕	国際奉仕WCS	ロータリー財団	米山奨学
1	大 東	田川和見	中 恒夫	中村真也	小林誉典	木田真敏
2	大東中央	東坂 巖	岩本静江	大和田雅江	中島 勤	池田文治
3	東 大 阪	井戸本忠彦	濱谷和也	柳田雅範	阪本義樹	中谷裕和
4	東大阪中央	三木武志	葛井重直	細川勝治	切石博之	中川圭弘
5	東大阪東	辰己裕胤	北埜 登	田中哲男	石田 肇	中西正美
6	東大阪みどり	杉森隆志		阪田克英	松浦利英	小寺史郎
7	東大阪西	米島末次	井戸田克博	高島政康	角井勝美	藤原史嗣
8	枚方	新庄幸一	竹内 稔	寺嶋三郎	門前武彦	大野 榮
9	茨木	多田節子	笠原隆之助	秋山 勤	久保義誓	三好千代子
10	茨木東	中村 忍	杉本 豊	榭井善一	土方正英	矢野克吉
11	茨木西	田村英明		秋田典俊	清水達也	赤井ムツエ
12	池田	橋高又八郎	松尾光明	明石 巧	北林安興	近藤秀一
13	池田くれは	岡本 厚	藤原史郎	表 寛治	野入邦彦	三好洋二
14	門真	吉田逸郎	馬場絢子	大竹・河瀬	田中義昭	吉村光弘
15	交野	金光次郎	溝辺明夫	氏原要介	小林 晃	奥 嘉隆
16	香里園	的場信一郎	浅井勝彌	柴田浩志	上野章一	西邨智雄
17	くずは	川島吉博	上野 徹	重田惠年	林 克彦	源本将人
18	箕面		城下重人	西宮富夫	三崎 望	瀧瀬尚峻
19	箕面中央		野口 智司	植田豊實	西田隆昭	東 良三
20	守口	篠崎満信	吉川巧一	家村武秀	木崎 正	中道 均
21	守口イブニング	後藤正伸	江端豊和	佐々木誠		福田治夫
22	寝屋川	岡田光司	畑山 勇	田邊司郎		
23	大阪	辻本健二	石原福造	水野明人	井村達男	岩波清久
24	大阪阿倍野	櫛田雄一	寺本俊一	石黒為三	二上寛弘	渡邊純一
25	大阪ちゃやまち			戸田和孝		
26	大阪中央	辻 幸雄	田中久雄	森脇 寛	石黒重三	室井良樹
27	大阪堂島	瀬部芳貴	前田 勉	城ヶ辻保	西川 亨	西野公庸
28	大阪フレンド	岩谷敏昭	佐藤直博	笹井敏之	三上美智子	栗原 大
29	大阪阪南	乃口忠勝	井上隆智	林 幸二	日野上輝夫	河野利紘
30	大阪東	吉永 深	佐々木恭一	藤村達夫	伊藤貞男	北川勝治
31	大阪東淀	磯田郁子	海野勇造	大津久直	大澤一雅	太田廣重
32	大阪平野	岡部卓雄	大江芳次	松田光男	谷村満智子	又吉宗治
33	大阪本町	首藤隆平		田 晴重	樋野忠志	山本兼右
34	大阪イブニング		林 勝秀		末吉重久	
35	大阪城南	南賀勝之	若村哲司	西村 淳	境 高彦	山下健三
36	大阪城東	中野憲城	佐々木多喜子	黒松克行	古川信義	下地常博
37	大阪柏原	松永賢一	大谷隆英	林 芳繁	古賀省三	岩崎泰一
38	大阪北	後藤二郎	宇賀良太	上島一泰	杉原俊一	田中成人
39	大阪北梅田	青山快玄	榮野 隆	秀平吉朗	門脇義房	徳岡浩二
40	大阪御堂筋	荒川雅行	安部潤一	丸尾照二		砂川清太郎
41	大阪南	五十嵐敢	鈴木慶一	平田雅利	早石 誠	木下 肇
42	大阪中之島	早瀬道圓	中道正伸	瀬川美澄	山本 肇	北村哲夫
43	大阪難波	白野陽一	小野佳彦	新堂 衛	澤井 稔	西森喜一

地区協議会 出席表

No.	クラブ名	会長	幹事	SAA	クラブ奉仕	職業奉仕
44	大阪なにわ	北澤高志	池側一司	亀井克二	河西邦江	石山 登
45	大阪南西	野々原喜久夫	吉中春美	山口多恵子	矢田勝利	木村 聡
46	大阪西	岩井孝明	野村泰弘	上能喜久治	中西洋介	北條稔郎
47	大阪大手前	松浦貞男	中林邦友	小原敏明	関 謙二	福井教男
48	大阪大淀	八頭司享	森 薫生	近藤泰生	木村勝彦	片岡 聡
49	大阪リバーサイド	松井素子	藪野功勝	藤井武治	乾 勝亮	
50	大阪咲洲	谷口俊司	藪野 洋	小林和由	長崎三男	
51	大阪西北	北政十郎	上田博司	富島俊治		
52	大阪西南	内藤一馬	清水高士	深本繁雄	藤本和茂	大喜多克己
53	大阪船場	高階貞男	小島常男	有村善雄	北野克己	山本雅之
54	大阪心斎橋	小嶋秀夫	岩佐 厚	西村拓夫	永通明温	藤澤 肇
55	大阪城北	川本晴男	三木一之	原田 渉	中家義明	金澤利定
56	大阪そねざき	菅原真一	革嶋祐理子	中井明則	岸本美智子	末田良介
57	大阪住之江	田邊千尋	小島康秀	東 光宏	池田淳八	
58	大阪住吉	新井文三	西尾良一	天羽信也	中澤章好	島田英一
59	大阪天満橋	福原哲晃	山本喬一	松宮清隆	大矢平治	成松正和
60	大阪天王寺	新見 葵	金本恒二郎	辻 敏郎	新屋正富	金子 裕
61	大阪東南	多田龍弘	井本喜代次	松崎達郎	西谷伸介	松田清司
62	大阪鶴見	中嶋英貴	秀島博規	菅田隆久	林 成志	中村浩一
63	大阪梅田	三好庸隆	村上 稔	高橋充宏	中西藤和	大矢善昭
64	大阪梅田東	小湊 收	和田武彦		松原倉敏	山本 毅
65	大阪うつぼ	池田周弘	堤 昌彦	柘植二郎	村上正人	岩根和加子
66	大阪淀川	白山鴻鍵	亀岡 勉	松井義明	高地 健	西崎克由
67	大阪ユニバーサル	吉田正信	高野幸雄	秋山千尋	加里本清司	
68	千里	西田泰晤	上島一夫	神前俊彦	藤満宣夫	岩知道寿夫
69	千里メイプル	柳原健治	木下吉宏	岸上億則	水島 洋	下川美彌子
70	摂津	中川廣司	飯室正樹	尾崎公宏	黒田 潤	疋田誠治郎
71	四条畷	清水勝美	平井正雄	岡部 博	田村成明	山口愛彦
72	新大阪	松本圭右	生尾雅美	水谷元泰	谷口光夫	菅本憲市郎
73	吹田	紙谷正行	豊谷久仁子	石井博章	柳川義行	岩田喜好
74	吹田江坂	東 秀夫	山崎睦治	寺井正昭	西本健二	大森洋子
75	吹田西	家村武志	坂口道倫	村井正雄	宮川藤一郎	青木建雄
76	高槻	本多 了	田中英雄	松井 進	川面智義	浜田厚男
77	高槻東	高谷敏雄	石井清隆	辻野暁一	渡辺一光	高岸久典
78	高槻西	片山 直	西井忠義	和三弘麻呂	土井晶三	
79	豊中	古澤照明	横田広司	小寺潤一	門 宏明	関谷洋子
80	豊中南	吉田日士光	吉村直樹	栗本 武	二井清治	山本和市
81	豊中一大阪国際	渡邊源治	齋城正之	高橋朝生	木本亮介	新居茂樹
82	豊中千里	西田尚道	清水文雄	岸本隆之	岡 卓爾	森田正治
83	八尾	池尻 誠	正野 憲	保坂雅之	田中義明	大坪 勤
84	八尾中央	福家 宏	高田祥宏	大橋生佳	片岡基博	富山博光
85	八尾東	中西義治	藤崎秀雄	真野鐵生	池本繁喜	桑田夕ア子

地区協議会 出席表

No.	クラブ名	社会奉仕	青少年奉仕	国際奉仕WCS	ロータリー財団	米山奨学
44	大阪なにわ	坂本勝男	岡本進一郎	吉川仁育	原田正弘	先崎 進
45	大阪南西	小池廣子		安井恒男	中丸義昭	高地賀津仁
46	大阪西	中安敬人	上野義治	田中一成	森井繁夫	米田猛
47	大阪大手前	北郷和也	多田秀観	木村節三	犬伏 将	三木元昭
48	大阪大淀		吉田悦治	末岡稔啓	菊川起男	加登 孝
49	大阪リバーサイド	百々季仁	藤本佳之	神崎友次	中山正隆	井上隆晴
50	大阪咲洲	宝上富之	牧野伸顕	高松伸伍		上田 彰
51	大阪西北	河合秀行		尾下千明	吉岡康雄	
52	大阪西南		荻原美津子	繁野光一	青木達也	古里龍一
53	大阪船場	岩本浩平	松谷廣信		小山章松	栗原 裕
54	大阪心斎橋	上野好清	五味千秋	鈴木務孝		井村周平
55	大阪城北	久岡敏博	中山卓三	丸井龍太郎	角本浩一	熊倉勝敏
56	大阪そねざき	宮田日出美	鶴田正信	石川 豊	田中 将	谷間庸子
57	大阪住之江	井川重典		栗田仁宏	沖瀧阿喜良	沖瀧阿喜良
58	大阪住吉	北川雅詳	高井道弘	金谷昌幸	足立菅治	川上富清
59	大阪天満橋	二宮秀造	在本 茂	溝手 悟	内田国雄	中村健輔
60	大阪天王寺	杉本源衛		高見篤志郎	若宮邦弘	花田 力
61	大阪東南	松井研次		杉浦勝昭	北村佳久	三野文男
62	大阪鶴見	谷 康平	井上 綾	覚野廣久	石川治均	小山義之
63	大阪梅田	佐藤成憲		芳賀 修	葛原忠知	吉田喜一郎
64	大阪梅田東	秋山哲夫	岡村幸男		山村幸久	杉野浩次
65	大阪うつぼ	豆村賢治	永田真弓	前田健司	東村高良	松岡晃一郎
66	大阪淀川	新山洋史	津本清次	青木 高	白方誠彌	塚本常明
67	大阪ユニバーサル	笹田隆志	後藤一郎		垣内利英	嶋田 護
68	千里	奥谷英夫	山田 実	萬年成泰	辻毅一郎	寺井明納
69	千里メイプル	山本雅之		高尾 修	村田純子	池田 進
70	摂津	下村三郎	神田保廣	西島英信	妻野光則	木原章夫
71	四条畷			岡部 博	木村慎一郎	木村慎一郎
72	新大阪	小川光宏	向井秀史	西村淳一		山田幸二郎
73	吹田	福室忠正	福室忠正	疋田陽造	大橋弘一	井村卓治
74	吹田江坂	金子武夫	水谷善博	北山陽一	速見 憲	小谷敬二
75	吹田西	橋本徹也	岡 信行	井伊圭一郎		由上時善
76	高槻	西田直弘			奥田晴基	芥川知明
77	高槻東	高木荘輔	西口昌昭	上場俊哉	山口勝之	岩田喜義
78	高槻西	栗田忠一	高津嘉夫		藤井宗一	永井和夫
79	豊中	黒河 洋	村司辰朗	辻 正次	豊島了雄	山西洋一
80	豊中南	増山忠雄	西口定雄	岡本眞弘	國貞眞司	上田卓也
81	豊中一大阪国際			道満 隆	藤原 明	中埜 肇
82	豊中千里	大島 修	白井秀雄	藤原安雄	長澤 彰	西島修蔵
83	八尾	小林茂禎	尾山浩司	柏原千城	畑中裕明	山本昌市
84	八尾中央	吉馴茂子	片岡哲玄	柳 雄二	山田正雄	野中志郎
85	八尾東	大橋秀造		大熊 實		山田哲男

地区協議会実行委員会

実行委員長	長 嶋 貞 孝	S. A. A. 正 岡 哲
副実行委員長	藤 川 隆 治 池田RC	副S. A. A. 松 尾 光 明 池田RC
幹 事	松 室 利 幸	副S. A. A. 田 中 隆 弥
副 幹 事	森 繁 子 池田RC	会 計 藤 原 史 郎
副 幹 事	中 堂 武 賢	ソングリーダー 谷 勅 行
副 幹 事	長 岡 啓 基	

委員会	委員長	副委員長	委 員
総務 プログラム	溝口正孝		*城阪勝喜、林 克彦、岸上宏司 池田RC *岡本 厚、山口正之 池田RC、池田吉清
会 場	田中隆弥		*藤原 進、近藤秀一 池田RC、佐々木 泰 池田RC、鶴原英生 池田RC、 正岡 哲、西村 晋、山内邦夫、野入邦彦
登録・受付	長岡啓基		*藤原史郎、奥村昌也 池田RC、田上綱彦、岸添広一、谷口 浩 *霧山勝弘、田嶋也寸志 池田RC、暮部光昭 池田RC、表 寛治、 谷 勅行、加納傭吉、松家定平、谷田史朗、 津田昌信
接待・案内	巽 多津子		*井関頼三、岡本直文、織田重雄、那須史朗、尾田 豊 荒木久太郎 池田RC、中住讓秀 池田RC、古川 智、 永田大介 池田RC、山本 格 池田RC
記録・文献	中堂武賢		*中川三郎、室木啓一、吉岡 崇 池田RC 林 功 池田RC、堀井勝利 池田RC、国司禎相
会 計	藤原史郎	徳永昭夫 池田RC	
救 護	三好洋二	中山 賢 池田RC	

部門別協議会担当委員

部門別	会 場	S.A.A.	副S.A.A. 池田RC	記 録
会 長	12階特別会議場	田中 喜佐雄	北野 紀之	新田 耕平
幹事・S.A.A.	10階1003号室	池田 吉清	塩崎 一義	田中 隆弥
クラブ奉仕	10階1001号室	中堂 武賢	吉岡 崇	西村 晋
職業奉仕	12階1202号室	津田 昌信	森 繁子	田上 綱彦
社会奉仕	10階1002号室	岡本 厚	橘高又八郎	谷口 浩
青少年奉仕	10階1004号室 1005号室	藤原 史郎	松尾 光明	岸添 広一
国際奉仕・WCS	10階1009号室	表 寛治	明石 巧	室木 啓一
ロータリー財団	10階1006号室 1007号室	野入 邦彦	北林 安興	国司 禎相
米山奨学	10階1008号室	三好 洋二	近藤 秀一	尾田 豊

120万人の会員の間で共通する一本の強力な糸が存在するとすれば、それは**分かちあい**という名の精神でできた糸です。